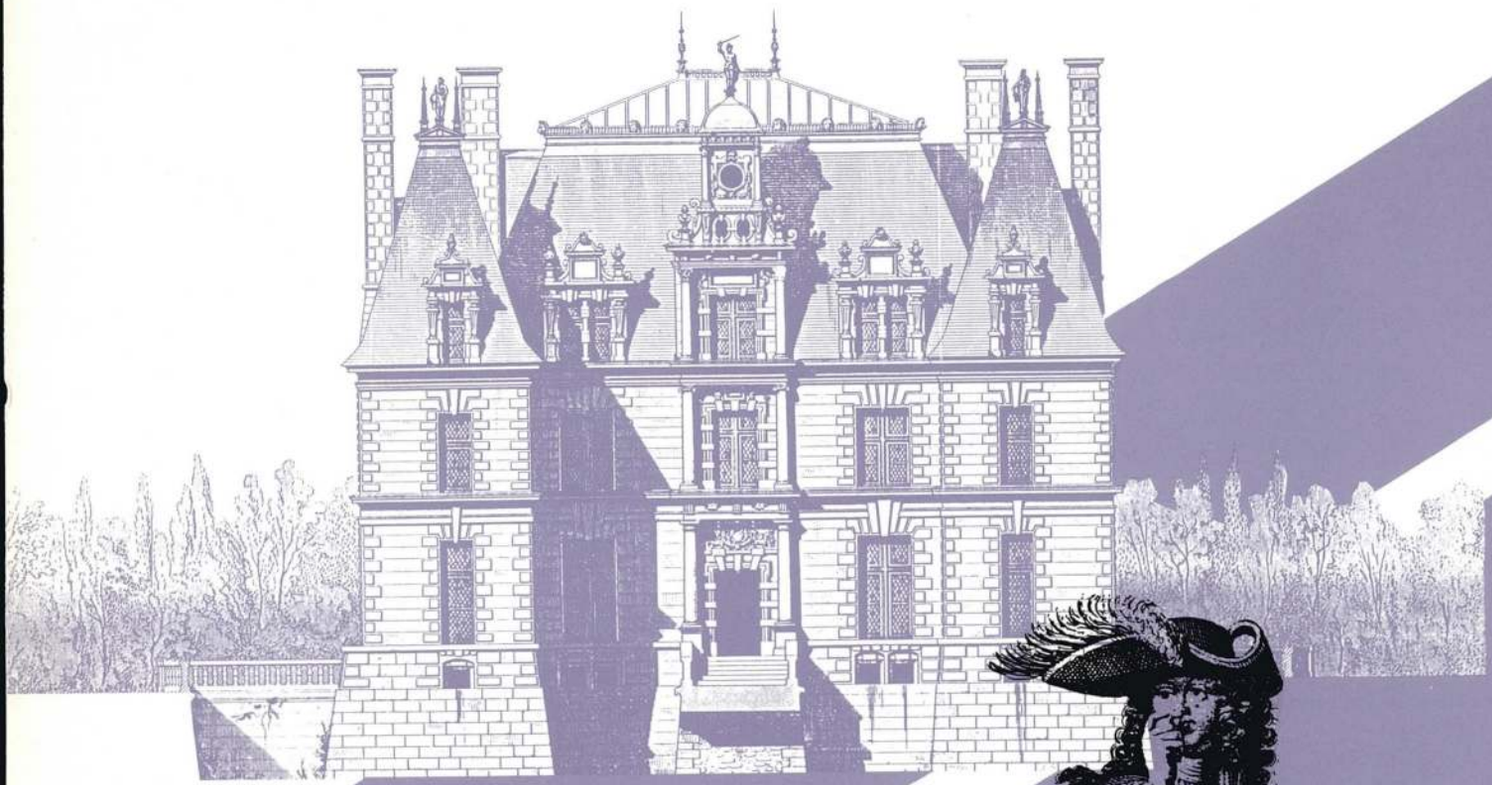
昭和56年7月25日発行　毎月1回25日発行　昭和24年3月19日第3種郵便物認可

建築と社会

1981
VOL.62
7
通巻 712号

特集●都市住宅ー住まい手からの発想ー





FRENCH
ROCOCO

日本建築協会

DEMOS-E

端末機1台で各種建築計算が総合的にでき、新耐震設計法にも即応しています。



●建築ライブラリ・プログラム（BUIL D）シリーズは建設大臣の指定を受けています。

BUILDは建設省認定の確認申請用構造計算プログラムですので、確認申請手続の省力化、顧客に対する信頼性、作業の迅速化がはかれます。

●計画系・構造系・設備系・積算系・施工系の広範囲にわたり、豊富なプログラムを用意しています。
●プログラム料・保守料は無料です。
●端末機の操作は非常に簡単です。
●データ量の多い大型処理も割安にできます。
●料金は経済的・合理的です。

DEMOS-Eは電電公社のデータ通信サービスです。

●資料をご希望の方は……右記の項目にご記入の上「〒530 大阪市北区中之島6-2-27 中之島センタービル近畿電気通信局データ通信本部営業企画担当（☎(06)446-7081）」まで封書でお送り下さい。

●お電話でのお問合せは……北海道☎(011)221-1000／東北☎(0222)21-2000／関東☎(03)436-4305／東京☎(03)588-9151／東海☎(052)291-2525／信越☎(0262)27-4100／北陸☎(0762)61-4256／中国(0822)27-4100／四国☎(0899)41-2600／九州☎(0963)21-3511

電電公社

貴社（店）名	業種
所在地 〒	☎（　　）
ご氏名	部署

建築と社会
©1917年創刊
第62集・1981

7
通巻712号

CONTENTS

JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN
ARCHITECTURE AND SOCIETY

特集・都市住宅－住まい手からの発想－

SPECIAL FEATURES ON THE CITY HOUSES
LOOKING AT HOUSE-USER'S SIDE

作品作風・新建築

阿波銀行研修所…… 設計：日建設計 …… 2
施工：岡田組・鹿島建設共同企業体
姫路市立老人大学校好古学園・姫路市立生涯学習大学校… 設計：安井建築設計事務所 … 4
施工：神崎組
京都市社会教育総合センター…… 設計監理：京都市住宅局庁舎営繕課・東畑建築事務所 …… 6
施　工：飛島建設・要建設共同企業体
（仮称）京都市中央斎場…… 設計監理：京都市住宅局庁舎営繕課・昭和設計 ……10
施　工：辰巳建設
観光旅館　魚友…… 設計施工：不二建設 ……12

告示・通達の運用等－建築基準法施行令の一部改正－（その２）／森宗　崇…13
三星不燃シングル／長橋英彦…15
最近竣工した新建築９点（No.1522～1530）…16
茨木市高温溶融式ごみ処理施設紹介．大阪市の第12回緑化施設の表彰施設決まる…18
私のらくがき－〝中国、桂林－漓江を下る〟／中村義雄．旧大阪砲兵工廠本館の破壊／小田　隆…19
大阪の新しいまち・南港ポートタウンを見る－新造船〝水都〟と新交通〝ニュートラム〟で南港巡り－／佐野利治・河上隆志・福廣勝介…20
自然発生的建築をめぐって－15－領域その４／本多友常…22
建築の脈絡／紙野桂人．分譲マンションの更新問題／前田　治．教材としての千里ニュータウン／溝神宏至朗．マンションの維持管理／石本徳三郎…24
本四架橋（大鳴門橋）のケーブル架設工事見学と淡陶㈱のタイル工場を訪ねる…．
通常総会決議報告．会員の受賞．第28回青年技術者特集号の応募規定．建築技術選書第24号発刊「鉄骨構造の話」．昭和54年度決算報告．昭和54年度事業報告……25
青年技術者のみなさまへ

特集
総論
各論

都市住宅－住まい手からの発想－
「新しい」住生活様式を考える……田中　恒子…42
床面様式と起居様式……今井　範子…46
一戸建住宅のＫ．Ｄ．Ｌスペースにおける住み方……三枝小夜子…49
都市住宅の台所の現状……沖田富美子…52
都市集合住宅の住み方と住宅の管理……藤井　和子…55
集合住宅における戸外生活と戸外空間……藤本憲太郎…57
都市住宅を考える－住まい手として……三輪　昌子…60
設計者と住まい手の接点に立って……前田　邦江…61
新しい住まい方に応じた具体例
◍公的住宅の事例
１．ライフ・サイクル対応の可変住宅ニュー・モデル高層リビング・アクセス・タイプ ….佐藤　方俊…62
２．公社分譲住宅の多様化……吉内　幸子…64
◍民間供給住宅の事例
１．都市型高層集合住宅の新しい設計理論とその具体策
……福嶋孝之／小材雄英／中馬博良／竹内徹 …67

随想

マイコン（その１）／脇山広三…75
衛生設備の凍結防止対策／高津幸夫…76
水性接着剤による防水補修工法／米倉　博…77
日本建築協会月間の動き（昭和56年５月分）…78

展開

法令コーナー160
新建材紹介コーナー60
スケッチブック
建築と社会ニュース
読者の頁
若い会員の集いレポート
風土と建築
建築の眼
会告
構造の頁84
設備の頁83
施工材料の頁82
月報

表紙デザイン：楠田一夫（造型作家）

特集予告
■８月号／建築物と風―デザイナーのために―
■９月号／住宅・都市整備公団
■10月号／間仕切壁の性能評価
■11月号／第28回青年技術者

編集委員会（昭和56年度）
編集委員長　河津　隆之
三輪　泰司　阪田　弘二
編集理事　×澤柳　健
秋田　満　森山　正和
井上　滉　●施工材料分科会
今西　祥郎　足立　公明
小林　清　×浦田　道広
松村　慶三　岡田　善弘
三輪　泰司　中尾　正
安盛　壽一　三浦　康夫
竹中　錬一　●法令分科会
前野慶太郎　×桑田　繁男
武田　恭一　中田　巌
堀内　史郎　（投稿欄小委員会）
渡辺　忠　大戸　寛
編集委員　嘉積　俊一
（特集小委員会）　木崎　博
○酒井　貞　○小北　博一
●計画分科会　谷崎　敏邦
×加藤　力　（作品作風小委員会）
加藤　輝男　○小野　為一
川口　正春　佐々木昭男
倉本　卿介　栄　真樹
田中　直人　高山　司郎
千葉　桂司　寺元　通夫
中馬　博良　苫名　正
中瀬　勲　能丸　弘毅
藤本憲太郎　三宗　司郎
村上　元康　宮崎　宗久
森　薫　（広告企画小委員会）
山本　善積　荒川　治徳
吉岡　忠純　池渕　俊男
●構造分科会　上田　哲夫
河村　崇　佐藤　隆幸
観音　延平　下前　裕一
小島　達男　高田　茂
×佐藤　哲夫　棚橋　和夫
柴田　道生　徳持　律夫
山口　猛　中河　克則
●設備分科会　原田　常介
大倉　良司　松尾　恭治
表　康雄　○渡辺　忠
○副委員長　×幹事

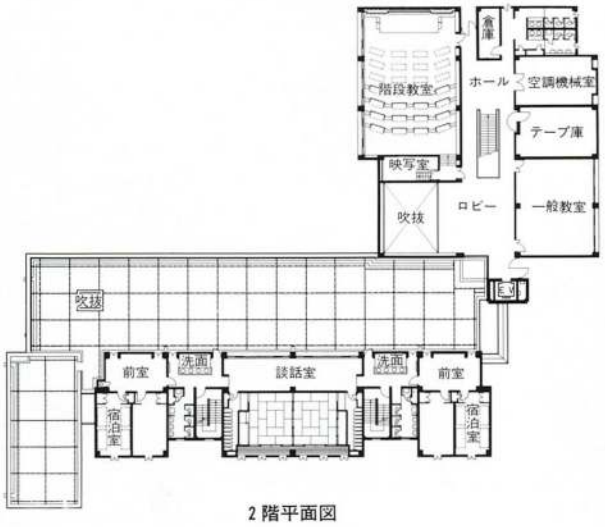
編集人　松井昭光
印刷　昭和56年７月20日
発行　昭和56年７月25日
発行人　吉田悦二
発行所　（社）日本建築協会
大阪市東区北浜３－37
電　06－231－9648
振替口座　大阪 39975
印刷所　日本写植印刷株式会社
電　06－606－1111㈹
大信印刷株式会社
電　06－451－7631㈹
売価　７５０円（送料別）

阿波銀行研修所

設計監理　日建設計／大阪

施　　工　岡田組・鹿島建設共同企業体
所 在 地　徳島市上八万町広田163－1
敷地面積　25,272.35㎡
建築面積　1,568.10㎡
延床面積　2,809.56㎡
構造規模　RC、3F
工　　期　昭和55年4月～昭和56年2月

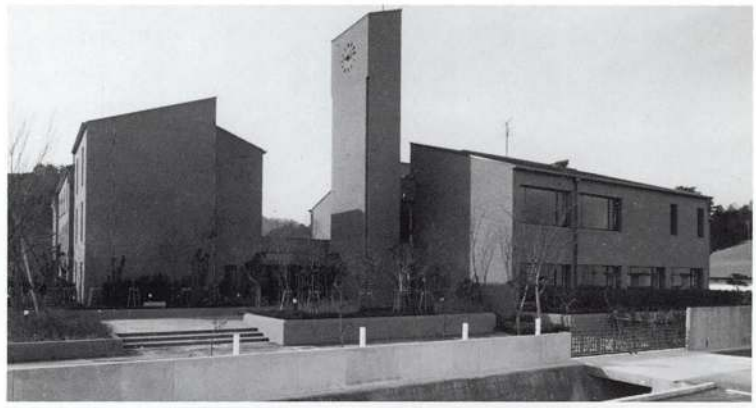
建築を設計するにあたって、周辺環境との調和ということは、当然配慮されるべきテーマであるが、恵まれた自然条件の中での計画においては、いっそうその意味も深い。
当計画の敷地は徳島市の南西郊外、周辺には小数の民家が散在しているだけの緑豊かな環境の中に位置している。そこで計画にあたって、建物全体を可能な限り小さなブロックに分解し、小さなボリュームの集合体として表現して、周辺環境との調和を計った。
外装材には安定性の高い素材としてタイルを使用した。信楽焼の光沢を押えた味わい深い肌と落ちついた色調が、形態上の意図をより高める効果を実現している。
平面計画においては、研修ブロックと宿泊ブロックを明快に分離し、それぞれの異なった使用目的に応じたデザインを心がけた。即ち、日常業務の延長としての研修ブロックにおいては機能性を、リフレッシュとコミュニケーションの場としての宿泊ブロックにおいては居住性をデザインの軸として、空間構成、内装材等を決定した。また、研修ブロック2階の階段教室には、ビデオプロジェクター他、最新の研修機器が設置され、より巾広い研修プログラムが可能となっている。
竣工後引続いて計画されている隣接グラウンドの整備により、当施設はより充実した総合施設として完成される。　（日建設計／大阪）



2階平面図



1階平面図





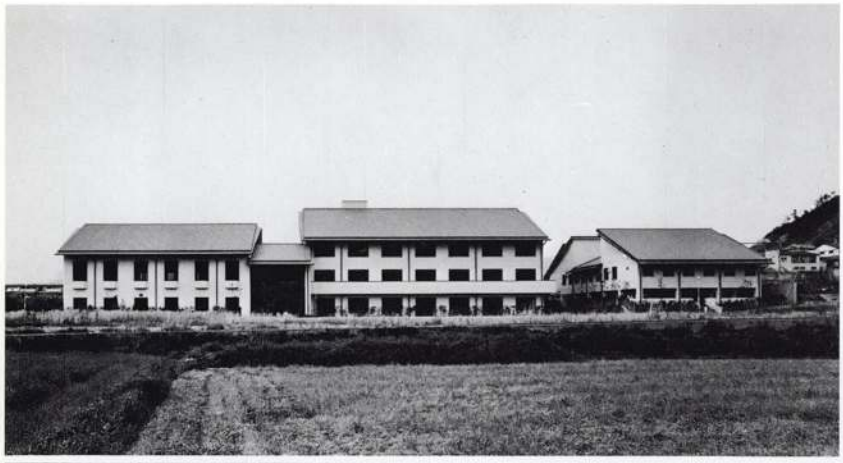


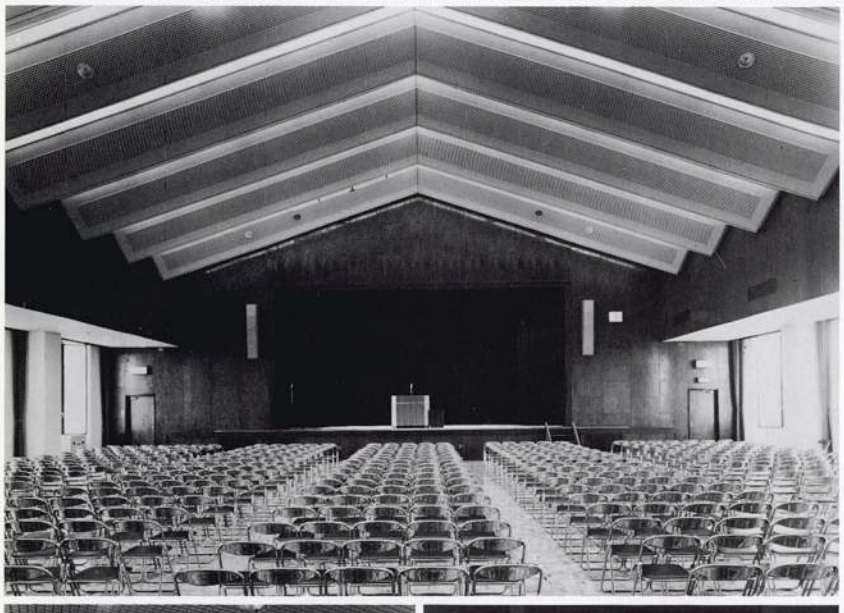
1、玄関廻り　4、研修棟ロビー
2、北側外観　撮影　日本アートグラフィック
3、階段教室



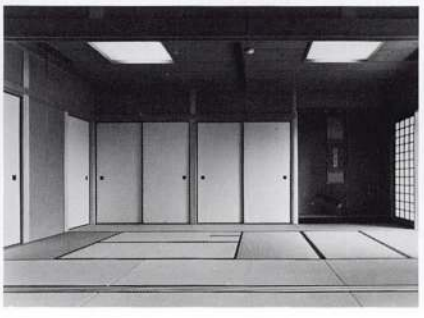
姫路市立老人大学校好古学園
姫路市立生涯学習大学校

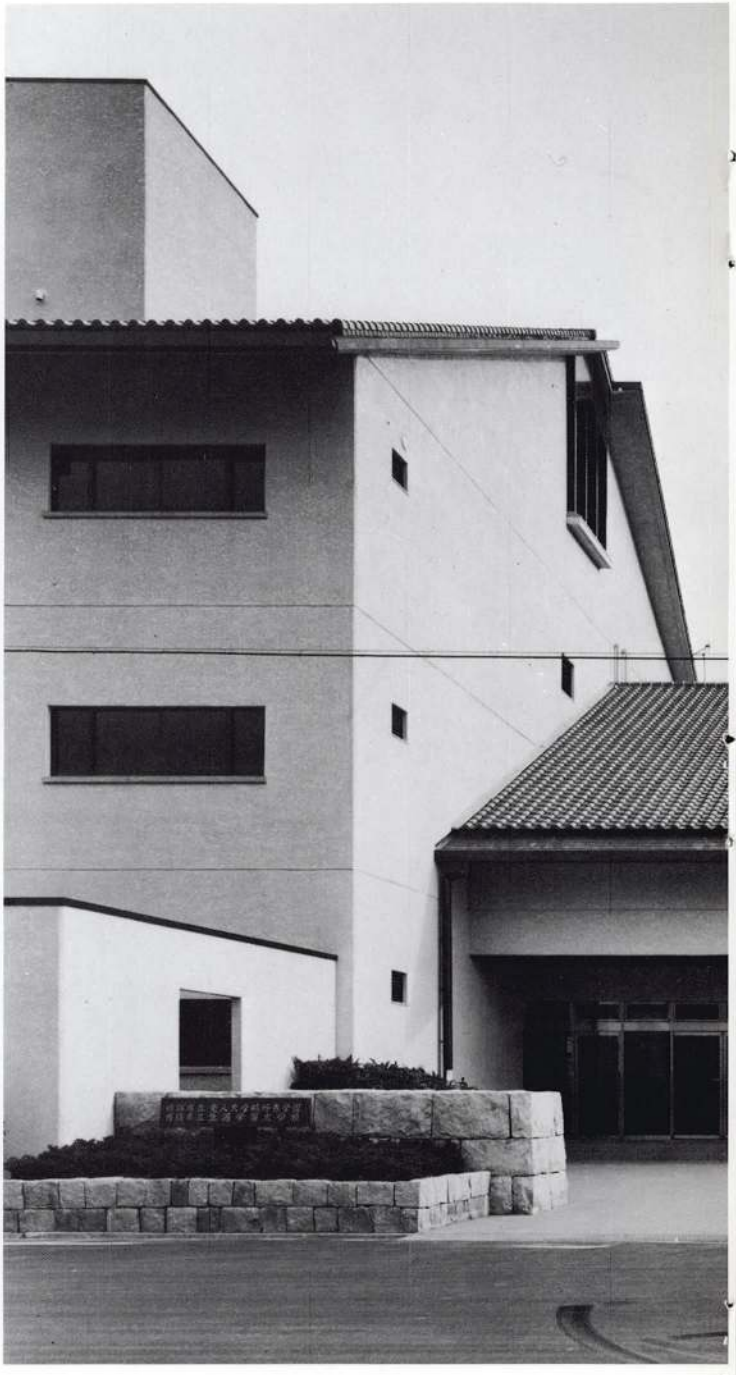
設計　安井建築設計事務所

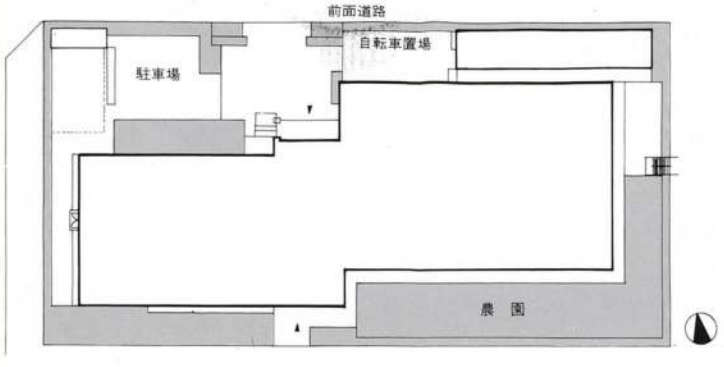




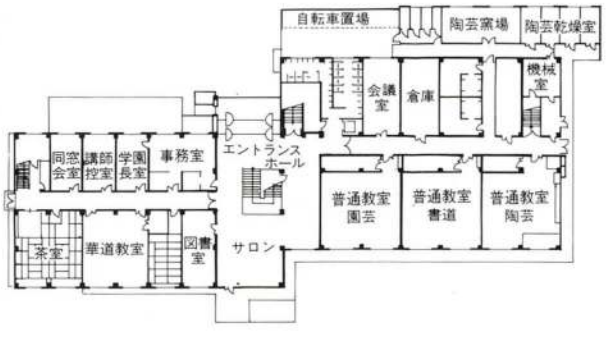








配置図（1：1000）



1階平面図（1：1000）

施　　工　神崎組
所 在 地　姫路市田寺字長瀬
敷地面積　3,600㎡
建築面積　1,970㎡
延床面積　4,368㎡
構造規模　ＲＣ、３Ｆ
工　　期　昭和55年６月～昭和56年３月



1．南側立面
2．講堂
3．玄関ホール
4．茶室
5．北側正面
撮影　STUDIO A・T
（島　修一）

敷地は、国鉄姫路駅の北北西約２kmの閑静な住宅地域内にある。

本施設は、姫路市の中高年令層活動センター整備計画における最初の施設であり、老人大学好古学園と生涯学習大学校の両者の機能をもちあわせており、隣接して建設された中高年者ワークルームや建設中のサンライフ姫路などの施設の先導的役割を果すものである。計画にあたっては、センター全体をまとまりのある施設群として構成するため、各施設共通の計画指針を設定した。まず、共通の計画軸を設け、外観はともに切妻屋根に統一し、また、外装材も同じようなものを選定した。

平面計画は、管理部門と多目的に使用される諸室のブロックと、教室ブロックの大きく２つの構成とし、その中央部に玄関とサロンを配置した。

２つのブロックを雁行させて生じた屋外スペースは、北西部を駐車場に南東部を農園とし、南側公園（予定）との関係をもたせた。管理部門のブロックは、教室ブロックと区分して使用できるようにし、講堂を中心とするコミュニティセンター的な性格づけをした。身障者対策は、高令者対策を兼ねた細心の配慮をし、低層建物ではあるがエレベーターを設けるなどの対応を行なった。

外観は周辺の住宅地域との調和と教育施設としての性格から切妻の瓦屋根を特徴とする簡潔で端正なものとしゆとりのあるおおらかな表現を試みた。色彩は緑との鮮かな対比を意図して、屋根はオレンジ系統の瓦を使用し、外壁は、白いスタッコ仕上とし、明るい健康的なイメージを強調した。

（安井建築設計事務所）

京都市社会教育総合センター

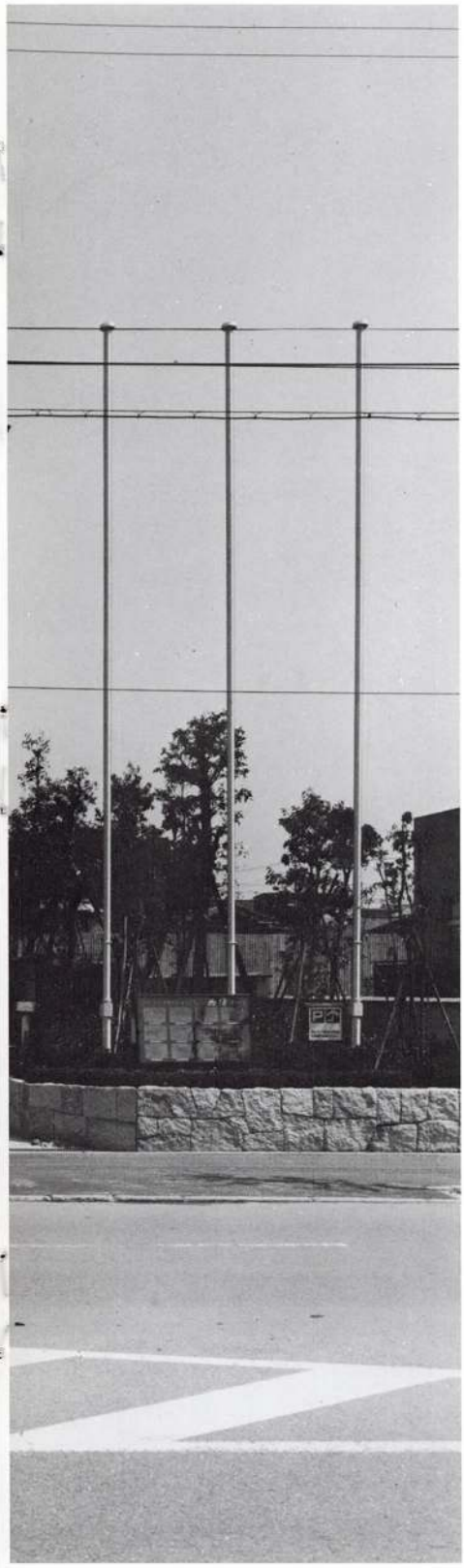
設計監理　京都市住宅局庁舎営繕課
　　東畑建築事務所
施　　工　飛島建設・要建設共同企業体



1

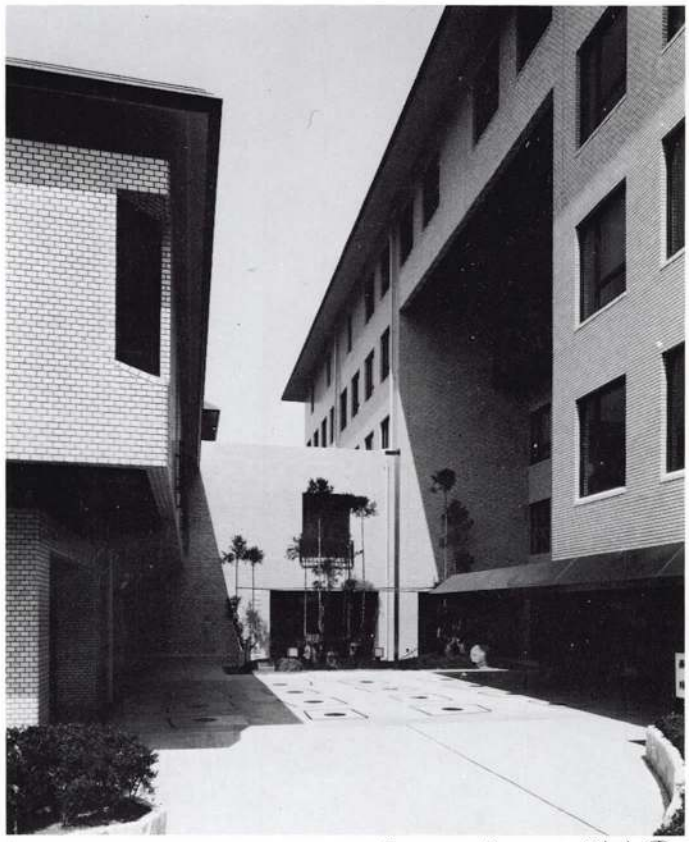
2

1．丸太町通（前景）
2．遺跡のある中庭



この建物は、京都市民のための社会教育施設として建設されたものである。一般に社会教育は、生涯教育とも呼ばれ、その内容形態は様々である。これに対応して建物も、公民館的機能、歴史博物館的機能、および図書館の３つの機能を備えた総合的施設となっている。公民館的部分は、400人収容のホール、ＴＶスタジオを備えた視聴覚教育センター、研修室、実習室、婦人サークル活動のための諸室など。歴史博物館的部分は、展示室、研究室、収蔵庫など。図書館部分は、成人図書室、児童図書室、京都に関する情報図書室、巡回文庫関係室などで、主要書籍は全て開架方式とし一部書庫収容分を合わせ12万冊の蔵書を予定している。

敷地は丸太町通に面し、古くからの京の街並みが残っている所であり、設計に際しては、京都市当局より、この建物が丸太町通のスケールによくなじむこと、また既存の町並に出来る限り悪影響をおよぼさないように考慮すること等、建物配置および平面計画について適切な指示をいただいた。これにより建物配置は、通りに面する部分に低層２階建の図書館を配し、既存の町並にスカイラインを合わせ、５階建の本館部分は後方に配しさらにその後方隣地境界までは駐車場空地を設け、建物の巨大感を減ずる様に考慮している。外装には淡色系で和らかみのある信楽焼タイルを用い、パラペットは勾配を付け銅板張りとし、周辺の瓦屋根の町並との調和を図った。敷地内には「平安京造酒司倉庫跡遺跡」があり、建物はこれを避けて配置されたが、構内舗床によって覆われるため、遺跡位置の床にその柱型と柱穴を形取った花崗石をはめ込み、遺跡の記録を兼ねた床の象眼模様とした。施設利用者の多く集まるロビーには、この社会教育の場にふさわしい恒久展示を兼ねた装飾をとの主旨で、室町末期の京都を描いた狩野永徳筆重文「上杉家本洛中洛外図屏風」をもとに、これを複写拡大、大型陶板に焼付けたものを壁面に取り付けた。（東畑建築事務所）

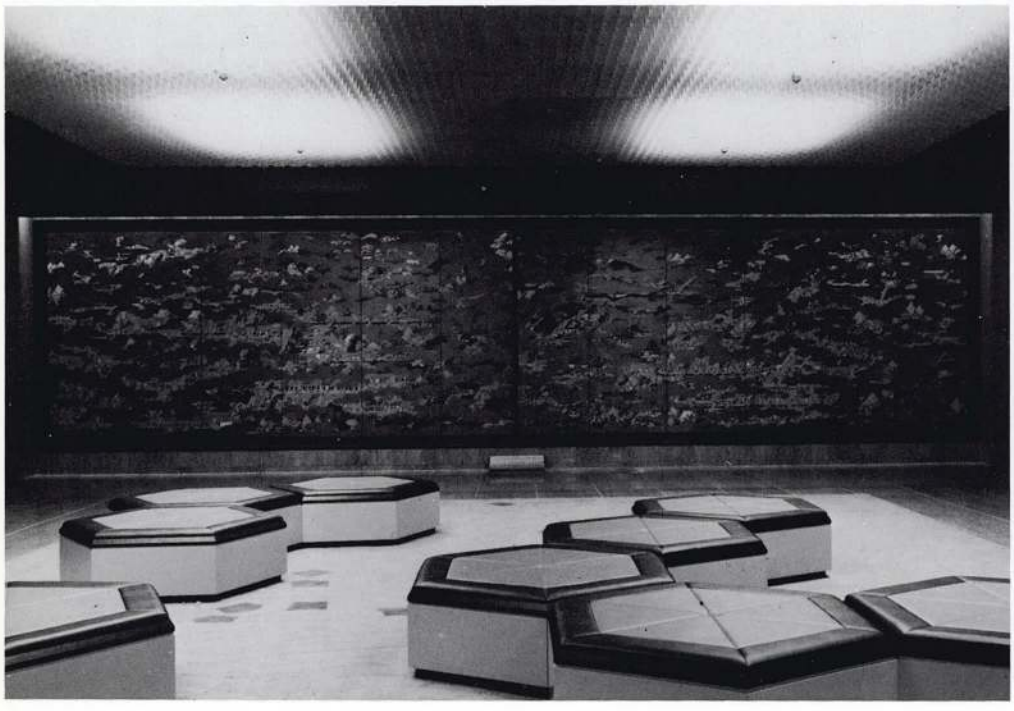




1階平面図

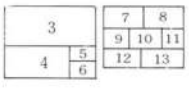
京都市社会教育総合センター







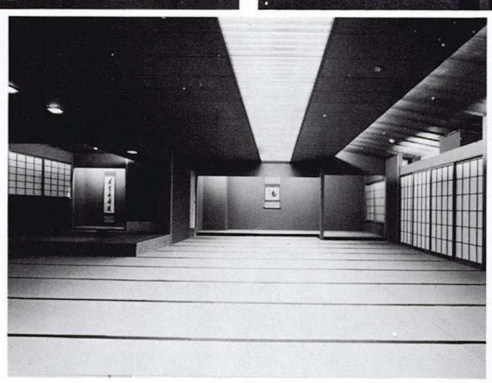
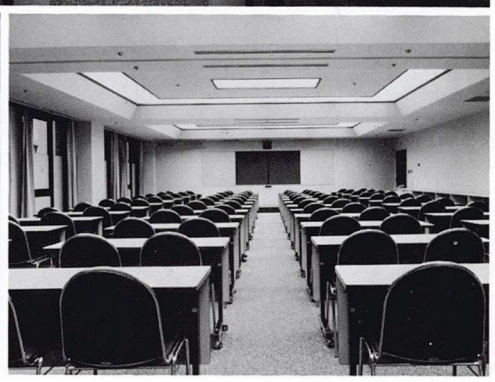




3．ピロティー廻り
4．1階ホール「洛中洛外図屏風写し陶板壁画」
5．児童図書室（1F）
6．玄関ホール
7．4階ホール
8．ロビー（3F）
9．和室の露路（3F）
10．和室（3F）
11．研修室（3F）
12．TVスタジオ（4F）
12．視聴覚教室（4F）
撮影　SS大阪

所 在 地　京都市中京区紫楽廻り松下町
敷地面積　5,690㎡
建築面積　2,965㎡
延床面積　11,062㎡
構造規模　本 館 棟：SRC、B1、5F、P2
　　図書館棟：RC、 2F、 P1
工　　期　昭和54年 8 月～昭和55年12月





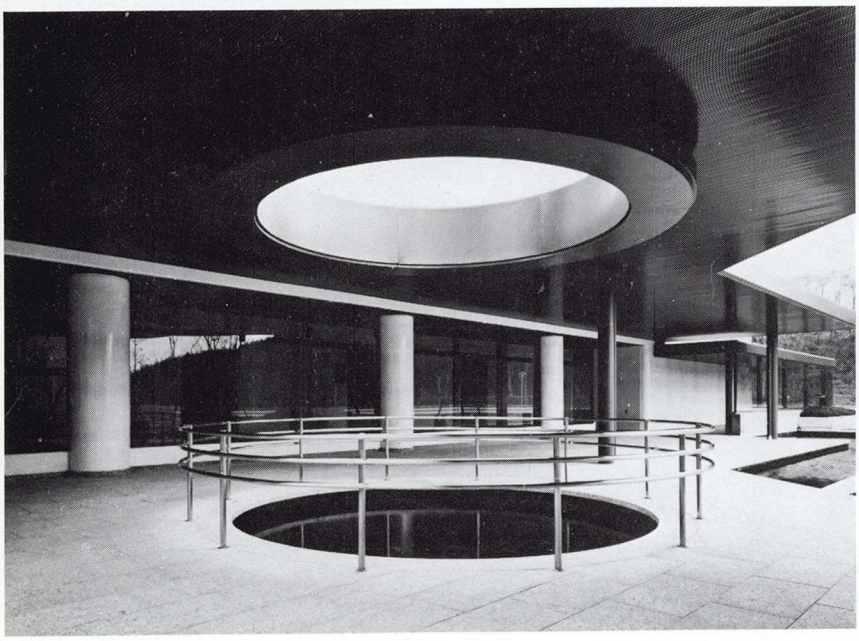
電気設備	ヤマト電気エンジニアリング	大阪市北区西天満5-1-3 Tel 06-364-3056	タ イ ル	古市窯業	大阪府守口市佐太中町１－87 Tel 06-903-1101
共同企業体	光星電工	京都市中京区西大路通三条上ル Tel 075-802-4111～5	金属建具	不二エンジニアリング	大阪市浪速区元町通３－172 Tel 06-633-5714
空調衛生	大阪電気暖房	大阪市西区江戸堀１－10－17 Tel 06-441-8231	塗 装	伊藤塗装工業	大阪市淀川区田川１－３－15 Tel 06-309-6581
共同企業体	扶桑管工業	京都市右京区太秦和泉式部町12 Tel 075-861-1157	内 装	サンエース	大阪市淀川区宮原３－３－38 Tel 06-392-5891
造 作	宮崎木材工業	京都市右京区太秦下角田町５ Tel 075-861-1585	陶板壁画	大塚オーミ陶業	滋賀県甲賀郡信楽町勅旨 Tel 07488-2-3001

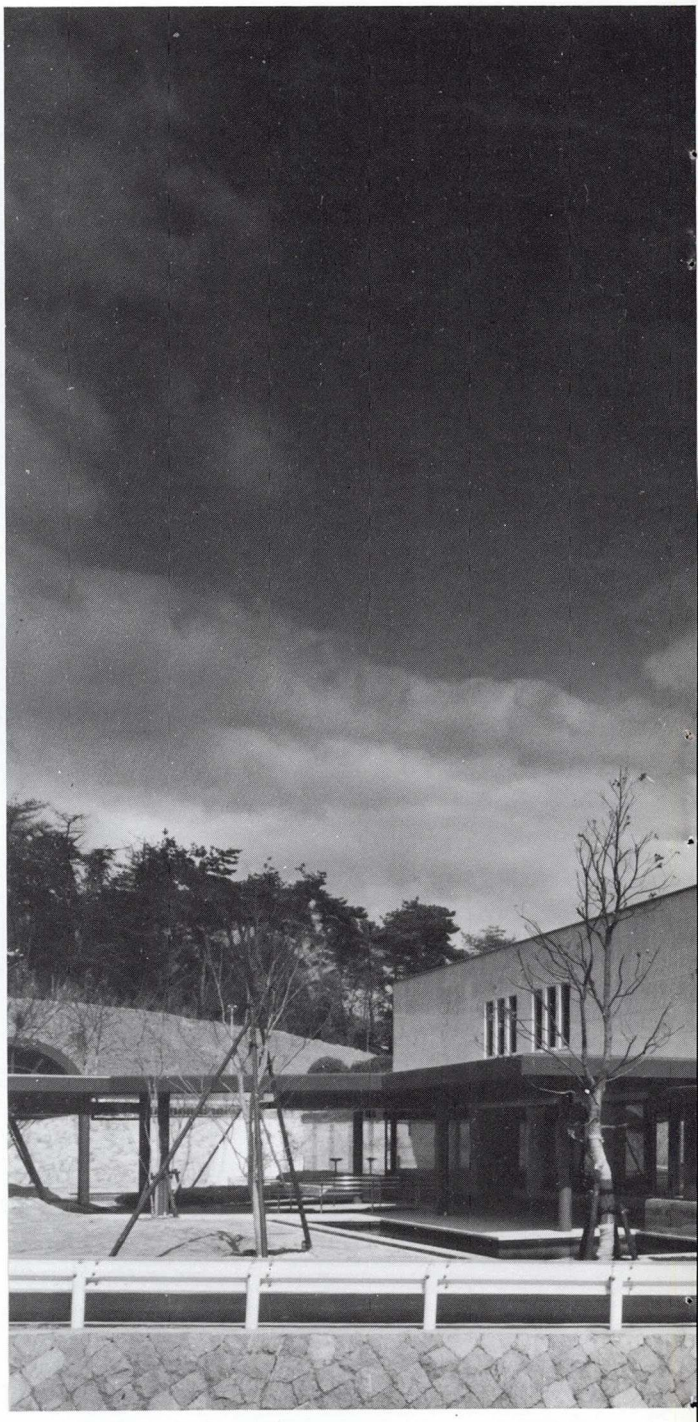
（順不同）

京都市中央斎場(仮称)

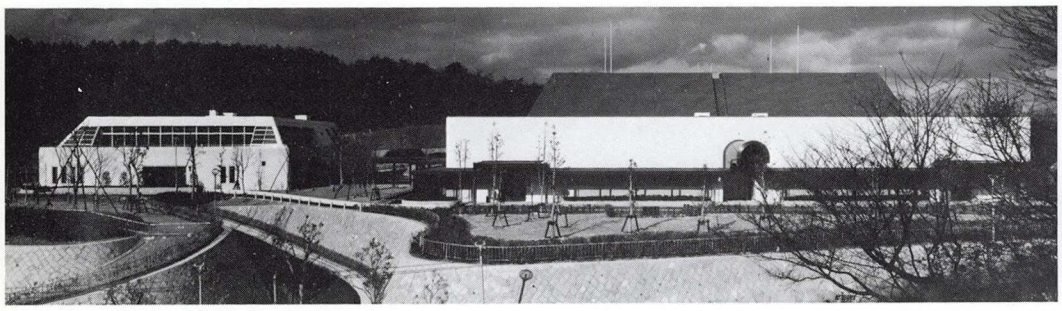
設計監理　京都市住宅局庁舎営繕課・昭和設計
施　　工　辰巳建設



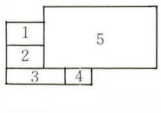




「野火の送り」とは、かって、物悲しい陀しいものだったに違いない。
しかし、この行為ほど人の存在を我々に鮮烈に蘇らせるのもまた他に存在しないだろう。すなわち、唯一無二の場－葬送の場－を建築空間を媒介として可能な限り具象化しようと試みた。形態はあくまでシンプルに、素材は天然の石材を用い、色彩は無彩色を基調としてまとめ上げた。
(上坂成輝／昭和設計)







1．炉前ホール　　4．火葬場棟（北西面）
2．屋外ホール　　5．火葬場棟（南西面）
3．全景　　撮影　河野　豊

所在地	京都市山科区上花山旭山町19－3
敷地面積	29,873㎡
建築面積	本館(火葬場棟)：2.643.0㎡、別館(管理棟)：902.9㎡ 渡り廊下：232.8㎡、第2別館(動物炉棟)：224.0㎡
延床面積	本館(火葬場棟)：3,631.8㎡、別館(管理棟)：1,564.7㎡ 渡り廊下：222.1㎡、第2別館(動物炉棟)：212.1㎡ 合計5,630.7㎡
構造規模	本館(火葬場棟)：ＲＣ、2Ｆ、別館(管理棟)：ＲＣ、2Ｆ 渡り廊下：Ｓ、1Ｆ、第2別館(動物炉棟)：ＲＣ、1Ｆ
工期	昭和54年10月～昭和56年3月



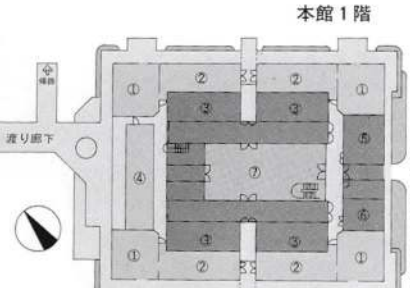
（平面図）

別館1階



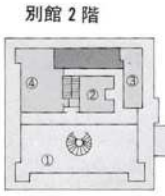
① 事務室
② 会議室
③ 1階待合室
④ 便所
⑤ 機械室
⑥ 職員厚生施設その他

本館1階



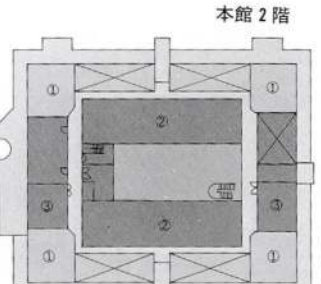
① 告別ホール
② 炉前ホール
③ 炉
④ 収骨室
⑤ コントロール室
⑥ 機械室
⑦ 中庭

別館2階



① 2階待合室
② 便所
③ 葬務関係者控室
④ 喫茶室

本館2階



① 告別ホール上部
② 再燃機械室
③ 空調機械室

電気	関西電業社	京都市中京区三条通り西大路西入ル三条坊町13	075－802－7321
衛生	扶桑管工業	京都市右京区太秦和泉式部町12番地	075－861－1157

（50音順）

観光旅館　魚友

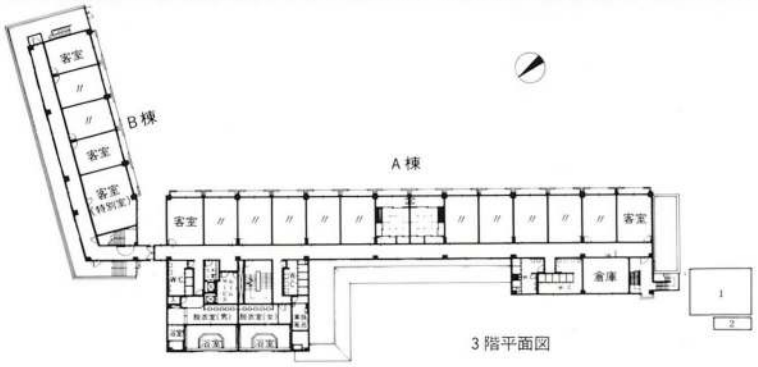
設計施工　不二建設



所 在 地　愛知県知多郡南知多町大字内海字寺後80－9
敷地面積　6,988.00㎡
建築面積　1,391.80㎡
延床面積　3,967.68㎡
構造規模　ＲＣ、４Ｆ
工　　期　昭和55年３月～昭和55年12月

伊勢湾と三河湾に囲まれた知多半島の南部－南知多は半島の99％が三河湾国定公園・県立南知多自然公園区域になっているが、地元では美しい自然を利用して海水浴、潮干狩、釣、みかん狩り等レジャーゾーンとしての観光開発に力を注いでいる。その意味でもこの建物は地元より強く期待され数多くの協力を得て完成した。
計画に当っては公園法による建物の高さ制限、色彩制限、自然保護等の規制により現状の高低の多い丘の起伏をそのまま動線に取り入れることを決め建物の用途上の複雑さ（活魚料理の客と宿泊の客を分離することによるサービス動線の多様さ）を如何に機能的にまとめるかがこの建物設計上の要点となった。
本場三州瓦を葺いた城閣風の立面も環境にマッチした落ち着いたたたずまいであるが周辺の豊かな眺望を全室に満足させたためにまれに見る難設計、難工事となった。（吉積正隆／不二建設）





3階平面図

1．玄関ポーチ
2．全景（南東面）

日本建築協会法規委員会

法令コーナー

質疑などの投稿をお待ちしております。

160

告示・通達の運用等—建築基準施行令の一部改正—（その２）

今年の６月１日から施行している「改正施行令」にもとづき現在出されている告示、通達は**表－１**のようになる。

これらのうち、告示第1790号から第1795号までは昭和55年11月27日に、告示第1799号は昭和55年12月１日に出されており、これらの告示については今回の施行令改正の重要な部分である、構造計算の方法について重要な部分を占めていることから、施行令改正に伴っての各種講習会、および関係誌上等において紹介されているので説明は省略する。

本稿では、今回６月１日に出されている告示第1100号から1103号の運用を簡単にご紹介する。

告示の本文については、６月１日付の官報等を参考にしていただきたい。

表－１

告示番号	根拠条文	件名
告示第1790号	令第82条の２	木造の建築物及び組積造その他の構造の建築物（木造建築物等）を定める件
告示第1791号	令第82条の３第３号	建築物の構造方法に応じて地震に対し、安全上必要があると認めて定める構造計算の基準を定める件
告示第1792号	令第82条の４第２号	必要保有水平耐力の計算に関する基準を定める件
告示第1793号	令第88条第１項第２項及第４項	地震力の計算に関する基準を定める件
告示第1794号	令第90条、第92条第96条、第98条	鋼材等及び溶接部の基準強度を定める件
告示第1795号	令第92条の２第94条、第96条	高力ボルトの基準張力等を定める件
告示第1799号	令第94条、第99条	特殊な許容応力度及び材料強度を定める件
告示第1100号	令第46条第３項表１(ハ)項	木造建築物の構造耐力上有効な軸組及びその倍率を定める件
告示第1101号	令第39条の２	屋上から突出する水槽等に関する基準を定める件
告示第1102号	令第74条第１項	コンクリートの強度に関する基準を定める件
告示第1103号	令第92条、第98条	溶接の高度の品質を確保しうる条件を定める件
告示第1104号	令第139条第１項	煙突の構造に関する基準を定める件
告示第1105号	令第136条の３第５項第３号	腹起しに用いる木材の許容応力度を定める件
告示第1106号	令第77条第３号	鉄筋コンクリート造の柱の帯筋比の算出方法を定める件

１）告示第1100号：木造軸組、倍率関係

イ）本告示は、木造の耐力上有効な軸組として、合板その他の面材を使用したものを認めるものである。

ロ）採用する工法は、〝直貼り〟、〝胴縁仕様〟およびこれらと政令の筋かい等を併用したものである。

ハ）〝直貼り〟は、従来の告示（昭和47年第163号）によるものと同様、柱、間柱、土台、はり等一面に直接くぎ打ちしたものであり、壁材料を継ぐ場合には、前記間柱等または受け材を用いて継いだものとする。

ニ）胴縁仕様は柱等、はりおよび土台にくぎ打ちした胴縁に面材をくぎ打ちしたものである。一連の壁の上端および下端は、それぞれはり（けた）および土台に到達することが要求される。

ホ）第１第３号、第５号および第６号にいう壁２枚を併用した軸組は、両面に取り付けたものであり、〝重ね貼り〟は認めないので注意されたい。

ヘ）倍率については、それぞれの仕様についてのものと、加算則を認めたものである。

ト）このほか、特殊な軸組については、第１第７号により、個別認定の途を開いている。この規定に基づき、工法の普及等に鑑みながら、漸次認定を行っていく方針である。

チ）本告示により倍率の大きい軸組が多く出現してくることが予想されるが、建物全体のつり合い等については令第36条（構造設計の原則）、令第46条第１項（構造耐力上必要な軸組等）等により、指導を行う。

２）告示第1101号：屋上から突出する水槽等

イ）本基準の適用を受ける対象は、当面下記のものとする。

ⓐ 屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他の建築設備

ⓑ 階数に算入されない塔屋（パラペットは含まない）

ロ）本告示第２により、荷重、外力に対して安全性を確保する場合は、標記の応力が荷重または外力を支える部分に生じたときに、転倒、崩壊等、重大な損傷が生じないことを確かめるものとする。このため、必要に応じて簡単な構造計算書、実験資料等の提出を求めることがある。

ハ）既製の設備機器（水槽本体等）類については、ロ）にかかわらず、その部分についての検討は特に要しないものとする。

３）コンクリートの強度関係

イ）本基準は、一般の強度管理方式に鑑み、現場水中養生供試体による場合と（大阪府コンクリート工法に関する指導要綱による）、その補完手段としてのコア供試体による場合とを盛り込んだものである。これ以外の管理方法であっても、適切な研究的裏付けのあるものについては、代替手段として認めるものとする。具体的な運用については、㈶日本建築学会「建築工事標準仕様書JASS－５コンクリート工事」等を参考とされたい。

ロ）本告示第１第１号にいう〝現場水中養生に類する養生〟とは、現場の湿砂中等、水分を補給し得る養生をさすものとする。

ハ）供試体強度の平均値を求める場合の供試体の数等試験方法の詳細については「大阪府コンクリート工法に関する指導要綱」による。

４）溶接の作業条件関係

イ）本基準は、溶接部の十分な強度を確保するための作業条件を定めたものであり、建築工事にあたって必要な機器、技術者、管理体制等を確保すべきこととしたものである。これらについて具備すべき条件は、建築物の規模、使用鋼等々に応じて、判定基準を定める予定である。（昭和46年建設省住指発第344号に相当するもの）

ロ）本告示第２号により、所要の管理体制が確保されると認められる場合には、大臣認定を行うこととする。

５）通達について

今回の施行令改正に関連して出されている通達はつぎのものである。

イ）（建設省住指発第96号　昭和56年５月１日）建築基準法施行令の一部改正（構造計算関係）について

ロ）（建設省住指発第97号　昭和56年５月１日）建築基準法施行令（構造方法関係）について

これらの詳細な内容については省略するが、おおむね先の講習会で使用したテキスト（㈶日本建築センター編、構造計算指針、同解説）と同様であるので、解説等については参照されたい。

❖

本年６月１日から、新施行令にもとづき、確認申請の処理を行っているが、建築関係皆々様のご協力、ご努力により旧規定から新規定への切り替えもスムーズに運び、また旧規定による確認申請の場合に提出を求めていた建築工事着手届も相当数提出されていることに対し、この誌面をおかりしてお礼申し上げます。

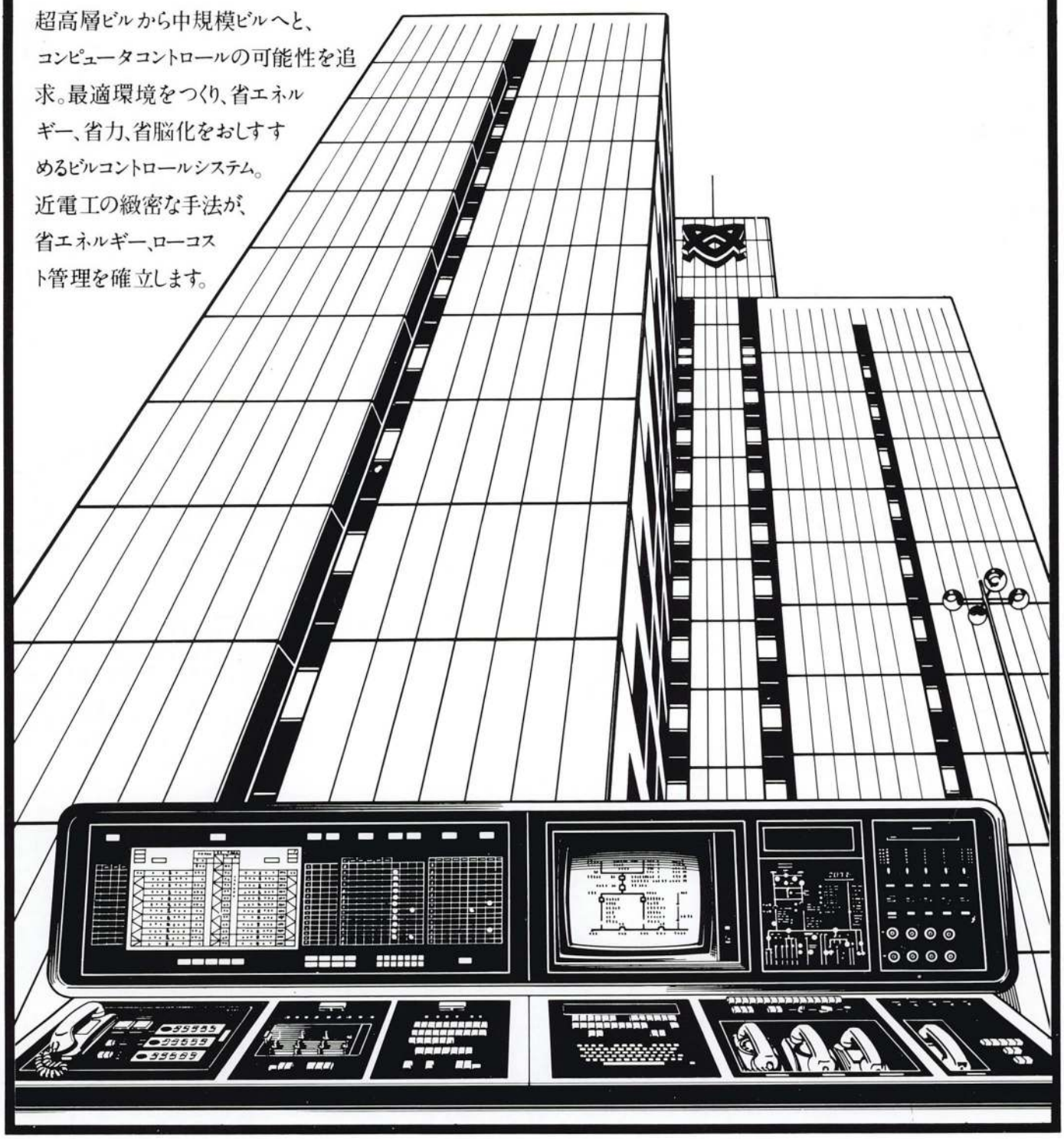
今後とも本府建築指導行政にご協力賜りますようお願いいたします。

（大阪府建築指導課構造係長　森宗　崇）

ビルのローコスト管理をめざす!!

近電工の省エネ制御システム

超高層ビルから中規模ビルへと、
コンピュータコントロールの可能性を追
求。最適環境をつくり、省エネル
ギー、省力、省脳化をおしすす
めるビルコントロールシステム。
近電工の緻密な手法が、
省エネルギー、ローコス
ト管理を確立します。



電気・計装・空調・管・防災・土木

システムの信頼を高める

近電工

近畿電氣工事株式會社

大阪市大淀区本庄東2丁目3番41号　〒531　☎06(375)6000

北海道・東北・東京・名古屋・滋賀・京都・奈良・和歌山・大阪・神戸・姫路・広島・四国・九州・沖縄

日本建築協会建材委員会

新建材紹介コーナー

《新建材紹介　№82》

『三星不燃シングル』

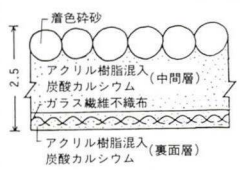
田島ルーフィング株式会社

東京　〒101　東京都千代田区岩本町３－11－13　ＴＥＬ 03－862－8531

大阪　〒550　大阪市西区京町堀１－10－５　ＴＥＬ 06－443－0431

建築基準法第22条第１項、第25条または第63条の規定における「屋根を不燃材料でふく」ことに関し、従来のアスファルトシングル屋根材は、可燃材料であるため使用することができなかったが、ここに紹介する「三星不燃シングル」は、柔軟性を付与した法定不燃材である。

■　製品の概要等

商　品　名	「三星不燃シングルＧ」
認 定 番 号	不燃（個）第1552号
認 定 年 月 日	昭和55年８月７日
厚　さ(mm)	2.5
大 き さ(mm)〈標準寸法〉	560×410
重量(kg／m²)	3.5
構成（組成）断 面 図(mm)	

■　特長

(1)法定不燃材料（上記参照）

(2)すぐれた防水効果がある。

従来のアスファルトシングルの施工実績をもとに下貼り材をふくめた信頼性の高い防水システムを採用している。

(3)軽量でなじみが良い。

軽量（荷重負担は瓦の５分の１以下）で柱や梁にむりな負担をかけず、また下地とのなじみが良く曲面の部位にも施工が可能である。

(4)地震に強く安全

柔軟な特殊合成樹脂を混入してあり割れる心配がなく地震が起きても落下しないので安全である。

(5)耐候性、耐変色性にもすぐれる。

耐候性にすぐれた特殊合成樹脂を使用し、表面は特殊顔料を焼付けた耐変色性の鉱物粒子で覆われている。

(6)美しく柔かい外観

従来のアスファルトシングルと同様にソフトで落ち着きのある材質感は、周囲の環境によく調和する。

(7)風に強い。

軽量にかかわらず風に対しては十分な安全性がある。

■　用途

どんな建築物にも広く適応する。

特に一般住宅、共同住宅、別荘、保養所、各種店舗、クラブハウス、レストハウス、幼稚園、体育施設、教会、社寺院など。

■　施工仕様

(1)下地

木造下地の場合は、12mm以上の合板もしくは15mm以上の野地板を使用し、目地あき、目違いのないように取り付ける。コンクリートの場合は、平滑で充分乾燥し、よく清掃した下地にゴム・アスファルトプライマーを塗布する。他の下地については、上記に準ずる。

(2)下ぶき

合成繊維基材ルーフィングなどを下地に取り付ける。

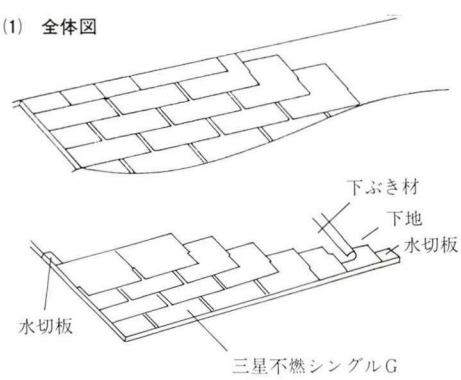
(3)ふき上げ

三星不燃シングルを下ぶきの上面に、くぎ、接着剤を併用して、軒から棟にかけて順にふき重ねる。くぎは長さ25mmの亜鉛メッキ処理したものを使用し、シングル屋根材の切欠き曲部の両内側上部約30mmの位置に打つ。

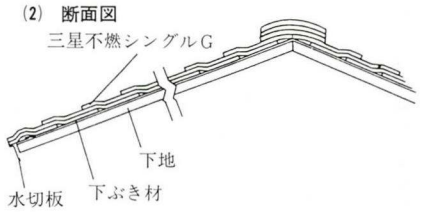
■　標準施工図（例.「三星不燃シングルＧ」）

標準施工図（単位　mm）

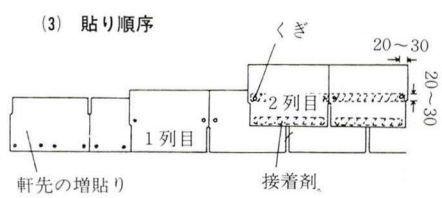
(1)　全体図



(2)　断面図



(3)　貼り順序



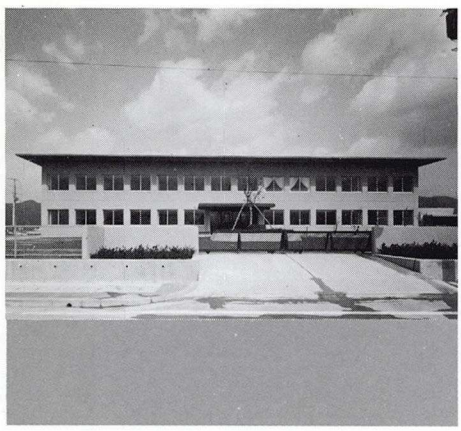
■　三星不燃シングル仕様

部　位	仕様番号	工　法	勾　配	下　地	重　量
屋　根	三星不燃シングル ＦＳ－10	釘打工法	3／10～5／10	耐水合板 12mm厚以上 （たる木間隔450mm）	10kg／m²
	三星不燃シングル ＦＧ－51	ガムロン冷工法	2／10～3／10		11.5
	三星不燃シングル ＦＩ－510	断熱工法			13.0
	三星不燃シングル ＦＧ－52	ガムロン冷工法	2／10～3／10	コンクリート	11.5
	三星不燃シングル ＦＧ－53	ガムロン冷工法	2／10～3／10	ＡＬＣ版、ＰＣ版等コンクリート	11.5
	三星不燃シングル ＦＩ－530	断熱工法			13.5
急勾配化粧貼	三星不燃シングル ＦＳ－11	釘打工法	5／10～7／10	耐水合板 12mm厚以上 （たる木間隔450mm）	10.0
	三星不燃シングル ＦＳ－12	釘打工法	7／10～20／10		10.0
	三星不燃シングル ＦＳ－13	釘打工法	20／10以上		9.5

注１．耐水合板は、たわみが生じないよう、母屋、たる木間隔に十分な配慮を行う。
　　万一たわみが生じた場合は、合板のジョイントをガムロンテープで増貼りする。
２．ＡＬＣ版、ＰＣ版等は梁上のジョイントをガムロンテープで増貼りする。
３．ＦＩ－510の場合、ギルフォームの取付方法は相談のこと。
４．積雪寒冷地の場合は相談のこと。

紙面の都合上、三星不燃シングルについての詳細は紹介できなかったが、上記の会社にご相談下さい。

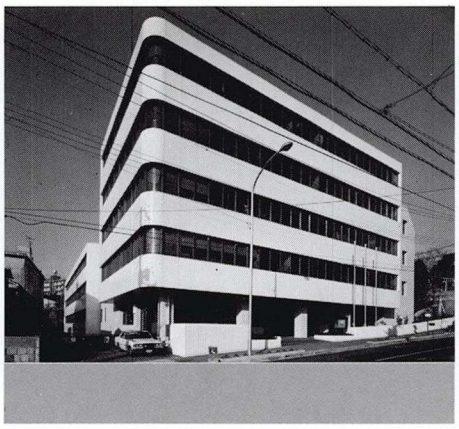
建材委員／長橋英彦　（(財)日本建築総合試験所構造物試験室）



1522 神戸地方裁判所篠山支部

設　計：建設省近畿地方建設局営繕部
施　工：神崎組

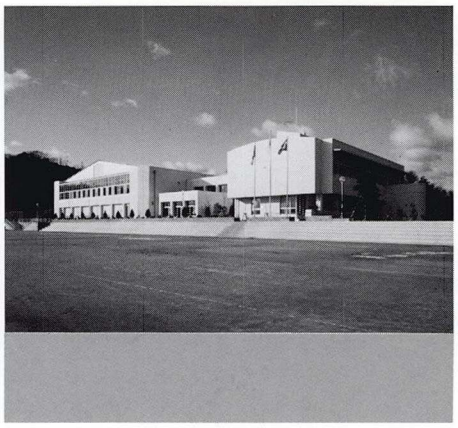
a．兵庫県 多紀郡篠山町黒岡字見舞
b．2,654.76㎡
c．　668.47㎡
d．1,140.18㎡
e．RC、2F
f．昭和55年9月～昭和56年3月



1523 兵庫県産業会館

設計監理：兵庫県都市住宅部営繕課
施　工：明和工務店

a．神戸市中央区中山手通7丁目28番33号
b．3,069.98㎡
c．1,345.94㎡
d．5,889.51㎡
e．RC、B1、5F、P1
f．昭和54年6月～昭和55年12月



1524 兵庫県立丹波総合スポーツセンター体育館

設計監理：兵庫県都市住宅部営繕課
施　工：宗像・中村・吉川建設共同企業体

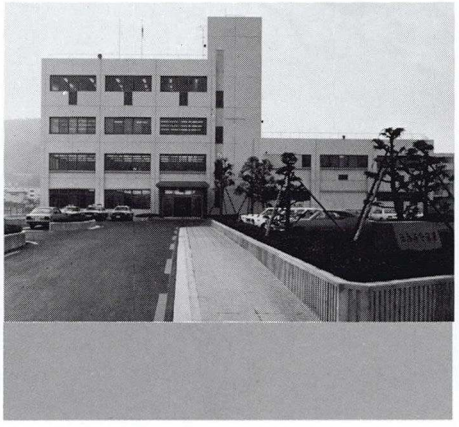
a．兵庫県多紀郡篠山町郡家
b．53,519.76㎡
c．2,517.46㎡
d．3,599.92㎡
e．RC、2F（一部鉄骨屋根）
f．昭和54年12月～昭和55年9月



1525 和歌山市民図書館

設　計：岡田新一設計事務所
施　工：大成建設大阪支店

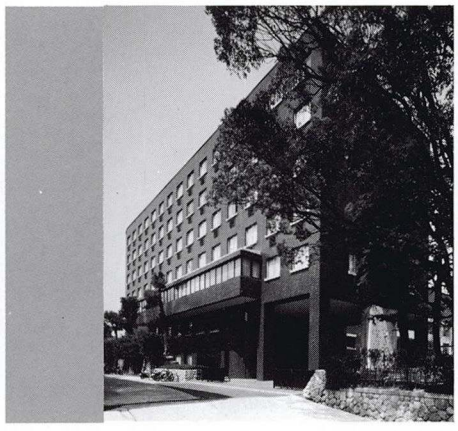
a．和歌山市湊紺屋町3丁目9番地
b．8,598.27㎡
c．1,787.87㎡
d．7,288.90㎡
e．B1(RC)、1・2F(SRC)、3F(RC)、4F(S)
f．昭和55年3月～昭和56年3月



1526 徳島西警察署庁舎

設　計：東畑建築事務所
施　工：竹中工務店

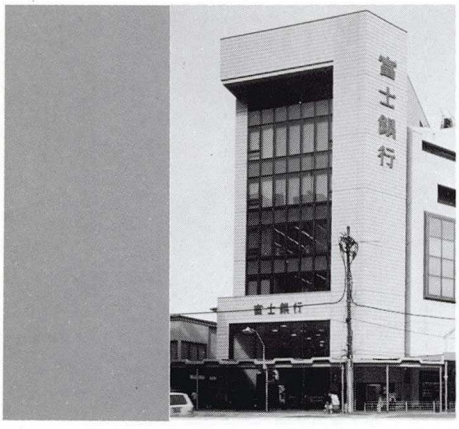
a．徳島市庄町3丁目5番地1
b．3,570.08㎡
c．951.6㎡
d．2,842.63㎡
e．RC、4F、P1
f．昭和54年11月～昭和55年12月



1527 甲南大学社会科学総合館

設　計：東畑建築事務所
施　工：竹中工務店

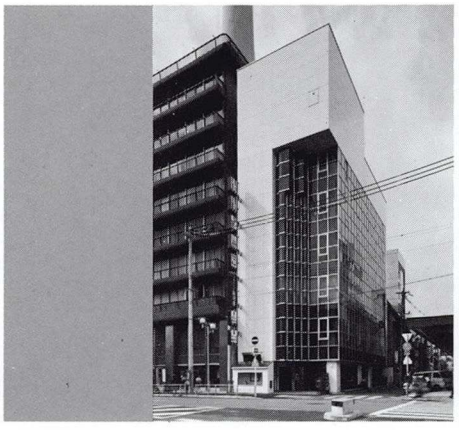
a．神戸市東灘区岡本8丁目9番1号
b．43,609.50㎡
c．871.94㎡
d．5,422.83㎡
e．RC、7F、P2
f．昭和54年9月～昭和55年12月



1528 富士銀行河原町支店

設　計：大成建設本社設計部
施　工：大成建設大阪支店

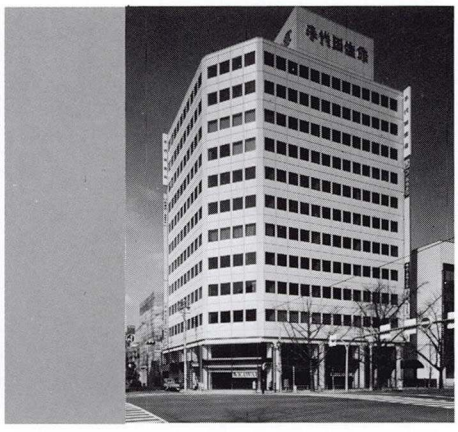
a．京都市下京区四条通寺町東入二丁目御旅町51番地他
b．440.91㎡
c．388.02㎡
d．2,924.50㎡
e．B1(RC)、1～2F(SRC)、3～7F及びP1(S)
f．昭和54年8月～昭和56年3月



1529 京都駅前駿河屋ビル

設　計：吉村建築事務所
施　工：大成建設

a．京都市下京区鳥丸通り七条下ル東塩小路町720
b．231.82㎡
c．175.33㎡
d．1,382.10㎡
e．S（地下RC）B2、7F
f．昭和54年12月～昭和56年3月



1530 千代田生命御堂筋ビル

設　計：横河建築設計事務所
施　工：大成建設

a．大阪市南区周防町28－1
b．1,164.87㎡
c．1,096.88㎡
d．12,931.74㎡
e．SRC、B2、12F、P3
f．昭和54年9月～昭和56年3月

フリントコート®
マスチックフローリング
無公害な弾性床材



東京シューズ足立流通センター
設計監理：㈱ＫＯＡ設計事務所　施工：前田建設工業㈱
使用場所：床　仕様番号：Ｆ－９

特　長

1　耐久性：耐久性にすぐれている。
2　耐摩性：摩耗の度合が低く、ホコリなど生じない。
3　すべり抵抗性：すべり抵抗性にすぐれている。
4　弾力性：弾性があり、万一亀裂ができても使用している間に復元する。
5　粘着性：多少湿っていても、コンクリート、金属、木など、どんな面にもよく粘着する。
6　不燃性：引火のおそれがなく、ガス工場、爆薬工場の床に使用されている。
7　無毒無臭：完全無毒で各種食品工場、貯蔵庫に多く使用されている。

フリントコートについてのお問合せは下記へ

FLINTKOTE®

株式会社シエル石油大阪発売所
フリントコート部

大阪本部　〒530 大阪市北区堂島浜１丁目２の６(新大ビル９Ｆ)☎(06)343－0441
東　　京　〒104 東京都中央区京橋２丁目９の２(第一ぬり彦ビル)☎(03)562－4676
福　　岡　〒810 福岡市中央区舞鶴町１－１－５(舞鶴ビル３Ｆ)☎(092)771-1961

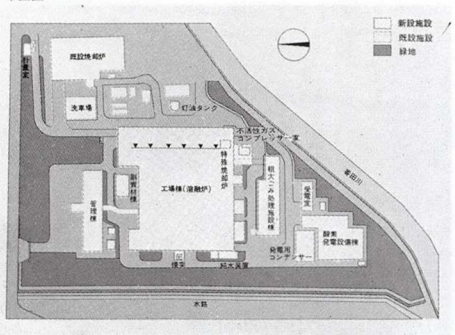
建築と社会 ニュース

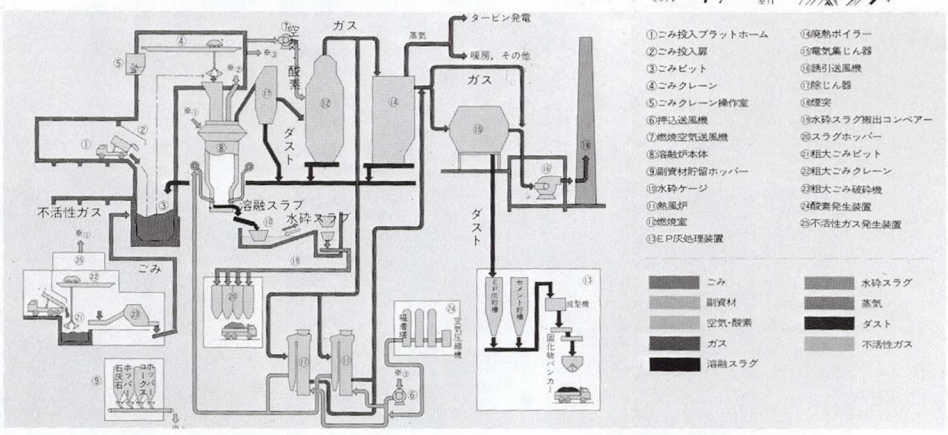
ニュース原稿をお送りください。

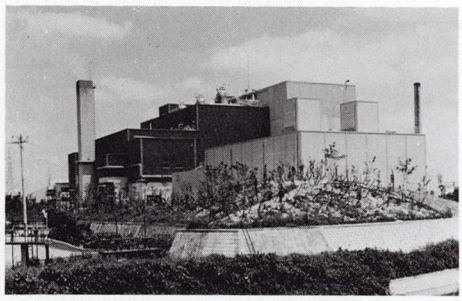


茨木市高温溶融式ごみ処理施設紹介

平面図







名　　称　茨木市環境衛生センターごみ処理施設
設計施工　新日本製鐵株式会社
所 在 地　大阪府茨木市大字野々宮632
敷地面積　約15000㎡
延床面積　11300㎡
処理能力　150ｔ/日×3炉＝450ｔ/日
処理方式　高温溶融処理方式
　　溶融物処理；水砕処理
　　公害防止機器；電機集塵装置・ＥＰ灰処理装置
工　　期　昭和52年10月～昭和55年7月

〈溶融炉の概要〉

溶融炉は竪型でごみは炉の頂部から装入される。その際少量のコークスと石灰分を混合する。熱分解で発生した可燃ガスの漏洩を防ぐため装入ホッパは二重のシール弁を交互に開くことによって、大気と直接連通することがないようにされている。一方炉の下方から予熱した酸素富化空気を炉内に送りこむ。こみの水分や形状は様々であるが、粗大ごみ（30cm角）でなければ破砕することなく炉に装入できる。ごみは炉の上部の予熱乾燥帯で乾燥され、次いで炉下部から上昇して来る高温の燃焼ガスによって熱分解される。熱分解で生じた炭素分（チヤー）と混合したコークスはさらに下降し酸素富化空気によって高温を発して燃焼する。この燃焼溶融帯の最高温度は1800℃から2000℃程度であると思われるが、この高温によってごみ中の不燃分であるガラス、陶磁器等は石炭と共に溶融してスラグになる。また空缶等の鉄分も溶融し炉下部に溜る。この溶融スラグ、鉄は炉底から間歇的に排出される。排出時の温度は1400～1500℃である。

炉内の熱分解の際、塩化ビニール等が熱分解して発生する塩化水素は炉下部の高温でガラス等から揮発して来た酸化ナトリウムや、石灰分と反応して塩化ナトリウム、塩化カルシウム等の塩となって安定する。

ごみ中の重金属のうち銅、クローム等は溶融鉄中に入り、亜鉛等は揮発して飛灰に入る。ごみの炉内での滞留時間は炉の容量によって変わるが1～3時間である。熱分解で発生した可燃ガスはごみ質にもよるが1000～1600Kcal／Nm³の発熱量を有する。ガス処理方式は直接燃焼方式を採用している。ダストタールを含む熱分解ガスは乾式ダストキャッチャで粗除塵した後、直ちに燃焼室で燃焼する。この燃焼排ガスの一部は熱風炉の熱源として利用し、大部分はボイラを通って熱回収され、次いで両方のガスを電気集塵機で清浄にし、誘引排風機を経て大気に放散する。溶融炉から取り出す溶融スラグおよび溶融鉄の処理は水砕方式を採用している。

以上をまとめると次の4つの特徴となる。

①ごみ質の多様化に対処しどんなごみでも処理できる。溶融炉はゴミを可燃性ガス、スラグ、鉄(粒鉄）にするシステムであり、可燃物、不燃物の両者を完全処理できるので、所謂一般ごみの場合ごみは選ばない。

②無公害処理が出来る。ごみ中の可燃物を無酸素状態で熱分解するので排ガス中の硫黄酸化物、窒素酸化物、塩化水素は極めて少なく大気汚染の心配がない。

③ごみ中の不燃物を溶融するので減容化が可能で、スラグは安全、無害のため埋立地の有効利用、すなわち埋戻し材や路盤材等に利用でき、資源回収可能である。

④発生ガスは燃焼して熱エネルギーとして発電や給湯に利用されエネルギー回収も可能である。

大阪市の第12回緑化施設の表彰施設決まる

昭和56年度（第12回）建築物に付属する優秀な緑化施設の表彰施設（6件）

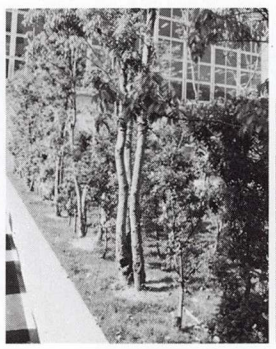
区分	施設名	所有者又は管理者	設計事務所名	所在地
表彰状	東洋紡ビルディング	東洋紡不動産㈱	㈱大林組一級建築士事務所	北区堂島浜2－8
	フーセンウサギ㈱本社ビル	フーセンウサギ㈱	㈱竹中工務店大阪一級建築士事務所	西区新町2－2－2
	コスモハイツ玉出	アーバンサービス㈱	㈱長谷川工務店一級建築士事務所	西成区玉出西2－3－1
感謝状	日経今橋ビル	㈱日本経済新聞社	戸田建設㈱大阪支店一級建築士事務所	東区今橋1－15－1
	花王石鹸㈱大阪支社	花王石鹸㈱	㈱竹中工務店大阪一級建築士事務所	西区立売堀1－4－1
	梅田シティビラアクト3	堂山中央住建㈱	㈱K・I・A建築総合研究所大阪支店	北区堂山町18

56年5月20日

昭和56年度建築物に付属する大阪市内の優秀な緑化施設の選考委員会が5月8日開催され、現場審査および書類審査の結果、対象件数12件のうち6件が表彰された。以下その概要を記す。

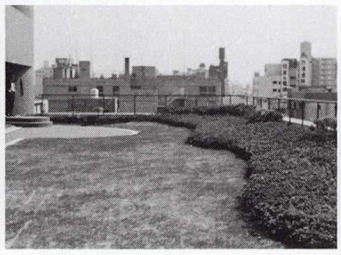
選考委員

㈱大阪市公園協会常務理事　加藤一男（元公園局長）
大阪市長室長　大浦英男
大阪市公園局長　二宮敏明
大阪市建築局長　三品哲夫

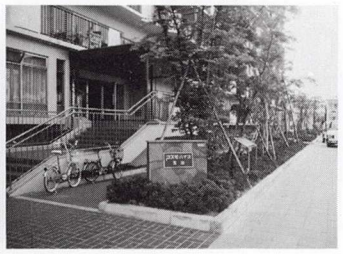


◁東洋紡ビルディング

フーセンウサギ㈱本社ビル



コスモハイツ玉出



読者の頁

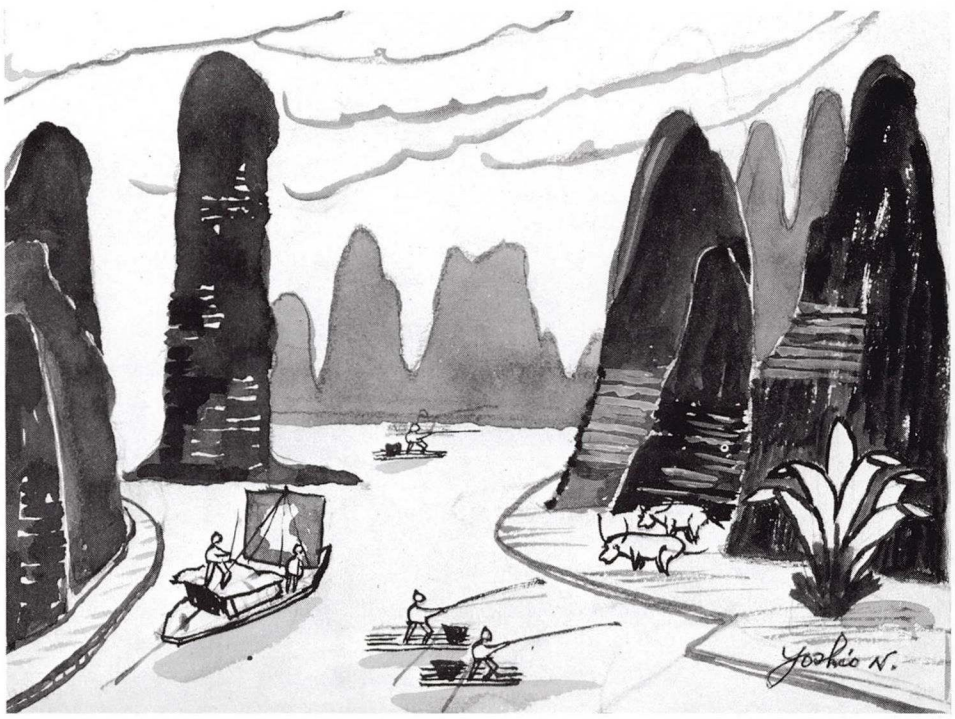
〝私のらくがき〟募集

○テーマは、「春」「夏」「秋」「冬」の四季をあらわすもので、タイトルを適当におつけください。またスケッチ場所などを含めて 200字程度のコメントをつけて下さい。
○サイズは150×200ミリ程度の白紙に、できるだけ黒インキで書いたものとします。（ハガキ大でも差しつかえありません。）
○掲載分には規定の稿料をさしあげます。原則としてスケッチの原稿の返却はいたしませんが、返却希望の場合はその旨特記下さい。
○氏名、住所、職業、年齢を明記して㈱日本建築協会編集部宛お送り下さい。

私のらくがき

〝中国、桂林―漓江を下る〟

中村義雄／日本建築協会会員、82才



1980年７月24日、中国の南、香港から電車で広州へ。広州より飛行機で桂林へ。
日本人は余り来て居らず見る可きものは漓江。
午前８時桂林、乗船83キロを下る。午后４時陽朔という場所に着く。
途中船内から見る景色は鋸形の山ばかり。日本の山水画を見ている様なもの。両岸は砂と行儀のよい竹林。人影も人家も余り見えず透明な青色の水。動物は水牛とアヒル。河を往来する船を時々見受ける。どの船もムシロ張りの様な粗末なもの、帆の付いた船が多い。魚釣りの小舟が竹を三ｍ位のもの７本位つないで筏代り。面白いのは岸から釣らず必ず竹筏で岸に向って釣っている。
鋸形の山は高いので30ｍ～50ｍ位のものが多く、石灰石で出来て漓江の両岸に前後左右に突出して非常によい景色。気候は７月24日で平均24、25℃位で非常に気持よく湿気なく汗は出ない。

旧大阪砲兵工廠本館の破壊について

小田　隆／堺市立工業高等学校郷土史研究部３年



去る５月２日、日増しに保存運動が盛んになってきていた旧大阪砲兵工廠本館が、早朝から大阪市の手によって抜き打ち的に取り壊されてしまいました。この建築物は、明治35年に発行された「大阪砲兵工廠沿革史」によると、明治６年にはすでに完成されていたことがほぼ明らかで，明治洋風の工場建築としては、全国でも最も古いものの一つであったということです。なぜこのような歴史的に価値のある建築物を、市は急いで取り壊さなければならなかったのでしょうか。跡地に木を植えて緑地にするということですが、単に木を植えるだけのために、そして災害時の避難場所である大阪城公園の中に古い建物があっては危険であるということだけのために、なぜ市民の目をごまかしてまでも破壊しなければならなかったのでしょうか。僕は、絶対に保存をしてもらいたかったのですが、取り壊しに賛成である人々の意見も無視することはできません。砲兵工廠があったがために昭和20年の大空襲時に目標にされて多くの被害者が出たのも事実です。中には、そういう暗い過去のある建物などない方が良い。という人も多いはずです。でも広島の原爆ドームを見て下さい。あのドームほど戦争の非惨な傷跡を今に残している建物は他に例を見ないと思います。広島市民にとってあのドームを見て暗い過去を思い出すのは、良い気持ちではないと思います。しかし、あの建物があるからこそ人々は二度と戦争は起こすまい。という気持ちを新たにするのだと思います。そういった意味でも多くの戦こんを残していた砲兵工廠本館は、大阪に残された数少ない戦争の傷跡であり、また、平和のシンボルにもなり得る建物であったのではないでしょうか。ただいやな思い出があるから壊した方が良いという意見には、どうも僕は、納得できないのです。写真や文章だけでは、本当の戦争の恐ろしさは、伝えられないと思うのです。
残念なことに、砲兵工廠本館は破壊されてしまいました。思えば大阪の産業発展のために作られ、百余年もの間、風雨に、そして度重なる爆撃にも耐え、戦後はアパッチ族の活躍の場となり、様々な大阪の姿を見守ってきた砲兵工廠本館が、その大阪市によって破壊されたというのは、何という皮肉でしょうか。僕は、取り壊されている現場で、昔砲兵工廠で働いていたという老人が、目に涙をうかべながらそれを見つめ、無惨にバラバラになった煉瓦の一つを大事そうに持って帰る後姿を見て、（ああ、なぜこんな人たちの思いを無視してまでも壊す必要があったのだろう。）と思うと、もって行き所のない怒りを感じました。もし、仕方なく取り壊さなければならなかったにしても、もっと他に方法があったのではないかと思います。保存運動が高まっている中で、予告も無しに、早朝から取り壊したというやり方は、あまりにひどすぎるのではないでしょうか。僕は大阪市民として、大阪の町をこよなく愛していますが、その大阪が、自分のことしか考えていないような人たちによって、姿を変えられていくのは、何とも耐えられません。聞くところによると今度は、大阪市庁舎や、中央公会堂といった美しい歴史的建築物も取り壊される運命にあるというではありませんか。もし、そんなことが本当に行なわれてしまえば、大阪には一体何が残るのでしょうか。いや、大阪だけではありません。これからは、日本全国にこのような問題が起ってくると思います。そこで僕は、今度の砲兵工廠本館の破壊の事件を教訓とし、この建物の〝死〟を無駄にしないためにも、全国の歴史的建築物の保存運動が益々盛んになって、二度とこのような悲劇が起こらないようにと、心から願っているのです。（1981年６月２日）

昭和56年度・第１回若い会員の集い
デイスカバー大阪・その６

大阪の新しいまち・南港ポートタウンを見る

――新造船〝水都〟と新交通〝ニュートラム〟で南港巡り――

レポート

ディスカバー大阪シリーズの第６回目は、大阪の新しいまち・南港ポートタウンを海と陸から訪ねた。

大阪のまちの歴史は埋立ての歴史であるといわれている。西成区や此花区には新田という地名が多く存在し、そこに現在生活している人々にとって、その場所がかつて水面であったとは想像もできないであろう。

南港ポートタウンもこのような埋立ての歴史に新しい１ページを加えたのである。ポートタウンは、大阪南港の町づくりの核として人口４万人、面積 100haのシーサイド・ニュータウンである。

当日は、初夏を思わせる暑い日であったが、舟遊びには絶好の日よりであった。参加者は大阪市港湾局庁舎前に集合し、中央突堤のハーバーレーダー前まで歩いた。そこには、白地にブルーのラインが入ったスマートな船〝水都〟が我々一行を出迎えてくれた。この船は大阪市が大阪港の視察、見学の専用船として今年の４月に就航した新造船である。

乗船後、森岡主査が本日の講師である安藤茂男氏（大阪市港湾局南港開発部主幹）と船内で案内していただくマリンガールの桜井嬢を紹介した。〝水都〟はエンジンの音も軽やかに岸壁を離れた。まず最初、安治川を上り、弁天ふ頭の手前でＵターンし安治川河口の諸々の港湾施設を見学した。そして再び中央突堤を通過して、巨大な港大橋をくぐると、新しく建設されたコンテナふ頭やフェリーふ頭などの港湾施設が活躍している姿を見ることができた。船は南港の南端にあるユニークなデザインのかもめ大橋をくぐりぬけて、大阪の新しい憩いの場である海水遊泳場、魚つり園、野鳥園や高層住宅群のポートタウンを海上より見学した。船は約１時間半の南港一周の航海を終えて、フェリーターミナル前に接岸した。

下船後、ポートタウン新交通システム「ニュートラム」を利用して、ポートタウンの中央にあるポートタウン管理センタービルの会議室に集合して、安藤講師より南港ポートタウンについて当初の計画や概要説明があった。

このポートタウンの特徴を要約すると、

(1)健全なコミュニティの形成をはかるためには、特定の年齢階層、所得階層にかたよることのない住民構成が必要である。このため、公団住宅を基本にし、市営、民間分譲、企業向けなど多様な建設主体の導入をはかった。

(2)近隣公園、地区公園、川のある緑道、周辺緑道など十分な緑の空間の充実。

(3)高密度住宅地の特質を生かした新交通システム「ニュートラム」、ごみ収集の空気輸送システム、地域内放送を含めた情報システムとしてのＣＡＴＶなどの新しい都市基盤システムの導入。

(4)交通事故の減少、住環境の保全をはかるためポートタウン域内はノーカーゾーンとし、原則として自動車の乗り入れを禁止する。

ということであった。

講演後、我々は安藤講師の案内でポートタウン内を歩いた。ポートタウン内の住宅は全て高層化されており、それぞれの敷地単位での区切りがなく、十分なオープンスペースがとられていた。広々とした緑地、又ここが埋立て地かと疑いたくなるような人工のせせらぎがあり、そこでは、水とたわむれる子供達の顔が生き生きとしていた。

又、ノーカーゾーンのポートタウン内は、日常自動車公害に悩まされている我々にとって、何かホッとするような安らぎを与えてくれるまちであった。

最後に、本企画に際し、大阪市港湾局およびお多忙中にもかかわらず講師としてご説明ご案内をしていただきました安藤主幹と〝水都〟の乗組員の方々に厚く御礼申し上げます。

レポータ・佐野利治(淺沼組)

壮大な実験室

－南港ポートタウン－

河上　隆志

ポートピアは連日押すな押すなのにぎわいをみせている。最近このポートピアの行われている神戸のポートアイランド、芦屋浜シーサイドタウン、そして南港ポートタウンという三つの人工地盤(埋立て地）都市が誕生した。今回の企画に参加して南港ポートタウンを見せていただいたわけだが、同じように埋立ててつくられた人工島がこれだけ違う様相を示しているのも事業主体の事情を反映しておもしろい。ポートアイランドと南港はコンテナリゼーション等港湾機能の近代化に伴う新しいミナトと街づくり、芦屋浜シーサイドタウンと南港ポートタウンは住機能中心のニュータウンづくりと性格的には似ているが、その街の姿はかなり異なっている。

芦屋浜シーサイドタウンは、計画から施工・販売・管理までを含めた一大設計競技により建設されたが、超高層住宅への技術的挑戦という意味ではなはなしいが、高層住宅での生活像の創造という意味では何を生みだしえたのだろうか。ポートピアのテーマは「未来の海上都市づくり」であり、ここには都市機能としての各種施設（市民病院・ホテル・スポーツ施設・国際交流会館等）と住宅がセットで配置されている。そもそも、このポートアイランドは、ミナト神戸の復権をかけて新しい海上輸送システムに対応する港をつくり出すことに主眼があったという。物資流通の面では横浜をおさえてトップにあり成功しているといえるが、ミナト神戸のもう一つの側面(文化というべきか)は、この新しい海上都市にかかっている。文化面では、フィジカルな街づくりだけでなく「ひと」（ポートアイランドに住む人、訪れる人、働く人など）にかかっていると思う。そういう意味でポートピアが終わったあとにどのような「ひと」が集まるか注目したい。

さて前おきが長くなったが、南港はポートアイランドと同じように水際線は新しい港湾機能によって占められ、中央の空洞部にニュータウンが建設されている。そのため、海の街といってもこのニュータウンからは海を眺めることしかできない。南港ポートタウンは住機能だけのニュータウンであり又芦屋浜シーサイドタウンのように高層住宅の技術を追求したというわけでもなく、14階までのＳＲＣ造の高層住宅によって構成されている。

海からのポートタウンの景観は住棟の間から向こうが見通せたり、住棟が屏風のようにそそりたったり変化のあるものとなっている。内部にたってみると、高層住宅だけで構成されているにもかかわらず、私にはさほど圧迫感がなかった。 400人／haという高密度住宅地であるにもかかわらずである。 400人／haという密度は既成市街地の中ではかなりの高密度であるが、高層化による大きなオープンスペースの獲得「高層化万歳」「コルビジェ万歳」。しかしながらこれを街といってもよいのだろうか(？) 普通は住宅が100戸もあればパン屋、たばこ屋ぐらいは必ずあり、 1,000戸もあればかなりの商店、サービス施設のある街ができる。私は今京都府の南端にある男山団地に住んでいる。この団地は日本住宅公団が造成したもので、近隣センターが３ヵ所あるが、区画整理のためか自然発生の商店が団地の中にかなりある。そしてこれらの自然発生商店街が立地の不利を克服して一番のにぎわいを見せている。計画的につくる場合もこういう自然発生の余地を残した柔軟なものにしておけないものだろうか。もっとも高層住宅群の中でこういう余地を残すことは至難のことではあるが、もう少し街らしくする努力をしていきたいものである。南港ポートタウンで何といっても圧巻なのは「緑」である。入居以来まだ４年というのに、やけくそで植えたとしか思えないこの緑によってこのニュータウンは支えられているようにさえ思える。子供達が川で水あそびをしたり、木にのぼったりして遊んでいるのを見たり、野良犬がブラブラしているのを見て何かほっとした気になった。

感じたことをダラダラと書いてきたが、この南港ポートタウンは、他の二つのプロジェクトにくらべて地味ではあるが、私には最も実験的な街であるように思えた。

（東畑建築事務所）

船上想

福廣　勝介

僕は子供の頃から煙突に登るのが好きだった。煙突に登って方々を眺めるのである。それが高じて鳶になりたくなって来た。大空を自由に飛んでみたいというのではない。高い処を回りながら、小さな町や村をゆっくり眺めてみたいのである。そして又、煙突は違う方に派生して、アーケードの隙間から道行く人達を垣間見たり、螺旋階段を







下から見上げたりといった事まで好きになってしまった。何か少しのぞき趣味の感じがしないでもないが、別に変な下心がある訳ではない。通常でない位置から物を観てみると、毎日みているものが急に形を変えるのが楽しみなのである。

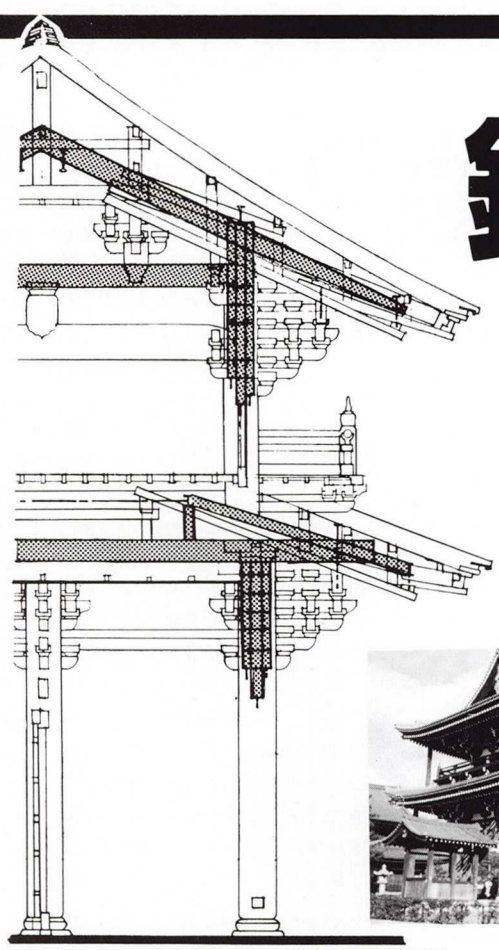
南港ポートタウンを、船に乗って海上からの見学会が催されると聞いた。ポートタウンには、二三度足を踏み入れた事があって、近代的な施設設備の整った、明るく健康そうな町である事、そしてそれは川のある緑道はじめ処々に快い景色として現われていると、いい印象を受けていた。その町を船上という異方向・遠方から眺められるとあって、早速参加させて頂くことにした。船は、大阪市の粋な企画で新造船された水都である。

当日、天候にも恵まれ、中央突堤より水都に乗船、一時間ばかりの見学航海を体験した。水都はあちらこちらへと忙しく舵をきって、我々は、右舷の水しぶき越しであったり、又ある時は左舷の橋のアーチの下に、そして又真正面遠方から徐々に近づいてといった様々な角度からの見学をさせて頂いたのである。しかし、残念ながら眺めたケシキは随分期待はずれであった。そこには、大きな箱状の倉庫群・壁状の住棟群、そして各々にはシャンながらもの橋々などがただ雑然と汚れた海水の向こうに置かれているだけだった。港は都市の表玄関であるという。船のゆるやかな上下動に揺られながら僕は夢想していた。コロンブスだって、こうした遠景では、いかにはじめての島であっても、上陸に胸をときめかしはしないだろう。小さなスケールでは実現しようとしている近代的で明るい景色を、この目の前の無機質の味気ない遠景のなかに想い浮べることはむづかしい。何故、遠来の異邦人達の心踊らせるような玄関が実現しないのであろう。日常の近景に配慮されることもまだまだ少ない時にあって、港湾等の施設の姿、ましてや非日常の海からの景観など云々と笑い声が聞こえないでもない。だが、本当に快適に住まえる都市は、きっといい顔、いい玄関を持っているのではないだろうか。

画家の田島征三さんがある処で、南米ペルーのナウカに発見された巨大地上絵画のことを紹介されていた。それは有史以前の何人か先人が、数百米に渡って溝を掘り、土手を築いて描いたものらしい。その絵の全体をみるには翼を持つ以外にない。多分はるか天上に住む神々のために描かれたのであろうと、田島さんは感想されていた。今、我々の時代に新しい町をつくるに当っても、これ程の壮大な想いを持ちたいものだ。そんな想いを込めての快適な町づくりには、あらゆる時間や空間のスケールから、細かなディテールにまで思慮がシステマティックに行き届く必要がある。そのためのトータルデザインのノウハウの開発が求められているのだろう。そして、それが途方もなく、我々の知恵の及ぶ所でないとすれば、飽く事なく慾望を追求してきた都市人類の暮らし方・行き方を醒めた理性で考え直してみる必要があるのではないだろうか。

（日本住宅公団関西支社）

日　時　昭和56年５月９日(土)
　　集合13：10→解散17：30
講　師　安藤茂男氏（大阪市港湾局南港開発部主幹）
参加者　41名
スケジュール
13：30→15：00　〝水都〟にて南港巡り
15：30→16：00　講演「南港ポートタウンについて」
　　安藤講師
16：00→17：30　南港ポートタウン内見学・解散



東福寺三門の鉄骨補強（ハッチ部分が補強部分）

日本建築協会企画　建築技術選書24

鉄骨構造の話

京大教授・工博　金多潔著

斯界の第一人者が初心者のために分り易くまとめた，
鉄骨構造のＡＢＣ．基本から最新技術まで図解する．

＜基礎編＞　１鉄骨建築の部材　単材と組立材　Ｈ形鋼　角鋼管　鉄骨建築のはりと柱　２鉄骨部材の接合法　高力ボルト接合法　溶接接合法　溶接のディテール　溶接部の品質管理　溶接の残留応力　３鉄骨部材の継手・仕口　部材接合の基本的な考え方　柱・はりの継手　柱・はりの仕口　柱脚部　ブレースの仕口
＜応用編＞　４骨組の形成　トラス構造　ラーメン構造　併用構造　スペーススストラクチュア　５骨組の組立て方　力の流れ　変形や振動　鉄骨造の施工　６鉄骨構造と古建築の保存　保存修理の基本事項　須屋根の建設　古建築の軸組補強　れんが組積造建築の耐震補強

Ａ５・160頁・定価 1200円

学芸出版社

京都市下京区木津屋橋通西洞院東入　☎ 075-343-0811

自然発生的建築をめぐって—15—

領域　その4

本多友常
（㈱竹中工務店大阪本店設計部設計課）

領域の約束ごと

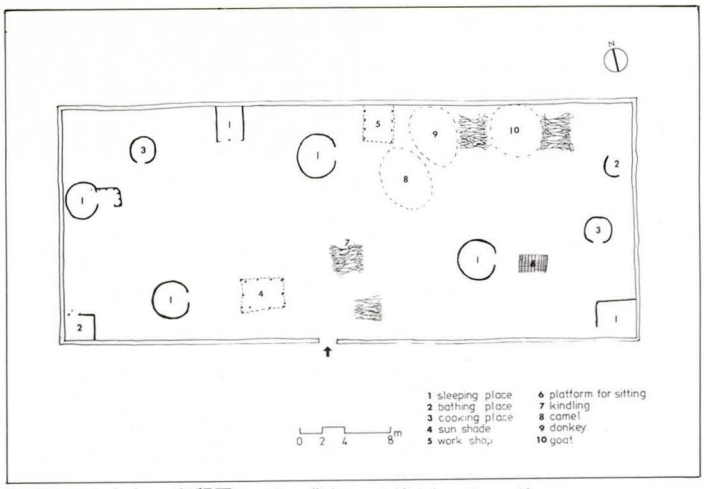
“防衛”の概念は、人が空間を囲い込むことの動機を説明することは出来ても、その質について多くを語ることはむずかしい。私達の身のまわりを見まわしてみても公共の道と個人の家の中では性格が全く異るように、質の違う空間がかならずしも攻撃－防御の物理的な力関係のバランスでつくりあげられているわけではなく，むしろ目には見えないマグネットがつくり出す磁場のような関係として、それぞれの空間が相互に影響を及ぼしながら、自律しているのを知っている。したがって城壁のように、即物的な防御のかたちをとって領域を保持するあり方はむしろめずらしいことであり，空間のとり込み方としてはあくまでも特殊解なのだ。これに対し、私達が日ごろ体験する生活の場では、それぞれの支配する領域を認めあうことによって個人と家族、家族と隣人が共存の関係をつくり上げている。ここに保たれた秩序は相互信頼の上に成り立つ、いわばとりきめによるものであり、これを知らない人間がもしまぎれ込んで来れば、そこにはなんらかの混乱の渦が巻き上がるに違いない。このような秩序のためのしくみが、あるときは制度であり、法やモラルによる約束ごとであり、あるいは信仰や文化的特殊性にかかわる世界認識のしかた、そして風俗習慣等々である。そして各レベルでの空間は、それぞれのもつ“質”に応じて、この背後に隠された目には見えない構造を喚起して、人々のありうべきふるまいを示唆するように、各人に対してのメッセージを送りつづける。それはある人にとっては心なごむ場所でも、他の人にとっては、拒絶のしるしで満ち満ちた所となるような、巧妙なしかけとして作用し、場合によってはその場の“質”を感得しうる人々をして、不必要なストレスから解放し、瞑想深化を実現しむる空間とさえなることもあろう。卑近な例を見れば屏風のように頼りないついたてでも、それは背後に目のないことを意味出来るし、背の低い生垣でも他人の理由なき侵入からは守られていることを保証してくれるように、これらの領域の破保のしかたが、物理的な侵入に対して実効がなければないほど、それはむしろふるまいに、つまり人の側にゆだねられるようになる。

極端な例では、アマゾンに住むヤグア族は大きな開放された家に住み、個人のプライバシーを保つことがむずかしく、そのかわり習慣として家の中心に背を向けることによって、そこからいなくなったと見なされ、事実上目えなくなることが出来るという。[1] また砂漠に住むトゥアレッグ族は、ひとつの小屋をとり囲むような領域をもっているらしく、造営時にはそれがあらわれること、そしてそれがあつまって、ひとつのまとまったコンパウンドをつくりあげていることについては前に述べたが（当シリーズその5参照）、彼らが都会に居をかまえたときの一例を見ると、いかに本来ありうべきふるまいが実現されるべく腐心しているかがうかがわれる。図－1は既存の日干レンガ塀にかこまれてはいるが、遊牧生活における配置パターンがそのまま再現され、各小屋がそれぞれの領域を侵害しないようにたちならび、領域に対する本質的な感覚が簡単には失なわれないことを示している（写真－1）。生活の型として定着した遊牧に生活基盤を持つ人々が、都会においても許される限りサバンナや砂漠での生活様式を守ろうとするのはあたりまえのことであるというべきなのであろうが、根底には人類の共有する領域的意識が働らいているように思われる。

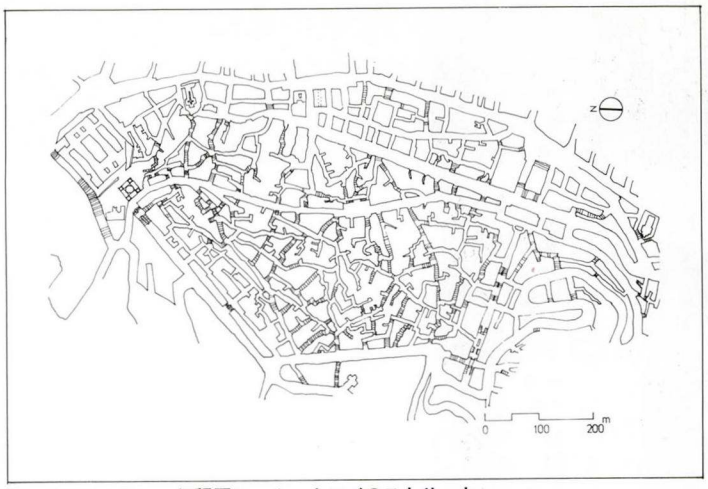
領域についての諸説

さてこのような領域の普遍性についての考察は、すでに多く先人のものすところであるので、ここでは簡単にみなおしておくことにしたい。動物のなわばり行動から発想して、人間のもつ距離感覚とコミュニケーションの関係において論じた名著“かくれた次元”において、エドワード・T・ホールは、人間の持つ距離を4つに分類し、それぞれに密接距離，個体距離，社会距離、公衆距離と名づけた距離範囲を措定している。これは人間同士の相互関係を説明するうえで、距離のとり方が決定的な意味の違いを有することに着目した研究であり今でも新鮮な説得力を失うことなく、広く影響力を持つものであるが、[2] 吉阪隆正もまたこれと同じような考え方を、都市論を展開するうえでの根拠としてとらえている。彼は人間の生活圏を外側からの異物の侵入に対する反応のあり方として、認知圏、警戒圏、逃避圏、反撃圏と四段階の防衛線にわけ、これを対人関係に対応させたものとして、同朋圏、知人圏、友人圏、知己圏へと分類し、さらにはこの外圧の強弱によって、住居の間取りにも大きな影響があることを説く。[3] また社会人類学者である石毛直道は、この対人関係についてダトーガ族の調査をもとに、家庭内における隔離の原則が、客という隔離されるべき者が住居のどこの部分まで通されるかによって明らかにし、敵，局外者，同族・友人、女友達、核家族がそれぞれ住居の空間的なヒエラルキーに従って応接されることを報告している。[4] 個人－集団－外界へと分節化されて拡散していくこの空間的ヒエラルキーは、物理的には人間同志の情報伝達を可能にする光・音・臭気・触覚を知覚する各受容器がカバーすることの出来る限界とかかわっていることは明らかであるが、“人間の感覚はそのエネルギーや濃度の、絶体値というよりは、相対値、すなわちその強度の差の弁別を行なう感度の高いことが特徴”[5] であり、周囲の状況いかんによっては各受容器関と距離のあいだに複雑なズレを生じてくる。考えてみるならば私達現代人が、異常とも思われるまでに高密度化した都市に住むことが出来るのも、このズレをたくみに制御する手法を獲得しているからにほかならない。床をかさね、壁をたて、各種設備をそなえることによって、光や音や熱をコントロールして、人間が本来心理的欲求として必要とする距離の効果をつくりあげているともいえるからだ。壁1枚隔てた隣人の声が聞こえないことは、広い平原において声のとどく範囲に人がいないのと同じ効果をもつような安心感を与えてくれる。つまりこれは限られた空間を工夫して受容器に好ましいズレをつくり出していることにほかならない。しかし平原においては次第に人の近づくのを見ることが出来、あるいは気配を音として聞きとれることが出来るのに対して、壁1枚によって仕切られた2つの領域の間には、次第に認知の密度を高めていくというプロセスを持つことがむずかしくなる。自分の居る場所、つまりゼロの距離が壁を1枚隔てて無限大の距離の効果に等しい異質の空間と背を向けあうことは、人間の感性にとっては新たなストレスの原因ともなる。これは両者の空間的な性格のギャップが大きすぎることによるものであり、単純な図式としてはこの間になんらかの整流装置を必要とすることが当然推論される。これを両者の空間的なシステムの違いとして置きかえてみると、システム工学の思考法が明快なヒントを与えてくれる。それは“流れがより大きなより複雑なシステムを通り抜けようとすればするほど、各所に適量のためなしには困難となる”のに似ている。“それは第一には、システムが大きく複雑になるほど、流れに乱れ（広義のノイズ）が発生するということ、また第二には、そのシステムの構成要素の中においては、流れに対してなんらかの加工ないしは処理が行なわれるのだが、そのためにはそれ相応の時間を必要とするということ、そして第三には、不連続形の個体という形をとった移動（川の流れのような連続的な形ではなく、動物とか風媒花の種子のような方式の移動）は、マクロに見れば巧妙な流れを形成しているのであるが、そのためには、自動車のガソリンタンクとか人間のぼうこうのようなためが必然的に必要になるということなどが理由として挙げられる。要するに、ためは、流れの環の中の各所において流れの乱れを吸収して平滑化し、ミクロな意味での不連続な流れの存在を許容し、大局的には大きな流れをスムーズにするためのものである。[6]” 原研究室グループでは、このためにあたる部分を結合閾と呼び、2つ以上の〈領域〉が同時に成立するとき、互いに干渉しないで、なお〈領域〉相互の接触を可能にするための装置としてとらえ、大きな成果をあげている。[7] 彼らの領域論の意図するところのものは、集落の形態論を普遍的な言葉で記述しようとする壮大な試みとして、次第に精度をあげながら前進しており、今後の進展が注目される。

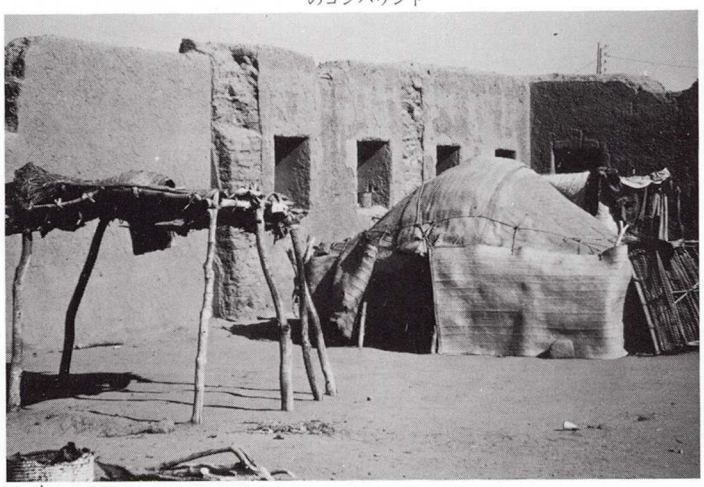
参考文献
1）House form and culture, p66, Amos Rapoport
2）かくれた次元　日高敏隆、佐藤信行訳、エドワード・T・ホール、みすず書房
3）住まいの原型II、吉阪隆正編、鹿島出版会
4）住居空間の人類学、石毛直道、鹿島出版会
5）運動と変化、P221、黒田　勲、彰国社
6）運動と変化、P27、森　政弘
7）住居集合論、東京大学生産技術研究所「原研究室」、鹿島出版会



図－1　アガデス、行程図Ｂ－７、街なかにおけるトゥアレッグのコンパウンド



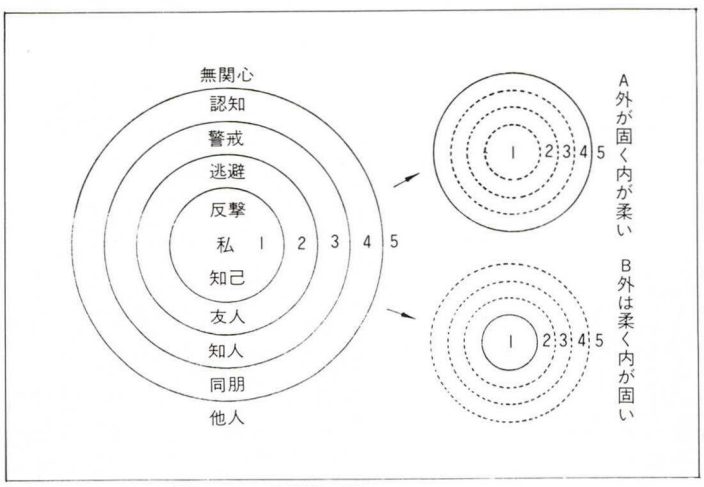
図－4　アルジェ、行程図Ｂ－１、カスバのストリート



写真－1　アガデス、上図の一画



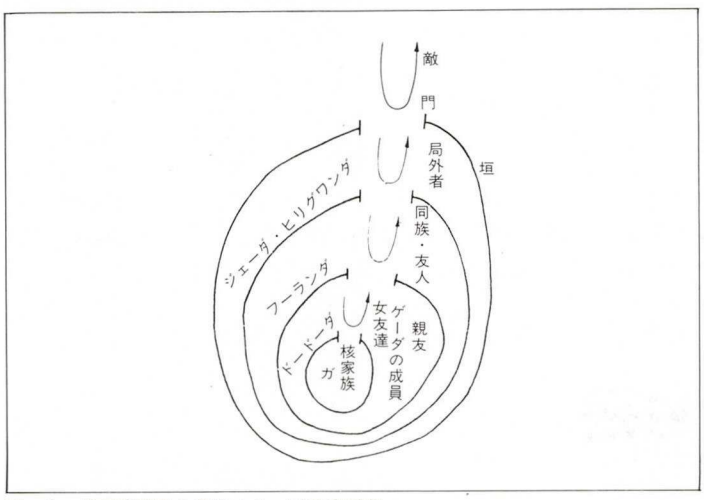
写真－2　カスバのモスク



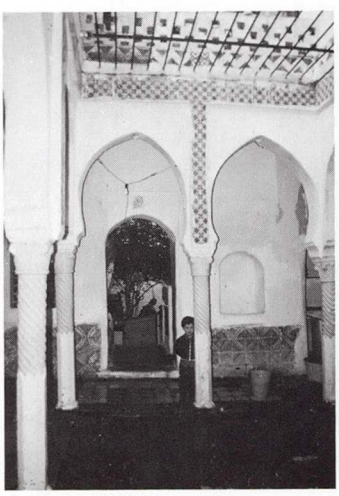
図－2　住まいの原型IIより、吉阪隆正編



写真－3　カスバの住居



図－3　住居空間の人類学より、石毛直道著



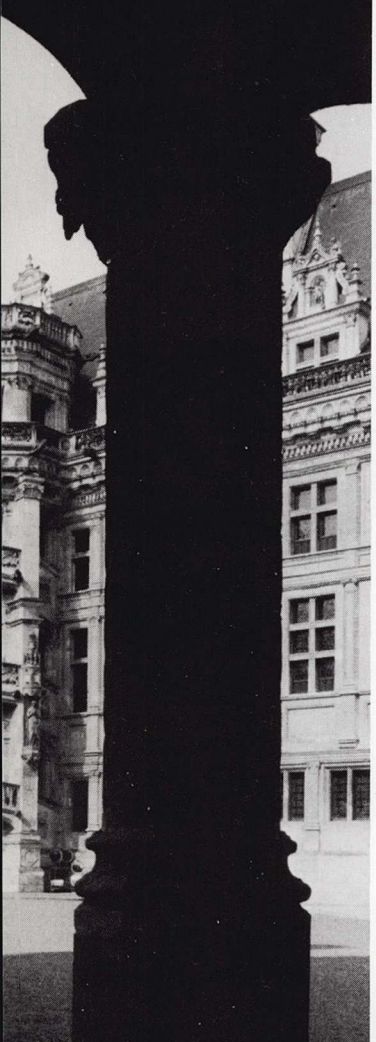
写真－4　中庭



写真－5　ストリート

※図－4以後は7月号の資料を示す

建築の眼



紙野桂人
大阪大学助教授
前田治
大阪市建築局営繕部長
溝神宏至朗
安井建築設計事務所計画部長
石本徳三郎
積水ハウス技術部試験所所長
7月号から12月号まで上記4氏が担当

建築の脈絡（コンテキスト）

19世紀のヨーロッパで活躍をした巨匠建築家の作品集を気楽に見ていると、眼がどうしても彼等の画いた作品のスケッチに向う。彼等は，極めて正確かつ詳細に周辺の市街地の建物や人物・風景を画き、その中に自らの作品を位置づけて表現している。実物の写真が並んで掲げられている場合に両者を比較してみると、その正確さに驚かされることが多い。彼等が歴史的な脈絡を建築デザインの原点としてきたことは確なようである。

周知のことと思うが、我々は、設計教育を受けてこのかた、一本の抽象的なG.L.の上に、無限遠から見た対象作品の構想だけを画き続けてきた。そこでは、周りの建物・風景は常に「いつ無くなるかわからない。したがって、画ぐに価いしないもの」であり、自分の仕事だけがその時の現実であった。がしかし、その当人の設計をした建築のその隣で、いつかまた誰かが設計をしている時には、ご当人の建物もまた「いつ無くなるかわからないもの」として取扱われているであろうこともまた、おおむね確実である。これが現代建築の脈絡（コンテキスト）なのであろうか。

（K・K）

分譲マンションの更新問題

大都市圏のみならず、現在は各地に分譲高層マンションが建設されている。都市集中型の人口構造、狭少な国土から考えると今後ますます住宅建設の本流として増加して行くことが考えられる。

分譲マンションは「区分所有法」により、その所有権が担保されているが、このような複数、それも数十人、百数十人と、それぞれ異った考え方、経済事情等をもつ人々の一種の共有的な財産について、日常はその管理組合の規約等で民主的に、多少の不便等はあっても運営されているようである。しかし、その住宅もいづれ50年、60年という年月の間には必ず更新という問題に当面するのである。

この時に全員が同時に建替えに賛成するであろうか。現在は分譲マンションの歴史も浅く未だ深刻な問題とはなっていないが、必ず起る問題である。Aさんは建替えに賛成、Bさんはこの機会に財産処分して転出したい、Cさんは未だ使えるこれで充分だと反対、Dさんは老齢故そんなわずらわしいことは御免、等々考えればその意志統一は大変なことであろう。今後も増えつづけるであろうこれら分譲マンションについて、その更新時の問題処理の方策について、法体系の整備も含め真剣な検討がなされるべきであろう。

（O・M）

教材としての千里ニュータウン

10年以上も住んでみて、千里ニュータウンは設計計画の貴重な教材になっているように思う。設計計画のジャンルで、近隣住区を構成単位に組み立てられていて、都市計画的なスケールでの計画手法から、身近かな住棟まわりの設計にいたるまで、新旧とりまぜて、実にさまざまな設計例がある。これらの実例を丹念に見るだけでも、それなりに貴重なデーターになるが、この数年の間に、入居当初の頃と比べると、あちこちでいろいろなことが変って来ている。ニュータウン周辺の著るしい都市化、樹木や草花、の成長、住棟の汚れや住宅内部のいたみ等に、街が成長し変化する様子が眼に見えてわかるのである。

設計計画では、建物やその周辺に起る変化を予測し、それに柔軟に対応できるようにすることが、大切な課題の一つであるが、その勉強はそう簡単にできるものではなく、設計した建物を永年に亘って見守るか、日常的な経験の中で学びとる以外にはないように思う。ニュータウンは15万人もの人達の生活の場として、何もかも新しく造られた街であるだけに、起る変化も多様であり、顕著である。その変り行く過程の中にいることは、願ってもない体験をしていることになる。

（K・M）

マンションの維持管理

分譲マンションの管理問題についての建設省の総合調査報告（56年5月）によると、「永住する」は21.7％しかなくて、一時住まいの意識が強く、建物の維持管理に関心が薄いということである。百万戸のマンションが、これからどんどん古くなって、このままでは10年後にはあちこちで問題が起きそうなので、維持管理について建設業界も真剣に取り組む必要がある。建物の耐用年数といえば、企業会計における減価償却のための耐用年限か、固定資産税算出のための耐用年限が持ち出されて、今自分の設計している建物が、「何年もつか」を理論的に考えている設計者は少いのではないか。「何年もつか」ということよりも、高度成長時代には陳腐化のスピードが早いから、長持ちする建物はかえって邪魔になるという考え方も強かったような気がする。しかし日本のように集合住宅の伝統のない国では、設計の段階から「何年もたせる」ということをはっきりさせ、その間の維持管理の技術的手法を予定しておくことが必要だと思う。そうなれば、足場を組まなければ作業の出来ない外壁の塗装が、10年ももてばよいと考えるのは、材料メーカーや設計者の怠慢だということに気がつくだろう。

（T・I）

◀本四架橋(大鳴門橋)の架設ケーブル工事の見学と淡陶㈱のタイル工場を訪ねる……

本州と四国を結ぶ〝夢のかけ橋〟といわれて永い間話題になっていました本四連絡橋のうち、京阪神と四国を結ぶ最短コースの、神戸・鳴門ルートの架橋工事が進み、うず潮高き鳴門海峡に雄姿をあらわしたことは、すでに新聞などで紹介されご衆知の通りです。

このたび本会では、従来の建築現場の見学会と趣を一変し、大自然を相手に建設技術の粋を集めた土木工事の現場を見るのもまた意義あることと思い、「大鳴門橋」の見学を企画しました。

現在、工事の状況は下部工の橋脚および橋台が終わり、高さ144m余におよぶ鉄塔工事もほぼ完了、8月初旬より、いよいよケーブルの架設工事が開始される予定で、私たちには普段は滅多に目にすることのできないものです。

また、淡路島といえば創業約100年におよぶダントータイルの工場があります。建築にたずさわるものとして最新のユニークなタイルの知識と見聞を深める良い機会として、同社の福良工場の見学も同時に企画し、淡陶株式会社のご好意で淡路島縦断の交通その他のご配慮もいただくことになりました。

今回は新日本製鐵、神戸製鋼所大鳴門橋ケーブル架設工事共同企業体並びに淡陶株式会社に多大のご協力をいただきました。

会員諸氏の多数のご参加をお待ちいたします。

日　　時　8月29日（土）・1日コース（小雨決行）
集合　9：00（時間厳守）→解散　18：00（予定）

集合場所　国鉄・「明石駅」・改札出口付近・目標会旗

〔参考〕集合所までの交通費は各自ご負担願います。
大阪より→国鉄・大阪駅より東海道線、姫路行快速（8：11発）に乗車→明石着8：58（所要47分、運賃片道690円）

定　　員　40名（貸切バス1台）

参加会費　会　員　3,000円
会員外　4,000円　（渡船料、昼食代、その他・当日徴収）

申　　込　往復ハガキに限ります。ハガキは1名に1枚限りとし、氏名・勤務先名・所在地・役職・年令・連絡電話番号・返信用宛名・郵便番号を必ず記入し、「大鳴門橋と淡陶タイルの見学」と明記の上、8月20日㈭までに建築協会事業課（大阪市東区北浜3－37）へ。ただし定員を超過した場合は会員優先で抽せんいたします。

〔備考〕

(1) 行程その他詳細は当日参加者にお知らせします。

(2) 今回の淡陶㈱の工場の見学は同業者の方の参加はご遠慮下さい。　なお、当日工場内にてタイルの楽焼（白色タイルに絵付200㎜×200㎜）をさせていただきます。時間の都合上前以って図柄のご考案をお願いいたします。

(3) 和歌山方面よりの参加希望者は直接「福良」へ集合願います。　詳細は事業課へお問い合わせ下さい。

大鳴門橋完成予想図



大鳴門橋の概要

形式	3径間2ヒンジ補剛トラス吊橋（道路鉄道併用橋）
吊橋橋長	1,629 m
中央径間長	876 m
側径間長	330 m
車線数（道路）	6車線
（鉄道）	幹線複線（単線載荷）
主塔高（理論頂）	144.38 m（東京湾中等潮位より）
桁下高	41 m
ケーブルの直径	840 mm
ワイヤの本数（一般部）	19,558本（ケーブル1本当たり）
（バックステー径間部）	19,812本
ワイヤの総延長	67,600 km（地球の約1.7周）
ハンガーロープの直径	60mm（一部70mm）
総鋼重	64,000 t
総コンクリート量	270,000㎥



淡陶㈱工場

タイル業界の嚆矢

淡陶株式会社の主な歴史

文政　文政年間に淡路島の南端、現在の南淡町伊賀野で賀集珉平翁が始めた珉平焼は、当時の藩主蜂須賀公のお手窯として、主に花器、茶器などを作り、着色に用いた光沢釉は、いわゆる淡路焼ともいわれ、広く名声を博した。

明治18年8月　珉平焼を継承して、櫛田善九郎ほか4名が資本金1万円をもって「淡陶社」を設立。食器・花器・玩具などの製造販売を始める。

明治25年　この頃すでに小規模ながらタイルを生産。食器・花器などとともに輸出も行う。

明治26年7月　商法実施により「淡陶株式会社」となる。

明治34年3月　輸入タイルと同レベルの国産タイルを完成。わが国タイル製造の嚆矢をなす。

明治41年　成形機による本格的内装壁タイルの製造を開始。

大正6年9月～翌年10月　内装壁タイル製造専門工場として福良工場（現淡路福良工場）建設に着手、完成。

昭和11年5月～翌年5月　福良工場にてトンネル窯建設に着手、完成。

昭和37年11月　阿万工場（現淡路阿万工場）、福良工場の両工場ＪＩＳ表示許可さる。

昭和39年5月　Ｅ.Ｃ社（インド）と壁タイルのプラント輸出および短期的技術指導契約を締結。

昭和44年12月　三環窯業股化有限公司（中華民国）と技術援助契約を締結。

昭和45年12月　Ｒ.Ｃ.Ｉ社（タイ）と壁タイルのプラント輸出および技術援助契約を締結。

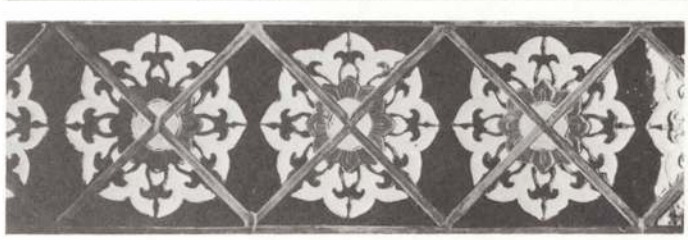
昭和47年8月　ファッションタイルの製造を本格的に始める。

昭和48年　4月にＲ.Ｍ.Ｉ社（タイ）、5月にＲ.Ｍ.ＥＸ社（タイ）、6月にＣ.Ｃ.Ｃ社（スリランカ）とそれぞれモザイクタイルのプラント輸出および技術援助契約を締結。

昭和50年11月　Ｌ.Ｗ.Ｌ社（スリランカ）と壁タイルのプラント輸出および製品販売、技術援助契約を締結。

昭和52年5月　インドネシアに壁タイル製造の合弁会社ＰＴ・Ｄ.Ｉ.Ｔ社を設立。プラント輸出および技術援助契約を締結。

その他、国内では各営業所、出張所を全国的に開設し、現在に至る。





撮影　松井昭光

青年技術者のみなさまへ

「建築と社会」昭和56年11月号の「第28回青年技術者特集号」の応募について

日本建築協会誌「建築と社会」は毎年「青年建築家特集号」もしくは「青年技術者特集号」を企画し、すでに27回にわたって優秀な青年技術者を紹介してきました。

今回も、「青年技術者選衡委員会」を設けて、選衡の上掲載することにしております。

その選ぶ分野も、建築に携わる技術者層の多面化傾向を考慮して、設計だけに限らず、計画、構造、施工、設備およびその他広く建築に関連する分野から、優秀な青年技術者を選んでその不断の研究努力とすぐれた業績を「建築と社会」に掲載して顕彰することにしております。

ついては、下記応募規定を参照の上、ふるって応募されんことを希望します。

応募提出規定

1．応募される人は満35才までの青年技術者であって、本会会員に限ること。

2．原則として、本会会員であるすいせん者を通じて応募のこと。すいせん者は被すいせん者（青年技術者）の勤務する組織の上司なり上長であること。すいせん者が学校教官である場合はこの限りでない。また本人が組織の代表者である場合は自せんとする。（すいせん用紙は事務局にありますので、ご請求ください）。

3．応募者は、設計（住宅・インテリアを含む）、計画（都市計画など）、施工、構造、設備、その他の分野にあって、なしとげたすぐれた実績について、すいせんをうけ、下記の所要の資料を本会に期日までに提出すること。

4．提出された資料は「青年技術者選衡委員会」にかけて選衡する。

5．「青年技術者選衡委員会」において選衡されたものは「第28回青年技術者特集号」(昭和56年11月号）に掲載するとともに、記念品を贈呈する。

6．提出資料

(1) 略歴

本人の氏名、生年月日、最終学歴、業歴、作品経歴など。

(2) 選衡資料

A 資 料

（i） 建築設計の場合（住宅設計・インテリアを含む）

鮮明な写真、配置図および主要平面図、概要、設計要旨、その他設計内容を説明するに十分な資料

（ii） 計画の場合（都市・地域の計画など）

計画図、計画要旨、その他上に準じた資料

（iii） 施工、構造、設備の場合（それぞれの設計計画なども含む）

上に準じた資料

（iv） 上記以外の分野の場合（プロジェクト等の調査・企画・調整、コンサルティング、コーディネイト、プログラミング、部材・材料の開発、造園等、その他）

それぞれにふさわしい資料

B 資 料

上記A資料の各業績において、応募者本人が関与した程度、役割・立場等を明らか[illegible]、A資料中、本人が特に貢献した部分、または力量が活かされたと思われる部分の詳細な説明、考え方および将来的展望などについて、400 字詰原稿用紙8枚以内に平易簡明にまとめたもの（必要に応じ図・表を用いて差し支えない）。ただし応募者・本人の自筆に限る。

(3) すいせんのことば

原則として、すいせん者によるすいせんのことば(120字ていど）を添付のこと。自せんの場合は不要。

（註） 「青年技術者選衡委員会」において選衡し、採択されたものについては、後日、本人の写真、青年技術者としてのことば(青年技術者としての抱負、考え方、信念、建築観等々を、400 字ていどで執筆）の提出をお願いすることにします。

7．提出期限 昭和56年9月1日

8．提 出 先 大阪市東区北浜3－37 〒 541

日本建築協会「青年技術者選衡委員会」

9．青年技術者選衡委員会（昭和56年度）

委員長 三輪泰司（地域計画・建築研究所代表取締役所長）

委 員 加藤邦男（京都大学助教授）

〃 金本賢治（大建設計取締役大阪事務所次長）

〃 酒井貞（都市科学研究所副所長）

〃 山田俊満（日本住宅公団宅地事業部事業計画第二課長）

〃 横井元昭（大林組技術部長）

〃 鈴木計夫（大阪大学助教授）

〃 簾谷清二（新日本空調技術部副部長）

〃 出崎進（大一設備設計事務所常務取締役）

〃 天道一（竹中工務店技術部長）

〃 小島雄（鹿島建設大阪支店建築部長）

●アンダーラインの部分は、前々回から新たに修正・追加された規定です。とくにB資料は重視されますので、ご留意の上、応募下さるようお願い申しあげます。

◀通常総会決議報告

昭和56年６月24日開催の通常総会におきまして、下記議案がそれぞれ原案どおり承認されましたので、ここに会告いたします。

記

１．昭和55年度　事業報告（別掲）
２．昭和55年度　決算報告（別掲）
３．昭和56年度　収支予算（４月号に会告済）

◀会員の受賞

このたび下記会員諸氏は、建設界における多年の功績によって表彰を受けられましたので、ここに誌してその栄誉をお慶び申し上げます。

内閣総理大臣表彰

鴻池藤一氏（㈱鴻池組社長）

建設大臣表彰

牛場栄一郎氏（㈱牛場建築設計事務所社長）
片山光生氏（㈱内藤建築事務所社長）
谷弘之助氏（明石土建工業㈱社長）
宮武伊三郎氏（元大阪建設業協会常務理事）
渡辺恵氏（東洋シャッター㈱会長）

◀第28回青年技術者特集号の応募規定

本誌11月号予定の青年技術者特集号の応募規定は「青年技術者のみなさまへ」と題して25頁に掲載していますので、ご参照の上、ふるってご応募下さいますよう、お知らせいたします。

なお、すいせん用紙は日本建築協会事務局にありますので、ご請求下さい。

◀建築技術選書第24号発刊
「鉄骨構造の話」（金多潔・甲津功夫・西澤英和著）

日本建築協会60周年記念事業の一環として、かねてから刊行中の建築技術選書の第24号として、標記図書が、この７月10日に発刊されました。

本書の内容はつぎのとおりです。

第１部：基礎編
１．鉄骨建築の部材
２．鉄骨部材の接合法
３．鉄骨部材の継手・仕口

第２部：応用編
４．骨組の形式
５．骨組の組立て方
６．鉄骨構造と古建築保存

叙述は非常に分かりやすく、初めて鉄骨を学ぶ方にも好適で、また実務に入られた中堅技術者にとっても、もう一度勉強し、基本を知るためにも好個の解説書であります。

本書のユニークさはこの基礎的な事柄だけでなく、応用編がついていることです。とくに、第６節の「鉄骨構造と古建築保存」には、近代工学としての鉄骨構造学を文化財の保存修復に応用しようとしている須屋根の建設と構造補強の幾つかの試みが紹介されていて、今日的な保存工学のテーマとも合致しています。

著者の金多潔氏は、ご承知のように、京都大学教授でこの道の権威者であることは多言を要しません。甲津、西澤両氏も京大の助手として活躍されています。

定価は￥1,200です。全国の主要書店で販売していますが、日本建築協会までお求めにこられた方には、￥100割引で頒布しております。ご講読をおすすめする次第です。

なお、本号より表紙カバーデザインが一新されました。既刊のものでも再版以後は、この一新されたカバーデザインで統一されます。

◀昭和55年度決算報告

貸借対照表

昭和56年３月31日現在　（単位：円）

科目	金額	科目	金額
（資産の部）		（負債の部）	
流動資産	**30,971,035**	**流動負債**	**23,049,008**
現金	48,582	未払金	7,397,460
普通預金	19,935,863	仮受金	161,308
郵便振替	570,247	前受金	15,490,240
有価証券	16,880	**固定負債**	**51,300,000**
仮払金	71,578	借入金	41,300,000
未収金	9,844,885	退職給与引当金	10,000,000
前払費用	483,000	**償却準備金**	**13,770,263**
固定資産	**67,626,227**	建物償却準備金	13,099,134
土地	33,454,437	什器償却準備金	671,129
建物	16,933,740	**基金**	**9,247,176**
什器	1,238,050	基本金	609,560
退職給与積立預金	10,000,000	会館基金	8,637,616
借入金返済積立預金	6,000,000	**前期繰越剰余金**	**182,379**
無形固定資産	**89,280**	**当期剰余金**	**1,137,716**
電話加入権	89,280		
合計	**98,686,542**	**合計**	**98,686,542**

財産目録

昭和56年３月31日現在　（単位：円）

（資産の部）			
Ⅰ流動資産			**30,971,035**
１．現金預金			
(1)現金		48,582	
現金手元有高			
(2)普通預金		19,935,863	
三和銀行	瓦町支店	5,363,940	
大和銀行	北浜支店	5,889,000	
住友銀行	高麗橋支店	3,762,150	
中央信託銀行	大阪支店	4,920,773	
(3)郵便振替口座		570,247	
大阪　39975			
２．仮払金	（切手、ハガキ代外）	71,578	
３．未収金		9,844,885	
会誌収入		9,019,885	
事業収入		70,000	
広報収入		355,000	
借入金収入		400,000	
４．前払費用		483,000	
会誌発行費			
５．有価証券		16,880	
電信電話債券			
Ⅱ固定資産			**67,715,507**
(1)土地	大阪市東区北浜３丁目37番地	33,454,437	
(2)建物	大阪市東区北浜３丁目37番地	16,933,740	
(3)什器	大阪市東区北浜３丁目37番地	1,238,050	
(4)電話加入権		89,280	
(5)退職給与積立預金（定期預金）	住友銀行高麗橋支店	10,000,000	
(6)借入金返済積立預金（定期預金）	大和銀行北浜支店	6,000,000	
資産合計			98,686,542

（負債の部）		
Ⅰ流動負債		**23,049,008**
１．未払金	7,397,460	
会誌発行費	5,699,540	
建築技術選書諸費	152,320	
土地購入付帯費	1,545,600	
２．仮受金	161,308	
職員に対する源泉所得税外		
３．前受金	15,490,240	
個人正会員会費収入	5,100,000	
団体正会員会費収入	9,374,000	
会誌収入	78,000	
住宅相談所収入	200,000	
建築技術選書収入	538,240	
寄付金収入	200,000	
Ⅱ固定負債		**51,300,000**
１．借入金	41,300,000	
２．退職給与引当金	10,000,000	
負債合計		74,349,008
償却準備金		13,770,263
建物	13,099,134	
什器	671,129	
純財産		10,567,271
負債基金合計		98,686,542

収 支 内 訳 表

昭和56年3月31日現在

収入の部

（単位：円）

大科目	中科目	予算額	決算額	増△減	備考
事業収入		**58,600,000**	**60,725,660**	**2,125,660**	
	会誌収入	39,000,000	40,165,154	1,165,154	
	契約々款売上収入	1,800,000	1,643,220	△ 156,780	
	建築データシート収入	1,000,000	0	△ 1,000,000	発行セズ
	建築技術選書収入	2,400,000	4,520,840	2,120,840	
	住宅相談所収入	5,700,000	5,560,000	△ 140,000	
	集会収入	3,900,000	4,080,500	180,500	
	講演講習会収入	2,100,000	1,870,800	△ 229,200	
	広報収入	1,700,000	950,000	△ 750,000	
	雑入	1,000,000	1,935,146	935,146	
会費収入		**54,990,000**	**52,085,141**	**△ 2,904,859**	
	個人正会員（本・支部）	28,800,000	26,273,928	△ 2,526,072	
	個人正会員（地方）	2,100,000	1,724,250	△ 375,750	
	団体正会員	24,000,000	24,037,963	37,963	
	準会員	90,000	49,000	△ 41,000	
寄付金収入	寄付金収入	**500,000**	**600,000**	**100,000**	
雑収入	雑収入	**210,000**	**829,307**	**619,307**	
	収入合計	**114,300,000**	**114,240,108**	**△ 59,892**	

支出の部

大科目	中科目	予算額	決算額	増△減	備考
管理費		**55,110,000**	**52,792,983**	**△ 2,317,017**	
	給料手当	37,000,000	36,969,230	△ 30,770	
	退職給与引当金繰入額	3,000,000	3,000,000	0	
	福利厚生費	4,000,000	3,431,712	△ 568,288	
	会議費	1,720,000	1,332,839	△ 387,161	
	旅費交通費	1,600,000	1,460,540	△ 139,460	
	通信運搬費	1,000,000	857,650	△ 142,350	
	集金費	2,000,000	1,364,230	△ 635,770	
	消耗品費	360,000	259,422	△ 100,578	
	修繕費	300,000	74,560	△ 225,440	
	印刷製本費	180,000	350,750	170,750	
	光熱水料費	700,000	710,107	10,107	
	賃借料	1,900,000	1,710,100	△ 189,900	
	火災保険料	50,000	39,900	△ 10,100	
	租税公課	300,000	228,910	△ 71,090	
	会館清掃費	400,000	324,000	△ 76,000	
	雑費	600,000	659,368	59,368	
	雑損失	0	19,665	19,665	
事業費		**57,700,000**	**59,670,020**	**1,970,020**	
	会誌発行費	37,500,000	38,645,719	1,145,719	
	契約々款費	800,000	838,340	38,340	
	建築データシート発行費	1,000,000	0	△ 1,000,000	
	建築技術選書諸費	1,900,000	3,625,160	1,725,160	
	住宅相談所費	4,900,000	4,670,761	△ 229,239	
	集会費	4,300,000	4,894,858	594,858	
	講演講習会費	1,600,000	1,267,745	△ 332,255	
	広報事業費	1,400,000	1,029,630	△ 370,370	
	教育振興費	700,000	850,155	150,155	
	助成金支出	1,600,000	1,345,915	△ 254,085	
	雑費	2,000,000	2,501,737	501,737	
減価償却費	減価償却	**690,000**	**639,389**	**△ 50,611**	
予備費	予備費	**800,000**	**0**	**△ 800,000**	
	支出合計	**114,300,000**	**113,102,392**	**△ 1,197,608**	

差引剰余金　1,137,716
前期繰越剰余金　182,379
差引　1,320,095……次期繰越剰余金

1．総　　会

(イ) 通常総会

6月26日　於会館集会室

出席者　　15名

議事(1)昭和54年度事業報告承認の件

(2)昭和54年度決算報告承認の件

(3)昭和55年度収支予算承認の件

(ロ) 通常総会

2月26日　於会館集会室

出席者　　12名

議事(1)監事1名選挙の件

(2)本部所属評議員23名選挙の件

(3)役員重任承認の件

(4)名誉正会員推挙の件

2．評　議　員　会

(イ) 定時評議員会

6月26日　於会館集会室

出席者　委任状共　44名

議事(1)昭和54年度事業報告承認の件

(2)昭和54年度決算報告承認の件

(ロ) 評議員会にかえて書面表決

11月27日付をもって「昭和56年度評議員選出数決定」についてお諮りした。

(ハ) 定時評議員会

3月25日　於会館集会室

出席者　委任状共　44名

議事(1)評議員会議長、副議長互選の件

(2)副会長2名、理事18名選任の件

(3)役員重任承認の件

(4)昭和56年度収支予算承認の件

(ニ) 技術部門評議員懇談会　2回

3．理　　事　　会

(1)正副会長会　1回

(2)理　事　会　9回

(3)編集理事会　2回

4．常　設　委　員　会

	委員会	幹事会・小委員会 分科会・打合会等
(1)事業委員会	7回	58回
(2)編集委員会	12回	55回
	座談会2回、てい談1回	
(3)教育委員会	2回	10回
(4)住宅委員会	10回	10回
(5)出版委員会	3回	3回
(6)法規委員会	7回	1回
	正副委員長会1回	
(7)建材委員会	10回	

5．特　別　委　員　会

(1)会勢委員会　　2回

(2)契約約款特別委員会　　2回

(3)土地購入特別委員会　　3回

6．研修会・講習会等

建築技術選書講座シリーズ（第5回）

—ソーラーハウス—

5月22日　於薬業年金会館

聴講者　　26名

建築技術選書講座シリーズ（第6回）

建築と設備の接点1

6月12日　於薬業年金会館

聴講者　　28名

建築設計と省エネルギーに関する研修会

—建築計画に於ける省エネ法案の実践的対応—

7月3日　於大阪府立労働センター

聴講者　　85名

建築技術選書講座シリーズ（第7回）

医院・診療所の計画と設計

8月19日　於薬業年金会館

聴講者　　27名

建築工事実務講習会（第36回）

10月14日　於大阪府立労働センター

聴講者　　93名

建築技術選書講座シリーズ（第8回）

「コンクリート工事の管理」と「PC建築の話」

11月19日　於大阪府立労働センター

聴講者　　43名

建築技術選書講座シリーズ（第9回）

「基礎と地盤の手ほどき」と

「構造計画とやさしい力学2」

2月19日　於大阪府立労働センター

聴講者　　24名

7．若い会員の集い

建築家のための“みどり”学習会（第8回）

—樹木と花の観察—

（神戸市立森林植物園と兵庫県フラワーセンターを訪ねる）

5月24日　参加者27名

講師　神戸市立森林植物園園長　清水忠芳氏

兵庫県フラワーセンター次長兼緑化課長　松元広美氏

鉄の工芸……ロート・アイアンの世界

—よし与工房を訪ねて—

8月9日　参加者36名

講師　株式会社よし与工房社長　南澤　弘氏

都市住宅を考える

—遠藤剛生氏　都市住宅を語る—

9月19日　参加者44名

講師　㈱遠藤剛生建築設計事務所所長　遠藤剛生氏

レクリエーション施設を考える(3)

みどりのやすらぎの里

“グリーンピア三木”を訪ねる

10月18日　参加者38名

講師　㈱安井建築設計事務所　松山　　新氏

㈱坂倉建築研究所　幸田　庄二氏

同　上　大久保久能氏

大阪の教会建築を訪ねて

……チャペルとパイプオルガン……

12月6日　参加者32名

講師　山形政昭氏（大阪芸術大学・講師）

オルガン演奏　当間修一氏

二川幸夫・世界の現代建築を語る

3月13日　参加者111名

講師　二川幸夫氏

（建築写真家・ADA・エディタ、トウキョー主宰）

8．コ　ン　ク　ー　ル

第26回工高生デザインコンクール

設計課題　　幼稚園

募集〆切　　9月20日

応募数　　22校 100点

審査会　　10月4日

入選作　　10点（内最優秀作1点）

表彰式　　11月8日

9．会誌「建築と社会」

4月号　住宅の耐久性

5月号　建築行政と法規

6月号　最近の防水工法

7月号　都市景観とアメニティ

8月号　屋内体育施設と設備

9月号　水ぎわのまちづくり

10月号　今後の外装吹付仕上材

11月号　第27回青年技術者

転機にたつマンション・集合住宅

12月号　これからの建築設計と新耐震設計法

1月号　職能論

2月号　中国の論文／北京の都市計画

3月号　ポートピア'81

10．出　　版

日本建築協会創立60周年記念出版

建築技術選書

企画　日本建築協会

編集発行　学芸出版社

体裁　A5判(図解・写真入) 約150頁

定価　1,000円　21号より1,200円

17．基礎と地盤の手ほどき

18．ショッピングセンターの計画

19．住宅設計とインテリア

20．タイルの話

21．住宅の家具

22．建築と設備の接点2

11．見　　学　　会

茶室見学会（第1回）

西芳寺（苔寺）の湘南亭を見る
4月26日　参加者21名
京都パークホテル新築工事を見る
5月10日　参加者34名
東洋紡ビルディング新築工事の見学会
5月21日　参加者36名
播磨・中国路を訪ねて
「姫路、倉敷新庁舎と柳田国男記念館、重文・永富邸、重井医学研究所附属病院の見学」
6月6日・7日（1泊2日）参加者28名
大阪駅前第4ビルの見学会(1)
（大阪駅前市街地改造事業第4棟新築工事）
6月24日　参加者58名
やまと・三輪の里を訪ねる
―三輪明神・大神神社参拝と「三輪そうめん山本」本社工場の見学―
6月28日　参加者33名
宝塚市庁舎新築工事の見学会
7月30日　参加者46名
太閤園・迎賓館の新築工事見学会
8月23日　参加者45名
完成間近の大阪・上六・市街地再開発事業を見る(2)
（本会・大阪府建築士会・大阪建築士事務所協会共催）
8月29日　参加者53名
堺市博物館新築工事と茶室「黄梅庵・伸庵」の復原工事の見学
9月27日　参加者66名
梅田阪急東宝会館「ナビオ阪急」新築工事の見学
10月8日　参加者64名
大阪市庁舎新築工事の見学会（第1期工事）
（本会・大阪府建築士会・大阪建築設計監理協会・大阪建築士事務所協会共催）
11月14日　参加者47名
茶室見学会（第2回）
表千家の名席を見る
11月22日　参加者29名
ポートピア'81
神戸ポートアイランド博覧会の諸施設を見る
1月31日　参加者72名
大阪駅前第4ビル見学会（最終回）
（大阪駅前市街地改造事業第4棟新築工事）
2月5日　参加者36名
近畿放送会館新築工事の見学会
(KBS京都放送会館)
3月10日　参加者35名

12. 午餐会・懇談会

在阪建築8団体会長午餐会
7月22日　於大阪ガスビル8階
出席者　26名
建築8団体共催による中国内蒙古土木学会訪日団一行との懇談会
11月7日　於太閤園庭の間
出席者　21名
建築クラブとの合同忘年懇親会
12月14日　於太閤園
出席者　250名
建築8団体合同新年交礼会
1月4日　於大阪コクサイホテル
出席者　633名

13. 展　　覧　　会

第17回よろず相談住宅展
自1月29日　至2月3日（6日間）
於なんば高島屋7階催場
相談件数　約900件
新しい建築写真展示窓
展示写真
(1)街を緑に・第10回
（帝塚山セントポリア・平野町センチュリービル）
(2)大阪南港ポートタウン
(3)うえほんまちハイハイタウン

14. そ　の　他

（イ）近畿建築会館敷地購入
昭和31年10月に近畿建築会館を新設以来、会館敷地は引き続き大阪府より借用していたが、大阪府より敷地の購入方について強い要望があり、会員有志より資金を借り入れ、同敷地を購入した。
面積　93.40㎡（28.25坪）
（ロ）他団体との共同活動
建築国際連絡協議会
建築関係団体連絡会
建築業務基準委員会
「四会連合」工事請負契約約款改正委員会
（ハ）業務検査
1月26日建設省住宅局建築指導課藤本、大橋両係長によって本会の業務及び財産状況について検査実施。
（ニ）会計監査
5月12日、13日の両日、昭和監査法人公認会計士富島一夫氏によって、昭和54年度の会計監査実施。

15. 本会が入会している団体

大阪商工会議所
関西経済連合会
大阪市街地再開発促進協議会
建築行政協会大阪市支部
建築関係団体連絡会
建築業務基準委員会
建設関係公益法人協議会
建築国際連絡協議会
四会連合工事請負契約約款改正委員会
東区納税協会
大阪府社会保険協会

16. 後援または協賛した会

名護市庁舎建築設計競技応募作品・新建築住宅設計競技入選作品展示会
主催　沖縄県名護市役所
名護市庁舎・新建築国際コンペ関西展示実行委員会
5月21日～28日　於ダイコロビル4階
映画と新建材説明会
主催　日本建築材料協会
6月3日　於大阪科学技術センター
「街と建物―明治・大正・昭和」大阪地区巡回報告会
主催　近代建築史研究会・トヨタ財団
6月15日　於大林ビル29階ホール
建築基準法・建築士法施行30周年記念講演会
主催　建設省・日本建築センター
9月1日　於ヤマハホール
建築積算実技研修会
主催　日本建築積算協会関西支部
10月4日・11日・18日・25日
11月1日・8日・15日・22日・29日
12月6日　於大阪府立労働センター
「建物外皮の省エネルギー設計法」講習会
主催　日本建築学会近畿支部
11月18日　於大阪科学技術センター
ワルター・グロピウス展
主催　グロピウス展委員会
1月6日～24日　於大阪府立現代美術センター
住宅・建築省エネルギーフォーラム
主催　住宅・建築省エネルギー機構
2月5日・6日　於東京サンケイホール
建築計画、住宅設計者のための「住宅の防災安全計画」講習会
主催　日本建築学会近畿支部
2月6日　於大阪科学技術センター
“建築と庭の融合の源流を探る”シンポジウム
―小堀遠州とその周辺―
主催　日本庭園文化協会
3月15日　於京都会館

暑中お見舞申し上げます

昭和56年盛夏　(50音順)

青山幸夫

株式会社 青山建築積算事務所 代表取締役
〒550 大阪市西区京町堀1-10-19江南ビル 電話06(443)0430
〒610-11 自宅・京都市西京区大原野上里勝山町14-6
電話075(331)8082

姉川正男

東光電気工事株式会社大阪支社 専務取締役(大阪駐在)
〒541 大阪市東区高麗橋5丁目28番地 電話06(202)0325
〒565 自宅・吹田市藤白台4の30の12 電話06(872)3214

井上達明

株式会社 井上達明建築事務所 代表取締役
〒530 大阪市北区鶴野町1番3号 安田ビル 電話06(372)2821代
〒555 自宅・大阪市西淀川区竹島3丁目7の4 電話06(473)1069

安藝元清

株式会社 日建設計 取締役社長
〒541 大阪市東区横堀2丁目38番地 電話06(203)2361

安部恒夫

安部建設株式会社 取締役社長
〒559 大阪市住之江区西住之江2丁目7番5号 電話06(678)3212代
〒559 自宅・大阪市住之江区西住之江2丁目7番5号
電話06(671)7774

伊地知堅一

大鉄工業株式会社 取締役社長
〒532 大阪市淀川区宮原4丁目4番44号 電話06(394)1281大代
〒661 自宅・尼崎市南武庫之荘5丁目13番15号
電話06(438)2148

浅野真澄

株式会社 浅野建築設計事務所 代表取締役
〒543 大阪市天王寺区城南寺町9－27 電話06(768)0201
〒572 自宅・寝屋川市成田西町4－21 電話0720(31)1750

諫早信夫

フドウ建研株式会社 相談役
〒110 東京都台東区台東1－2－1 日本地所第二ビル
電話03(835)2661
〒157 東京都世田谷区南烏山2－18－4 電話03(300)3705

伊藤喜三郎

株式会社伊藤喜三郎建築研究所 代表取締役社長
〒102 本社・東京都千代田区紀尾井町3番23号 文芸春秋ビル
支所 神戸・仙台 電話03(263)1481代～7
〒141 自宅・東京都品川区東五反田3－16－55
電話03(441)5437

淺沼茂夫

株式会社 淺沼組 取締役副社長
〒543 大阪市天王寺区東高津町12番6号 電話06(768)5222



伊藤三郎

大栄電気株式会社大阪支店 取締役副社長 大阪支店長
〒550 大阪市西区京町堀1－12－14 電話06(443)0631
〒560 自宅・豊中市北桜塚3－8－7 電話06(854)7747

淺沼誠夫

株式会社 淺沼組 専務取締役
〒543 大阪市天王寺区東高津町12番6号 電話06(768)5222

飯田精次郎

共同設計株式会社 代表取締役社長
〒530 大阪市北区西天満5丁目10番14号 電話06(364)5836
〒105 東京事務所・東京都渋谷区渋谷1-10-1 八千代ビル8F
電話03(407)0912 03(409)1837
〒520 大津事務所・大津市浜大津4-4-4 電話0775(23)0388
〒620 福知山事務所・京都府福知山市末広町6丁目4番地 福電ビル
電話0773(23)5208

代表取締役会長 **浅海正雄**
代表取締役社長 **森川禮次郎**
浅海電気株式会社
〒530 大阪市北区西天満3丁目7番4号 電話06(362)8701
〒665 自宅・宝塚市御殿山2丁目31番50—109号
電話0797(85)0745
〒565 自宅・豊中市新千里北町2丁目32番3号
電話06(831)2732

井上秋次

井上窯業株式会社 代表取締役
〒543 大阪市天王寺区生玉町40番地 電話06(771)2825代
〒659 自宅・芦屋市川西町4番23号 電話0797(22)5930

石川良興

日本冷熱工産株式会社 代表取締役社長
〒564 吹田市豊津町40番38号 電話06(384)1201代
〒560 自宅・豊中市蛍池東町4丁目7番12号
電話06(841)0032

新昭一

株式会社 新工務所 取締役社長
〒530 大阪市北区曽根崎2丁目8番7号 電話06(313)1331

井上正一

名古屋建築設計事務所 所長
〒453 名古屋市中村区椿町20の15 国鉄会館内
電話052(451)2025直通
〒464 自宅・名古屋市千種区下方町4の30 電話052(711)9400

泉沢哲史

株式会社 泉沢建築設計事務所 代表取締役
〒530 大阪市北区西天満4丁目12番2号 オオシマビル
電話06(364)9071代

暑中お見舞申し上げます

昭和56年盛夏　(50音順)

市川繁雄

日本管工業株式会社　取締役社長
〒601 京都市南区西九条豊田町20　電話075(681)5101～5
〒606 自宅・京都市左京区下鴨芝本町37 電話075(781)0289

市川宏

株式会社　東畑建築事務所　専務取締役
〒541 大阪市東区伏見町5－19 電話06(202)0391
〒658 自宅・神戸市東灘区住吉山手4丁目4－32
電話078(811)0216

今井忠臣

イマヰ建設工業株式会社　代表取締役社長
〒547 大阪市平野区平野北2－9－15　電話06(792)4425
〒573 自宅・枚方市くずは丘2－16－1 電話0720(55)6511

今西茂雄

株式会社 今西建築デザインルーム 代表取締役
〒550 大阪市西区南堀江1丁目22番17号電話06(541)3051～9

取締役会長 今村騰
取締役社長 平木寛

中央電気工業株式会社
〒530 大阪市北区太融寺町3番24号
電話06(312)8881代表

今元康彦

近畿電気工事株式会社　取締役名誉会長
〒531 大阪市大淀区本庄東2丁目3番41号 電話06(375)6000

岩崎徹

株式会社 岩崎建築設計事務所 代表取締役
〒630 本社・奈良市大森町57の3 農協会館内
電話0742(22)2283代
〒631 自宅・奈良市学園北1丁目5－11 電話0742(47)2210

専務取締役 岩崎弘
常務取締役所長 寺西禮一

株式会社　教育施設研究所　大阪事務所
〒550 大阪市西区立売堀1丁目13番1号　電話 06(531)0913
大信ビル　電話 06(541)7301
〒630 自宅・奈良市法蓮立花町1046　電話0742(22)2217
〒661 自宅・尼崎市常吉字赤田9の5　電話 06(431)2101

岩本義心

野村建設工業株式会社　取締役社長
〒541 大阪市東区高麗橋2丁目9番地　電話06(202)4791代
〒581 自宅・八尾市山本町4丁目5－7　電話 0729(22)2908

上田宇三

株式会社　日匠設計　代表取締役
〒580 本社・大阪事務所・大阪府松原市西大塚1－5－6
電話0723(31)3857代
〒520－32 滋賀事務所・滋賀県甲賀郡甲西町中央2丁目15
電話07487 (2)1114
〒580 自宅・大阪府松原市西大塚1－5－6 電話0723(31) 1554



グランド・オダリスクの頭部・19世紀前半

上西圭治

株式会社　大気社　取締役社長
〒530 大阪市北区中之島3－2－18 住友中之島ビル7階
電話06(448)5871
〒659 自宅・兵庫県芦屋市浜町12－14　電話0797(22)5949

植野寿雄

株式会社　寿建築積算事務所　所長
〒542 大阪市南区東清水町48つるのすビル 電話06(244)1561
〒588 自宅・堺市大美野5－9 電話0722(37)1162

打浪政信

株式会社　新興建材工業所　常務取締役
〒550 大阪市西区南堀江4丁目32番11号 電話06(538)2951代
〒564 自宅・吹田市吹東町43－3　電話06(383)0217

小川正

株式会社　竹中工務店　顧問
〒541 大阪市東区本町4－27 電話06(252)1201

小河吉之助

財団法人　大阪建築防災センター　理事長
〒541 大阪市東区博労町2丁目41番地 中博ビル3階
電話06(261)0212
〒573 自宅・枚方市香里ケ丘12丁目22番37号
電話0720(54)0690

尾亀清四郎

株式会社　三晃空調　取締役会長
〒530 大阪市北区西天満3丁目13番20号 電話 06(363)1371
〒573 自宅・枚方市岡山手町15－4 電話0720(41)3427

大井弘治郎

株式会社 大井建築設計事務所 代表取締役
〒550 大阪市西区京町堀1丁目10－8　福岡ビル
電話06(444)4521～2
〒562 自宅・箕面市百楽荘4丁目4－11 電話0727(21)4113

名誉正会員

大倉三郎

〒606 自宅・京都市左京区下鴨北園町33 電話075(781)0636

岡澤勇

岡澤建築設計事務所　所長
〒567 大阪府茨木市藤の里2丁目16番6号
電話0726(43)8953・5230
〒530 大阪事務所・大阪市北区西天満4－3－19 梅ケ枝ビル2F
電話06(362)6082代

暑中お見舞申し上げます

昭和56年盛夏　(50音順)

岡橋作太郎

株式会社　錢高組　技術顧問

〒550 大阪市西区西本町2－2－11　電話06(531)6431
〒659 自宅・芦屋市打出春日町156－1　電話0797(22)4500

奥村安太郎

奥村組土木興業株式会社　代表取締役社長

〒552 大阪市港区市岡3丁目5番18号　電話06(572)5301
〒552 自宅・大阪市港区市岡3丁目8番3号　電話06(571)0571

亀井晃治

一級建築士事務所 株式会社 A.R.I.(あり)建築事務所　代表取締役社長

〒542 本社事務所・大阪市南区谷町7丁目12番地の1 新谷町第3ビル2F 電話06(768)1771代
〒104 東京事務所・東京都中央区月島4丁目13-3秀和月島レジデンス108 電話03(531)3954
〒631 自宅・奈良市中町1番地の479　電話0742(43)1226

岡本繁一

近畿電気工事株式会社　取締役会長

〒531 大阪市大淀区本庄東2丁目3番41号 電話06(375)6000

加藤忠三郎

株式会社 平田タイル　代表取締役会長

〒550 大阪市西区阿波座1丁目1番10号 電話06(532)1231代
〒601 自宅・京都市南区東九条北烏丸町24電話075(691)1334

鎌谷秀男

修成建設専門学校　校長

〒555 大阪市西淀川区大和田5丁目19-30 電話06(474)1644
〒665 自宅・宝塚市千種3丁目8番23号 電話0797(72)1380

岡本行善

株式会社 昭和設計　代表取締役社長

〒550 大阪市西区新町1丁目5番7号 四ツ橋ビル 電話06(532)3421代
〒659 自宅・芦屋市岩園町35－7　電話0797(31)3201

垣内務

株式会社 団地サービス大阪支社　取締役 大阪支社長

〒536 大阪市城東区森之宮2丁目9番201号 電話06(969)1001

亀田六夫

株式会社 増島製作所 大阪営業所　所長

〒530 大阪市北区西天満3-13-18 島根ビル 電話06(364)1951
〒560 自宅・豊中市刀根山元町8－12 電話06(855)5356

岡本全男

筧組建設株式会社　代表取締役社長

〒543 大阪市天王寺区上本町5丁目4番17号 電話06(768)1515代
営業所：名古屋・和歌山・春日出・大阪　工場：豊明・愛知
〒557 自宅・大阪市西成区玉出東1丁目6番15号 電話06(661)3317



柄谷順一郎

株式会社 柄谷工務店　取締役社長

〒660 尼崎市玄番南之町4 電話06(411)1451
〒663 自宅・西宮市甲子園浦風町9－14 電話0798(41)0700

岡山竹雄

株式会社 岡山建築事務所一級建築士事務所　代表取締役

〒604 京都市中京区烏丸通錦小路上ル手洗水町670 京都フクトクビル7F 電話075(255)0537～8
〒612 自宅・京都市伏見区深草平田町18 電話075(641)0536

川岸繁夫

株式会社 川岸窯業商店　代表取締役社長

〒550 大阪市西区西本町1丁目13－33 電話06(532)0461代
〒563 自宅・池田市天神1丁目10－10 電話0727(61)8598

奥野晴弘

株式会社 和光建築設計事務所　代表取締役社長

〒550 大阪市西区北堀江2丁目9番15号 電話06(531)4488代
〒550 自宅・大阪市西区北堀江2丁目9番10号 電話06(541)0261

影近寛

影近設備工業株式会社　代表取締役

〒606 京都市左京区北白川西町83　電話075(761)8191～6
〒606 自宅・京都市左京区上高野池ノ内町12－25 電話075(722)1851

川崎敬三

株式会社 近畿建設　代表取締役

〒550 大阪市西区江之子島1丁目2番2号 電話06(448)5601
〒556 自宅・大阪市浪速区難波中3丁目9番3-407 電話06(632)7369

奥村紘行

奥村重兵衛株式会社　取締役社長

〒530 大阪市北区西天満5丁目3番7号 電話06(312)4131代
〒620 自宅・西宮市南郷町14番34号 電話0798(71)0011

数井利美

株式会社 西村建築事務所 取締役社長

〒652 神戸市兵庫区荒田町2丁目1番地 翔ビル 電話078(521)0205～0207
〒654 自宅・神戸市須磨区白川台2丁目39－13 電話078(792)5862

川瀬啓一郎

扶桑管工業株式会社　代表取締役

〒616 京都市右京区太秦和泉式部町12番地 電話075(861)1157
大阪支店 電話06(353)0222　東京支店 電話03(263)0501
〒616 自宅・京都市右京区太秦安井車道町21 電話075(811)1509

暑中お見舞申し上げます

昭和56年盛夏　(50音順)

河　裾　和　夫

蛍光産業株式会社　代表取締役
〒531 大阪市大淀区本庄東1丁目9番9号　電話06(371)5146

北　澤　　登

高砂熱学工業株式会社大阪支店　常務取締役 大阪支店長
〒530 大阪市北区芝田1丁目4番8号北阪急ビル 電話06(372)2511
〒561 自宅・豊中市城山町1-8-1 曽根ロイヤルハイツ202号 電話06(864)0162

木　下　國　男

内外パーキング施設株式会社　取締役社長
〒550 大阪市西区京町堀1丁目8番5号 明星ビル 電話06(441)0477代
〒665 自宅・宝塚市逆瀬台6丁目15番11号　電話0797(73)3228

汲　川　圭　司

社団法人　全国鐵構工業連合会副会長 大阪鉄構建設業協同組合理事長
大阪鉄構建設業協同組合
〒543 大阪市天王寺区生玉前町1番21号 小山ビル　電話06(772)0182
連合会事務所
〒103 東京都中央区日本橋兜町3-28 日鐵商事日本橋ビル 電話03(667)4695～8

黒　田　　譲

黒田建設株式会社　取締役社長
〒830 久留米市大石町32番地　電話0942(32)1911代
〒830 自宅・久留米市白山町547番地　電話0942(34)8527

桑　田　正　造

桑田硝子株式会社　取締役社長
〒650 神戸市中央区多聞通4—1—2　電話078(371)1861代
〒653 自宅・神戸市長田区五位ノ池町3丁目1-1 電話078(621)3807

小　北　博　一

ジャス・アソシェーツ　代表取締役
〒565 吹田市古江台6丁目3番1号 健康の森 電話06(833)6611代
〒565 自宅・豊中市新千里北町1—1　C5—209 電話06(872)6461

小　阪　永　一

大信印刷株式会社　代表取締役
〒531 大阪市大淀区大淀中4丁目13—11　電話06(451)7631
〒553 大阪市福島区福島6丁目20—10　電話06(451)5346

小　崎　　勇

株式会社　ミラノ工務店　取締役社長
〒604 京都市中京区夷川通河原町東入鉾田町310 電話075(231)0177代
〒606 自宅・京都市左京区下鴨北園町63番地 電話075(781)0676

小　菅　滋　夫

株式会社　日建設計　常務取締役 大阪本社代表
〒541 大阪市東区横堀2丁目38番地　電話06(203)2361



小　島　勝　巳

有限会社 小島勝巳建築事務所 代表取締役
〒541 大阪本社・大阪市東区南本町4丁目41番地 イヨビル8階　電話06(252)8088代
〒103 東京本社・東京都中央区日本橋本町4丁目14番地 山本ビル7階　電話03(661)0768代
〒166 自宅・東京都杉並区成田西1丁目16—17 電話03(315)5435

小　谷　大　作

株式会社 田渕建築設計事務所 代表取締役
〒640 和歌山市下町19番地　電話0734(31)0261～2
〒641 自宅・和歌山市堀止西1丁目10-5　電話0734(24)9563

小　西　信一郎

コニシ株式会社　代表取締役社長
〒541 大阪市東区道修町2丁目6番地　電話06(228)2811代
〒565 吹田市古江台1丁目15番5号　電話06(831)8455

小　西　　岬

株式会社 小西設計　取締役社長
〒550 大阪市西区立売堀1丁目12—16　電話06(532)4051
〒546 自宅・大阪市東住吉区今川3丁目6—6 電話06(701)0297

名誉正会員

小早川美武

美工装飾株式会社　取締役社長
〒557 大阪市西成区玉出東2丁目9—41　電話06(651)0105
〒557 自宅・大阪市西成区玉出東2丁目10—17 電話06(653)0023

小　林　　清

株式会社　新住宅社　代表取締役
〒530 大阪市北区中之島4丁目3番25号 電話06(443)6641代
〒545 自宅・大阪市阿倍野区北畠3丁目1番7号 電話06(654)0584

小林三甫朗

小林住宅産業株式会社　代表取締役
〒541 大阪市東区南久宝寺町5—18　電話06(245)2181

代　谷　正　元

太陽工藤工事株式会社　取締役社長
〒553 大阪市福島区福島7丁目22番8号電話06(451)1151大代
〒665 自宅・宝塚市仁川北3—13—20　電話0798(52)5971

小　林　得　志

株式会社 小林得志建築事務所 代表取締役所長
〒530 大阪市北区堂島2-4-17 藤田ビル 電話06(341)5658代
〒662 自宅・西宮市丸橋町6—16 電話0798(66)2394

暑中お見舞申し上げます

昭和56年盛夏　(50音順)

河内義就

有限会社 河内義就設計事務所 代表取締役

〒730 広島市中区上幟町2番37号　電話0822(28)2271代
〒739-17 自宅・広島市安佐北区高陽町大字梨光台1-237
電話08284 (2)4141

酒井貞

株式会社　都市科学研究所　取締役副所長

〒600 京都市下京区四条烏丸西入ル 住友生命ビル9F
電話075(221)8161
〒603 自宅・京都市北区西賀茂大深町70　電話075(491)6301

名誉正会員

白石登喜男

株式会社 藤木工務店 常務理事

〒540 大阪市東区両替町1丁目13番地 電話06(944)1468
〒558 自宅・大阪市住吉区墨江中1の68 電話06(671)3792

鴻池藤一

株式会社 鴻池組 取締役社長

〒541 大阪市東区北久宝寺町4丁目27番地
ダイヤルイン電話06(244)3500(受付台)
〒603 自宅・京都市北区平野鳥居前町86 電話075(461)1526

四方靖郎

四方設計工務株式会社
一級建築士事務所　代表取締役社長

〒612 京都市伏見区深草関屋敷町32-2 電話075(641)6091～2 6324
〒851-33 長崎出張所・長崎県西彼杵郡西彼町大谷郷1684
電話09592(7)0172
〒183 東京出張所・東京都府中市白糸台6丁目53－31
電話0423(67)0480・0424(84)0236
〒612 自宅・京都市伏見区深草関屋敷町32－2

城口庸平

株式会社 大阪城口研究所 取締役社長

〒530 大阪市北区角田町2番15号　電話06(372)7151代

佐野正一

株式会社 安井建築設計事務所 代表取締役社長

〒540 大阪市東区島町2丁目7番地　電話06(943)1371代
〒662 自宅・西宮市雲井町4の9　電話0798(72)1569

渋谷幸雄

渋谷金属産業株式会社　取締役社長

〒542 大阪市南区鍛冶屋町52　電話06(211)7333
〒581 自宅・八尾市二保252－7　電話0729(22)8644

須賀新

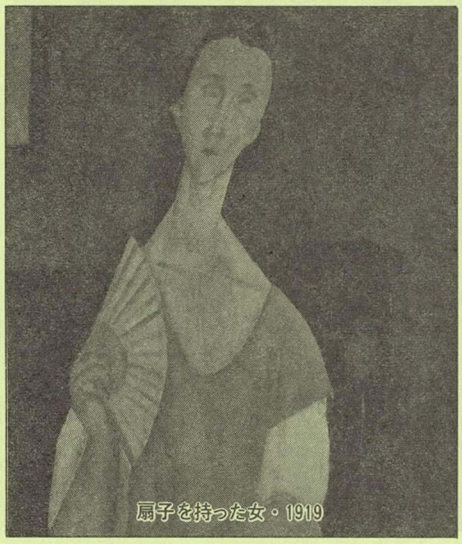
須賀工業株式会社 取締役社長

〒550 大阪市西区土佐堀1丁目2番30号　電話06(441)5171
〒662 自宅・西宮市殿山町2－28　電話0798(74)0569

佐野春吉

森井電業株式会社　代表取締役副社長

〒530 大阪市北区中之島5丁目3番101号 正宗中之島ビル
電話06(443)8381代
〒661 自宅・尾崎市東園田町3丁目85番地－11
電話06(491)9402



須賀好富

近畿大学理工学部建築学科 助教授

〒577 東大阪市小若江3－4－1　電話06(721)2332
内線271
〒577 自宅・東大阪市下小阪172－2
近鉄グランドマンションB－911 電話06(789)8114

斉藤國義

株式会社　斉藤工業所　代表取締役

〒557 大阪市西成区岸里2丁目6番5号電話06(661)3325代
〒557 自宅・大阪市西成区岸里東1丁目21番3号
電話06(652)0208

菅良春

日本住宅パネル工業協同組合　理事

〒530 大阪市北区西天満5丁目6番10号　電話06(313)3321
〒636-11 自宅・奈良県大和郡山市南井町19－60
電話07435(6)3665

名誉正会員

島村佐次郎

株式会社 島村建築事務所

〒640 和歌山市四番丁4　電話0734(22)3338・4335
〒640 自宅・和歌山市四番丁4　電話0734(22)3338・4335

雑賀幸夫

株式会社 大阪雑賀建築事務所 代表取締役

〒543 大阪市天王寺区上本町8丁目3番23号
電話06(772)4426・4436
〒573 自宅・枚方市香里ケ丘7丁目11－16電話0720(54)0004

菅谷健児

大阪電気暖房株式会社　代表取締役社長

〒550 大阪市西区江戸堀1丁目10番17号　電話06(441)8231
〒158 自宅・東京都世田谷区等々力6丁目24－6
電話03(701)3535

代表取締役社長 **齋藤久典**
常務取締役支社長 **黒澤太作**

斎久工業株式会社

〒100 東京本社・東京都千代田区大手町2-6-2 日本ビル
電話03(270)7411代
〒530 大阪支社・大阪市北区中之島4－2－38
電話06(443)5041代

島村忠男

西日本建設業保証株式会社 取締役社長

〒540 大阪市東区上町5番地　電話06(764)1122

杉浦敏郎

三機工業株式会社大阪支店　理事 支店長

〒541 大阪市東区北浜2－22　電話06(202)3051代3071代
〒560 豊中市岡町南1－7－7　電話06(855)5995

暑中お見舞申し上げます

昭和56年盛夏　(50音順)

鈴木　毅

株式会社 松田平田坂本設計事務所 大阪事務所長

〒530 大阪市北区堂島2－2－25　電話06(344)7821
〒185 自宅・東京都国分寺市富士本1-31-15
電話0425(75)1581

橘　泰治

東邦パーライト株式会社　取締役社長

〒540 大阪市東区森ノ宮中央2丁目7番15号　電話06(941)9445～9
〒590-01 自宅・堺市若松台3丁26番3号　電話0722(91)2267

辻本　豊

株式会社 ツジモトユタカ設計事務所　代表取締役

〒640 和歌山市東長町中の丁12－3 電話0734(26)2030代
〒640 自宅・和歌山市東長町中の丁12-3電話0734(26)2030代

相臺淳吉

日新工業株式会社　専務取締役

〒120 東京都足立区千住東2丁目23番4号電話03(882)2424
〒271 自宅・松戸市松戸3の7の3　電話0473(62)9314

立田　清

有限会社 柳々堂 (建築専門書店)

〒550 大阪市西区京町堀1－12－3 電話06(443)0167～8
営業所：鴻池ビル　電話06(251)8233

津村芳仁

オリエンタルメタル製造株式会社　代表取締役社長

〒660 尼崎市昭和南通3丁目26番地　電話06(412)5131代
〒330 自宅・埼玉県大宮市高鼻町3丁目58番地
電話0486(41)0204

田中慶明

株式会社　田中工務店　取締役社長

〒601 京都市南区上鳥羽八王神町5番地電話075(681)9556代
〒601 自宅・京都市南区上鳥羽八王神町5番地
電話075(672)3622

立野一郎

株式会社　ユニオン　代表取締役

〒550 大阪市西区南堀江2丁目13番22号
電話06(532)3731～8

寺田徳重

大成建設株式会社　常任顧問

〒541 大阪市東区本町4丁目27 電話06(262)1131
〒562 自宅・大阪府箕面市桜井2丁目4-39 電話0727(21)4641

取締役社長 高橋慶夫
専務取締役 上田宏二

株式会社　高橋上田設計事務所

〒550 本社・大阪市西区新町1－4－21 大幸ビル
電話06(533)0971～3
〒103 東京支所・東京都中央区日本橋茅場町2－4
全国中小企業会館4F　電話03(669)6049



傳馬正明

ムツミ産業株式会社　代表取締役

〒550 大阪市西区靭本町1丁目17番15号
電話06(441)0378大代

名誉会長・名誉正会員

竹腰健造

〒662 自宅・西宮市松園町7番22号 電話0798(34)2650

名誉正会員

玉置豊次郎

大阪工業大学　名誉教授
㈱大阪住宅センター　理事長

〒530 大阪市北区中之島3－2－18住友中之島ビル
電話06(447)0615～6
〒557 自宅・大阪市西成区天神森1-19-15 電話06(661)7680

名誉会長・名誉正会員

東畑謙三

株式会社東畑建築事務所代表取締役

〒541 大阪市東区伏見町5－19電話06(202)0391
〒658 自宅・神戸市東灘区住吉山手4-4-35電話078(851)5043

竹村通世

近畿電気工事株式会社広島支社　取締役支社長

〒733 広島市西区横川町2丁目13番5号 電話0822(94)6141
〒730 自宅・広島市中区中町4番14 チェリス中町905号
電話0822(43)4656

時岡保雄

株式会社　三和地質　代表取締役

〒550 大阪市西区靭本町3丁目8番6号
電話06(445)2521代～5

武田恭一

近畿電気工事株式会社　取締役副会長

〒531 大阪市大淀区本庄東2丁目3番41号　電話06(375)6000

塚本猛次

株式会社　日建設計顧問

〒541 大阪市東区横堀2丁目38番地　電話06(203)2361
〒665 自宅・宝塚市清荒神2－6－27　電話0797(87)1940

得田益男

得田電気株式会社　取締役社長

〒601 京都市南区東九条河辺町21番地　電話075(661)2727
〒606 自宅・京都市左京区北白川東伊織町10番地の3
電話075(722)3231

暑中お見舞申し上げます

昭和56年盛夏　(50音順)

富家宏泰

株式会社富家建築事務所　代表取締役
〒604 京都市中京区押小路通東洞院西入ル
電話075(231)6375代
〒603 自宅・京都市北区平野八丁柳町68－1－704号
電話 075(463)0050

内藤正克

株式会社 内藤建築設計事務所 代表取締役所長
〒675-13 兵庫県小野市上本町240小野ビル電話07946(2)4757代
〒675-13 自宅・兵庫県小野市久保木町1063電話07946(2)4668

内藤薫男

社団法人 日本建築積算協会関西支部 支部長
〒542 大阪市南区鰻谷中之町62番地 市川ビル2F
電話06(245)6645
〒618 自宅・大阪府三島郡島本町広瀬4丁目11番3号
電話075(961)5092

中川匠

中川匠建築設計事務所
〒530 大阪市北区浪花町1－19 新興ビル 電話06(371)3651
〒665 自宅・宝塚市売布4丁目15－18 電話0797(86)2391

中田勝

日新工業株式会社 大阪支店　支店長代理
〒550 大阪市西区新町1丁目12番22号 電話06(533)3191大代
〒663 自宅・西宮市高木東町5－14 電話0798(67)1833

中出隆俊

創業50余年
(各種防水工事及スレート工事施工請負)
株式会社 中出商会 代表取締役
〒652 神戸市兵庫区上沢通6丁目1－1 電話078(511)4501代

中村正一

中村タイル株式会社 代表取締役
〒550 大阪市西区南堀江1丁目11番5号 電話06(531)7263
〒590-01自宅・堺市若松台3丁17番9号 電話0722(91)5592

中原茂

株式会社 中原茂建築事務所 代表取締役
〒550 大阪市西区靱本町2丁目9番11号 岡崎橋ビル
電話06(445)0039
〒658 自宅・神戸市東灘区岡本2丁目8番3号

中原英雄

株式会社 創美設計 代表取締役
〒530 大阪市北区末広町3番21号 星和地所扇町ビル6階
電話06(312)3587代
〒659 自宅・芦屋市打出小槌町1番地405

永井賢城

株式会社 久米建築事務所 取締役社長
〒106 東京都港区西麻布1丁目13番11号 電話03(403)0251大代
〒251 自宅・藤沢市鵠沼海岸2丁目8の26 電話0466(36)7706


読書の途中で物想いにふける女・1921

取締役会長 西嶋徳太郎
取締役社長 石中達夫
株式会社 大建企画設計
本社・〒550 大阪市西区京町堀1丁目13－20
電話06(443)8261
東京事務所・〒162 東京都新宿区下宮比町15番地
飯出橋ハイタウン333号　電話03(267)4711

信國勝明

株式会社 日新プラン 代表取締役
〒604 京都市中京区烏丸通二条下ル秋野々町529番地
電話075(221)1577
〒603 自宅・京都市北区紫竹上本町32番地の3
電話075(491)2323

橋本晃芳

株式会社 鴻池組 専務取締役
〒541 大阪市東区北久宝寺町4丁目27番地 電話06(244)3538
〒659 自宅・芦屋市精道町4－1 電話0797(31)6766

長谷川武彦

株式会社 長谷川工務店 代表取締役会長
〒105 東京都港区芝2丁目32番1号 電話03(456)5451

名誉正会員

浜口幹三郎

株式会社 淺沼組 相談役
〒543 大阪市天王寺区東高津町12番6号 電話06(768)5222
〒631 自宅・奈良市二名町南登美ヶ丘3336－7
電話0742(43)1091

林茂

株式会社 林設計事務所 代表取締役
〒531 大阪市大淀区長柄中3丁目1番8号 電話06(351)6831
〒565 自宅・吹田市竹見台2丁目11番5号 電話06(871)8625

林唯夫

株式会社 昭和設計 代表取締役副社長
〒550 大阪市西区新町1丁目5番7号 四ツ橋ビル
電話06(532)3421
〒565 自宅・吹田市青山台3丁目41－11 電話06(872)3608

林昭八郎

菱和調温工業株式会社大阪支店 取締役支店長
〒530 大阪市北区天満2丁目7番3号 電話06(352)4881
〒663 自宅・西宮市高木東町19番14号 電話0798(64)0324

原精一

甲南建設工業株式会社 代表取締役
〒532 大阪市淀川区十三本町2丁目4番28号 電話06(308)1551
〒662 自宅・西宮市名次町12番9号 電話0798(72)1504

暑中お見舞申し上げます

昭和56年盛夏　(50音順)

代表取締役会長 **原田重信**
代表取締役社長 **原田孝太郎**

原田セメント化工株式会社
〒554 大阪市此花区西九条4丁目3－34 電話06(465)1212代
〒661 自宅・尼崎市塚口町3丁目41－8　電話06(421)4518

名誉正会員

坂　静雄

財団法人 日本建築総合試験所 理事長
〒565 本所・大阪府吹田市藤白台5丁目125番地 電話06(872) 0391
〒531 大淀分室・大阪市大淀区長柄西2丁目1番18号 電話06(351) 7217
〒592 堺分室・大阪府堺市浜寺石津町西2丁1番34号 電話0722(44)3912

伴　一郎

株式会社 西原衛生工業所大阪店 代表取締役社長
〒531 大阪市大淀区中津六丁目8番4号電話06(458)3531代
〒563 自宅・池田市石橋3－11－14　電話0727(61)8652

伴仲信次

春日建設株式会社　代表取締役
春日建設一級建築士事務所
〒102 東京都千代田区飯田橋2丁目9番3号 電話03(264)4011代
〒160 自宅・東京都新宿区西早稲田3-31-5かすが701号 電話03(202)2411

平城　勧

株式会社 朝日工業社 大阪支社　常務取締役 大阪支社長
〒532 大阪市淀川区加島1丁目58番59号 電話06(302)2271～9
〒665 自宅・宝塚市中山桜台4－15－4　電話0797(89)3884

久田良吉

株式会社 東洋建築設計事務所 代表取締役
〒542 大阪市南区上本町4－610 昭和ビル3F 電話06(768)2029直通 2020直通
〒581 自宅・八尾市山本町南4－10－14　電話0729(22)3095

福田朝生

株式会社 双星設計 代表取締役社長
〒530 大阪市北区茶屋町18－21 豊崎ビル　電話06(373)2281
〒663 自宅・西宮市甲子園砂田町2番8号　電話0798(48)0989

福中定三郎

社団法人 日本建築協会 参与
〒541 大阪市東区北浜3－37　電話06(231)9648代
〒573 自宅・枚方市香里園町26－68　電話0720(31)0549

福永　薫

株式会社 建設技術センター 代表取締役
〒530 大阪市北区東天満2丁目5番20号 古林ビル5階 電話06(353)0651
〒542 自宅・大阪市南区順慶町通4-61　電話06(251)3102・5189

藤井　稔

阪神不動産株式会社 専務取締役
〒530 大阪市北区梅田2丁目2番25号　電話 06 (346) 1171


緑のブラウスを着たハンガリー女・1939

藤木鐵三

株式会社 藤木工務店 取締役社長
〒540 大阪市東区両替町1丁目13番地　電話06(944)1468代

淵上保夫

三井プレコン株式会社大阪支店　常務取締役 支店長
〒530 大阪市北区中之島3丁目4番18号 三井ビル2号館 電話06(444)4231代
〒595 自宅・大阪府泉大津市虫取51-1くすの木団地2-311

星　廣文

有限会社 中西建築事務所 取締役社長
〒530 大阪市北区中之島3丁目2番4号 朝日ビル 電話06(202)5986
〒571 自宅・門真市城垣町7－6　電話0720(81)1318

堀　元也

神戸材料株式会社　取締役社長
〒651 神戸市中央区熊内町2丁目1－37　電話078(222)2251
〒657 自宅・神戸市灘区篠原北町2丁目1－9 電話078(882)0755

堀内史郎

第一工業株式会社大阪支店　取締役支店長
〒530 大阪市北区西天満3丁目6番14号　電話06(364)6661代
〒573 自宅・大阪府枚方市朝日丘町12-18電話0720(41)5396

前野慶太郎

株式会社 あめりか屋 取締役社長
〒530 大阪市北区中之島4丁目3番25号　電話06(444)1501
〒659 自宅・芦屋市翠ケ丘町4番18号 電話0797(22)2005

前田平一郎

ゼネラル事務機株式会社 代表取締役
〒550 大阪市西区靱本町3丁目2番7号第1横井ビル 電話06(441)1462代
〒560 自宅・豊中市上野東1丁目16－21　電話06(849)5764

牧田顯治

大建建設工業株式会社 専務取締役
〒564 摂津市千里丘東4丁目9番13号　電話06(381)2421
〒546 自宅・大阪市東住吉区北田辺4丁目13－2 電話06(713)1469

松永嘉一郎

株式会社 梅彦　取締役社長
〒530 大阪市北区中崎西2丁目1番3号電話06(312)6171代
〒659 自宅・芦屋市山手町15－25　電話 0797(22)4761

暑中お見舞申し上げます

昭和56年盛夏　(50音順)

松丸哲也

豊國建設株式会社　代表取締役社長
〒530 大阪市北区天満橋2丁目3番1号　電話 06(353)1001
〒663 自宅・西宮市甲子園口北町20—21　電話0798(67)2787

松村雄二

株式会社 松　村　組　取締役社長
〒530 大阪市北区天満2—1—33　電話06(353) 1131

名誉正会員
松本与作

第一生命保険相互会社　顧問技師
〒100 東京都千代田区有楽町1—13—1　電話03(216)1211
〒145 自宅・東京都大田区田園調布3-17-3　電話03(721)4723

松本六郎

松本金物株式会社　取締役社長
〒543 大阪市天王寺区四天王寺1丁目5-47　電話06(774)2200 受付案内台
〒580 自宅・松原市北新町2丁目3—7　電話0723(31)0158

丸山信

株式会社　丸山建築事務所　代表取締役
〒107 東京都港区北青山3丁目5番25号　電話03(401)2287
出張所：横浜市・松本市
〒156 自宅・東京都世田谷区松原5-58-17　電話03(322)6129

三谷忠義

株式会社 三谷設計 代表取締役
〒694 島根県大田市久手町波根西777の1　電話08548(2)8121代
〒694 自宅・島根県大田市久手町波根西225の2　電話08548(5)8320

三輪泰司

株式会社　地域計画・建築研究所　代表取締役所長
〒540 大阪市東区石町1丁目1番地 天満橋千代田ビル2号館　電話06(942)5732
〒612 自宅・京都市伏見区桃山南大島町95—45　電話075(601)3962

水野喜一郎

社団法人　日本建築協会京都支部　支部長
〒604 京都市中京区押小路通柳馬場東入建設会館分室　電話075(211)2857・2877
〒600 京都市下京区西七条市部町77 水野建設株式会社　電話075(312)0431

水間義雄

株式会社　水　間　組　代表取締役社長
〒534 大阪市都島区東野田町1丁目1番4号　電話06(352)3121代
〒538 自宅・大阪市鶴見区今津南4-10-15　電話06(961)0785

名誉正会員
取締役会長 **道田泰治郎**
取締役社長 **道田泰平**

株式会社　道　田　工　務　店
〒660-01 川西市向陽台3丁目6番216号　電話0727(93)3456代
〒660-01 自宅・川西市向陽台3丁目6番216号　電話0727(93)3456代

宮崎辰敬

宮崎辰五郎建築事務所　所長
〒466 名古屋市昭和区折戸町5丁目13 電話052(751)3096
〒466 自宅・名古屋市昭和区折戸町5丁目13　電話052(751)3096

村石全

浪速合板株式会社 代表取締役社長
〒556 大阪市浪速区幸町2丁目5番3号　電話06(568)3671
〒659 自宅・芦屋市岩園町25番15号　電話0797(34)0835

村上二郎

サンエス石膏株式会社　代表取締役社長
〒530 大阪市北区堂島2丁目4番17号 藤田ビル本館　電話06(344)6526～9
〒565 自宅・吹田市千里山西3丁目7番5号　電話06(384)1002

名誉正会員
村野藤吾

村野，森建築事務所
〒545 大阪市阿倍野区阿倍野筋2-3-8　電話 06(624)0926
〒665 自宅・宝塚市清荒神2丁目18—27　電話0797(86)2559

室谷山水

室谷商事株式会社　取締役社長
〒650 神戸市中央区北長狭通4丁目2—4 英和ビル　電話078(331)0881
〒650 自宅・神戸市中央区山本通4丁目17—17　電話078(221)5050

両角保

浦安工業株式会社　専務取締役 大阪支店長
〒130 本社・東京都墨田区錦糸2丁目8—7　電話03(624)2441
〒530 大阪支店・大阪市北区天満2丁目3—5　電話06(351)7502

森忠一

村野，森建築事務所
〒545 大阪市阿倍野区阿倍野筋2-3-8　電話 06(624)0926
〒665 自宅・宝塚市武庫山1丁目10-8　電話0797(72)4461

森隆雄

株式会社 間組 大阪支店　取締役 大阪支店長
〒541 大阪市東区瓦町5—20—1　電話 06(201)2751
〒562 自宅・箕面市西小路3—17—24　電話0727(22)1601

八木喜美蔵

八木惣株式会社　代表取締役社長
〒593 堺市津久野町3丁2071番地　電話0722(62)1175
〒593 自宅・堺市津久野町3丁2071番地　電話0722(62)0722

八十島健二

株式会社　竹中工務店　取締役副社長
〒541 大阪市東区本町4—27　電話06(252)1201
〒663 自宅・西宮市甲子園二番町5—30　電話0798(41)0598

矢持吉隆

株式会社 矢持建築事務所　代表取締役
〒602 京都市上京区今出川通河原町西入ル大宮町314 竹寿ビル　電話075(211)7938
〒606 自宅・京都市左京区北白川上別当町5—8　電話075(781)8559

暑中お見舞申し上げます

昭和56年盛夏　(50音順)

安井忠生

株式会社　安井建築設計室　代表取締役

〒550 大阪市西区靱本町1丁目9－18　電話06(448)2765～6
〒662 自宅・西宮市城山町6－17－305
電話0798(72)0865

安田誠一

安田株式会社　会長
(建築金物・アルミ型材製造)

〒542 大阪市南区末吉橋通1丁目17　電話06(251)7091代

簀本弦三

株式会社　笹川組　取締役社長

〒520 大津市打出浜13－15　電話0775(23)2314
〒520-21 自宅・大津市一里山5－9－11　電話0775(45)3966

山下密男

合同特許建材工業株式会社　代表取締役

〒546 大阪市東住吉区駒川2丁目4番22号
電話06(702)7814代
〒546 自宅・大阪市東住吉区田辺5丁目4番8号
電話06(621)9086

山田保

株式会社山田保建築設計事務所 代表取締役

〒733 広島市中区本川町2丁目6番11号第7ウエノヤビル2階
電話0822(92)8211代
〒734 自宅・広島市西区己斐東2丁目12番27号
電話0822(71)0690

山田恒治

株式会社　山田工務店　取締役社長

〒651 神戸市中央区雲井通4丁目1番3号
電話078(232)1800代
〒651-12 自宅・神戸市北区山田町上谷上古々山29
電話078(581)2055

名誉正会員

山田文次

山田工業株式会社　取締役会長

〒550 大阪市西区京町堀1丁目6番8号　電話06(443)8161大代
〒665 自宅・宝塚市南口1丁目2番2号　電話0797(72)2511

山田義行

株式会社　竹中工務店

〒541 大阪市東区本町4－27　電話06(252)1201大代
〒665 自宅・宝塚市寿楽荘14－11　電話0797(72)5858

山本永造

ヤマト電気エンジニアリング株式会社　取締役社長

〒530 大阪市北区西天満5丁目1番3号　電話06(364)3056代
〒562 自宅・箕面市桜ヶ丘3丁目13－6　電話0727(23)5176

山本哲夫

昭和鉄工株式会社　取締役社長

〒812 福岡市東区箱崎5丁目11番93号　電話092(651)2931
〒810 自宅・福岡市中央区美院2丁目11番4号
電話092(741)5095

山本博三

朝陽電気株式会社　代表取締役

〒530 大阪市北区中之島3丁目2番4号　朝日ビル内
電話06(385)1361代
〒565 自宅・吹田市藤白台4丁目23番8号　電話06(831)6100

山形幸一

社団法人　大阪建設業協会　事務局長

〒540 大阪市東区京橋3丁目70　電話06(941)3651

横田俊治

横田建設株式会社　取締役社長

〒607 京都市山科区上花山花ノ岡町39　電話075(592)3966代
〒606 自宅・京都市左京区鹿ヶ谷上宮の前町
電話075(771)4014

米倉豊夫

日本住宅パネル工業協同組合　理事長

〒113 東京都文京区本駒込6丁目15番7号
電話03(945)2311大代

蓮佛亨

株式会社　京都建築事務所　代表取締役

〒604 京都市中京区三条柳馬場東入　電話075(211)7277代
〒611 自宅・宇治市南陵町2丁目1－4　電話0774(23)2172

和田眞一

株式会社　東和組　代表取締役

〒530 大阪市北区西天満4丁目5番14号　電話06(363)4051
〒659 自宅・芦屋市公光町3番8号　電話0797(22)3282

名誉正会員

若林繁吉

二葉屋装備工業株式会社　会長

〒564 摂津市東別府3丁目7番8号　電話06(349)9193代
〒605 自宅・京都市東山区清水2丁目232　電話075(561)6283

名誉正会員

若林季雄

鹿島建設株式会社大阪支店

〒542 大阪市南区鰻谷西之町6 三栄ビル　電話06(245)2311大代
〒636 奈良県生駒郡三郷町信貴ヶ丘211　電話0745(72)4121

若山繁

近畿電気工事株式会社　取締役社長

〒531 大阪市大淀区本庄東2丁目3番41号　電話06(375)6000

渡辺忠

東洋シヤッター株式会社　取締役会長

〒540 大阪市東区両替町1－12日生ビル　電話06(943)6571代
〒560 自宅・豊中市緑丘3丁目21番8号　電話06(856)0983

事務局一同

社団法人　日本建築協会

建築技術選書

企画：日本建築協会　　編集・発行：学芸出版社

A５判・136頁～160頁・定価　各1000円～1200円

80年代の新しい技術書

1 **茶　室　の　話**
畳の敷き方や炉の切り方など設計の基本を解説　岡田孝男

2 **ビルの省エネルギー**
ヒートポンプを用いた省エネルギー空調システム　中村猛

3 **建築とコンピュター1**
マイコン・ミニコンによる構造設計のすすめ　魚木晴夫

4 **都市の下水処理**
下水処理の原理としくみを多数の図で平易に説く　松永一成

5 **すまいの語録**
名言と諺を用いて綴る住まいのチェックポイント　茶谷正洋

6 **コンクリート工事の管理**
工事監理者・施工管理者のための入門書　奥島正一・他

7 **構造計画とやさしい力学1**
はり・柱編　身近な事例を素材にやさしく説く　須賀好富

8 **建具の知識と意匠**
現代に生きる伝統ある建具のすべてを図解する　山片三郎

9 **エレベータ・エスカレータ・立体駐車場**
これだけは是非知っていただきたい昇降機の知識　木村利雄

10 **構造計画とやさしい力学2**
屋根・架構・その他構造編　数式を極力省き解説　須賀好富

11 **建築と設備の接点1**
専門家間に生じる接点領域の盲点と対策　日建「接点」研究会

12 **ソーラーハウス**
確実で損のない計画手法をずばり示す実践的手引　内山武夫

13 **医院・診療所の計画と設計**
平面計画を多くの事例に基づき考える　池田有隣・船越暉由

14 **設計とコンピューター**
図形処理の基礎から応用までを図を駆使して説く　飯塚英雄

15 **ＰＣ建築の話**
プレストレストコンクリート構造の魅力を紹介　下伊豆隆三

16 **石垣と石積壁**
建築関係者が知りにくかった知識を簡潔にまとめる　窪田祐

17 **基礎と地盤の手ほどき**
水や土の考え方から実施例まで順序だてて解説　中堀和英

18 **ショッピングセンターの計画**
既存の商店街の再開発や複合化に重点をおき解説　西脇顕正

19 **住宅設計とインテリア**
どのページからでも読める楽しいコメント集　福岡喜久雄

20 **タ　イ　ル　の　話**
その歴史や作り方から形や性質・施工の注意点まで　田中弘

21 **住　宅　の　家　具**
楽しいイラストでつづる世界の家具あれこれ　光藤俊夫

22 **建築と設備の接点2**
施工段階や竣工後に起こる問題と対策　宮脇毅・久保富士治

23 **設備技術者のための建築再入門**
設備技術者のための建築計画入門　光安義光

24 **鉄骨構造の話**
図・写真による具体的解説　金多潔　ほか

目録進呈

学芸出版社

☎ 075－343－0811
京都市下京区木津屋橋通西洞院東入

日本建築協会事務局（大阪市東区北浜3-37 ☎06-231-9648）までお求めに来られた方には，100円割引にて頒布しております。

特集

都市住宅

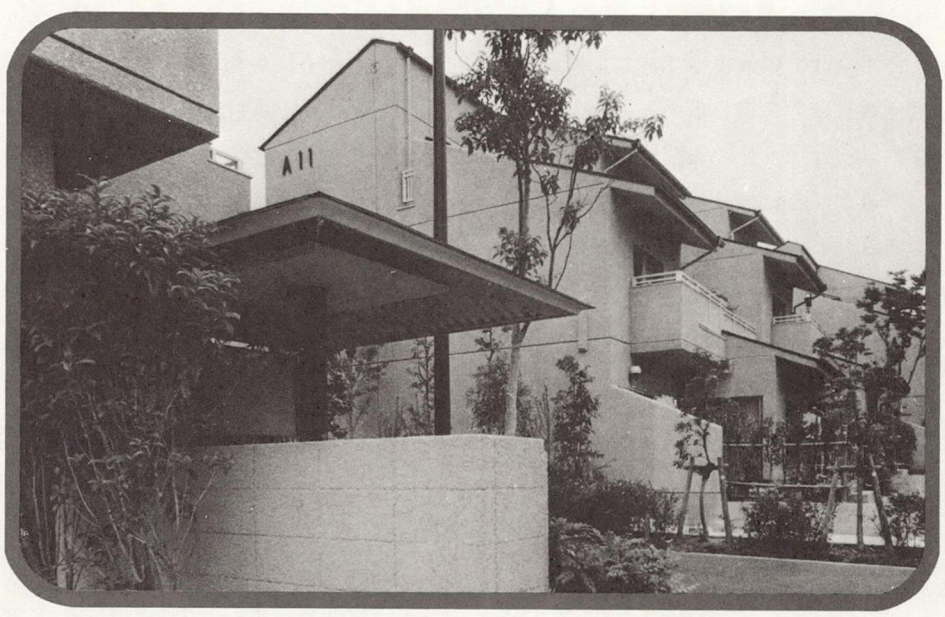
—住まい手からの発想—

集合住宅の、いわゆる量から質への価値転換と、昭和30年代から50年代へかけての、日本人の生活様式の急激な変化という時代的背景のなかで、とくに、都市住宅にあっては居住者階層の多様化もあってか、従来のような〝造る側〟の一方的で、しかも、大まかなとらえ方では住み手の生活に対応し得なくなっているのが実状である。しかし、こうした住要求の多様化の時代にあっても、一般庶民を対象とした住戸プランは一層固定化しているという指摘もある。経済性という枠のなかで選択の幅をせばめられた〝住み手〟の住意識や生活実態と造り手の送り出した環境体との間のギャップがますます広がっていくのが、都市住宅の課題でもあろう。しかし、その反面、多様な生活に対応すべくシステムをたずさえた住戸や、いくつかの地方都市にあっては地域の生活に適応すべく、きめ細やかな計画も検討され根づいてきていることも見のがせない事実である。さらに、造り手と住まい手の狭間をうめるべきコーディーネーターとしての職能もあらわれているのも今日的な特色であろう。

都市住宅の構築過程は、〝生産の側〟と〝生活の側〟という相互の要求のバランスの上で成り立つはずのものである。しかし、量を問題とした今までの方法では、生産の側、つまり造る側の論理に大きなウェートがかけられてきたことは否めない。住居の質を具現化する上では造る側のアプローチだけではおのずと限界がある。〝住み手〟の発想が住居に反映されてはじめて、住居の機能が十分に発揮される。

ここでは、住様式の持つ意味について広く問題を提起するために、〝住まい手からの発想〟と題して都市住宅にかかわる、さまざまな生活の軸を中心に特集を企画した。

（加藤力　記）



総論
「新しい」住生活様式を考える/ 田中恒子
各論
床面様式と起居様式/ 今井範子
一戸建住宅のK、D、Lスペースにおける住み方/ 三枝小夜子
都市住宅の台所の現状/ 沖田富美子
都市集合住宅の住み方と住宅の管理/ 藤井和子
集合住宅における戸外生活と戸外空間/ 藤本憲太郎
随想
都市住宅を考える—住まい手として/ 三輪昌子
設計者と住まい手の接点に立って/ 前田邦江
展開・新しい住まい方に応じた具体例
ニュー・モデル高層リビング・アクセス・タイプ/ 佐藤方俊
公社分譲住宅の多様化/ 吉内幸子
都市型高層集合住宅の新しい設計理論とその具体策/ 福嶋孝之・小材雄英・中馬博良・竹内徹

本号特集幹事
塩谷寿翁/ 河目浩吉/ 中馬博良/ 千葉桂司/ 富樫穎/ 中瀬勲/ 加藤力

「新しい」住生活様式を考える

田中　恒子

「新しい」住生活様式と言うとき、1950年代におけるＤＫのような、誰もがすぐに納得するような内容が今日あるだろうか。

年間建設戸数の過半数が分譲住宅となった現状では、「新しさ」が商品としての住宅を被う衣の役目をしている。住宅は生活の器として生活の変化に伴って変化しているものであるが、毎年「ニュータイプ」「ニューモデル」が発表され、そのための記念フェアーなどと称されるものが催されるようにさえなってきている。この「新しさ」はどれほど生活の必要性に裏づけされているのだろうか。不特定多数を対象として売り出される住宅では、魅力的なキャッチフレーズが必要であり、「新しさ」こそはその尽きせぬ源泉と考えられているようである。

戦後の国民の家庭生活は「新しさ」を追い求める流行という現象を抜きにしては語れない。流行は女性の服装や髪型・化粧法などに一番激しく現れているが、これは自然現象ではなく人為的に創り出されたものである。そのことが数々と認識されてくると、年ごと、季節ごとにころころ変わる意図的に創られる流行に嫌気がさしてきて、そんなものに振り回されない人々も少なからず出てきている。「なぜそう変わらなければならないのか」という必然性や必要性が納得できないからである。ところで、住宅はそのような流行というような目先の変化とは無縁のものであると考えられてきていたが、分譲住宅という形での住宅の商品化が進むなかで、住宅も流行現象と無縁とも言えなくなってきている。

住宅における「新しさ」の内容は誰によって創り出されているのだろう。

個人住宅の設計に熱意を傾けている建築家たちは、自己の生活主張を明確にもっている施主と出会うことによって、新しい住生活様式を創造してゆく。それらは、多くの場合、夫婦の関係、親子の関係、友人・知人・隣人との関係などの諸人間関係に対する提案を含んでいる。

たとえば、居間の大きさはステイタス・シンボルとして必要なのではなく、家族の多様な生活行為（だんらん、学習、読書、遊び、接客、家事、音楽を聴く、演奏する、etc.）を居間で同時平行的に展開することを望むからである。戦後の住宅設計は個室の尊重を唱ってきたが、受験体制の強まるなかで、プライバシーの尊重のためというよりも勉強をして欲しいということが先にたち、他の部屋より優先して子ども室を設けるようになってきた。そのことへの反省として、家族がひとつの家に集まって住むことの意味を、大きな居間という目に見える形を通して問い直そうとしていると考えられる。

ところがそうなると、広い居間は新しいデザインを可能にするので、形の模倣が始まる。形として選ばれる大きな居間は、そこに入れるべき人間関係を抜かしてしまい、単なるステイタス・シンボルとなる。

このような「形」の普及に大きな力をもつのが、住宅雑誌であり、婦人雑誌である。それでも、住宅雑誌は曲がりなりにも対象となった住宅を全体的に紹介しようとするが、婦人雑誌は部分的な紹介に終わる場合が多い。たとえば、婦人雑誌のグラビア写真によくみられる白い部屋に白いテーブル、大きな窓からは朝日がさんさんと差し込み、部屋一杯に緑あふれる鉢植え……、というような住宅は女子学生には人気絶大である。私が毎年授業中に集める「私の住みたい家」というレポートの中では、どう生きたいかとか、どう暮らしたいかということは抜け落ちて、こんな形の家に住みたいという話が多い。そんな写真を繰り返し見ていると、その前提である家族の関係や生活要求がみえなくて、形だけがイメージとして再生産される。実際には住むことができないから、写真でみたイメージは増幅されてゆくことになる。

そのようにして創り出された住要求を住宅産業が受けとめてゆく。だからこそ、「形」の新しさを売り込みの中心にすえることになる。これは最早イメージではなく、そこに造り出された家に実際に住むことになるから、生活内容と合わなければ、直ちに住み難い家という評価を受けることになる。最近数年間に「新しい」住生活様式として提案されている「形」について検討してみる。

〈オープン・キッチン〉

システム・キッチンは、その金額の高さとその美しさの故に最大の話題を提供している。家庭の主婦の垂涎の的である。その美しさは、作業場としての台所から「見せる台所」へと変えようとしている。従来のＤＫが家事労働の合理化という側面から普及してきたのに対して、最近の台所は、システム・キッチンに先導されながら、「ふれあいの場」「対話の場」へと変わ

ってきている。レイアウトも、調理が壁の方を向かず室内へと向いた形が増えてきている。そこに食事用のカウンターを取り付けた形もでてきている。

台所に洗濯機を置くとか、家事机を置くとか、家庭管理用の収納家具を置くとか、台所を広くとって多目的に利用する、言い替えれば家事や家政、主婦の趣味的活動までも台所でやってしまおうという考え方もでてきている。今までにも少ない例ではあるが、主婦室や家事室を設けた住宅もあったが、家事使用人がいるとか住宅規模が大きいとかいう場合であった。

最近の台所をめぐる変化は、家族の関係に対する考え方と家事労働に対する考え方の変化を反映していると考えられる。

家族の関係という点では、テレビに奪われていた家族の対話をとりもどさなければならないという考え方がでてきていることによる。食事中でさえも目はテレビに釘づけになっているという生活が、子どもの発達という点からみて大きなマイナスであるという認識がひろがってきている。また、家族がそれぞれの部屋に籠る生活への反省として、居間よりも自然に集まってこられる食堂を充実させ、ＤＫの欠点である調理台が見えるという点をカバーした設計にしようとしている。台所や食堂には食べ物があり、飲み物があるから、ふらりと集まりやすい。事改まって会話をしようという固苦しさはない。

私が今まで住み方調査にまわった家の多くは、だんらんは居間でするというより、食卓をかこんでするという例の方が多い。その点では、台所と食堂をゆったりと設計することの方が、狭い住宅に無理をしてソファーなどを並べるよりもはるかに実質的なだんらんの空間を保証することになるだろう。

家事労働に対する考え方は、いくつかの点で急速に変わってきている。ひとつには、家事労働はお母さんの仕事という固定的な観念が徐々に減少してきていることである。これは、婦人の社会的労働への参加が増大してきていることの反映でもある。20歳から24歳の女子では７割強、40歳から49歳の女子では７割弱（他の年齢層ではもうすこし少ない）が社会的労働に参加しており、家事労働のすべてを婦人がしていたのでは、精神的にも肉体的にも負担に耐えきれなくなる。この面からも家族が協力し合って家事をしなければならない必然性がある。

それにしても、「男子厨房に入るべからず」式の考え方が薄れてきている。男性も週休２日制の普及とともに家事労働にふり向ける時間がうまれてきていることも反映している。また、老後問題への関心の高まりから、男性も日常家庭生活において自分のことは自分でできるようになっておかなければならないという意識の広がりでもある。

これらのことの背景には、家事労働の全般的合理化が進んでいるということも指摘できる。とくに、１日たりとも欠かすことのできない食事づくりでは、インスタント食品などの普及が調理を熟練不要の簡便なものとしたことにもよる。きわめて少数派ではあるが、料理は男のロマンと言う人々もでてきている。

家事に対する考え方の変化は、家事労働のもつ教育的価値が見直されていることである。最近の子どもたちの体や心のおかしさを克服するための手だてとして、労働することの必要性が言われ、最も身近にある労働として家事が見直されてきている。子どもが家事をすることを通して責任感や思いやりを育てると同時に、目的に適ったように動く手をつくることができる。

また、全く違った面からも家事の考え方に変化がみられる。食品添加物の危険性は消費者運動などを通して警鐘が鳴らされ続けているにもかかわらず、いっこうに減少していかない。家族の健康に心を配ろうとすれば、食品の購入や加工に対して人一倍の時間をかけて安全な品物を探したり手づくりを心がけざるを得ない。そこで、家事は全般に合理化されているにもかかわらず、調理労働時間は短縮させることができない。それだけ台所に拘束されるなら、台所を快適な場所にし、そこを家の中心にしようという考え方が出てくるのも当然である。そうなると、よほど固苦しい来客でないかぎりは、接客もまた台所とオープンに続く食堂でなされることになる。そのときのテーブルは多目的利用できるような十分な大きさが必要となる。

〈大きな居間・２つ目の居間〉

さて、台所と食堂が快適になれば居間の使われ方も変化してくる。居間の使われ方をみると、居間とは名ばかりで、応接間として使われている場合も少なくない。日本人のだんらんには、お茶とつまみ菓子とテレビが欠かせない形式になっている家庭が多いから、台所や食堂と壁と扉で仕切られた居間の場合などは、だんらんは居間でおこなわれず、食事にひき続いて食堂でおこなわれる。ソファーセットも夏の蒸し暑さの中では場所ば

かりとってわずらわしく、冬の寒さの中では足元が冷えてコタツが恋しい。コタツとソファーを共用している家庭では、ソファーの座を背もたれがわりにコタツに入っている。ソファーがくつろぎの家具として活用されている家庭も少なくないであろうが、コタツに入ってドターッとしていたいという要求を率直に形にできる居間があっていいはずなのに、居間にはソファー・セットを置くべきものという固定概念ができあがっていた。

最近の居間のひとつの傾向に、大きな居間の中に和室をつくる傾向がでている。じゅうたんとコタツという組み合わせがもひとつぴったりこないという人に、ソファーやじゅうたんの上でのごろ寝は爽快でないと感じている人には活用されるであろう。

居間の新しい形ということで、「大きな居間」もふえてきている。大きさは10畳ぐらいから30畳ぐらいまであり、差は大きい。使われ方も、ピアノから大型のオーディオセットまでを置いた使い方から、ほとんど何も置かずその何もない広さ自体を価値と認めている使い方まである。前者は子どもが大きくなった家族に、後者は子どもがまだ幼い家族にみられる。居間を大きくすることが、生活を快適にすることになっているかという点では、大きな居間のある家に居住している人のほとんどは、気持ちにゆとりが生まれるということをあげている。ぼんやりするにも、歩くにも、子どもと遊ぶにも、人と人が当たるということもないし、お互いの行動がすぐ目の前でおこるのでなく、すこし離れて眺められる空間のゆとりが気持ちのゆとりをうんでいる。

現代の住生活が物置き小屋の中に人が入っているかのような物の多さが特徴であるとき、大きな居間に多くの物を入れてしまっては、従来の住生活様式の延長線上で規模の大きさが違うだけということになる。大きな居間が新しい住生活様式であるか否かは、それを求めた生活との関わりで考えなければならない。家全体の規模が大きく、部屋数にもゆとりがあり、かつ各部屋の大きさにもゆとりがあるという場合の大きな居間は、特別の新しさはない。その逆の、家族数ぎりぎりの部屋数で、それも小さ目の部屋で、それでも居間を大きくとるという場合の居間に対する要求は新しさを含んでいる。家族のゆったりとしたくつろぎ、来客とのきさくな会話、子どもの遊び……などを包みこんでくれる、寝ることや着替えることなど以外のすべての生活を居間でおこない、家族の一体感のすこぶる強い家庭を築こうと願っていることの現れと考えられる。

「２つ目の居間」の提案は住み手の要求としてでてきたというより企業の側から提案されており、２つ目の居間を余暇時代の余暇室として使おうと言っているが、住み手の側に積極的に使いたい目的をもっているかどうか。そこが、要求の「先取り」になるのか、「おしつけ」になるのかのわかれ目になる。２つ目の居間が一概に無駄だとも言えないし、逆にこれからのどの住宅も居間が２つ必要であるということでもない。

60年代に描かれたビジョンはバラ色一色であったが、80年代に入った今日、生活をとりまく状況の見通しは暗く、余暇という言葉の響きも生彩を欠いている。減ってはきているというものの「男の生きがいは仕事だ」という考え方が多数派であることにかわりはない。ひとつ目の居間を家族室に、２つ目の居間を社交や趣味に使いたいというという生活要求がでてくるためには、労働時間の短縮、せめて残業や休日出勤がなくなるということが必要である。現在のところ、２つ目の居間という提案は新しい提案ではあるけれど特殊解である。

〈書斎〉

２つ目の居間と同じような性格のものに書斎がある。「今の住宅には男の居場所がない。一家の主には男の城が必要なのだ」ということで書斎がとられるのだが、ある調査によれば、喜んで使っているのは最初の１年間ぐらいで、あとは徐々に物置き場になっていくとでていた。家族がワイワイ集まっているとき、一人で書斎で読書・執筆などということができるのは、よほど職業上の必要性に迫られない限りはできないことだろう。ついつい居間へ出てくる。

労働省の週休２日制キャンペーン映画の中に、「こんな狭い家の中に、あんなかさ高い人が２日も居たら邪魔になります。だから週休２日制には反対です」と言っている主婦が映し出されていた。このような場合、週休２日制に反対なのではなく、住宅の改善こそが必要なのだが、この主婦はその点はあきらめている様子である。これを男性の側からみれば、書斎があればいいのにという夫の居場所要求となって出てくるだろう。逃げ場所としての書斎ではなく、創造の場としての書斎になるため

には、「24時間の会社人間」に決別し、老後生活をも見通した自立した生き方があってこそだろう。

〈収納〉

最近の住宅に見られる新しい変化のひとつは、収納空間の考え方である。高度経済成長期以降の住み方の特徴として、家具・器具類の増加があげられる。大量生産・大量消費の仕組みの中で、言葉巧みな宣伝は要・不要を考えさせる以前に買い込ませてしまっている。一度増えてしまった品々をどのように整理・収納するか。伝統的な収納空間である押入れは、入れるときはまだしも、取り出すときは不便きわまりない空間である。主婦が1日家にいて家事をやっている家庭でも、押入れの不合理さにはうんざりしていることだろう。そこで、納戸形式の収納が見直されている。押入れは人間の体がその中に入らないから取り出しにくいが、納戸なら体全体が中に入って物を入れたり出したりするので、ずっと楽にできる。天井裏を活用するタイプも出ているが、宣伝文句ほど楽々とは物を持って梯子段を昇降できない。入れたり出したりを繰り返すような物ではなく、捨てられない品を保存しておく空間であるようだ。

また、押入れの不合理さが言われる中で、使う場所の近くにしまうという目的に合った収納が設計段階で細かな心遣いがされるようになってきている。玄関にはゲタ箱だけではなく、コート類の収納空間を設け、居間にも見せることを前提とした収納棚をすえ、寝室には1年中の衣類を吊るしておく広いワードローブが造り付けられているものもある。しまう場所と使う場所とが離れていると片づかないから、それをひとつにすることによって片づけやすい空間になる。衣類も吊るしておけば季節ごとの出し入れやアイロンかけが不必要となり、家事労働の軽減になる。婦人の社会参加が今後とも増加していくであろうから、家事労働の軽減要求は強まるであろうから、各部屋ごとの収納計画は改善されるだろう。

〈和風続き間〉

以上のような洋風化、合理化が進む一方で、伝統的な接客空間である床の間付きの和風続き間の復活もみられる。持ち家における規模拡大が、最初は就寝分離ができる程度の室数増加に向かい、それを越えると、一方で居間の拡大に向かう型と、一方で和風続き間型の接客空間確保に向かう型とに分化している。概括的にみて、前者はプレハブ住宅、マンションに多く、後者は地廻りの業者による建売住宅に多い。

商品としての住宅には売り込む目玉が必要である。室数の多さとか、大きな居間とか……。そして、規模にゆとりが出てきたひとつの型が和風続き間だが、接客空間は家族の生活空間とは別に用意されなければならないとする意識を育てる結果となる。戦前の家父長制家族制度下における接客重視に近い間取りを前にして、今日の住生活ではどのように使われるのか考え込んでしまう。「接客のための一室」という住要求が根強くあることは認めるが、今日の家族関係を発展させていく内容をもつかとか、活用されるかとか考えると、新しい住生活様式としての積極的位置づけはできないと考える。

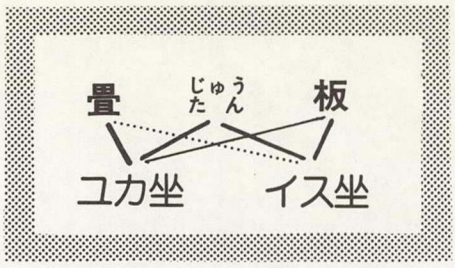
先日、東京都内（主に区部）における分譲価格1億円以上の住宅のいくつかを並べてみて、なんと主張のない住宅なのだろうかということに驚いた。一部屋が8畳、10畳という単位である点はさすがにゆったりしていると評価できても、全体を通して言えることは唯々部屋数が多いということである。どう住み方を考えてみても、不必要、使いようのない部屋がある。売る側も買う側も、これだけのお金をかけながら、自らがどのような住生活様式を選びとるのか、創り出すのかという点での目的意識性がない。住宅は広ければよいという程度の認識しか持たれていないことがよみとれる。

一方で、自己の住宅を共同で建設していくユニークな活動を続けている「都市住宅を自分たちの手で創る会」の間取りを並べてみると、限られた面積の中で精一杯の主張をしている。

住み方調査をしていて痛感するのは、選びとられた住生活様式が生活要求に裏打ちされていない場合が少なからずあることである。住宅とは形だけを選ぶものではないということを啓蒙することが、住宅関係者が住宅需要者に言わなければならないこととして、一定の住宅水準の向上の中で考えさせられる。

（たなか　つねこ　奈良教育大学助教授）

床面様式と起居様式



今井　範子

1．はじめに

むかしは、部屋を呼ぶのに「四畳半」と言ったり、「六畳の間」といったりしたが、そういえば部屋の大きさもすぐわかったものである。しかし、近頃の子供には、そういうことがわからない子がいるという。住まいに、洋間が多くなってきたし、畳が敷いてあってもその上にじゅうたん等が敷かれてあったりする昨今では、そのような子供がいることもむりからぬことかもしれない。

畳はそれほど身近なものでなくなってきたのだろうか。とくに、ホワイトカラー層を中心とする日本の都市住宅において、第二次大戦後、そして高度経済成長期に急激に変貌しながら、畳から板の間へ、それにともない起居様式も床坐から椅子坐へと移行してきた。畳を残すところは、夫婦寝室あるいは座敷のみか、時には畳の全くないプランさえ見かけるまでになってきたのである。

はたして、住まいの洋風化はどこまで進むのだろうか。このままつき進んで畳はなくなってしまうのか。あるいは残るのか。複合した発展をするのか。

2．洋室化の進行パターン

こうした住まいの洋化は、大正時代から昭和にかけて広まった、玄関横の洋風応接室からはじまる。第二次大戦前までは、直接家族生活と関係のない応接室に留まっていたといってよい。もっとも子供の勉強机は椅子式になりつつあったが、まだ床は畳が主であった。

戦後、板床に椅子式の様式は、まず食事室にはじまり、ついでリビング、子供室へと急速に伸びてきた（**図1**）。

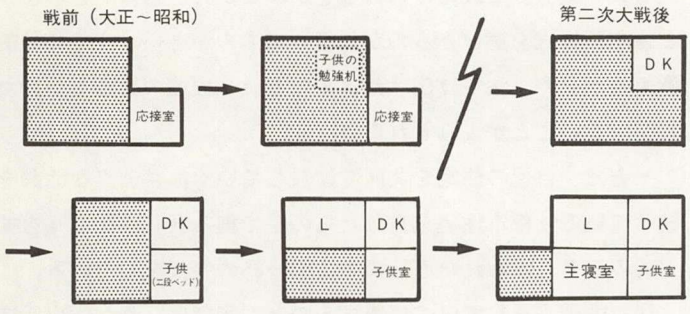


図1　洋室化の進行パターン

食事室についていえば、ホワイトカラー層を対象とした都市住宅においては、椅子式食事が定着した感じである（**図2**）。公団住宅のプランがＤＫを採用したことも、普及効果にかなり影響を与えたことだろう。

同様に椅子式が普及しているのが、子供の勉強机である（図２）。それに寝床のベッド化率も高く、子供室の洋室化はかなり進行しているといえる。

3．団らん・くつろぎの場の洋式化

団らん・くつろぎの場についてみると、板やじゅうたん仕上げによる洋間のリビングが増えてきているものの、一戸建て住宅などでは畳の居間が結構ある。そして、くつろいだ居間として好まれて使われている。しかし、全体としては洋式化していっているといってよい。とくにマンションでは、限られた面積の中でのスペース節約の必要などから、ＬＤＫ形式(最近では、じゅうたん仕上げが多い)で供給されている場合が多く、こうした傾向はむしろ供給側の方から洋式化を促進させているともいえる。

4．床坐の併存

しかし、床面は畳から、板やじゅうたんなどにかわっても、この団らん・くつろぎ行為には、床坐の併存が特徴的である(図２)。洋間のリビングでも、椅子にも坐り、床にも坐るということになる。靴をはいている欧米のリビングでも、そういうことは普通に行われていることであるから、靴を脱いで上がる日本の履床様式は、より床坐を親しみやすくさせるものであり、もっと積極的に床坐を見直した住まい方が考えられてよい。団らん・くつろぎには、時には床にゴロリと横になれるような自由なスタイルが求められる。和洋どちらともいえない融合した日本独特のスタイルが求められるであろう。

5．日本独特のスタイル・生活様式の混乱

調査していて、たとえば、冬季に、洋間のリビングで「ホームコタツ」(電気）に坐りこむというような一見、「和洋折衷式」の住まい方が見られる(図２)。コタツというと古くからあると錯覚するが、あの赤外線のホームコタツは戦前にはなかったもので、昭和30年代以降の家電ブームの中でメーカーが開発したものである。それは当時、安直な暖房設備として多くの需要をえてきたが、昨今のように「省エネばやり」になると、またぞろ重宝されるかもしれない。

コタツに限らず他の家電製品、家具(応接セット…)など多くの耐久消費材を買い込んできたが、メーカーの宣伝、売り込み攻勢に先導され、買い込まされてきたともいえる。その結果、日本は高度成長できたし、たしかに生活も近代化、合理化された面は大きい。が、しかし、起居様式に限らず住生活の種々の面で、生活様式を混乱させているところも大きいのである。

たとえば上のような独特のスタイルを「過渡的なスタイル」とみるのか、「新しい定着のスタイル」とみるのか、「混乱の結果」とみるのか。

混乱せるスタイルを日本独特のスタイル（たしかにそういう現象は日本独特のことであるが）としてしまえばそれまでのことであるが、ほんとうに日本人にマッチしたものであるのか検討し、今後の住様式発展の方向を考える必要があろう。

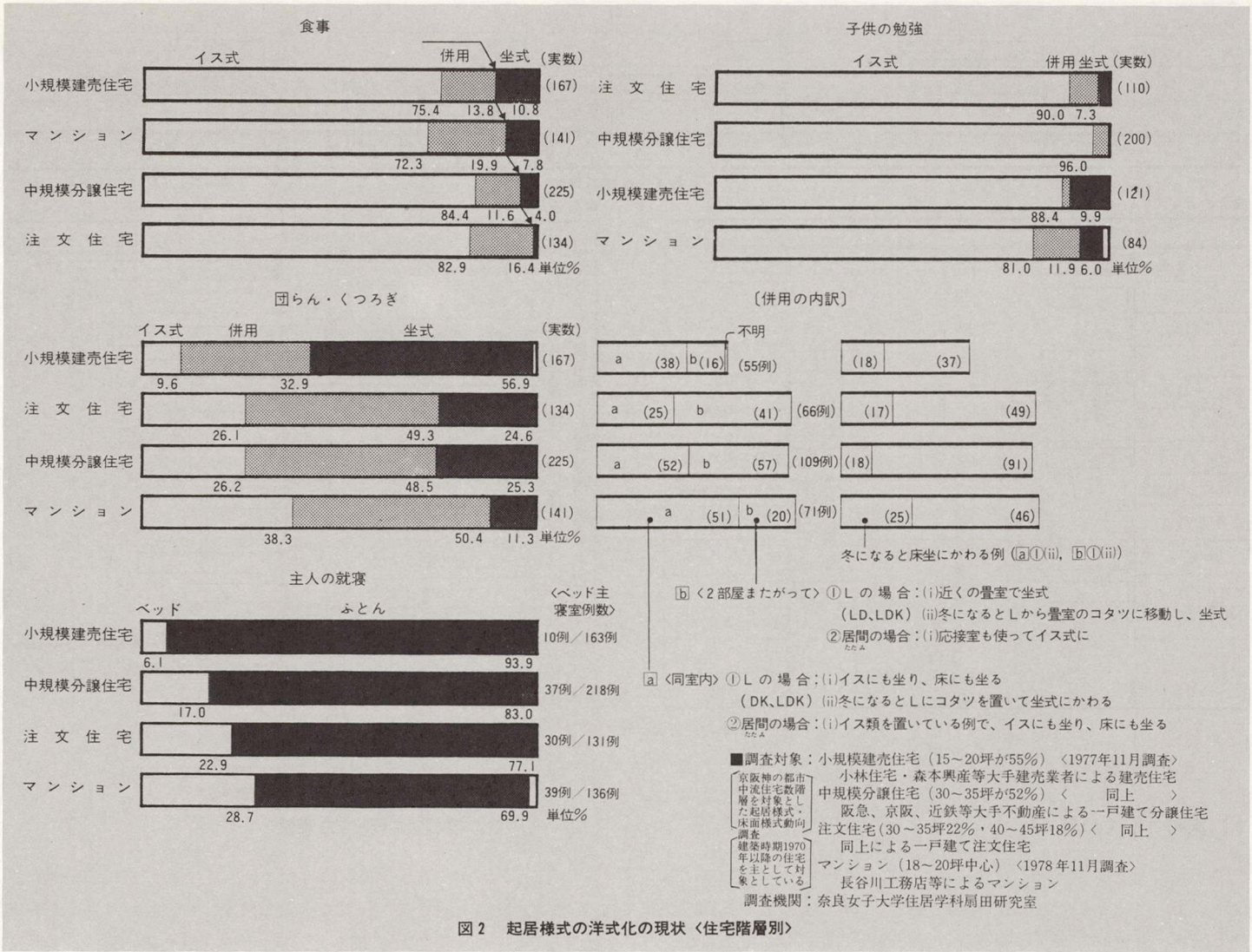


図2　起居様式の洋式化の現状〈住宅階層別〉

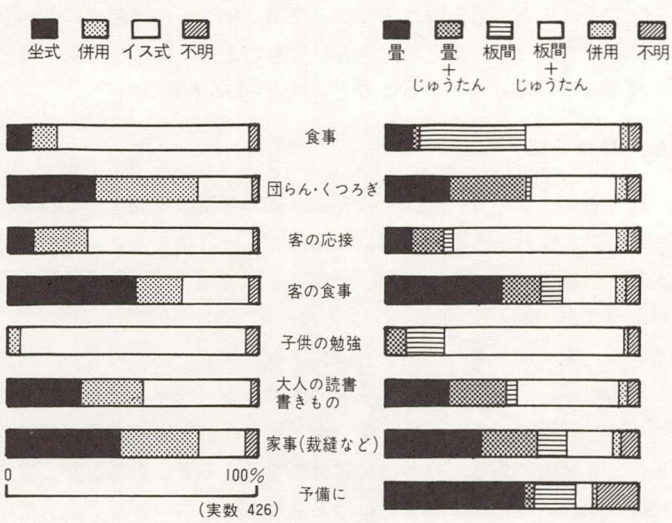
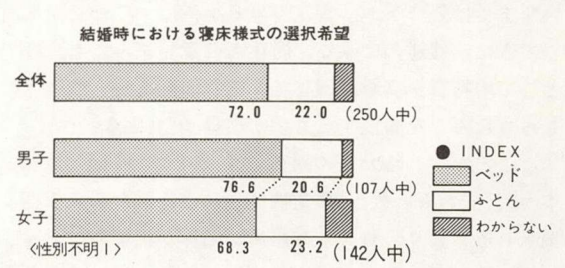


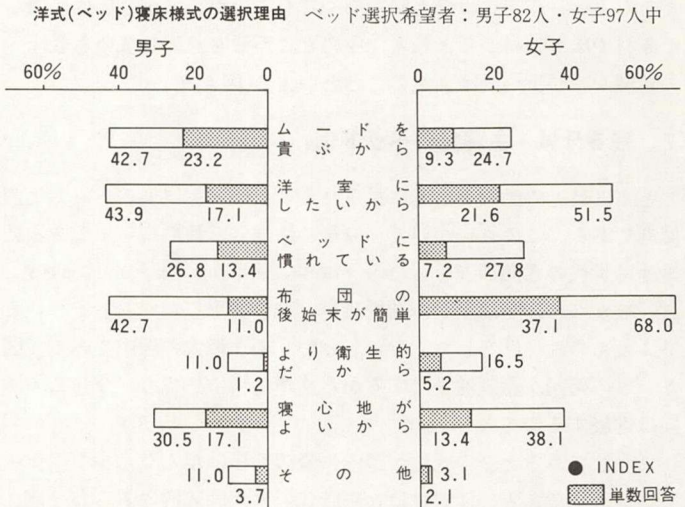
図3　各生活行為における起居様式、床面様式の希望意見　■ケース：中規模分譲住宅

へやとしての必要性	ねころぶ・坐る便利さ	床材としての具合よさ	タタミへの愛着度
なくてもよい 1.4(6)	他の床材がよい 1.2(5)	すぐれていない 5.2(22)	愛着はない 8.2(35)
1室はほしい 30.0(128)	どちらでもよい 20.9(89)	どうともいえない 17.4(74)	どうともいえない 8.7(37)
2室以上ほしい 67.4(287)	タタミの方がよい 77.2(329)	すぐれている 70.6(301)	愛着がある 80.8(344)

426人につき%　( )は実数　その他・不明を除く

図4　畳に対する意識　■ケース：中規模分譲住宅





■調査対象：奈良女子大学・京都大学の学生
調査時期：1978年7月
調査機関：奈良女子大学住居学科扇田研究室

図5　結婚適齢世代における主寝室ベッド化の志向傾向

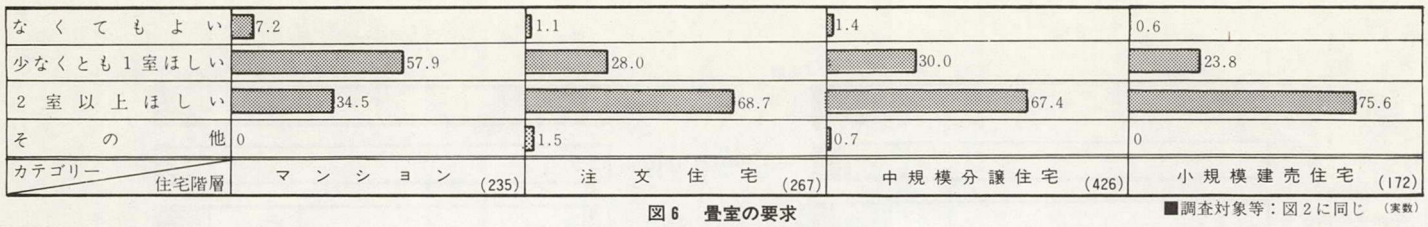


図6　畳室の要求　■調査対象等：図2に同じ　(実数)

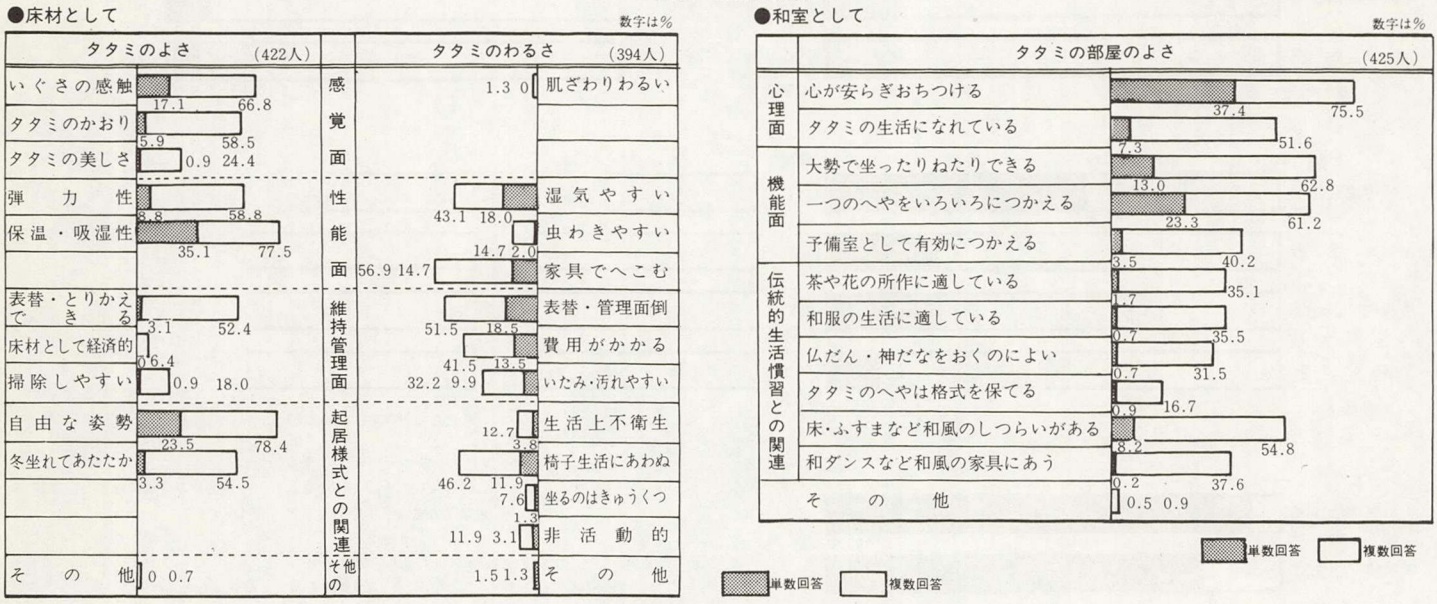


図7　畳室の各評価　■ケース：中規模分譲住宅

6．床材としての畳

話を元にもどすと、いくらじゅうたんに椅子式というように洋風化されていったとしても、日本の靴を脱いで床の上にあがる様式が続く限り、普遍的に床坐は残るし、また残ってよいものであろう。

今までは畳ゆかが、素足や坐る生活にマッチした床材として対応してきた。後述のように、居住者の意見をみても、今でも畳の床材としての特質を高く評価している。団らん・くつろぎに畳ゆか（＋じゅうたん）を希望するものが結構多い(**図3**)。

ところが、われわれの調査では、いぐさ産地の変動（岡山から熊本へ）、床わらの欠乏(農業機械化による稲わら入手難、海外からの輸入）等により、畳の生産事情に暗影が出てきており、それに替わる化学畳などの開発も試みられているのが現状である。こういうことをみると、床坐には畳と限らなくてもよいが、素足、床坐に適した床材や床下地材が望まれる。今のところ最も適応している畳床への希望が根づよいのは当然のことといえる(**図4**)。

7．残る牙城・主寝室のベッド化

とくに最近の動向として注目されることは、主寝室のベッド化の傾向である。この点について、今後の住様式転換の担い手である結婚適齢世代の意向調査をしたが（1978年7月奈良女子大、京大学生対象)、彼、彼女らの70%以上が、結婚後ベッドを使用したいと答えている。「ふとんの片付けをしたくない」というのが最大の理由である（**図5**)。この何割が希望通りにするかどうかは別にしても、今後この傾向は進展するのであろう。

こうしてみると、洋式化が進み、畳の部屋はだんだん少なくなっていくようである。洋式化は大正時代以来、図式的にあらわせば、応接室→〔子供の勉強机・イス〕→食事室〔ＤＫ〕→子供室→リビングルーム→夫婦寝室というようにかなり進んで、今ではもうくるところまできたという感すらする(図1参照)。

8．一方で、根づよい畳への意識

ところが、このような現況にもかかわらず、われわれの最近の調査では、最低1室、できれば2室畳部屋がほしいという答えが約90%以上をしめるのである(**図6**)。居住者の「畳礼讃」意識を額面どおりに受けとるのも危険であるが、意識というものは急速に変わりうるものではなく、あとまで尾をひくものと考えると、畳部屋はそう簡単になくなっていくとは考えられない(**図7**参照)。

9．おわりに

居住者の住まい方の動向をみると、畳の部屋は室種として特定化されていく傾向がある。客間、予備室、夫婦寝室、ときに居間、老人室と。最後の1室は、客間、予備室として残されていくのではないだろうか。

戦後、床の間をもつ「座敷」は、いろんな点から一時否定されたこともある。しかしながら、「床の間のある『和室』がないと落ちつかぬ、安らぎがない。恰好がつかない」などという生活感情のあることも事実である。日本の接客習慣を考えると、畳部屋が1室あれば、親しい客の泊まり、時にはあらたまった客のとき、ＤＫでは無理な少し多人数の客の食事など、自在に使うことができる。日常は、ごろりと横になりたければなれるし、洗濯物をたたんだり、アイロンかけをすることもできる。予備に1室とるならば、「和風のしつらいのある畳部屋」にしておいた方が、転用性、融通性がフルに発揮され、面積調整にもなるし、日本的な諸慣習を処理していける利用価値の高い部屋となる。

ちょうど、現在の衣生活において、洋服にかわった中での和服のように、畳部屋も同じような感じでうけとめられていくのかもしれない。畳生産事情からくる畳の高価格化はその傾向をより促すかもしれない。「和風」の趣味性を求める室として「特化」されていくのではないだろうか。

（いまい　のりこ　奈良女子大学助手）

一戸建住宅のK、D、Lスペースにおける住み方

三枝　小夜子

はじめに

今日、都市一戸建住宅のプランは全国的にみると多様化が進んでいるが、大都市圏での主流は、プランの中心にK、D、Lをすえる、いわゆる公私室型住宅だといえる。

公私室型住宅の住み方の傾向ではっきりしている点は、2階の居室が子供室として私室化すること、その上で居室数に余裕があれば夫婦寝室も2階にとられることである。ところが、1階での住み方は2階のシンプルさとは打って変わって大変多様である。1階では限られた面積の中で、K、D、Lと居室群をうまくセットし、炊事、食事、だんらん、接客、家事など雑多な住行為を快適に能率良くこなそうとするわけだから、1階のつくり方・住み方こそ設計者と住み手双方の腕の見せどころといって過言でなく、そのあり方が問われるところである。

1階のあり方をめぐる大切な問題のひとつに、住み手のライフスタイルにあわせて、K、D、Lの4つの型—ワンルームの〈KDL〉、KDとLに分かれる〈KD・L〉、KとDLに分かれる〈K・DL〉、KとDとLに分かれる〈K・D・L〉—のうちどれを選べばよいかという問題があるが、この点についての知見は今のところ十分には得られていないようである。

そこで本稿では、S55年11月に行った住み方実態調査の結果をもとに実例を紹介しながら、かなり明瞭に現れている4つの型別の住み方の違いについて整理を試みてみよう。調査の対象はT不動産のIニュータウンの建売住宅49戸である。対象住宅のK、D、Lの面積は都市一戸建住宅での値に近似し、面積的には標準的プランといえる（**表－1**）。居住者は、家族人数4人の核家族、ホワイトカラー層中心である。

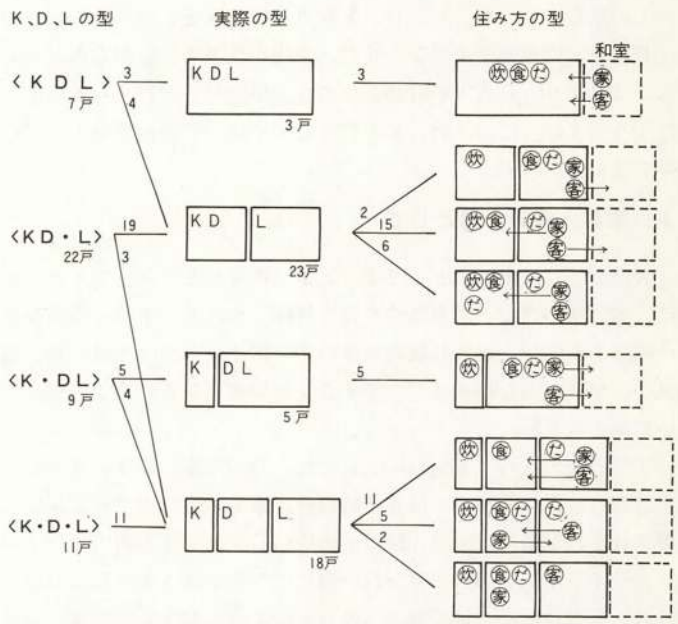
表－1　調査対象住宅の戸数と平均面積

	戸数	K、D、Lの各面積(㎡) K	D	L	K、D、Lの総面積 (㎡)	延べ面積 (㎡)	都市一戸建住宅K、D、L総面積 (㎡)
〈KDL〉	7	22.2			22.2	94.72	22.1
〈KD・L〉	22	13.3		13.7	27.0	100.20	26.4
〈K・DL〉	9	7.8	17.4		25.0	97.82	23.4
〈K・D・L〉	11	8.4	8.0	13.4	32.8	100.49	31.4

注．都市一戸建住宅の平均値については、大阪市立大学住田研究室で行った宝塚、豊中、長岡京、向日、宝塚各市の一戸建住宅のプラン分析の結果に基づいている。

1．住み手によるしつらえの変更

調査の結果でまず目につくのは、K、D、Lの分かれ方を、カーテンやサイドボード、イス・ソファを使って住み手が変えている点である（**図－1**）。



注．㊙は炊事、㊐は食事、㊍はだんらん、㊗は家事、㊞は接客の各住行為を指す。「→」は各住行為に補助的に使われるスペースを指す。

図－1　K、D、Lの4つの型別の住み方の違い

〈KDL〉では〈KD・L〉へ、〈K・DL〉では〈K・D・L〉へおのおの半数が変えている。これはDとLを分けたいとかLを確保したいという住要求のあらわれである。また、〈KD・L〉では9.0帖以上の広いKDの場合、KとDを分けている。

2．K、D、Lの多目的性

住行為に目を移すと、K、D、Lの多目的性が注目される。K、D、Lでの基本的な住行為といえば、K＝炊事、D＝食事、L＝だんらんであるが、実際にはこのほかにも接客や家事（炊事以外の）、育児、子供の遊び、更衣など雑多な住行為がされる。これら住行為の場はプラン上明確ではないが、住み手はK、D、Lや1階の和室を適宜使い分けて場を確保している。1日の生活サイクルを考えてみても、K、D、Lが食事やだんらんに使われる時間はむしろ限られているわけだから、残りの時間には恰好の家事労働の場、子供の遊び場、接客の場として使われる。K、D、Lは、1日の生活サイクルの中で多目的に使い分けられてゆくスペースだといえる。だから住み手は、K、D、Lに炊事、食事、だんらんの場をまず確保した上で、他の雑多な住行為をいかに組み込むかに住み方の工夫をしている。4つの型別の住み方の違いは、多目的スペースK、D、Lの住み方工夫の違いといえる。

そこで以下では主要行為別にこの傾向をみてみよう。なお、以下でいう4つの型とは、図－1の「実際の型」を指す。

3．炊事、食事、だんらんの場として

炊事、食事はほぼK、Dに定着しており問題はないが、だんらんの場のとり方には苦心がうかがえる。

だんらんの実態で目につくのは、世帯主は仕事で帰宅が遅くなりがちだが、子供が寝てしまっていたり子供室へ行っていたりして家族全員が揃えず家族の誰かが欠ける「すれ違いだんらん」や、主婦は炊事をし、子供はＴＶをみ、世帯主は新聞を読みながらといった「ながらだんらん」が多いことだ。そこで住み手はできるだけコミュニケーションがはかれるように、だんらんにはＬを中心にしながらＤもよく使っている。だんらんにはK、D、Lが開放的な方が便利だといえる。

この点からいうと、K、D、Lがカギ型でKとLが分離する〈K・D・L〉は意外と不便なようだ。主婦が炊事をしながらのだんらんにはＬよりもＤの方が好都合なので、手狭なＤがだんらんの中心になりやすい。このため〈K・D・L〉では、Dの面積拡大を望む声が強い。

4．家事、趣味の場として

K、D、Lは主婦にとっては、炊事、洗濯物たたみ、アイロンかけ、家計簿つけなどの家事や多様な趣味―和洋裁、手芸、絵画など―の場である。このうち散らかりやすいアイロンかけや縫い物、道具が広がりがちな趣味はどこでするかが問題となるのでこの点についてみてみよう。

４つの型のうち〈K・D・L〉では、Dが家事、趣味の場として重宝がられ、Ｄテーブルは食事時以外は家事、趣味用テーブルに活用されるのが特徴だ。 5.0帖以上の広いＤでは、家事用の机やミシン、サイドボードなどが置かれ一層この傾向がはっきりしている。一方、KとDとが一体である〈ＫＤＬ〉と〈K・D・L〉では、Ｄテーブルが流しのすぐ横にあって手頃な調理台や配膳台として使えるので炊事には便利という利点があるが、縫い物や趣味には使いにくい。そこで〈K・D・L〉ではＫＤとのつながりからも便利なＬが家事、趣味に使われ、〈ＫＤＬ〉では、狭いＬスペースを避けてＬの隣にある和室が使われる。〈K・ＤＬ〉では、ＤＬが接客室的になりやすいため家事、趣味にはＤＬと和室の両方が使われる。

したがって、炊事の利便性を重視するなら〈ＫＤＬ〉か〈K・D・L〉がよく、炊事よりも他の家事、趣味を重視するなら〈K・D・L〉が便利といえる。

5．接客の場として

K、D、Lは接客の場としても重要である。来客のうち最も多いのは主婦の近所の友人である。子供や趣味、習い事を通じてのつき合いが活発でお互いの家が社交の場となっている。家事、趣味に加えて主婦の接客という点からも昼間主婦が自由に使える場が求められている。

頻度の点では劣るが、世帯主の仕事関係の客や友人など、気のはる客を通す場の確保がかなり住み方に影響するのも見逃せない。

〈ＫＤＬ〉は、ＬスペースからＫスペースが見えること、ＫＤＬが狭くイス・ソファがしつらえにくいことから接客には１階和室が主に使われている。逆に〈K・ＤＬ〉ではKが分離しているのでふいの来客時にも困らず、ＤＬはゆったりした接客室として使われる。大型で高級なＬＤセットを置き、Ｄテーブルを来客が多いときの食事にも、ちょっとした応対にも使えるよう配慮されているのが、〈K・ＤＬ〉の特徴である。〈ＫＤ・Ｌ〉と〈K・D・L〉とは、Ｌが使われる点では同じだが、しつらえに違いがある。前者ではＬを接客やだんらん、家事など多目的に使えるようにイス・ソファをＬの隅に寄せＬの真ん中を広くあけるラフなしつらえが多いのに対して、後者ではだんらんや家事がＤに移りやすいのでＬが接客室的になり、応接セットを揃えるフォーマルなしつらえが多い。

したがって、接客用にK、D、Ｌを広く使いたい家族には〈K・ＤＬ〉または〈K・D・L〉が便利である。〈ＫＤ・Ｌ〉ではＬを多目的に住み分ける工夫がいるし、〈ＫＤＬ〉では接客に使える補助的な和室が必要とされるといえよう。

6．４つの型別の住み方の違いと実例

これまでみてきた特徴点を総合して、４つの型別の住み方の違いを住行為としつらえから整理しよう。**図－２**の実例もご覧いただきたい。

①〈**ＫＤＬ**〉　Kが見えて接客には不向き、ＫＤＬが狭く、イス・ソファを置きにくいことから、〈ＫＤＬ〉はラフなしつらえの家族の炊事、食事、だんらんの場になりやすい。このため、１階和室がＫＤＬを補って家事、接客に使われる。だからＬスペースを接客にも使いたい場合や13.0帖以上の比較的広い〈ＫＤＬ〉では　〈ＫＤ・Ｌ〉の住み方に変えている。例１は〈ＫＤＬ〉の住み方例である。例２は〈ＫＤ・Ｌ〉への変更例である。

②〈**ＫＤ・Ｌ**〉　ＫＤはＫの影響を受けて炊事と食事に専用化しやすい。一方Ｌはだんらんや家事、接客など住行為が集中する多目的スペースとなりやすい。しつらえの点でもＬが多目的に使えるようイス・ソファを壁面に寄せてＬの真ん中に雑多な住行為に便利なコタツや座机を置くのが特徴だ。 8.0帖以下のＬでは面積拡大要求が強いのも、多目的性のためだといえる。例３はこの典型例である。例４はＫＤがカギ型でＫスペースとＤスペースが分節する場合の住み方例であり、Ｄスペースが家事やだんらんにも使われる。

③〈**Ｋ・ＤＬ**〉　Kの散らかりが見えない、ＤとＬとが１室として広く使えることからＤＬ全体が接客室的性格を強め、大型で高級なＬＤセットが普及している。しかし接客を重視しない家族ではＬからＤが見えるのはやはり不都合なので、ＤとＬを分けて〈K・D・L〉の住み方に変えている。例５は接客室的しつらえの典型例である。例６はＤ、Ｌ各スペースが垂壁で分節する場合、Ｌスペースにジュータンを敷き、Ｌスペースを分けようとしている例である。

④〈**Ｋ・Ｄ・Ｌ**〉　この型では、Ｄが食事のほかにだんらんや家事にも使われ、多目的スペースとなりやすい。Ｄが 5.0帖以上ある場合には、家事室的な性格がはっきり現れてくる。Ｄの面積拡大要求が出ており、とくに 4.5帖の場合に強い。一方、Ｌは接客の場または接客とだんらんの場になりやすい。例７は、Ｄを家事室的に使っている典型例である。

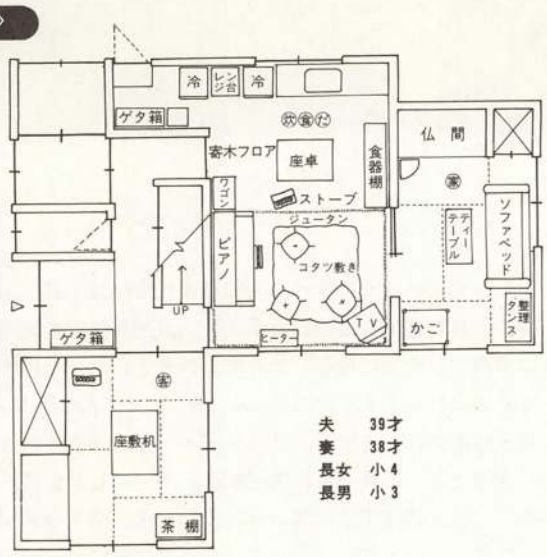
おわりに

K、D、Ｌ各スペースのつながり方というプラン上の条件は、主要な住行為である炊事、食事、だんらん、および家事、接客の重なり方、分かれ方にかなり影響し、住み方の違いを生んでいる。K、D、Ｌスペースの今後のあり方を問うにあたっては、「ながらだんらん」や「すれ違いだんらん」という、だんらんの現状や、多様な家事、趣味、接客要求がどう動いていくかについての検討が必要のようである。

最後になりましたが、本調査にご協力くださいました皆様に深く感謝いたします。

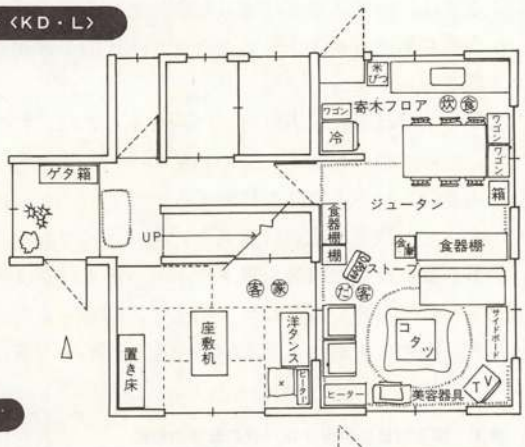
（さえぐさ　さよこ　大阪市立大学大学院）

例1 〈KDL〉



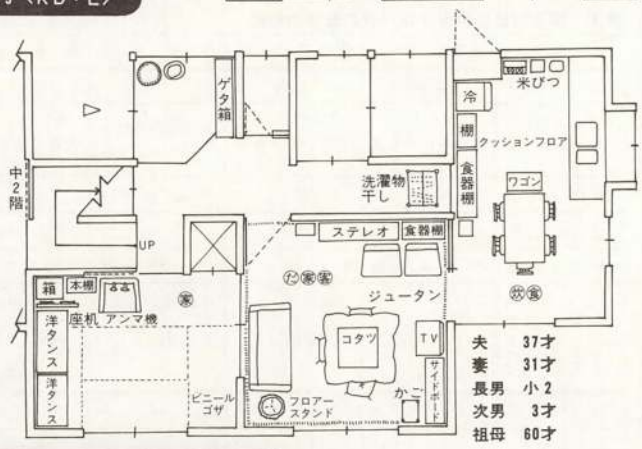
夫　39才
妻　38才
長女　小4
長男　小3

例2 〈KDL〉→〈KD・L〉



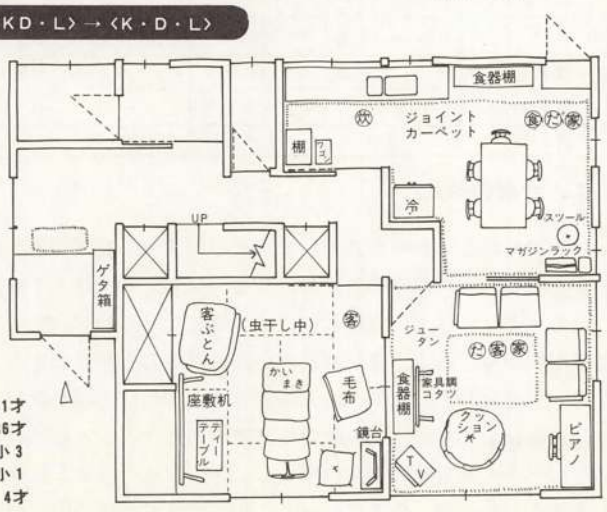
夫　39才
妻　36才
長女　小6
次女　小4
三女　5才
同居老人65才

例3 〈KD・L〉



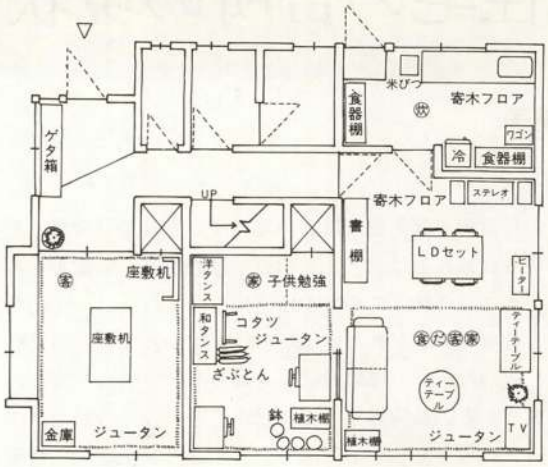
夫　37才
妻　31才
長男　小2
次男　3才
祖母　60才

例4 〈KD・L〉→〈K・D・L〉



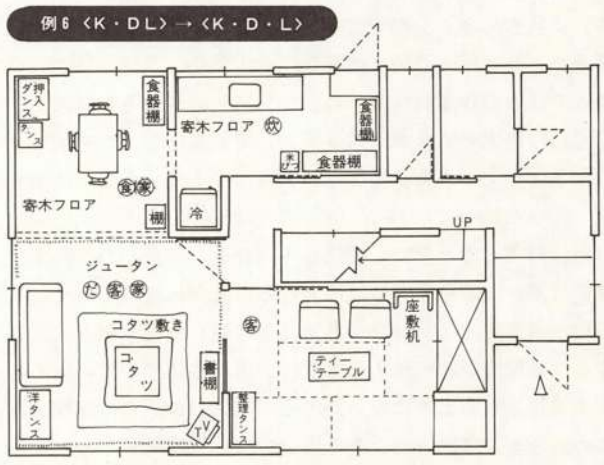
夫　41才
妻　36才
長女　小3
長男　小1
次女　4才

例5 〈K・DL〉



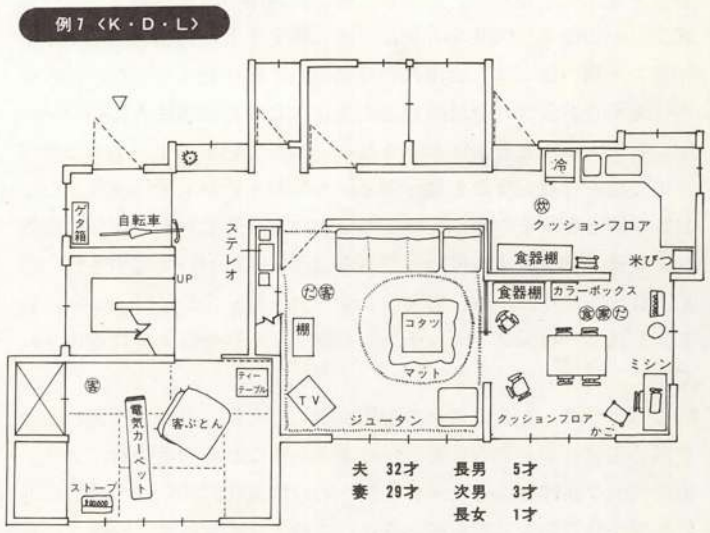
夫　43才
妻　35才
長男　小5
次男　小3

例6 〈K・DL〉→〈K・D・L〉



夫　41才　妻　36才　長男　小5　次男　小4

例7 〈K・D・L〉



夫　32才　長男　5才
妻　29才　次男　3才
長女　1才

注．㊚㊛…の各記号は図－1に同じ

図－2　住み方の実例

都市住宅の台所の現状

沖田　富美子

戦後35年、約¼世紀の間に住宅において台所ほど激しい変化を生じた場所はないと言われるほど、今日の台所はめざましい進歩をみせている。たとえば、これまでの日本住宅における台所は、土間の形式が多く、こんろやかまどあるいはいろりが使われていたのに対し、今日土間形式の台所は一部農家にみられるだけで、ほとんどの住宅が板間形式である。設備器具の面においても、こんろおよびかまどはレンジへ、台付き流しが平型流し、平型および深型の二槽流し、欧米様式の深型二槽流し台等、工業製品化されたものが普及し、一般の人々も手軽に採用することができるようになった。とくに水道（あるいは自家水道）、都市ガス（あるいは自給プロパン）、電気等の普及により台所の設備、機器などの大型化、多様化は著しい。さらに最近では台所作業台（流し台、レンジ、調理台等）に加え、吊戸棚等も台所構成のコンポーネントとして製品化し、台所装備全体をユニットキッチン、ある場合はシステムキッチンとして供給されるに至っている。

また台所に対する考え方にも変化がみられる。すなわちこれまで、台所の位置は寒い、暗い北側に位置されることが伝統的であり、ジメジメした台所というイメージがあったのに対し、戦後個人主義的思潮による生活優先思想の拡大とともに、家族生活の中核の場として台所が重要視されるようになった。その結果、台所の居住性を良くするため、東または西方位、ある場合には南方位にもとられるようになってきたことで示される。なおこのような台所に対する考え方の変化は、戦前まで一般的であった独立台所などの形式にも影響を与えることとなった。すなわち明治期以前の支配階級である中級武士以上の住宅の模倣から生じた独立住宅をもった戦前のホワイト・カラー層の住宅は、使用人の存在の上に成りたっていたが、戦後の住宅不足および社会経済構造の変化により都市居住者は小規模住宅に居住することを余儀なくされるに至っている。そのような状況の中で寝室分離および食寝分離という原則をいかす最低条件として、お茶の間と台所を一室に結合したいわゆる「ＤＫ」形式が作り出され、戦後の公共住宅の供給源である公団住宅において採用され、広く一般化された。一方、居間、食堂、台所を一室にしたいわゆる「ＬＫ」形式（リビング・キッチン）も協会住宅等ではすでに採用されていた。

このように、とくに台所の変化が激しいのは、当然、国民の生活思潮の変化によるものと考えられよう。すなわち明治維新により、前近代的な封建制から立憲君主制への政体変化に伴い、西欧的な近代思想や物質的な文明が移入され、これまでの生活様式が徐々に変化してきた。さらに戦後、主権在民の政治形態とともに、近代的な民主思想や個人思想に基づき、個人生活や家族生活を何よりも尊重する現代的な生活思潮の一般化により、生活革新とも呼ぶにふさわしい激しい変化がなしとげられたのである。

しかし、このような進歩とはうらはらに、台所において行われる生活様式は、他の衣生活、食生活に比較していまだ不安定な状態にあり、国民の標準的な台所というものが追究しきれていない。しかし欧米諸国においては、すでにある程度台所様式は安定している。すなわち、欧州では第一次大戦後居住面積は小さいが衛生的で使い勝手の良い住宅の供給が要求され、欧州各国間の国際的交流をもとにその国民生活に適合した台所が研究された。その中でも最も有名なものは1928年ドイツのFrankfurt A. MのErnst May 等により計画・採用された「フランクフルター・キッヘ」である。現代では欧州各国とも、それぞれの国民生活にマッチした標準的な台所が、公共アパートに採用されている。また、米国では今世紀はじめより主としてホーム・エコノミックにおいて台所の研究が行われ、いわゆるアメリカ的生活様式の確立の一部を担ってきた。

ここに、各国の情況に適した創造的な生活様式を確立し、標準的な台所のあり方を決定することが、国民的な課題として早急にのぞまれると言えよう。

本小論では最近筆者が行った調査をもとに、都市住宅の台所の現状について得られた二、三の知見について報告する。

調査は、日本の住宅を代表する公共アパート、民間分譲アパート、注文住宅、建売住宅の居住者を対象に行ったものである。調査対象世帯および住戸の概要を**表１**に示す。調査時期は昭和47～52年にかけて行ったものであるため、精密な比較をすることはできないが、台所に関する実態および志向傾向を一般的にみることは可能であろう。

表１　調査対象世帯および住戸の概要の比較

	公共アパート	民間アパート	注文住宅	建売住宅
家族人数	４人	４人	４人	４人
家族構成	子供のいる家族	子供のいる家族	大学生の子供のいる家族	夫婦＋子供２人
世帯主年齢	30代	30代	平均　50.8才	－
主婦年齢	〃	〃	〃　46.2才	平均　38.7才
世帯主職業	専門技術職	管理職	管理職	管理職・役員
平均家計費または月収	家計費 7～12万円(KDK) 9～15万円(LK)	家計費 17万円以上	月収(税込) 50万円以上	年収(税込) 平均 450万円 (S50年)
住戸面積	46.28～78.37㎡		－	79～105㎡
最大多数住戸		49.6～66㎡	－	90㎡台
台所形式	DK＞K＝LK	DK＞K＞LK	DK＞K＞LK	DK＞K＞LK
住宅の形態	賃貸・分譲	分譲（89.9%）	持家・木造住宅	持家・木造住宅
以前の住宅	民間賃貸アパート	社宅・官舎等	－	自分の家
調査時期(年)	S47	S47	S50	S52

１．台所の形式

平面構成上の台所形式として、どの形式が一般に採用されているかを見る。どの住宅形式においても「ＤＫ」形式が多く採用されている。とくに注文住宅においては「ＤＫ」型が52.3%で、つぎに「Ｋ」型が40.7%である。それぞれの形式に対する志向傾向をみると、「ＤＫ」型は民間アパート、注文住宅居住者において満足されているのに対し、公共アパート、建売住宅居住者には否定されている。公共アパートの場合絶対的な面積（8.47㎡）の狭さによる体験的なものと考えられるが、公共アパートに比べ比較的面積の広い建売住宅居

住者が否定していることから「ＤＫ」型志向が過渡的段階にあることが示される。一方、「ＬＫ」型の台所はいずれの形式の居住者にも志向されていない。なお「ＤＫ」型につぎ現在多く採用されている「Ｋ」型については、建売住宅居住者で「Ｋ」型使用者の60%が現在の型に満足しており、なお80%以上のものがこの型を希望し、今後の理想的な住宅の台所形式として、この型が脚光を浴びることが予測される。

2．台所平面の規模

公共アパートの台所の面積は、「Ｋ」型6.82㎡、「ＤＫ」型約8.47㎡、「ＬＫ」型は約 21.26㎡である。民間アパートの場合「Ｋ」型では 5.1～10.0㎡までが78.3%となり圧倒的に多いのに対し、「ＤＫ」型では10.1～15.0㎡までが55.2%で一番多く、つぎに5.1～10.0㎡までが約30%を占めている。「ＬＫ」型になると15.1～20.0㎡までが34.8%となり一番多い。建売住宅は、今回の調査では「Ｋ」型5.68㎡と6.63㎡の２種、「ＤＫ」型9.94㎡、 11.59㎡と13.5㎡の３種、「ＬＫ」型は 16.56㎡と 19.87㎡の２種の広さとなっている。また注文住宅の場合「Ｋ」型は６㎡以下が一番多く32%、「ＤＫ」型は12～14㎡未満、「ＬＫ」型は14～16㎡未満と20㎡以上が多く、住宅の形式によりその広さに若干の相異がある。つぎに広さとその満足度の関係を、注文住宅と建売住宅居住者の「Ｋ」型、「ＤＫ」型についてみると、「Ｋ」型の場合、6～８㎡未満の場合不満とするものが多い。また「ＤＫ」型の場合、面積が広くなるにつれて不満の割合も減少し、12～14㎡では不満とするものは約⅓に減少する傾向がある。

以上のことより、「Ｋ」型の場合８～10㎡、「ＤＫ」型の場合12～14㎡の広さが満足できる広さであると言えよう。

3．台所作業台の規模

ここでは流し台、ガス台、調理台の部分を含んだ作業台の全幅について分析した。調査対象とした公共、民間アパートの住戸はあらかじめ幅 1,800と 2,400とに分類したものであるが、現状より拡大しているものが多く、建築上の寸法的制限を受けにくい「ＤＫ」、「ＬＫ」型にその傾向が強い。つぎに注文住宅の場合、Ｉ型配置では全幅 2,250～ 2,700未満が一番多く、つぎに 1,800～ 2,250が多い。これを既製品の台所作業台の寸法から考えると、幅 600のガス台と幅 1,200の水切台つき流し台に、幅 300と 600の調理台が配置された長さ、または幅 450の調理台が配置された量と考えられる。Ｌ型配置の場合はＩ型よりも長く幅 2,700～ 3,150のものが29.1%となり一番多い。したがって注文住宅の作業台幅が他の三形式よりも比較的長くなっている。

つぎに全作業台の幅に対する評価は、公共アパートの場合、1,800の使用者よりも 2,400以上のものの使用者に不満が多い。これは賃貸住宅であるという現実的な意識からくるものと思われる。民間アパートの場合、1,800では狭すぎるとするものが多いのに対し、2,410以上になると満足するものが多くなる。独立住宅では幅が長くなるにつれてその満足度も増加し、Ｉ型の場合 2,250～ 2,700未満では67%のものが満足し、Ｌ型では 3,150～ 3,600未満で78.6%のものが満足を示している。建売住宅の場合、作業台の幅は 2,124であったが65%のものが不満としており、建売住宅、公共アパート、民間アパートの一部で作業台の幅の不足が示されている。

4．台所作業台の配列および配置

台所作業台の配列とは、流し台、調理台、ガス台などの各作業台がどのように並べられているかを言う。すなわち公団住宅で開発した流し台中心の配列と調理台中心の配列であり、他に作業台の全体の配列により左側に火（たとえばガス台）、右側に水（たとえば流し台）が配列される左勝手あるいは右勝手の形式が考えられる。

公共アパートの場合は、いわゆる公団型の幅 1,800の作業台が採用されている「Ｋ」、「ＤＫ」型では当然流し台中心が多いのに対し、「ＬＫ」型は幅 2,400の作業台が使われ調理台中心である。民間アパートの場合、幅 1,800の作業台の場合は公共アパートの作業台と同様、68.5%が流し台中心となっている。一方、幅 2,400の作業台の場合も流し台中心が89.3%となっているが、この場合の流し台とは水切台つきの流し台と考えられる。なお注文住宅の作業台の配列は多種多様であるが、本来的な流し台中心の配列はほとんどみられなかった。また「右勝手」、「左勝手」の形式から分析すると、「右勝手」が70%となり圧倒的に多い。

配列に対する居住者の志向は、狭小台所用に日本住宅公団が開発した流し台中心の配列は今後完全に否定され、調理台中心志向が圧倒的になる。なお「右勝手」、「左勝手」については、現在それぞれ使用している配列形式に満足する傾向がある。これについては筆者らの実験研究からも両者にはそれほど有意な差はないという結果が得られている。

つぎに台所の作業台の配置すなわち流し台、ガス台、調理台部分等の台所における構成方法で、一般にＩ型、Ｌ型、Ｕ型、並列型などをさす。現在公共アパート、建売住宅ともに作業台の配置型はＩ型のみである。民間アパート、注文住宅の場合その配置型の種類は増えているが、同様にＩ型が圧倒的に多く民間アパートは92.4%となり、注文住宅では70. 2%である。つぎに多い配置型はＬ型である。なお注文住宅における平面構成上の形式とＬ型配置の採用の関係を分析すると、「Ｋ」、「ＤＫ」型では約⅓の住宅に、「ＬＫ」型では約¼の住宅にＬ型配置が採用されているにすぎない。このようにＩ型配置が多く採用されているのに対し、一般主婦はＬ型配置を志向する傾向が強い。これは適正規模よりも小さいＩ型配置の台所使用者にとってＬ型であれば作業台の幅も増加し、便利であろうという推測からきているものと思われる。

5．台所の収納スペース

現在、経済の高度成長に伴い、食品、食器、調理器具、機器等の各種生活物資が台所にもちこまれ、空間的に台所における住生活、食生活に混乱をきたし、その結果その収納スペースが今日大きな問題となっている。

今回調査した公共アパートの台所における収納スペースは、当初から設置されているものとしては、作業台の下部物入れ（外法寸法 1,800× 550× 800）と吊戸棚（1,200× 450× 500、1,200× 250×400)があるだけで、そのほかにパイプ水切棚(1,200×250×300)があるにすぎない。また民間アパートについては（昭和49年筆者の調査による）、公共アパートに対し種々の寸法の作業台や吊戸棚が設置されているので、**表２**に示すごとく各収納スペース別に指数化を試み、その平均値を求めた。その結果、民間アパートでは幅2,268

表２　指数化に用いた各収納スペースの基準寸法

収納スペース	指数１とした寸法
作業台下物入れ	1,800× 550× 800 (㎜)
吊戸棚	1,200× 380× 1,780
食器戸棚 置き家具	600× 380× 1,780
食器戸棚 造付(ハッチ含)	1,800× 400× 1,800
パイプ水切棚・棚	1,200× 250× 300

×奥行き 550×高さ 800の作業台下物入れと幅 1,668× 350× 600の吊戸棚が当初から設置されていることになり、公共アパートよりスペースはやや大きい。なお注文住宅においても同様に収納空間を指数化し、その平均的な台所の収納スペースを求めると、つぎのようになる。すなわち幅 2,600×奥行き 350×高さ 600の吊戸棚と、幅 1,660×奥行き 380×高さ 1,780の食器戸棚（ただし造りつけ戸棚は食器戸棚に容積換算した）、幅 2,300×奥行き 550×高さ 800の作業台下物入れ等によって構成されている。建売住宅は幅 1,800×奥行き 550×高さ 800の作業台下物入れと幅 1,200×奥行き 367×高さ 545の吊戸棚がつけられているだけで、公共アパートと同様収納スペースは非常に少ない。以上の結果を総収納容積でみると、公共アパートでは平均 1,282m³、民間アパートは 1,348m³、建売住宅 1,132m³（いずれも食器戸棚は含まず）、注文住宅で平均 2,681m³（食器戸棚を含む）あるにすぎないのが現状である。

注文住宅の収納スペースは、公共、民間アパート、建売住宅に比べ約 1.5倍あるにもかかわらず、台所収納スペースの平均総容積値 2,683m³を基準として、収納スペースの総量別にその満足度の関係を分析すると、収納容積が平均値よりその 1.5倍までの範囲でも不満とするものが50.0%あり、1.5 倍以上の場合でも不満とするものが35%もある。すなわち 4,025m³以上のスペースが要求されていることになり、今日の住宅の収納スペースの計画の不備が如実に示されている。

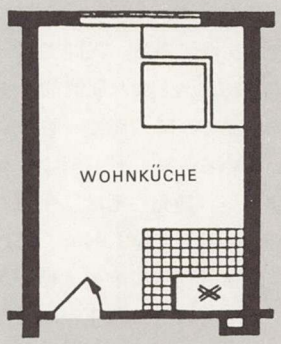
❖

以上、各住宅形式における台所の現状とその使用者の評価の分析結果を述べてきた。そこには一般主婦の考えを土台にしたのぞましい台所の姿が表出されている。すなわち今後の都市住宅の台所の一方向としては、現在最も多く採用されている「ＤＫ」型にかわって「Ｋ」型台所が脚光を浴びるであろう。しかし、週休２日制や年休制度の欧米なみの実施により、レジャー型住宅において「ＬＫ」型の台所が今後のびてくる余地もあり、また同じ意味において「ＤＫ」型の見直しもなされるかもしれない。この傾向は一部に不健全な要素を含んでいるが、いわゆる「システム・キッチン」の動向にみられるところである。

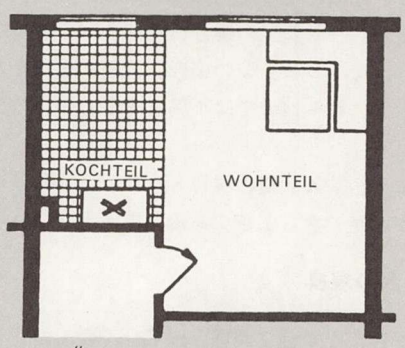
また、そこに設置される台所作業台の幅は少なくともＩ型配置の場合は幅 2,900、Ｌ型配置の場合は幅 3,500がそれぞれ必要である。なお、これらの作業台の配列は調理台中心に配列されることが当然であり、これまでの公団住宅の使用した流し台中心の幅 1,800の狭小な作業台は否定されるべきである。最も今日問題となっている台所の収納スペースについては、どの住宅も最低 4,023m³以上の総容積となる収納設備を計画すること。これは筆者らが行った台所用品の所有調査により求めた標準所有品目、品数を収納するに必要なスペースとほぼ匹敵している（詳細は省略）。

今後、台所において行われる生活様式、またそれに適合した台所様式はなお変化していくものと考えられる。しかし現時点における国民標準台所の追求は、変化の動向を見極めながら、きびしく実施されなければならない。なぜならば、公共住宅におけるこれまでの台所は、生活に適合しなくなる期間がはなはだ短く、そのスラム化の大きい要因になってきたし、また増改築がしにくい工業化された住宅ではその生活的価値を低下させるとともに、不動産としての財産的価値の喪失につながるものであるからである。以上は世界的な意味における限られた資源の有効利用にも関係する問題でもあり、切にこの方面の研究が深化されることを希望したい。

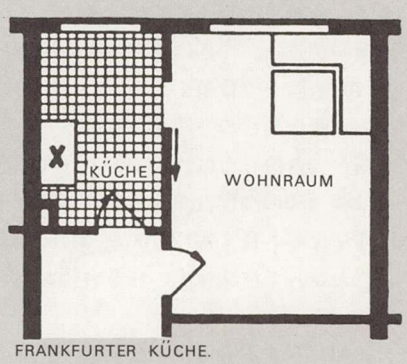
（おきた　ふみこ　日本女子大学講師）



ALTE WOHNKÜCHE.
Der Dunst vom Herd durchnäßt das Zimmer.



WOHNKÜCHE MIT KOCHNISCHE.
Der Wirtschaftsteil ist in einer Nische der Wohnküche untergebracht Dunst dringt immer noch in den Wohnteil.



FRANKFURTER KÜCHE.
Das Wirtschaften vollzieht sich in dem gänzlich abgetrennten Kochteil: Der Küche. Die enge organische Verbindung mit dem Wohnraum ist durch eine Schiebetür aufrecht erhalten.

Development of the Frankfort on Main kitchen

都市集合住宅の住み方と住宅の管理

藤井　和子

◍限られたスペースに住む覚悟

集合住宅が一戸建て住宅と比べて、もっとも違う部分は、住んで後、絶対にスペースを増やすことができないことである。

集合住宅の場合は、全体で無駄な部分を一切なくし、必要最少限のスペースで生活ができるように、設計されているものと思えば良い。つまり、スペースを合理的に追求した結果、生まれたものというわけである。

ということは、一戸建て住宅とは基本的に違うということなのだ。スペースに関していえば、いささかの甘えもないということになろうか。

したがって、集合住宅に住むためには、その基本である、スペースに余裕のない住まいでの暮らし方を考えねばならない。一戸建ての住宅の暮らし方を持ちこんでは暮らせないということなのである。

まず最初に、満足できるだけのスペースはないという現状を認識することからスタートしたい。住まいは家族中心に考える—ということである。

来客があるときのことを気にすることが、最優先になってしまうと、毎日の暮らしの場が犠牲になることになってしまう。客が来たときには応接室を独立してとり、リビングルームは家族の団らんの場、さらに家族一人ひとりに個室—などというのは理想で、現実にはなかなかそんな具合にはいかない。あれもこれも望んで、どれもが中途半端になってしまうより、理想通りにいかないのはわかり切ったことなのだから、最初から割り切って、たまに来る来客よりも、毎日暮らす家族のために 100%スペースを使うことを考えたほうが良い。都市型の集合住宅では、エントランスのロビーで、あるいは近所の喫茶室を応接室がわりに利用するぐらいの極端な割り切り方ができるようでないと、決してゆったりスペースを使うことはできない。

つぎに、必要最少限の〝物〟しか持たないことである。もともと、一軒の家には〝物〟が多すぎる。おそらく、収納スペースを隅々点検してみれば、使わないものが沢山あるはずだ。あることすら忘れていたもの、あるのはわかっていたが、出すのが面倒だから使わなかったもの—いずれも理由はいろいろだが、使わなくても用が足りていたのだから、極論すれば、なくても済むものといえる。

集合住宅に入居する場合は、まず、この物の整理をきちんとすることである。収納スペースに収納された物ばかりではない。物を整理することによって、収納スペースの役割も果たしている収納家具も処分できるものがあるに違いない。

スペースは狭いのだから、置き家具も必要最少限にとどめることである。まずスペースに対して、キャパシティに合うだけの家具にとどめる。住居空間の25%までが理想といわれる。

具体的にいえば、リビングセットは、使うときのスペースで考えればごく一般的なもので 4.5帖分はスペースを占めることになる。となると、10帖のリビングルームであってもすでにリビングセットだけで45%も占めることになってしまうということなのである。おそらく、リビングセットだけでは済まないで、サイドボードやテレビ、ピアノなどまで同居することになる。

一昨年首都圏の集合住宅約 600世帯の、家具、持ち物の調査をしたところ、大変面白い結果が出た。それは、所得水準が比較的低く狭いスペースの集合住宅に住む家族のほうが、所得水準の高い広い集合住宅に住む家族より、ずっと物を多く持っているということである。家具の谷間に暮らす—という表現がそのままあてはまるような状態なのである。キャパシティに合った持ち物—要は〝分相応〟の家具や道具を持って暮らす割り切りをすることだ。

一度集合住宅でのスペースを、金に換算してみると良い。たとえば、東京23区内の山の手では、 3.3㎡約 220万円という価格になっている。販売価格を面積で割ってみれば簡単に単価が出るはずだ。3.3㎡ 220万円ということは、単純計算をすれば、一間の押入れが2ヵ所だ。一間の押入れ1ヵ所に何と 110万円支払っているのである。ということになれば、そこに必要のないものばかりしまっておく—死蔵しておくことが、どれだけスペースの無駄になるかわかるというものだ。

もともと、少しスペースに対する考え方が甘すぎたようだ。したがって、スペースに対して、もっと厳しい認識を持たなければ、集合住宅には住めないと考えたい。集合住宅に住むには、それなりの覚悟が必要だということなのである。

◍集合住宅でのつきあい

これも一昨年、なぜ集合住宅に住んだか？という質問を約 100人の主婦にしてみた。驚いたことに、「近所とのつき合いをしないで済むから—」という答えが圧倒的に多かった。

しかし、集合住宅の住み方で絶対に無視できないのがこの「つき合い」だということに気がついていない。なぜならば、集合住宅は立体長屋だからだ。自分の家だけが独立しているのではなく、お互いに助けあって、わが家が成り立つのだという基本をわきまえなければならない。お互いに「自律」の精神で暮らさねばならない。自律とは、自らを律する—自分に厳しく暮らすということである。もっとわかりやすくいえば、自分がされたらいやなことは、絶対に人にはしないということである。

たとえば、ゴミの処理などにはよくあることだが、東京都ではゴミを燃えるゴミ燃えないゴミと分類して出す、分別収集だ。きちんと分類して出さないと、ゴミ収集に来た都の清掃局の職員が収集してくれない。ところが、「うちだけは」と、夜半に分類しないでゴミ置き場に捨てる人が後をたたない。すると、仮にそれが一軒であっても、ゴミは収集されないから、全部が迷惑することになる。

また、「うち一軒くらい」と流しにちょっとしたゴミを水で流してしまう—うち一軒くらいと考える人が何人もいれば、排水管がつ

まってしまい、結果、多くの家が迷惑する。

夜半にさわぐ、夜半に入浴する—いずれも他家に及ぼす迷惑は大きい。つまり、日常生活の細かい点まで気を配り、他家に迷惑がかからないようにしなければならない。夜半に入浴すると、排水管はわが家だけではなく他家を通っているのだから、音がかなり響くことになる。自分の家の風呂だから、いつ入っても自由だということにはならないということなのである。

日本人はつき合いが下手だといわれる。それは、集合住宅のつき合いにもいえる。というのは、「ほどほどに」つき合うことができないということなのである。

親しくなれば、ベッタリとことんプライバシーに立ち入るつき合いになる。一方、つき合わなければ、あいさつもしないほどそっけない。ベッタリ深くつき合いすぎれば、ちょっといさかいがあっただけで今度は憎み合うという結果になってしまう。つき合いがまったくなければ、ちょっとうるさいと注意したことが、殺人にまで発展することになってしまう。

外国生活の長かったある中年の夫婦が、夏の夕方、バルコニーでビールでも飲もうと、ふと向かい側のバルコニーをみたら、そこに老年の夫婦がビールを飲もうとしていた。思わず、ジョッキを高々とあげて乾杯のしぐさをすると、向こう側も高々とジョッキをあげたのだという。何ともその日のビールは美味しかったと、その中年の夫婦はいう。つまり、つき合いはその程度。後でそこをたずねておつき合いをはじめるなどということはしなかったのである。必要以上にふみこんだつき合いはする必要がない。建物の形態が続いているのだから、つっこみすぎれば、かえって気まずいことが起こることになる。

とはいうものの、日頃のコミュニケーションが、何といっても、集合住宅の暮らしには大切なことなのである。

なぜならば、集合住宅が何年かたてば、必ず外壁は汚れることになるだろうし、設備機器は傷むことになるだろう。さらに、やがては老朽化して建て直しをしなければならなくなるだろう。また、地震など天災で崩壊するなどというおそれも万が一ないとはいえない。そんなとき、居住者全員が話し合いができないようでは、どんなことも解決することができない。そのために、日頃のコミュニケーションは実に大切なポイントになる。

たとえば、最近ではそろそろ外壁の吹き直しをする集合住宅がポツポツ出てきたが、この場合でも、決して安い額ではないから、一戸当たり少なくとも30万円程度負担しなければならないことになる。30万円一度に出すということになれば、「うちはやらなくても良い」という意見も出てくる。一人でも反対意見があれば、実行することはできないから、全員の賛成をまとめるのに、かなり長い時間がかかる。こんな場合、外壁の吹き直しをする頃になれば、かなり入居者の顔ぶれも変わってきていることも、なかなかコミュニケーションがうまくいかないという理由になっている。また、うちはいずれ売ってしまうのだからどうでも良い—という人もいる。これなど売るのならば、なおさらきれいにしたほうが高く売れるのだから、誤った認識をもっているということになる。

いずれにせよ、何か問題が起こったときしか居住者がまとまらないというのは、集合住宅で快適に暮らすためのルールに反する。日頃から、つき合いをする努力は必要だ。

音の問題でいさかいを起こす場合も、多くはつき合いがまったくない家庭同士で起こることが多い。子どものいる家が上下だった場合、多少の音は「お互いさま」という気持ちで我慢するが、子どものいる家が上階で、子どものいない家が下階だと、日頃まったくつき合いがないと、深刻な問題に発展してしまう。

子どもを仲介につき合いができるケースはごく自然にひろがるが、子どものいない家の主婦は、なかなかつき合いができず、どんどんストレスがたまるというケースが多い。そんな場合は、自らつき合いの中に入っていくようにしなければ解決できない問題であるといってよいだろう。

お互いが我慢することも、集合住宅に住む一つの知恵であるように思う。どこかで妥協し、どこかで我慢する—それができないようでは集合住宅に暮らすことはむずかしい。

◎管理の仕方で決まる資産価値

集合住宅に住むときには〝管理を買う〟とは、最近よくいわれることだ。最近では、集合住宅にはいかに管理が大切なことなのか、居住者にもよくわかってきたようだ。

集合住宅の管理の基本は「建物の資産価値の保全をはかる」ことにある。集合住宅には各戸の専有面積のほかに、各戸をつなぐ廊下や階段、バルコニー、エレベーター、エントランスの部分など、それぞれ居住者全員の財産である「共有部分」がある。これらは、こわれて使えなくなっては困るし、これらがいかにも汚れたりちらかっていたのでは、全体の価値が下がってしまう。したがって、全員の持ち物をどうやって維持していこうか—ということになる。各戸から代表が出てやる、当番をきめてやるなど何十戸、何百戸もある人々が全員でやることはなかなかむずかしい。したがって、維持管理をするためのルールを決めて、それを管理専門の人にまかせてかわりにやってもらおうというのが管理人である。

つまり、管理のためのルールが「管理規約」で、これは、居住者全員で決めるのが正しい。しかし、そうはいっても、最初から入居者がはじめて顔を合わせて、規約をつくるのはむずかしい。

そこで、普通は販売する会社で一応つくられたものをもとにスタートする。この場合は高層住宅協会や昭和54年に発足した高層住宅管理業協会などでひな形をつくったものを使っているケースが多い。

よく、管理人が押しつけた管理規約だという声を聞くが、実際に暮らしてみて不都合があるならば、居住者全員が話し合ってルールを変えていけば良いのだ。そうした、話し合いがスムーズに行われるように、居住者は「管理組合」をつくる必要がある。現在のデータによると、民間の集合住宅では、この管理組合が結成されている所は全体の約51%強ということだ。

業界では、この管理組合の結成はできるだけ早くしてほしいという意見が圧倒的に多い。「管理組合」が結成されれば、居住者の総意で管理の仕方を決めれば良い。戸数が少なければ自主管理も良いかもしれない。管理会社も最近では管理業協会加盟会社の数も多く、自由に選べる。

管理人は、居住者の小づかいではない。よく、子どもが落書きをしているのを、管理人が叱ったといって、管理人に文句をいう主婦の話を聞いたりする。これは管理人の行為は正しい。つまり、子どもは、居住者全員の財産である建物に落書きをしたのだから、自分の財産でもあるものを損なう行為に対して、本来ならば母親が注意をしなければならないはずだ。もちろん、管理人は共有財産を管理する義務を果たしたわけだから、文句をいわれることはないわけだ。

管理規約は集合住宅の憲法である。管理人はその憲法を守るために働いてくれるし、その認識がきちんとできないと、集合住宅の資産価値は下がると思って良い。

（ふじい　かずこ　ハウジングプランナー）

集合住宅における戸外生活と戸外空間

藤本　憲太郎

われわれの住むべきところ、とくに都市の環境の悪化について言われはじめて久しい。土地の狭小化、大気汚染、騒音公害、日照条条の悪化、等々。それとともに、住むべき住居の形式についての議論も行われるようになった。それは、高層住宅か独立住宅かという二極に分かれ、一方は空間の高度利用、施設の集中化と充実等の経済性に重きをおいて語られ、他方はプランニングの自由性、接地性等の住居の質を中心に論じられたものであった。

しかし、住環境の悪化は、物理的な部分にとどまらず、少し誇張して言うならば、そこに住む人びとの精神の荒廃にまで及んでいる。居住者どうしの関係がギクシャクとしていて、妙にとげとげしいのである。その結果、ピアノ殺人事件や団地の主婦の神経症等が発生するようになった。こうしたことは、昔の時代になく、とくに今日に特有な事象ではあるまいか。これは、かつてあった隣近所どうしの日常的な人間関係が新しい住宅地においては生まれていないことを示していると思われる。

ところで、都市住居の形式についての議論に決着がついたわけではもちろんない。今や低層集合住宅がブームであり、今後の方向は決定したかの感があるが、必ずしも低層集合住宅バンザイというわけにはいかない。これは、土地や経済のことを考えれば明白である。土地は有限であるし、低層に住むことのできる階層はごく一部である。われわれは、富裕な層にのみ奉仕すれば良いというわけではない。

しかし、低層集合住宅を考えることは決して無意味ではない。人間の住む空間の質を考えた場合、〈集合〉の形式としては、低層(または中低層）集合住宅の優位性は今のところ動かし難い、と思われるからである。

優位性とは、すなわち、景観の面からいえば、いわゆる団地らしさ（均質性）を免れて、変化に富んでいることであり、つぎに、そこに住む人と人とが有機的に結びついて生活を営むということを最も内包している形式であるということである。この第二の点こそが集合住宅の本質的な意味である。すなわち、〈集合〉とは住戸が集合するのではなく、人びとが集合して住むということなのである。このような集合が行われたならば、先にあげた居住者どうしの関係の悪化ということからも免れることができるはずであろう。そして、このような集合を実現するために、媒介空間の質、とくに共有庭の質が問われることになる。

高層団地のオープン・スペースが、そこにいかなる思いが込められていたにせよ、単なるアキの空間でしかなかったのに比して、低層集合住宅の共有庭は、同じように計画者の期待にとどまる危険性を孕んでいるにせよ、より積極的な意味を担う可能性を持っている。

以下、原山台コーポラティブハウスの共有庭の使われ方を見ながら、このことを明らかにしていこう。

1　調査の概要

1－1　原山台コーポラティブハウスの概要　原山台コーポラティブハウスは、大阪府南部の泉北ニュータウンのほぼ中央に位置し、昭和54年に「住宅の協同をすすめる市民の会」がコーポラティブ方式により建設したものである。敷地は約 3,500㎡で、5階建中層住宅1棟22戸、2～3階建低層住宅21戸からなり、これらと集会所が広場型の共有庭をとり囲むように配置されている(**図1**)。

ところで、共有庭の使われ方をみる場合、居住者の特徴を考慮する必要があるが、入居前の勉強会や協議・打ち合わせ等を含めると、調査時点での居住者どうしのつきあいは約3年になる。このため、つきあいや近隣関係については積極的な人が多いようである。

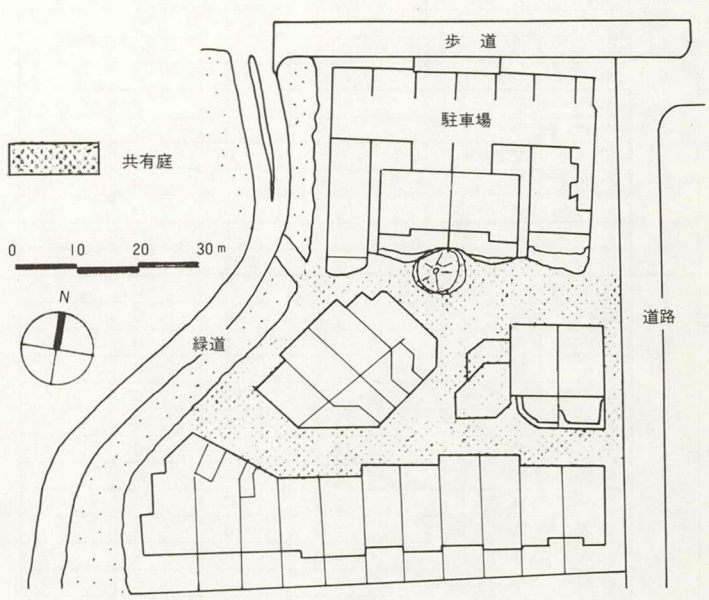


図1　原山台コーポラティブハウス配置図

1－2　調査の概要　調査は昭和55年8月10日(日)、11日(月)に実施した観察調査が主であり、その後聞き取り調査によって補完した。

観察調査の方法は、午前7時から午後7時まで観察員が10分ごとに定められたコースを巡回しながら、〈外周道路〉、〈共有庭〉、〈専有庭〉で行われた行為を、「行為者」、「行為内容」、「場所」について観察・記録するという方法によった。

2　戸外空間の使われ方

表1は〈外周道路〉、〈共有庭〉、〈専有庭〉で観察された全行為の内訳（行為内容と行為者数）を示したものである。これによれば、①戸外空間での行為の発生が多い、②とくに、共有庭が活発に使われている、ということが特徴的である。

つぎに、各空間別にみていこう。

2－1　外周道路　外周道路における発生行為が多く、そのほとんどは「通行」であるが、これは周囲が中・高層住宅地となっており、近隣センターや露店等が近接しているためである。

また、「あいさつ」や「立ち話」等のつきあい行為が少ないことも特徴的で、われわれが以前調査した長屋地区の表通りの状況と、大きく異なっている。すなわち、長屋地区の表通りではつきあい行為が多くみられ、長屋内のコミュニティのほかにもうひとまわり大きなコミュニティが存在していることを示していた（このことは、長屋での出来事がすぐ他の長屋にも伝わるという話からも伺うことができる）。これに対し、原山台コーポラティブハウスにおけるコミュニティはその中だけで完結し、未だ周辺への拡がりを持ち得ないでいるものと思われる。

表1　原山台コーポラティブハウスにおける行為の内容と対応行為者数

行為	行為内容の詳細	原山台コーポラティブハウス 専有庭	共有庭	外周道路	小計
通行	歩いて	0	100	332	432
	自転車に乗って	0	17	81	98
	バイクに乗って	0	0	5	5
	車に乗って*	0	0	10	10
	小計	0	117	428	545
つきあい	立ち話・あいさつ	4	98	12	114
	小計	4	98	12	114
遊び	ゴムとび・なわとび	0	127	0	127
	ウロウロ	0	47	14	61
	ボール遊び	0	31	0	31
	オモチャで遊ぶ	0	26	0	26
	自転車に乗って遊ぶ	0	20	1	21
	三輪車に乗って遊ぶ	0	7	0	7
	ベビーカーに乗って遊ぶ	0	6	0	6
	すわっておしゃべり	0	8	2	10
	かけっこ	0	4	0	4
	砂・土・草木で遊ぶ	4	6	0	10
	虫採り	0	2	3	5
	動物の相手	5	1	0	6
	虫の観察	0	0	0	0
	すべり台で遊ぶ	0	0	0	0
	バトミントン	0	0	0	0
	レスリングごっこ	0	0	0	0
	ジャンケン	0	7	0	7
	小計	9	292	20	321
その他	せんたく物・ふとん干し・取り入れ	17	0	0	17
	庭のそうじ	8	20	0	28
	草木の手入れ	26	4	0	30
	休憩	7	2	0	9
	車の整備・洗車	0	10	4	14
	大工仕事	0	2	0	2
	水打ち	0	2	0	2
	荷物の運搬	0	2	0	2
	ゴルフの練習	0	0	0	0
	家庭菜園	0	0	0	0
	家人の見送り	0	0	0	0
	自転車に乗るけいこ	0	0	0	0
	車にのりこむ	0	3	0	3
	子供をしかる	0	2	0	2
	掲示の貼りかえ	0	2	0	2
	車から荷物をおろす	0	1	1	2
	家に向かって叫ぶ	0	1	0	1
	手を洗う	1	0	0	1
	露店の仕事	0	0	98	98
	買い物	0	0	12	12
	小計	59	59	115	233
	合計	72	566	575	1213

（昭和55年8月10日・日曜日）　　*車1台通行につき1人に換算

2－2　共有庭　共有庭における発生行為は、「通行」、「つきあい」、「遊び」の3つが大部分を占めるが、「通行」の占める割合が比較的ちいさく、居住者どうしを結びつける空間としての性格が強いと言ってよい。

共有庭での日常的な「つきあい」や「遊び」が活発に行われることは、居住者どうしを親密にしたり、年上の子どもと年下の子どもが一緒に遊ぶことによる教育効果や安全に遊べること等重要なことであるが、ここではそれがうまく果たされているのである。

このほかにも、夕涼み会を兼ねたバザール（8月）、夏まつりのみこしの展示（8月）、もちつき（12月）等が毎年行われる行事として定着しつつあり、共有庭はこれらのイベント空間としてもよく機能している。

このような共有庭に対して、居住者の評価も高いようである。

2－3　専有庭　専有庭でみられた行為は非常に少ない。その内訳をみれば「植木の手入れ」、「洗たく物干し」という、より私的な行為が多数を占めている。これは住戸内で行われるべき行為は内部で完結していることと、専有庭が多様な行為を受け入れることのできるキャパシティを持っていないためであると考えられる。また、その代わりに共有庭が戸外生活の舞台としての役割を果たしているから、ということもできる。

3　共有庭の活性化

3－1　共有庭の活性化要因　つぎに、共有庭の活性化のための空間的な条件について考えてみよう。

図2は「つきあい」および「遊び」が行われた場所を示したものである。これによれば、行為の集中する場所には、つぎのような共通点をみることができる。

① ある程度の面的な拡がりを持っていること
② 生垣、壁際等のすみっこ
③ 囲われ感があること

さらに、遊びについては、集会所の屋上や階段、スロープを使って遊ぶ行為が多くみられたことから、上記の条件のほかに、

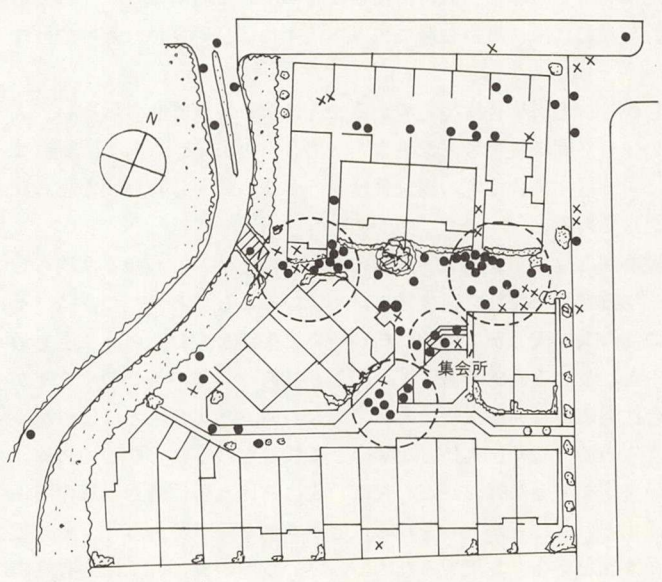


図2　「つきあい」「遊び」行為の発生場所（原山台C.H.）

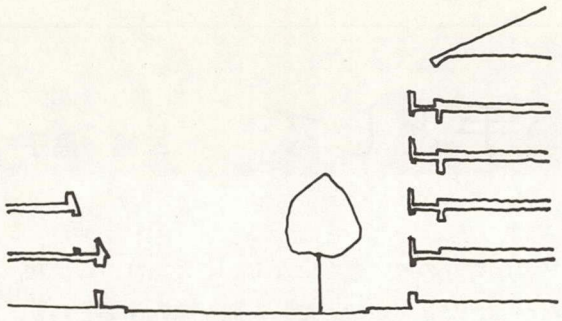


図3　住戸と共有庭のつながり方

④　遊びの対象となりうる場所であること

があげられる。

また、赤レンガでペーブされた共有庭は、周辺道路から少しサンクしており、囲み型の住棟配置と相俟って囲われ感を強めている。さらに、各住戸との間には視線をさえぎるものはなく、ほとんど直接的に結びついている(**図3**)。このような空間構成上の特徴は、長屋の路地と共通しており、活性化のための空間的な要因となっている。すなわち、共有庭の活性度を強めるための空間条件としては、つぎのことが考えられる。

①　〈公〉－〈共〉の間の分節度を明確にし、居住者にとっての〈共〉空間として意識させるいっぽう、〈共〉－〈私〉の間の分節度を緩やかにすること

②　囲われ感を持たせること

③　面的な拡がりを確保すること

3－2　共有庭の活性化とプライバシー　このように、住戸と共有庭が近接することは、共有庭の活性化が住戸内のプライバシーを損なうことになるのではないかと考えられる。共有庭から家の中がまる見えになるところもあるが、これについてプライバシーが守れなくて困ることはないかと問うたところ、「それほど気になりません、第一そんなに神経質な人はいないよ、みんなタフだもの」とか、「かえって親近感が増していいよ、みんな窓ごしにのぞきながら話をしているよ」という答えであった。実際にも、家の中と共有庭の人とが談笑する光景が何回かみられた。みな、案外あっけらかんとしているのである。これは、コミュニティのありようとプライバシー要求との間に相関があることを示していると言えよう。

おわりに

これまでみてきたように、原山台コーポラティブハウスの共有庭は、単なるアキのスペースにとどまらず、日常的な生活の場あるいは各種イベントのための空間として、より積極的な意味のある空間となっている。聞くところによれば、この共有庭はもともと居住者側の発想にはなかったのが、計画者側の提案によってつくられることになったということであった。それが、居住する人びとによく使われ、喜ばれているということは計画する側に立つ者を勇気づけるし、また、この提案を実現させたことを計画者は誇ってよいと思う。しかし、良い提案を生かして使い切る人たちの存在があってこそ、はじめて有効性を持ち得たのだ、ということもあわせて知っておかねばならないだろう。

さらに、周辺の人びととどのようにしてつながりをつくりだしていくのか、また、そのための空間はどうあるべきかということも集合住宅の戸外空間を考える際に重要な課題であると思われる。

共有庭をはじめとする低層集合住宅の戸外空間の研究は端緒についたばかりであり、どのように計画すべきかについては未だ十分に明らかにされておらず、これからの研究の成果に待たねばならない。

（ふじもと　けんたろう　大阪市立大学大学院）



原山台コーポラティブハウスの共有庭



住戸と共有庭のつながり
住戸と共有庭のあいだにはさえぎるものがなく、家の中から共有庭の様子がよくわかる。また家の中と外の人びとが談笑している光景もみることができる。





共有庭で遊ぶ子どもたち

随想

都市住宅を考える―住まい手として

三輪　昌子

思慮浅く原稿を引き受けてみたものの、しばらく経って「都市住宅って何だろう」と思い始めた。つまり専門家には常識的なことが、シロウトにはよく〝わからない〟のである。あわてて知り合いの専門家に尋ねると「ひとことで言えば広い庭のない家のこと。このごろふえている三階建てで一階がガレージなんていうのはその代表格と考えればいいでしょう。狭いスペースを効率よく使って過不足なく便利にくらせるよう設計した住居と考えて下さい」とシロウト向けに説明してくれた。

それを聞いた途端、何としたことか、私には、薄暗くてひんやりとした土間に〝おくどさん〟のある古い農家の光景が目に浮かんだ。土間から出た庭には、ムシロが拡げられ、豆などが干してある……多分、もう今では、都市周辺なら農家でもそんな光景はないであろうに、思いもかけない白昼夢は、日頃の私の憧れが、都市住宅のコトバに触発されて現れたのであろう。つまり、それほど私は、今の「便利で効率の良い」家にうんざりしているのである。

もちろん、実際には、さまざまの便利さに支えられて、共働きの二足のわらじをはき続けているのだから、便利や効率を非難することは罰が当たるとは思うものの、人間を半世紀近くもつとめているうちに、暮らしの中には割り切れない部分、合理的でない部分がごまんとあって、住まいもまたそうした部分を抱えこんでくれるものでない限り、長くつきあうのはシンドイということがわかってきたのだ。

戦後の家つくりは、家事の合理化にずいぶん焦点が当てられてきたと思う。まず台所の土間がおしなべて板ばりになった。動線が計られ、無駄な動きをしないで家事、ことに台所仕事ができるように考えられた。棚の高さ、流しの深さ、調理台の高さや奥行きは科学的――人間工学的に計画された。そのことで主婦は確かにラクになったと思う。ところが暮らしているうちに計算外の道具がふえてきた。効率で設計された台所は、効率を乱す道具で狭くなり、主婦の動きを邪魔する闖入者――夫や子供があれば手順が狂い、ヒステリーを引き起こしかねない状態になる。勢い闖入者は追い出され、夫族は「これ幸い」と台所に出入りしなくなる。台所の景観に合わぬからと、すり鉢やすりこ木、かつおぶし削りの武骨な箱はお呼びでなくなったりする。カラフルな鍋やモダーンな調理器はアクセサリーになるけれど、漬物樽や梅干しを干すスノコは肩身の狭い存在になる。その辺りから、私は、何だかヘンだと思い始めた。人間が暮らす場ということは、芝居の舞台のようにはいかぬものだ。みかけは悪くても使い勝手の良い道具もある。第一、住んでいる私自身、「ハイ、ポーズ」と澄ましこんでいるわけではない。シャカリキになって働いていることもあれば、だらしなく呆けて坐りこんでいることもある。住まいというのは、そうした割り切れぬことも、いい加減なことも、清濁併せ呑む場でないと困るのだ。

収納をよく考えた納戸なども、この頃はふえてきた。押入れ用の収納棚もいろいろなものが出揃っている。その事自体は大賛成なのだけれど、またしても私の中の天邪鬼が口をさしはさむ。「あんなに一分のすき間もないように整理された押入れじゃ、ちょっと一時的に物をほりこんでおくなんてことができないね。子供がもぐり込むすき間もないのはごめんだね」もっともこの頃の子供は、親に叱られても押入れのふとんの中で泣き寝入りなどしないのかもしれないが、そんな「いい加減な」空間があってもいいと思う。台所が効率悪く広くて、家族がそこに坐り込みジャガイモの皮などをむきながらいろんなことを喋るのもいいのではなかろうか。それに玄関、狭いのは仕方がないとして、大方の家の上がり框の低さはどうだろう。ちょっとした来客に「端近ですが…」と座ぶとんを出してかけて貰える高さではない。勢い〝本格的に〟上がって貰う客でない限り、ドアを半開きにしての立ち話となる。ちょっとしたつきあいがギクシャクするのもそのせいかもしれないなどと考えてしまう。

さらに、都市住宅の多くは若者（せいぜい働き盛りまで）志向ではないかと思う。狭い土地をより有効に使うには天に向かって延びるより仕方がないのだろうけど、タテに細長い（階段の多い）建物は老人や、体の弱い人には酷なのである。一生、そう住み替えるわけにもいかない今の日本の住宅事情を考えれば、住まい手のライフサイクルをどう組み込むかもこれからの課題だと思う。戦後から今まで欧米型住居の方向へと、作り手も住まい手も憧れをこめて顔を向けてきたきらいはなかっただろうか。そこから得るものも少なくはなかったけれど、今一度、日本の風土、日本の生活のありようを住まいづくりの中に考え直してみることも大切だとつくづく考えるのである。

（みわ　まさこ　生活評論家）

随想

設計者と住まい手の接点に立って

前田　邦江

ある福祉関係の雑誌編集者と話をしていたときのことである。彼女は２歳の子供の母親で、子供の安全のためには現在住んでいる住宅がいかにお粗末であるかを、しきりにぼやくのだった。住まいは高層マンションの７階で、一番不安なのは地震や火災時の避難についてである。

子供をかかえての避難方法をあれこれ考えてみると、危険なことばかりで慄然としてしまうという。また遊び場や、隣人関係のことを考えてみても、気持ちは滅入るばかり。経済本位に建てられたマンションには遊び場も緑もほとんどないし、同じ棟に住みながら対人関係は無関心そのものである。お互いが我慢をし合って耐えながら生活しているといっても過言でないほどの、サメた状態で実に淋しいという。

しかしこうした住み手側を無視して計画された都市住宅は、現在でもどんどん建設されている。そしてそこへ住む人口も増える一方である。明るくモダンなインテリアや機能的な設備にひかれて入居したものの、しばらくすると貼ったり塗ったりの住宅は住居性が悪くなり、文化生活が持つ反面の不便さが苦になり、財産価値への心配も出てきて、これでよいのだろうか――と疑問と不安にさいなまされるのである。「一体住まいって何なんだろう？」とつぶやいた女性編集者の言葉が、ひどく心にひっかかった。

住み手である側を代表した立場で、ユーザーへの住宅講座を主宰し、自身でも住宅の設計を手がけている私は、住み手の心理を無視して作られる住宅には大変反発を感じる。住む人が主人公であるはずの住宅が、何故その他の事情のために、一方的なやり方で作られていくのかが無念でたまらない。御都合主義で動いていく社会のシステムが是正されないかぎり、こうした住み手の要望が伝わらない住宅が作られ続けていくことだろう。

住宅の設計をするとき、私達は住み手の生活の仕方を十分理解してとりかからなくてはいけない。自分の住み方を相手におしつけるのではなく、相手の人生観やくらし方の基本をコミュニケーションを交わしながらよく把握して、その上でプランやデザインを考えていくことが大事であろう。ところが、こうした基本的な設計態度を貫いている設計者は大変少ないのではないかと思う。

多くのすでに住宅を取得した人達から、いろいろな報告を受ける立場にあるので、よくわかるのである。

大きく分けて、つぎの二つのタイプに属する人達が多いようだ。その一つは権威主義のもとに設計者の好みを強引に押しつけていくタイプ。結果的には設計者の独断と偏見を押しつけてしまうことにもなる。住宅をモニュメンタルに扱って、住み手の日常的な生活の平和をみだすような住空間をつくったり、デザイン本位に扱ったあげく雨漏りがとまらないような建物にしてしまうなどが、その例といえる。二つめは、住み手である注文主の言いなりになって、全く下請としてのドラフトマンをつとめるタイプである。素人の思いつきで進められるプランほど始末におえないものはない。間取りの希望は生かすとしても、動線、納まり等が大変悪く、結局住みはじめてから文句が出てくる。設計者はコンサルタントとしてのプライドと良識を持って、素人の注文や希望を常に取捨選択しながらプランを進めていかなくてはいけない。全面的な下請仕事は、無能振りを露見させるばかりでなく、いつまでも相手からうらまれることになる。現在、住宅取得に要する費用は大変な額で、家づくりは、まさに一生一大の大事業。それが失敗作と判明したときには、その怨念たるや一生その人の脳裏を離れようとしないのである。

設計者はいろいろな用途の建築物を設計することになるが、そのどれもにコンサルタントとはなり得ないものだ。しかし住宅についてはどの設計者も本来コンサルタントである。なぜなら自分自身の住まいを持ち、自分が住み手であるからだ。その時点では、一般のユーザーと全く同じ立場である。にもかかわらず二つのタイプが多いのはなぜなのか。

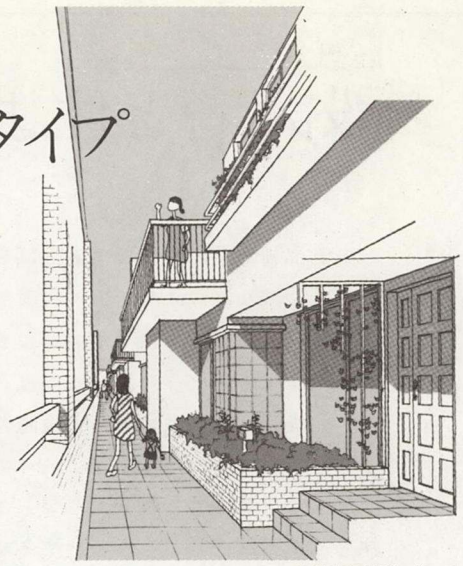
それは、住宅設計を専門にしている設計者が少ないからである。たいていは片手間に住宅設計を手がけているにすぎない。こうした人達は、住み手の要望を十分にとり入れた設計をする能力に欠けている。住宅の設計はそれほど簡単にできるものではないからである。

私は住み手から、さまざまなサゼッションを受けながら、いつも住み手の側に立った住まい作りを考えている。住まいに課せられたさまざまな要素に対して、いかに処理をしたらよいかをたえず考えている。その上で設計者の側にも立つ。住み手は安心をして仕事をまかせてくれる。その信頼関係が、住宅づくりには大変大事なことでもある。いつもいつも、こうした良い状態ばかりとはいかないが、時間をかけて説得をすれば、気持ちは必ず伝わると信じている。（まえだ　くにえ　建築家・住まいの実技講座主宰）

ライフ・サイクル対応の可変住宅

ニュー・モデル高層リビング・アクセス・タイプ

佐藤　方俊



共用廊下部分パース

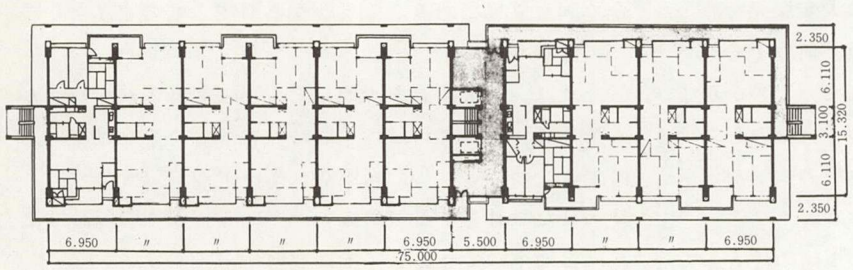
絶対的な住宅数の不足を背景とした量優先の住宅供給が一応の目標を達成して、住宅建設は今、充実の時代を迎えている。とりわけ集合住宅は効率のよい住宅供給を主眼においてきたが、公団住宅も今では標準設計から個別設計中心へと、より需要に即した住宅の建設を目指している。ここ数年はタウン・ハウス、準接地型住宅、さらにはニュー・モデル中層、ＫＥＰと新しい企画をまとめ、同時に、構法上も従来のＲＣ造耐火不燃方式に加えて、2″×4″簡易耐火方式等を導入、一戸建ても含めた幅広い展開をはかっている。

なかでも高層住宅は、従来、高密度住宅の代名詞として戸数を詰め込むための割りきった設計でやむなしとされてきた面がある。日常生活の場として高層住宅の抱える問題も多く、巨大なスケールのもつ非人間性がたびたび非難の的となってきたことも事実である。

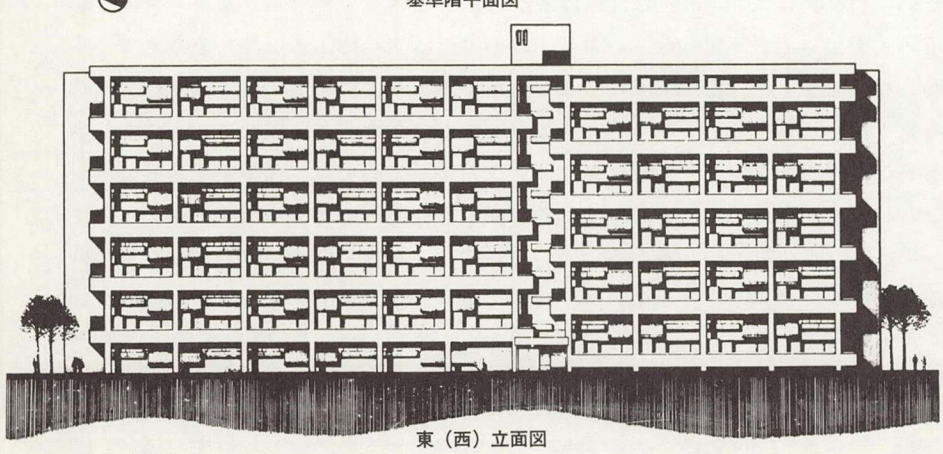
しかしながら、とくに土地事情の困難な都心部に重点をおいた今後の住宅供給を考えるとき、高密度化は避けられない条件である。高密即高層という単純な図式に断じきれるわけではないが、個々の住宅の性能は確保しながら、密度対応上の結果的形態として全体の構成を考えることは可能である。低・中・高層といった区分の中での択一的発想から出発するのではなく、高層住宅も単なる骨格と見なし、それ自体は耐久性の高い社会資本としながら、住戸はその中に一つひとつ作り込んでいく。同時に住戸そのものには時間的対応が可能なフレキシビリティをもたせる。住棟の全形に低・中・高はあっても、個々の住宅に質的な差異はない、そうした考えを基本にまとめたのが、以下に紹介する企画である。

(i)リビング・アクセス

住宅地の計画にあっては密度が全体像を決定する鍵をにぎり、とりわけ高層住棟は住戸のフロンテージ設定が重要になる。２寝室型住戸中心の時代から受照面に何室確保できるかが全体の配置設計から一貫した基本姿勢であり、住戸性能の過半はそれによって決定される。従来の３寝室型以上の住戸平面計画では、共用階段室や玄関等の部分は裏側に追いやられ、優先度の高い公室部分が主開口面側にくる結果、主要な動線は寝室部分を通過して公室部分と結びつくことになる。客を迎える玄関が陽の当たらない背面になり、同時に寝室ゾーンのプライバシィを確保する点からも好ましくない。玄関を公室側に設定したこのタイプでは、住戸内部がサービス・コアを挟んで公・私室に明確に区分され、合理的な空間構成をとる。



基準階平面図



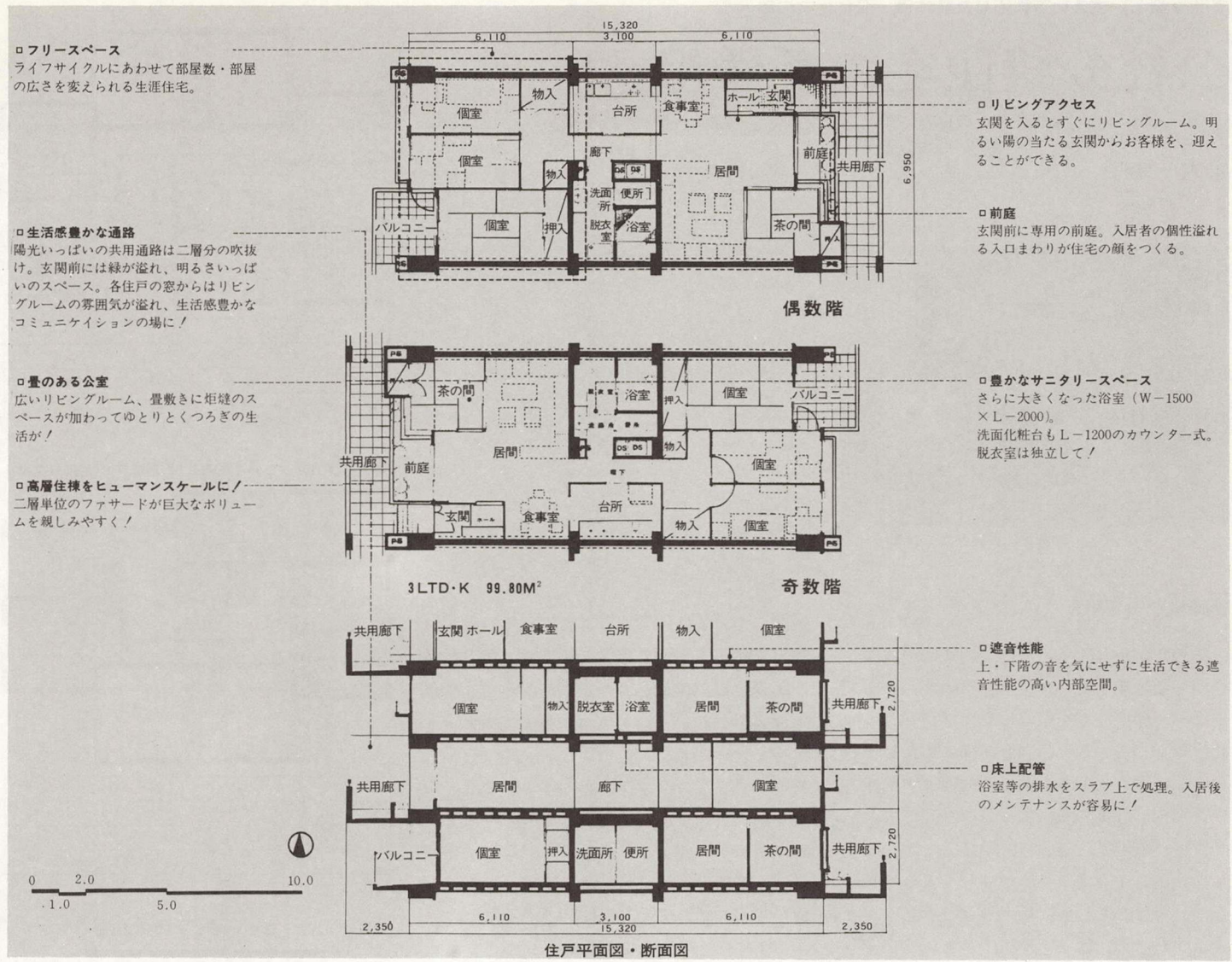
東（西）立面図

(ii)玄関前庭

玄関前には各戸専用の植栽スペースを設けている。住まい手が自分で演出する場には、各戸の個性が溢れ、通路に沿って単調に並んでいた従来の画一的な入口まわりを改善して、おのおのの「住宅の顔」をつくるだろう。

(iii)生活感溢れる共用廊下

高密度対応の南北軸配置とすることで住棟は東西に等質な面をもつことになり、住戸入口は一層ごとに反転される。その結果、共用廊下には二層スケールの解放感が生まれ、明るさの点でも改善されよう。陽光を受けて成長する玄関まわりの緑が通路に溢れ、リビング・ルームから洩れてくる生活の雰囲気が、ともすれば無駄な空間として見捨てられがちだった共用スペースを生活の場として再生する。本来の「みち」として和やかな近隣関係を演出するはずである。そのためにも住戸の連続を小さな単位で分節させたい。また、居住者の眼がとどかない従来の共用廊下と比較すれば安全性の点でも改善され、共用部分に面して設けられた開口部はバンダリズム（蛮



住戸平面図・断面図

行）を防止するストリート・ウォッチャーの役も果たすだろう。

(iv)フレキシブルな空間

公室・私室部分はともに自由度の高い大空間。ライフ・サイクルにあわせて部屋数や間取りを変えられるフレキシビリティが住戸の機能的寿命を無限にする。部品化住宅としての対応も可能な寸法ルールに基づいて設計している。

(v)広がりのあるリビング・スペース

公室部分は広さにゆとりをもたせ、家族の団らんの場として、また接客の場として十分なスペースを確保している。公室部分に設定した第4室は、冬には炬燵をしつらえて、住まい方としてはむしろリビング・ルームの和風コーナーと言える。洋式化が進んでも日本人の生活様式から畳が姿を消すことはあるまい。客用の寝室としても考えている。

(vi)ファサードをヒューマンに

洗濯物・蒲団干しをはじめとして私的領域が溢れていた従来の住棟外形に、さらに1枚のスクリーンをかけて美観上の混乱を整理する。同時に、アクセス形式上の特徴を利用した二層単位のファサード構成が、ともすれば巨大化しやすい住棟スケールを親しみやすいものにしている。外的環境要因を考えてファサードを作り込むことも都市住宅として必須である。

(vii)構造計画

基本的には中構面で水平耐力を負担する四構面架構である。桁行方向の耐力壁を市松状に配置することで梁下内法高さは 2,100㎜を確保している。外構面は桁行方向に耐力壁を設けず、梁も偏平形にして開口部を広くとっている。この部分の柱は軸力のみを負担することになる。左右に対称な2枚の大型スラブは約42㎡、オムニヤＰＣ板を用いたボイド・スラブ構法を採用することによって小梁なしのスペースを可能にしている。同時に、床遮音性能も学会基準一級を確保しており、上階住戸の足音等はほとんど気にならない。

(viii)設備計画

入居後のメンテナンスを容易にするため、中構面間スラブは 150㎜下げて浴室も含めた全排水をスラブ上で処理している。洗面部分と脱衣室を分離して来客時にも入浴に支障を来たさない平面計画にするとともに、浴室等の各部寸法も一回り大きくしている。

まとめ

設計者にとって「住宅」とは、常に古くて新しい課題であるように思われる。年々向上する質的要求に呼応して住宅設計の展開は一見華やかであるが、生活自体は短兵急に変化するものでもなく、長い年月の中で培ってきた生活様式を受け継いで多分に保守的な性格を有していると考える。

われわれが設計してきた公団住宅を例にとれば、ここ数年の質的向上、とりわけ面積の増大は著しいものがある。同時に、生活全般の洋風化と歩みを同じくして、住宅に占める和室の比率が目立って低くなっている。台所流しのステンレス化、水洗トイレの導入等、発足以来、日本人の生活様式の近代化に果たしてきた役割は今や完全に一般化しているが、食寝分離を骨子としたかつての２ＤＫスタイルから見れば大きく様変わりの感がある。畳の多機能性を考えると、面積狭小の中での和室化は当然ながら、洋風化の進む中で、炬燵を囲んでの団らんをはじめとした畳座の生活様式をいかに位置づけるかは、今後に残された課題である。

（さとう　まさとし　日本住宅公団建築部設計計画課）

公社分譲住宅の多様化

吉内　幸子



写真1　赤坂台コモンスペース

多様化と住まい方

昭和49年から50年にかけての住宅の建設が停滞した時期を脱して、昭和51年からの回復期より、共同住宅を中心にしてプランの多様化に取りくんできた。同一の棟に集合していても、当然、廊下等の共用部分、柱・壁等の構造部分、設備の配管施設等の計画に当たって、住戸の形は一定の枠に納まらなければならないが、住戸のプランが同じであるはずはない。すなわち、共同住宅を建てるということにかわって、住まいを建てるという把え方を持ち得た。しかし計画敷地の住戸密度をできるだけ上げることは、住宅の型式を問わず計画の課題であり、一定の敷地の規模以上であると、住戸の間口をセーブすることが、住戸密度を上げる有効な方法である。私達は、住まいを建てるということを言いきかせながら、住戸の間口をできるだけセーブして、住戸型式、住戸規模、住戸プランについて、バリエーションを揃えるのにそれほど時間はかからなかった。住戸型式については、従来よりのフラットタイプに新たにメゾネットタイプを加え、規模については、65m²～95m²（ネット）で、プランについてはおのおのの住戸型式別・規模別にバリエーションがある。これらの多様型プランは、住まい手によって選択され、新たな住まいの様式により十分住まいこなされていることが昭和55年に行った住まい方調査から伺えたので、多様型プランとともに、一部住まい方をご紹介する。

●95型Aタイプ――→洋室(1)と(2)が子供室、洋室(3)が家事室もしくは書斎、和室8帖が夫婦寝室、和室6帖が居間、の住まい方が比較的多い。

●95型Bタイプ――→洋室(1)と(2)の子供室と、居間については住まい方は安定しているが、和室6帖が家事室もしくは書斎で、和室8帖が夫婦寝室の住まい方と、また、和室6帖が夫婦寝室で和室8帖を応接間の住まい方、とに分かれている。

●77型Bタイプ――→洋室(1)と(2)が子供室、和室8帖が夫婦寝室、和室6帖が居間の住まい方が多いが、和室6帖を夫婦寝室にして和室8帖を応接室にしている住まい方も見られる。また和室8帖を夫婦寝室にしている場合に、洋室(1)もしくは(2)を応接室ということもある。

●77型Cタイプ――→比較的若い世帯に人気があり、洋室(1)と和室6帖が子供室、和室8帖が夫婦寝室、洋室(3)が居間となっている。

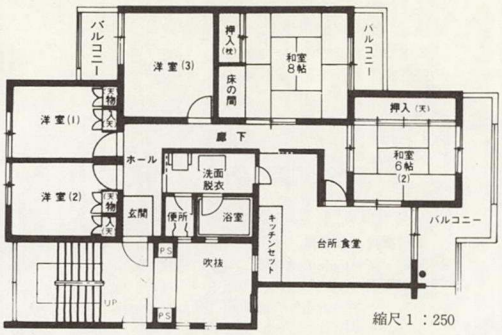
この調査から、おのおのの住まいの様式が伺えたが、これからの課題は、家族の成長等による住まい方の変化に、住戸がどこまで対応してゆけるかということに集約されるだろうと思われる。

山田西タウンハウスと赤坂台タウンハウス

しかし、これまでのような固定した住棟の中での多様型プランについては、何か物足りなさがふつふつとし、改めて多様化とは何だろうかと問い返すピントのぼけた状態にあった。しかし従来の画一的なパターンが変えられる基盤は出来上がっていたのである。

そこで、住戸の集合のあり方を把え直してみようということになった。ちょうど、昭和53年度中層住宅の予定団地の中から山田西―A団地と赤坂台―B団地が選ばれて〝新しい共同住宅の模索〟が課題として与えられた。山田西―A団地が立地する山田西地区は、千里ニュータウンに隣接して、公社が開発した34haの地区で、この地区のほぼ中心に、商業

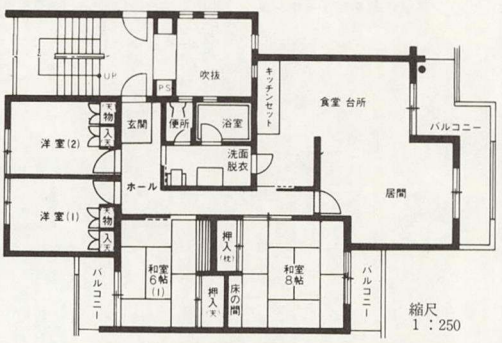
95型MODEL　A●TYPE　5DK　2F～5F



縮尺1：250

	1F	2F～5F
専有面積	95.11m²	95.11m²
バルコニー面積	18.85m²	14.80m²
合計面積	113.96m²	109.91m²

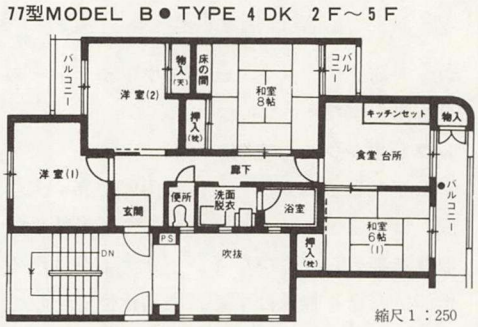
95型MODEL　B●TYPE　4LDK　2F～5F



縮尺1：250

	1F	2F～5F
専有面積	95.11m²	95.11m²
バルコニー面積	18.85m²	14.80m²
合計面積	113.96m²	109.91m²

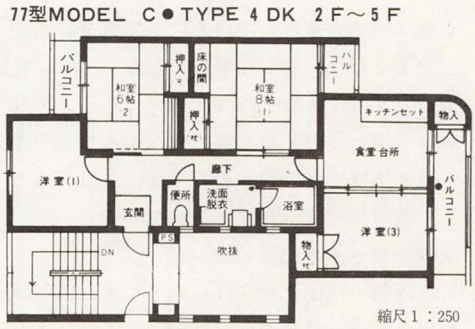
77型MODEL　B●TYPE　4DK　2F～5F



縮尺1：250

	1F	2F～5F
専有面積	76.91m²	76.91m²
バルコニー面積	14.69m²	10.54m²
バルコニー物入面積	0.9 m²	0.9 m²
合計面積	92.50m²	88.35m²

77型MODEL　C●TYPE　4DK　2F～5F



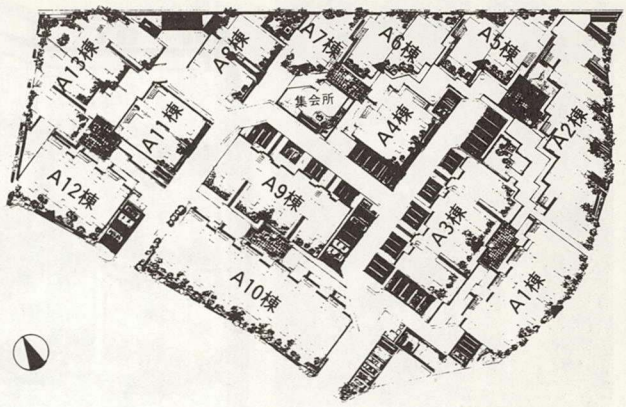
縮尺1：250

	1F	2F～5F
専有面積	76.91m²	76.91m²
バルコニー面積	14.69m²	10.54m²
バルコニー物入面積	0.9 m²	0.9 m²
合計面積	92.50m²	88.35m²

山田西タウンハウス（山田西—A団地）　所在地／吹田市山田西２丁目18番



写真２　山田西コモンスペース

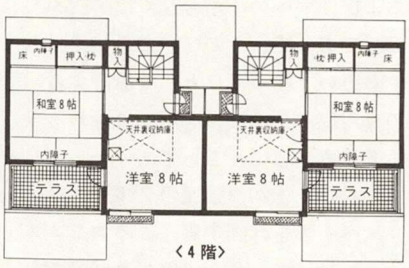


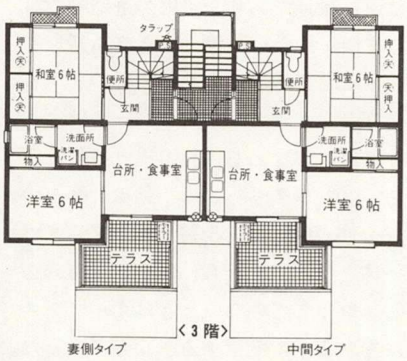
計画概要

地 域 地 区 —第２種住居専用地域・第２種高度地区
敷 地 面 積 —9763.64㎡（全敷地共有）
構 造 ・ 戸 数 —ＲＣ造、４層２戸・３層２戸、13棟84戸
住 戸 面 積 —87.81～93.43（㎡／戸・ＮＥＴ）
容積・建蔽率 —82.53％（容積率）、34.99％（建蔽率）
駐　車　率 —100％（一部専用庭に各戸駐車）
専用庭の規模 —9.95～76.19　（㎡／戸）
価　　格 —2,787万／戸（住戸面積—87.81㎡・専用庭—9.95㎡）
〜
3,558万／戸（住戸面積—117.55㎡・専用庭—16.90㎡）
募集・入居時期 —昭和55年12月（募集）・56年３月（入居）

●プラン—1　B１TYPE〈上階〉４ＤＫ

専有面積／92.14㎡
テラス／17.07

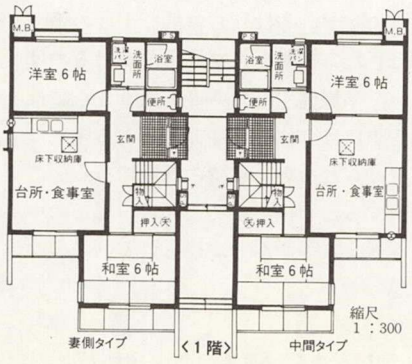




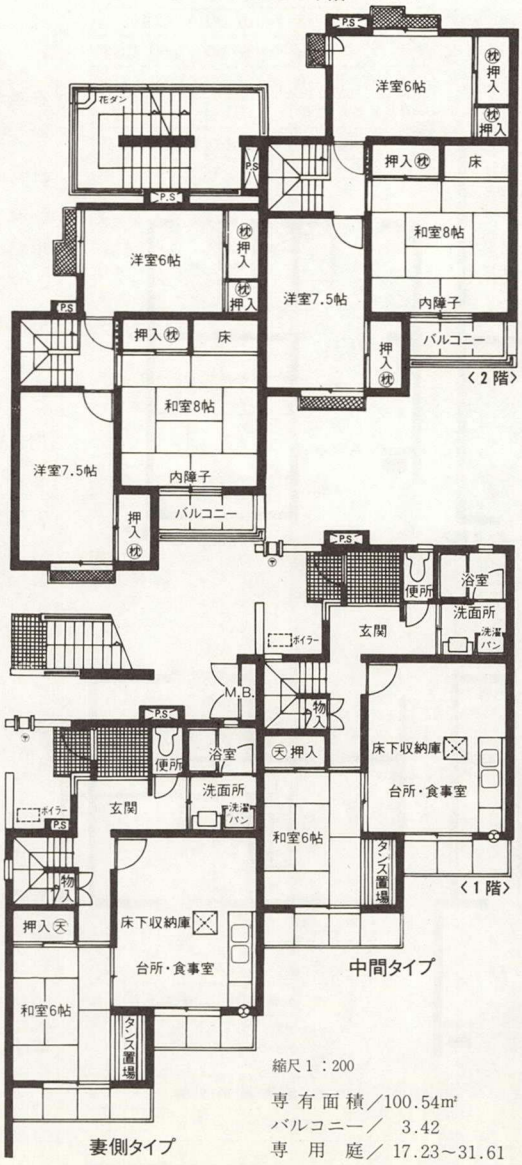
●プラン—1　B TYPE〈下階〉５ＤＫ

専有面積／117.5㎡　バルコニー／4.74
専用庭／13.20～17.19



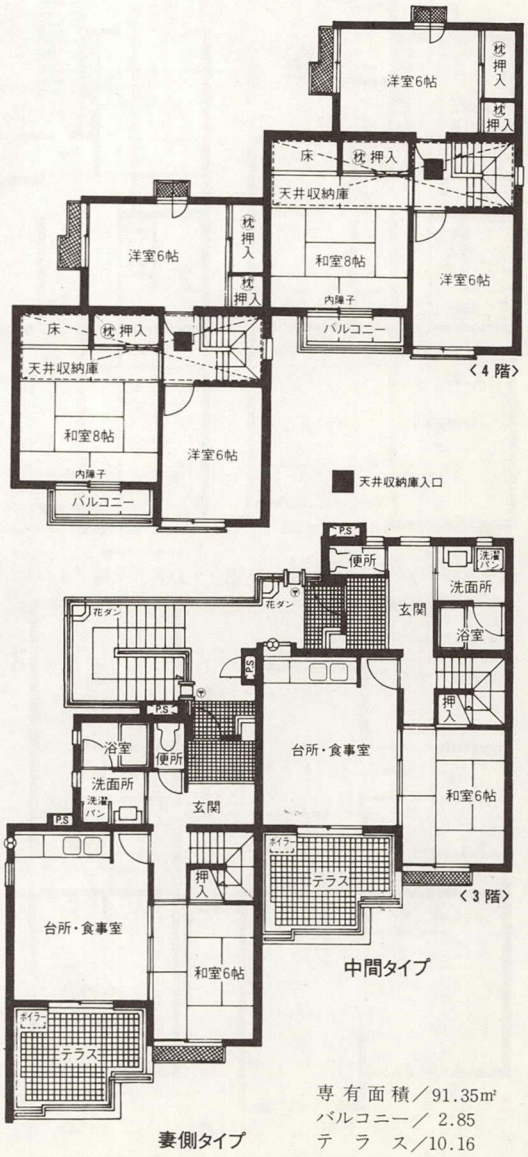


●プラン—2　D TYPE〈下階〉４ＤＫ



縮尺１：200
専有面積／100.54㎡
バルコニー／　3.42
専　用　庭／ 17.23～31.61

●プラン—2　D１TYPE〈上階〉４ＤＫ



専有面積／91.35㎡
バルコニー／ 2.85
テ ラ ス／10.16

赤坂台タウンハウス（赤坂台一B団地）　所在地／堺市赤坂台６丁14番

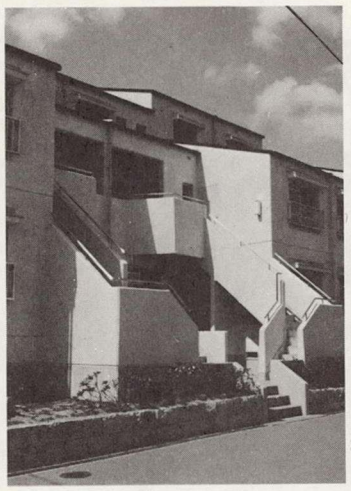
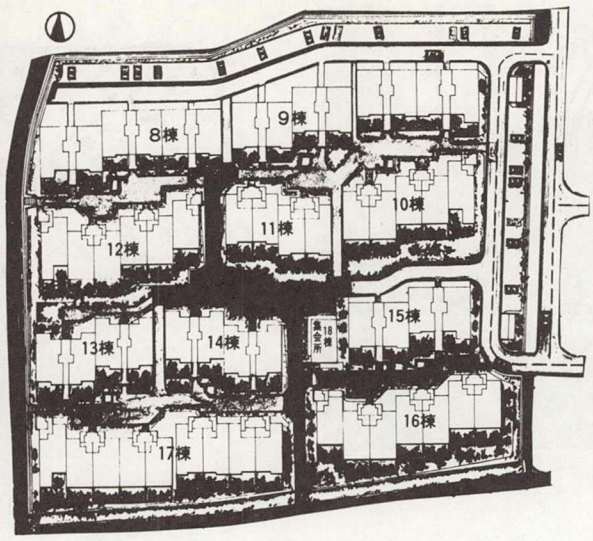


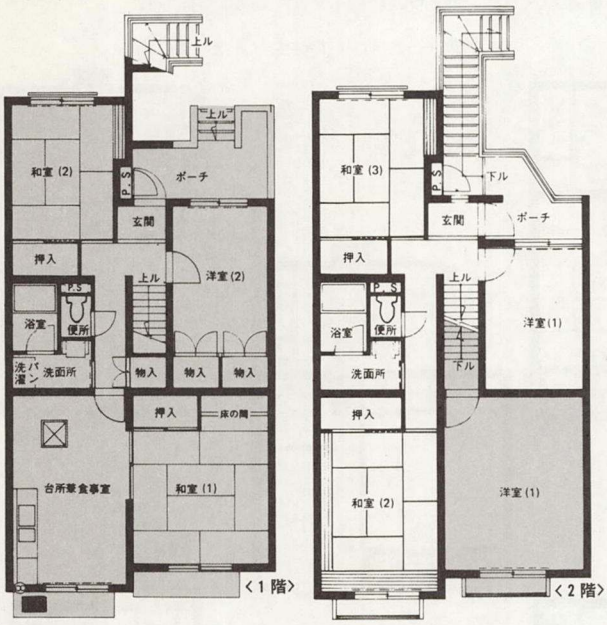
写真３　赤坂台プラン－２



計画概要

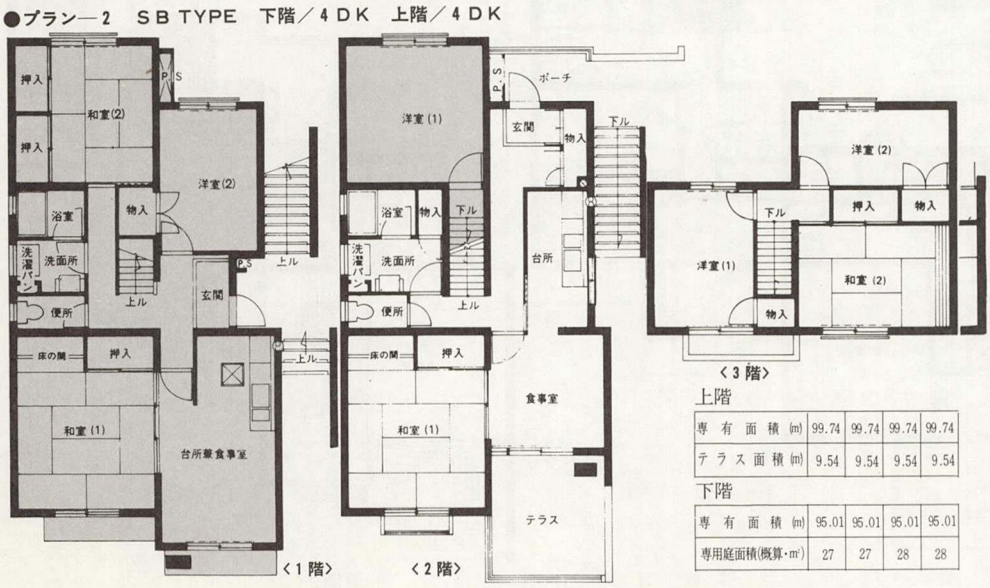
地域地区―第２種住居専用地域・第２種高度地区
敷地面積―15321.04㎡（全敷地共有）
構造・戸数―Ｒ Ｃ 造 、３ 層 ２ 戸 、12棟114戸
住戸面積―89.88～108.37（㎡/戸・NET）
容積・建蔽率―77.77%（容積率）、32.52%（建蔽率）
駐　車　率―100%（一部住戸内各戸駐車）
専用庭の規模―24～39（㎡/戸）
価　　格―2,478万/戸（住戸面積90.77㎡・テラス10.49㎡）
～
3,253万/戸（住戸面積107.29㎡・専用庭35㎡）
募集・入居時期―昭和55年12月（募集）・56年３月（入居）

●プラン―１　ＮＢ ＴＹＰＥ　下階／４ＤＫ　上階／４ＤＫ＋納戸＋便所



上階	専有面積（㎡）	107.30	107.30	107.30
	テラス面積（㎡）	13.60	13.60	13.60
下階	専有面積（㎡）	107.29	107.29	107.29
	専用庭面積（概算・㎡）	35	28	27
	バルコニー面積（㎡）	6.49	6.49	6.49

●プラン―２　ＳＢ ＴＹＰＥ　下階／４ＤＫ　上階／４ＤＫ



上階

専有面積（㎡）	99.74	99.74	99.74	99.74
テラス面積（㎡）	9.54	9.54	9.54	9.54

下階

専有面積（㎡）	95.01	95.01	95.01	95.01
専用庭面積（概算・㎡）	27	27	28	28

施設・医療施設・小学校がある。山田西―Ａ団地は、この地区の一番西側の高台に位置しているので、北側に、万博公園のシンボルタワーが見える。赤坂台―Ｂ団地は泉北ニュータウン・光明池地区の赤坂台近隣センターに、緑道を挟んで隣接し、公社分譲住宅、戸建て住宅、緑道に囲まれた、静かな住宅地である。両団地とも、従来の公社分譲住宅のイメージを変えるのに適した敷地であった。

計画に当たっては、①接地型住宅・戸建て住宅の住みやすさが、共同住宅にどこまで取り込めるか、②オープンスペースがより日常的であるにはどうあるべきか、③中層住宅に比べて、住戸密度の低下がどこで止まるか、が主なテーマであった。

具体的には、住戸・住棟計画では、①住戸の玄関および住戸への歩路もしくは階段を、住戸の〝顔〟であって、その〝顔〟でもって付き合いをするという場づくりとして設計する、②各戸の専用庭もしくは、専用庭に替わるテラスを設置する、ということであった。

配置計画では、①20戸程度のグループ単位でコモンスペースを計画する。このコモンスペースは、修景地であり、子供の遊び場であり、そして隣・向かいの家の人と立ち話をする場づくりとして設計する、②住戸のプライバシーを守りながらオープンスペースはより日常的な位置、すなわち住戸の出入口附近に配置する、③駐車スペースは、動線計画上の歩路の安全性の確保と、歩路とオープンスペースが一体となる計画から、集中駐車方式を原則とし、駐車していないときはオープンスペースになるように配置する、などであった。

これらの計画全体について、日常的であり得るには、どのような場づくりが必要なのかということが焦点であった。たとえば、住戸玄関のまわり（**写真３**参照）、また住棟まわり（**写真１、２**参照）の場が、どれほど日常生活の場として落ち着いてゆくだろうか、今後生活を見てゆく中で、明らかになるはずである。

おわりに

タウンハウスもすでに竣工し、住み手を持っているのだが、やはり日常的な生活の場づくりにはまだ不透明なスクリーンがあるのは隠せない。多様性すなわち日常性をさらに推し進めるのには、住民参加方式による住宅づくりは避けられない、現時の課題である。ここを通過することによって、今後の都市の中の住宅を考える手がかりが得られるのではないかと思っている。

（よしうち　さちこ　大阪府住宅供給公社建設第一課）

都市型高層集合住宅の新しい設計理論とその具体策

福嶋孝之／小材雄英／中馬博良／竹内徹
(長谷川工務店大阪支社技術本部)

はじめに

これからの都市住宅はますます高層化の方向に向かうであろう。高層集合住宅の住まいの水準をどのようにレベルアップしていくか、これが筆者ら設計にたずさわるものの課題である。

建設省では委託研究の成果として、ビルディングレター'78－8にシステム住宅の性能評定・表示システムを公表し、さらに中高層共同住宅性能等表示システムの検討も行われているようである。住宅性能表示システムの意義として「住まいの水準のレベルアップをはかり、欠陥を防止する。住宅の評価要因の一部を標準化するとともに何らかの形でそのレベルの目安が示されることにより、たとえばx・LDKでxが大きいことが住まいの広さを表すという考えや、過度の宣伝に対する冷静で客観的な判断を誘導することができる。このようなシステムの中である種のチェックがなされるということが、結果的に住宅やその供給者のレベルを上げることにつながる。……」という点が示されている。

都市住宅特集号という機会をとらえて、われわれなりに都市型高層集合住宅の住まいの性能について評価を試みた。住まいの水準を左右するものとして、イ）都市機能の充実と共有ゾーン、コミュニティーゾーンの充実、ロ）専有内部の住まいの水準のレベルアップ、ハ）設計者の設計業務、工事監理業務に対する意識のレベルアップ、があげられると思う。

上記3項目に対して筆者なりに問題の提起を行い、各項目ごとに具体例と具体策を展開させてみた。読者の温かいご批判をいただければ幸いである。

イ）都市機能と住まいの水準について

宅地不足、土地税制の緩和がさけばれている反面で、西欧の住環境の改善による都市周辺の自然環境の豊かさに対比してわが国は逆に住宅建設が自然破壊になっているとの指摘がある。宅地不足の実状は、都市機能の充実という公共事業の及ぶ範囲が地方都市も含めてごく一部に限られていること、限られた地域で都市機能の恩恵を享受できることが現代住宅の必須条件であることに見出されると思う。

宅地不足を、公共都市施設の整備がついていけない現象の現れと見れば、都市機能が整備された地域で住宅は、高層化、集合化する。1/4世紀を経た古い団地の高層化、建て替えを行うとの記事が最近出ていたが、今後の都市形成の方向を示すものと思う。

下水道工事を例にとっても、民間デベロッパーによる開発事業、マンション事業では浄化槽から単独排水管埋設工事、放流先水利組合の同意取得という開発条件が当たり前のようにはびこっている。民間事業で公共下水道整備工事に協力するという例はまれである。

しかしこのような姿で正常な都市文化を形成できるものであろうか。公共下水道に限らず、道路、自然保護、交通アクセス等公共事業と民間事業の協力による都市計画事業が今ほど重要な時期はない。

ロ）集合住宅と住まいの水準について

仮住まいマンション、永住希望は入居者の2割、関心の薄い管理。と建設省による意識調査報告が語っているという。都市住宅が現代住宅の姿であり、限定された地域で高層化、集合化する姿を直視すれば、永住を基本とする集合住宅を提供するために供給者側の責任は重大である。設計上の対応策と竣工後の設計者によるフォローという両面での解決策が必要であろう。

昨年の後半の時期に販売率の良い物件について、居間、食堂等の公室の設計に焦点を当てた統計資料をグラフに表すと**図1**、**図2**のようになった。バルコニーに面した広い居間が意図されており、購入者が何をもって広い住まいとするか性能評価の基準が示されているように思う。昔のえん側、座敷に相当するものと考えることもできる。

仮住まいから永住へ、住まいの性能評価がそのリード役をはたす時代がくるかも知れない。

ハ）設計者の業務と住まいの水準について

去る6月1日より、「工事監理法令事務所」が関係者の多大の努力により大阪府下で制度化され、発足した。

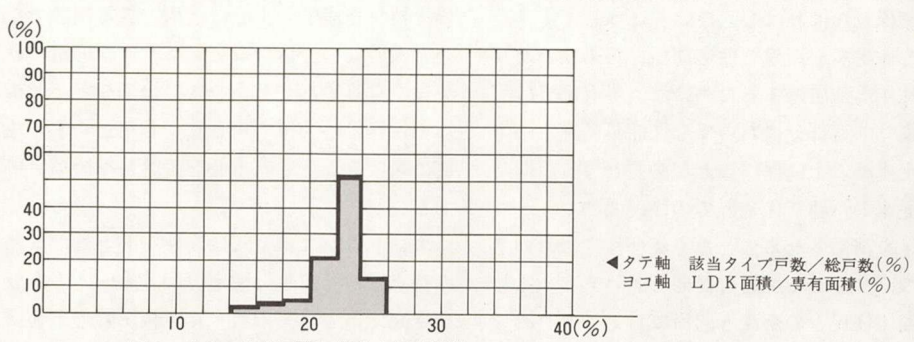


図1　公室の専有面積に対する割合(%)

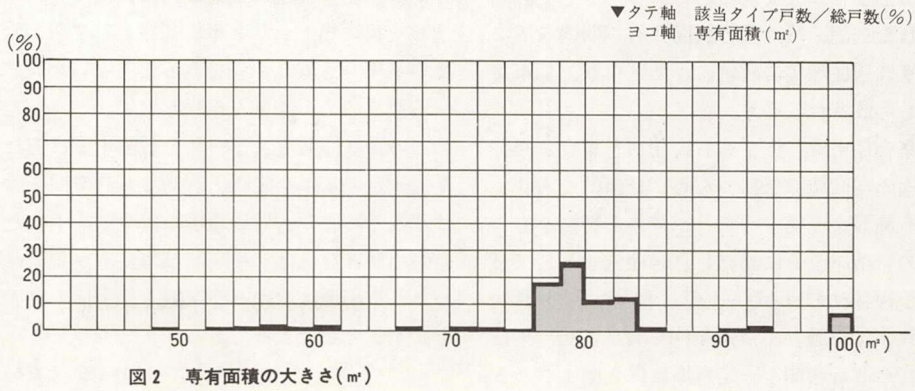


図2　専有面積の大きさ(㎡)

設計者の質の向上という足元の見直しが、あらゆる設計活動と同様、住まいの水準のレベルアップに役立つことも否めない。同時に建設省告示1206号の意図するように、設計者が自らの業務に対する正当な報酬を堂々と請求することにより設計活動の地位の向上を目指すことが必要である。設計者にとって図面に描くだけでなく、実際に描いた事柄が施工されたかどうか確認してはじめて設計業務が完了する。さらには、建物の竣工後も設計通りの耐久性・品質等が保たれているかどうか確認する業務も含まれると考えることもできる。

3年ごとに建築基準法第12条による調査報告が都市型集合住宅に義務付けられており、その適正な運用が高層集合住宅の品質管理、ひいては入居者に管理に対する関心を高めさせる結果をもたらすと考えられる。

その意味で設計図書、工事監理報告書を保管する設計者がその任に当たり、適切な助言を行うことが必要な時期にきているのではないだろうか。（ふくしま　たかゆき）

I 都市機能の充実と共有スペースの充実〈主としてコミュニティースペースの水準〉

従来一定の水準を保っていた戸建て住宅群も、ここ数年の間に外的な諸条件により高密度化していく傾向にあり、住環境の質の低下が予測される。

人々が市街地で一定の密度で、一定の水準を保ち快適な生活を営むには、集合化、高層化が必然的となる。そこで、地域性等を加味しながら適正な住戸面積と適正な外部空間とを確保しなければならない。こうしてできた集合住宅を、戸建て住宅同様、将来にわたり永住する住居にするためには、専有部分はもとより共有部分においても性能基準を定め、一定水準以上に保つことが必要となる。同時に従来の戸建て住宅群での住民間のコミュニティを消滅させることなく集合住宅においてもつくりだせる配慮も必要だといえる。そして周辺住民との交流も円滑に行えてはじめて地域とひとつになれるのである。そして計画された公園、緑地など公開共有空間の設置により周辺住環境の改善の一助となり、都市文化も形成されてゆく。

集合住宅は、上下左右に住戸を集合させ、共同の空間施設を持つため、経済的であり、共有施設を充実することができる特徴をもつ。この特徴を十分に認識し、居住施設として最も重視されている①安全、②健康、③利便(効率)、④快適の4つの条件を満足させ、集積された共有空間を一定水準に保ち向上させる必要がある。

この集積された共有空間とはエントランス、集会室、共用廊下、ゴミ収集施設、駐車施設、給排水並びに電気設備、管理施設（管理事務所、清掃人室）、公園、プレイロット等である。これらは共同で管理することができるため、性能の良い設備機器、充実したスペースを経済的に維持することができる。そして居住者と周辺住民との接点の場である公園、プレイロット、集会室等の充実が周辺の環境、文化の向上に貢献する。

各共同住宅の立地等により差異はあるが、土地利用上の配慮と技術的配慮が、共有部分の水準を決定させる指針となる。土地利用上の配慮とは、エントランスの位置、歩車道の分離、周辺住宅を考慮した緑化、空地の位置、日照等である。技術的配慮とはエレベーターの台数算定および位置、集会室の規模、共用廊下および階段等の騒音対策、空地の緑地率等である。

共有空間の中のコミュニティ空間について述べると、居住者および周辺住民の接点となる重要なスペースであり、これには公園、プレイロット、集会室等があり、なかでも公園、プレイロットは集合住宅の特徴であるところの有効な公開共有空間である。居住者の遊び場、コミュニティの場であるとともに周辺住民との接点でもあるので、各行政庁の指導とともに一定の水準を定める必要があり、また設置場所についても十分な配慮をしなければならない。つぎに集会室は、居住者が多目的に使用する場であり、雨天時の遊び場としても有効に利用できる施設であることが望ましい。集合住宅の規模により集会室の面積、設備、器具を設定し十分に活用できる施設でないと、居住者全体のコミュニティが円滑にいかなくなる恐れがある。また公園などと同様、周辺住民との交流の場として利用しやすい位置に設けることも、重要な設計基準の項目である。

エントランスホールは居住空間と外部空間の接点であり、集合住宅の顔ともいえる重要な空間である。案内板・掲示板・管理事務所があり、集合住宅の機能が円滑に働くための情報交換の場であり、単に通路として扱われている場合もあるが、できることなら小ロビー的要素のある空間を確保したい。

このように共有スペースを計画するにあたり、一定の水準を定め、有効な共有空間を設けることにより、周辺環境の保全・向上のための一助となれば、中高層都市住宅が将来にわたり市街地における住空間、住生活の主流をなすことができるであろう。

（たけうち　とおる）

II 専有内部の住まいの水準のレベルアップ

昨今の中高層都市住宅の動向は、各種調査機関やマスコミにおいて発表されているごとく、一時的には社会情勢による需要供給のバランス差はあるにしても、着実に都市機能に密着して上昇していることは明らかである。中高層都市住宅が従来からある一戸建て住宅と対比して単なる一時的な居住形態であり、生活空間であると考えることは今や当たらない。すなわち、都市における中高層住宅の持つ存在価値と魅力とが、いろいろな面から社会に定着し、それを社会生活の中で認めていることは論をまたない。適正な質を持ち、社会のニーズと評価に耐えられる中高層都市住宅は、現在では住宅の主流であり、今後もその需要は着実に上昇していくと考えられる。今や都市住宅としての中高層共同住宅は新しい住生活に密着し、その生活空間の水準も内部空間、外部空間を合わせて一定の水準に達していることをまず確認しておくべきである。

そこで都市住宅の住空間が現在どういう水準にあり、現在の社会の需要と供給の中において今後どうあるべきかを、最近の弊社のアンケート、および55年末より56年初めにかけて近畿圏にて入居希望者に好評であった10数物件のマンションの住空間の水準と傾向、また弊社開発による標準設計コンバスシリーズの位置づけ等を対比しながら、建設省住宅評価システムと照合し、生活空間として現況の問題点、現状認識を行いたい。

*

建設省住宅評価システムにおける住宅平面の機能性評価法の概要と実際例との対比

〔1〕住宅平面の機能性評価法の概要

建設省住宅評価システムと実施例との対応を考えるに当たり、(1)居住性に関する性能、(2)安全性に関する性能、(3)耐久性に関する性能、と大きく3つの分類に分けることができるが、とくに生活空間を中心に考えた場合、(1)の居住性に関する評価となる「住宅平面の機能性評価」によることが量的に評価可能なものとして指標化されているため、今回はこれの概要を説明し、これによって前述の実施物件を比較検討する。

まずこの評価方法、基準を説明すると、つぎのごとくである。評価基準は、5段階評価（A^+、A、B、C、C^-）と3段階評価（A、B、C）とに分けて指標化されている。この一般的水準は、以下のとおりである。

C^-：現時点で明らかに著しく劣ると考えられる水準。

C：在来の公共住宅程度で、現在ではいく分低い水準。

B：現在の日本の住宅の標準と考えられる水準。

A：今後の一般住宅の目標として、ほぼ満足できる。

A^+：ゆとりのある望ましい水準。

以上を指標として生活空間（専用内部空間）の諸室の評価を行っている。全体では大きく分けて、(1)住戸規模の評価指標（５段階）、(2)公室（ＤＫ、ＬＤＫ等）の評価指標（５段階）、(3)私室（主寝室、副寝室、補寝室）の評価指標（３段階）、以下３段階評価指標として、(4)台所、(5)サニタリー、(6)収納、の６項目としている。なお私室については和室の場合と洋室の場合に分けて考えている。

表１．１　住戸規模の評価指標　㎡

A^+	A	B	C	C^-
150以上	100～150未満	70～100未満	50～70未満	50未満

表１．２　公室面積の評価指標　㎡

A^+	A	B	C	C^-
30以上	18～30未満	13～18未満	8～13未満	8未満

表１．３　公室各室の最低規模　㎡

室	面積㎡	短辺寸法　m	備　　考
D	5	2.0	
ＤＫ	8	2.5	公室部分を５㎡と見なす。
L	9	2.5	
ＬＤ	13	2.5	
ＬＤＫ	16	2.5	公室部分を12㎡と見なす。
K	5		

表１．４　和室の場合　㎡

	A	B	C
主寝室	12以上	10 ～12未満	8.0～10 未満
副寝室	10以上	8.3～10未満	6.5～8.5未満
補寝室	－	－	5 ～6.5 未満

表１．５　洋室の場合　㎡

	A	B	C
主寝室	14以上	12～14未満	10～12未満
副寝室	12以上	10～12未満	8 ～10未満
補寝室	－	－	6 ～８未満

表１．６　台所面積の評価指標　㎡

A	B	C
8　以　上	6 ～８未満	5 ～６未満

表１．７　サニタリー(便所､洗面､浴室)面積の評価指標　㎡

A	B	C
7　以　上	5 ～７未満	4 ～５未満

表１．８　収納部分面積の評価指標　㎡

A	B	C
5　以　上	3 ～５未満	2 ～３未満

(1)住戸規模の評価指標

C^-：一般住宅として明らかに狭小な住宅で、標準的な住み方では１ＬＤＫまたは２ＤＫの規模。

C：在来の公共住宅の水準、２ＬＤＫまたは３ＤＫに対応。住生活水準の向上等により、現在では狭小と判断される。

B：日本の住居水準としてほぼ標準。３ＬＤＫに対応。

A：今後の一般住宅として望ましい４ＬＤＫに対応。

A^+：ゆとりのある規模の水準。

(2)公室面積の評価指標

C^-：食事室としては使えるが、団らん等は寝室と共用。

C：食事室としてはゆとりがあるが、団らん等には狭く、それらの場合は寝室と共用。

B：食事だけでなく、団らんや接客等の場が確保。

A：食事と団らん等が互いに分節しうる空間。

A^+：かなりのゆとりある、質の高い公室が可能。

(3)私室（寝室）面積の評価指標

私室は主寝室、副寝室、補寝室に分類され、以下の基準で考えられる。洋室と和室とは広さの基準が異なる。

主寝室：住戸内で最大の寝室で、一般的に夫婦寝室となることが予想され、最低10㎡以上。

副寝室：主、補寝室以外の寝室。

補寝室：他に寝室があることを前提とした補室。子供室。上記寝室の面積基準は**表１**による。

(4)台所、サニタリー、収納についてのおのおのの評価指標

表１によってＡ、Ｂ、Ｃランクに分けられる。

以上の「住宅平面の機能性評価」を基準に、つぎの項において、居住性を主体に実際と対比しながら検討を進めていく。

〔２〕生活空間（平面計画）の機能性の実例と分析

前項で述べた建設省住宅評価システムを利用して、昨年末より本年初めにかけて販売されたマンションおよび公共住宅のうち、即日完売または販売月内に90％以上の販売率の良い都市住宅の居住性、すなわち平面計画の機能性に関する性能評価の検討を試みてみた。

実例13物件の設計がこのシステムのどの基準に含まれ評価されるか、また現在の一般的中高層都市住宅はグレード的にはどこに包含されるものか、また弊社開発の標準設計（コンバスシリーズ）がどの基準に達しているかを、合わせて検討。現在の都市住宅の一面と特色を問題提起しながら進めていきたい。

(1)実例13物件の相対的傾向と性能評価との関係

今回調査対象の13件の都市住宅は、最近販売された集合住宅の中では平面的、地域的、分譲金額等を総合的に検討すると、総じてグレードの割合高いことがいえる。一住戸の面積規模においても、一般の大多数の購入希望者層の購入資金から考えると、かなりの現実と離れた購入金額となる。すなわち一住戸の専用面積の平均は75.7㎡（22.8坪）であり、分譲単価平均107万円/坪で検討すると一住戸の分譲金額は 2,400万円代となり、現状ではこれ以上の金額となっている。

13物件（弊社プロジェクトを含む）の平面プランの傾向としては、以下のものがあげられる。

ａ）Ｌが直接外気またはバルコニーに面していること。

ｂ）Ｌ、Ｄ、Ｋの諸室がおのおの独立、または一応の区画が可能となっているプラン。

ｃ）建設省の評価基準の各項目に対して項目対比が比較的可能なプラン。

ｄ）片側開放廊下型式だけでなく、スキップフロアー等、多種のブロック形態をもっている。

ｅ）全体的には、現在の都市共同住宅のグレードとしては常識的に考えて一住戸規模としては多分に高グレードに含まれると思われるプラン。

上記５項目は、われわれ標準設計を行い購入希望者層の一番層の厚いレベルを対象にしている側から見た一般的見解であるが、この13物件の居住性、機能性に関する性能を、前述の住宅評価システムと対比し、整理すると**表２**のごとくなる。

以上のごとく、われわれ企画、設計する立場から見て入居対象者層を考えながら分析す

表２　平面の機能性評価指標例

住宅規模	75.03㎡	５段階評価　B
公室規模	17.17㎡	5　〃　　B
主寝室（和室）	9.80㎡	3　〃　〃　C
〃　（洋室）	14.10㎡	3　〃　〃　A
副寝室（和室）	9.40㎡	3　〃　〃　B
〃　（洋室）	9.30㎡	3　〃　〃　C
台　所	4.70㎡	3　〃　〃　C以下
サニタリー	5.80㎡	3　〃　〃　B
収　納	4.70㎡	3　〃　〃　B

ると、一般的には住戸面積を主として見た場合、かなり高いグレードと思われる。これが評価基準の中で見ると、3段階評価の主寝室（洋室）面積が、かろうじてA評価に入ったにすぎず、他は一般的評価の範囲内であり、C評価の室も含まれている。これらを総合的に考えるに、現状の性能評価基準である5段階のB評価が経済性等を考え合わせ、現在の都市住宅においてはハイグレード、またはある一定レベルのグレードを保った面積と考えられ、3段階評価にても、B評価の上位がハイグレードと考えて問題はあるまい。

結論的に述べると、建設省の基準における評価は、今後良質で住生活を満足させるための方向づけおよび理想への指針であるともとれ、AまたはA⁺の満足できるグレードの都市住宅には、一般大多数の購入者層にとっては現実的には資金的な面、経済性の問題から見ても解決することがむずかしい問題を残している。しかし都市住宅を設計推進していくためには、この指標に準じて、よりグレードの高い都市住宅を建設することは、言うまでもなくわれわれの責任である。

(2)弊社標準設計の水準と位置づけ

前項にて、最近例13件の傾向と現状を分析したが、弊社は工業化工法、総合生産システムを発展させながら10数年来標準設計を進めてきた。ここで、現在弊社の主流である標準設計（コンバスシリーズという）が、建設省性能評価基準上でどのランクに位置づけされるかを、前述した割合ハイグレードである13物件の平均数値と比較してみた。

とくに弊社の最近開発したNL－808を比較してみたが、これの概要を説明すると、基準サニタリースペース（配管スペースを含む）を4種類に設定し、いかなる標準住戸ユニットが変更しようとも、これを一定にし住空間を可変可能にするという思想のもとに、一住戸の間口と奥行き寸法の変化によってグレードに対応しようとする方法をとっている。一般的には、その分譲時点でのニーズに答えるものということで、立地条件、分譲コスト、入居対象者層等によって住戸規模やグレードの選択がなされるわけである。

そこで今回、弊社の一般的標準設計で基本となる11m×5.6mユニット（61.6m²）と12m×5.8m（69.6m²）とを性能評価基準と対比し検討してみた。前項での13物件の平均住戸規模よりおのおの有効面積が少ない部分は、公室面積の規模において差が出ることになる。また寝室は主寝室を和室としているために他の平均よりハイグレードとなっている。洋室は副、補寝室としており、補寝室のグレードが高いのは入居者の家族構成等によって公室としての機能を補う室としての考えを持たせているためである。

限られた面積の中でいかに有効な空間を作り上げるかを現実の中で今後も追求していくことが必要であり、弊社のタイプバリエーションは、上記が標準設計のほんの一部であり、1000種類以上のタイプの中から経済性、機能性等から検討し、基本ユニットの一例を示したことをご理解願いたい。

〔3〕アンケート調査による検討

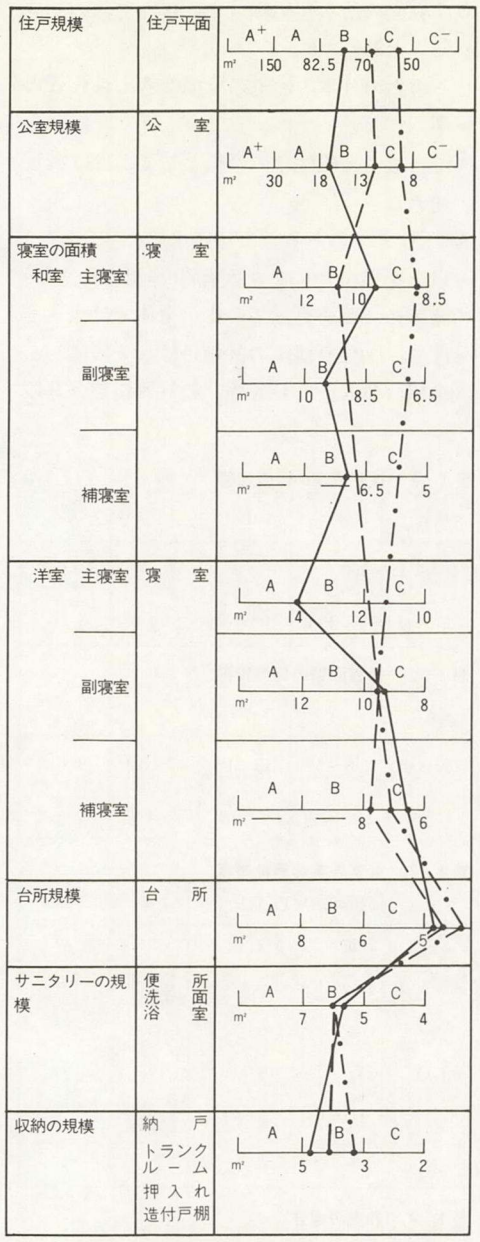
弊社が、本年3月に弊社施工の既購入者に、住宅面積に関するアンケート調査を行った結果を示す。住戸面積的には割合大きな物件を対象にしているが、現住宅面積（壁芯寸法）77.71m²に対し将来希望106.00m²であり、家族平均数3.25人から考えるとかなりグレードの高いものを希望しており、この中で一番多い要望は公室の広さで、現在より約10m²プラスの大きさを希望していた。

公室の定義がアンケートの中で明確に理解されなかった部分もあろうが、主寝室の広さの要望が現在面積より1m²程度のプラス要望であったことと比較すると、住空間の中でいかに公室が重要な位置をしめているかということが明確となった。

〔4〕建設省住宅評価システムの性能評定、表示システムの推進

今後、この評価および表示システムを推進し、より良い性能基準を集合住宅の中に取り込むためには、当然のごとく居住性、安全性、耐久性等の性能の良い集合住宅をわれわれが建設する必要はあるにせよ、社会のニーズと評価基準とが経済ベースでも成り立たなければならないし、この辺をもっと深く検討して基準を作成しなければならないのではなかろうか。また、評価基準を公表して中高層都市住宅のグレードを上げる目的を、どう表示して、一般のニーズに答えることができるか。今後細部にわたって検討していかなければならない。集合住宅の性能評価は、ハードな一面と同時にソフトな面も多分に含まれており、各個人の考え方や経済的理由による集合住宅の選択も可能なように性能比較の中に含めて考えられる表示システムを今後開発する必要があると思われる。

中高層都市住宅が一般社会に定着している現在、多角的で総合的にきめ細かな評価基準の実施と、それの表示システムを行政としても検討し、集合住宅に永住する入居者に安心して生活ができるように指針を明確にし、われわれ設計者に適切な指導をとくに期待したいものである。（おざい　かつひで）



——代表的マンション13物件の平均
------NL－808(5.8×12.0mスパン)
—•—NL－808(5.6×11.0mスパン)

図3　平面の機能性の評価指標

III 設計者の設計業務・工事監理業務に対する意識の向上

住まいの水準を高度に維持するには、建築技術者のモラルの向上、専門知識の向上が大切であるが、とくに現場施工管理の徹底に対する設計者の責任ある行動、工事監理の徹底が掲げられる。

このたびの建設省告示第1206号（建築士法第25条の規定に基づき、建築士事務所の開設者がその業務に関して請求することのできる報酬の基準を定めた。昭和54年7月10日）に続いて、建設省住宅局建設省住指発第148号（建築士事務所の開設者がその業務に関して請求することのできる報酬の基準について、昭和54年7月10日）が告示され、「業務報酬の算定の合理化および適正化の目的は、建築士事務所による設計等の業務の適正かつ円滑

な実施の推進に資することであるが、このためには、建築士事務所が不断の研さんおよび業務実施体制の整備に努め、設計、工事監理、施工等を一貫して行う場合においても設計等の業務を明確にするなどの書面による適正な契約に基づき業務を実施することが要求されるので、建築士事務所に対する技術力、義務実施体制等に関する指導を一層推進されるよう併せてお願いする」と記されている。

これにより、設計者が設計および工事監理に対し適正な契約業務を行うことが、義務づけられた。建築士のプライドも高まり、一般建築物同様、中高層集合住宅の水準を高めることにつながるものと期待されている。とくに、設計図から設計者の意図をくみ取り、設計図通り施工されているかどうか確認する業務の必要性が改めて見直され、工事監理業務が施工者の業務と相対する制度が明確にされたことは、高く評価される。設計者の分からない建売住宅や、設計者の責任がないプレハブ住宅が、姿を消す日も近いであろう。

このような状況の中で、去る6月1日より「工事監理認定法令建築事務所」が大阪府下で制度化され、発足した。その内容は、工事監理者が指示した是正指示項目を施工者側が施工していないことをも報告する業務を含め、責任ある設計業務が確立されたものとなっている。設計業務の契約の履行を徹底し、工事監理業務を責任をもって完遂していかなければならないと思う。

弊社の工事監理は、技術本部設計監理部(意匠・設備・構造・土木課）が担当し、設計図、承認図等のチェックから施工精度チェックおよび設備機能チェックを実施し、毎月各物件ごとに「工事監理報告書」を事業主に提出し、保管していただいている。工事監理報告書の明細を**表4**に、一覧表にて示す。

工事監理報告書は竣工図面、パンフレット、地質調査資料、竣工検査済証などとともに、マイクロフィルムにて保管されている。今回保管期間を3年以上と定められているようであるが、建物の竣工後に行われる建築基準法第12条による報告業務に対し、これらの資料は、欠くべからざるものであるはずである。むしろ竣工後のメンテナンスに伴う工事監理こそ、設計者の責任において行われるべきであろう。現在財団法人大阪建築防災センターに提出している報告書が当初の目的を達成するためにも、設計者がその責任において竣工後のフォローをすべきであると考える。そのような制度が確立されたときはじめて、入居者にも建物の自主的な管理に対する認識が深まり、快適な都市住宅の時代がおとずれるのではないだろうか。（ちゅうま　ひろよし）

表4　工事監理報告書の報告項目

●意匠関係
1　遣方立会報告
2　専用部色決め報告
3　共用部色決め報告
4　防火区画検査報告
5　作業所巡視結果報告
6　意匠関係検査報告（専用部検査）
　　〃　　（共用部検査）
7　モデルルーム検査報告
8　パンフレットチェック
9　建築基準法12条3項変更届
10　官庁検査済証写し

●設備関係
1　作業所巡視結果報告書
2　設備関係検査報告（1F床下、廊下下）
　　〃　　（専用内部〔　　F〕）
　　〃　　（塔屋屋上、EPS）
　　〃　　（ポンプ室、受水槽）
　　〃　　（電気室、外構）
　　〃　　（浄化槽）
　　〃　　（法規則）
3　社内竣工検査報告書
4　各種(水圧、排水、TV、絶縁)テスト報告書
5　モデルルーム検査報告
6　パンフレットチェック
7　官庁検査済証写し

●構造関係
（杭工事）
1　作業所巡視結果報告書
2　杭工事状況写真
3　地質調査報告書
4　杭工事施工計画書
5　試験杭結果報告書
6　杭コンクリート配合計画書
7　杭工事施工結果報告書
8　杭コンクリート強度試験成績表
（鉄骨工事）
1　作業所巡視結果報告書
2　鉄骨工事施工計画書（要領書）
3　製品検査報告書（工場）
4　現場溶接部検査中間報告書
5　現場溶接部検査最終報告書
（鉄筋工事）
1　作業所巡視結果報告書
2　鉄筋工事状況写真
（型枠、コンクリート工事）
1　作業所巡視結果報告書
2　コンクリート工事試験一覧表
3　日本建築総合試験所における骨材試験結果
4　公的試験場におけるコンクリート圧縮強度試験結果
5　まだ固まらないコンクリート試験状況写真
6　コンクリート工事施工計画報告書
7　コンクリート配合報告書

●土木関係
1　地盤切盛工事
2　擁壁・石積工事
3　排水工事
4　防火水槽・調整槽工事
5　舗装工事
6　公園緑化工事
7　敷地外工事
9　開発行為検査済書
9　宅地造成検査済書

筆者
福嶋　孝之
㈱長谷川工務店常務取締役大阪支社技術本部長
小材　雄英
㈱長谷川工務店大阪支社技術本部設計部理事部長
中馬　博良
㈱長谷川工務店大阪支社技術本部設計監理部課長代理
竹内　徹
㈱長谷川工務店大阪支社技術本部設計部課長代理

CONBUS® SERIES
New Life-808

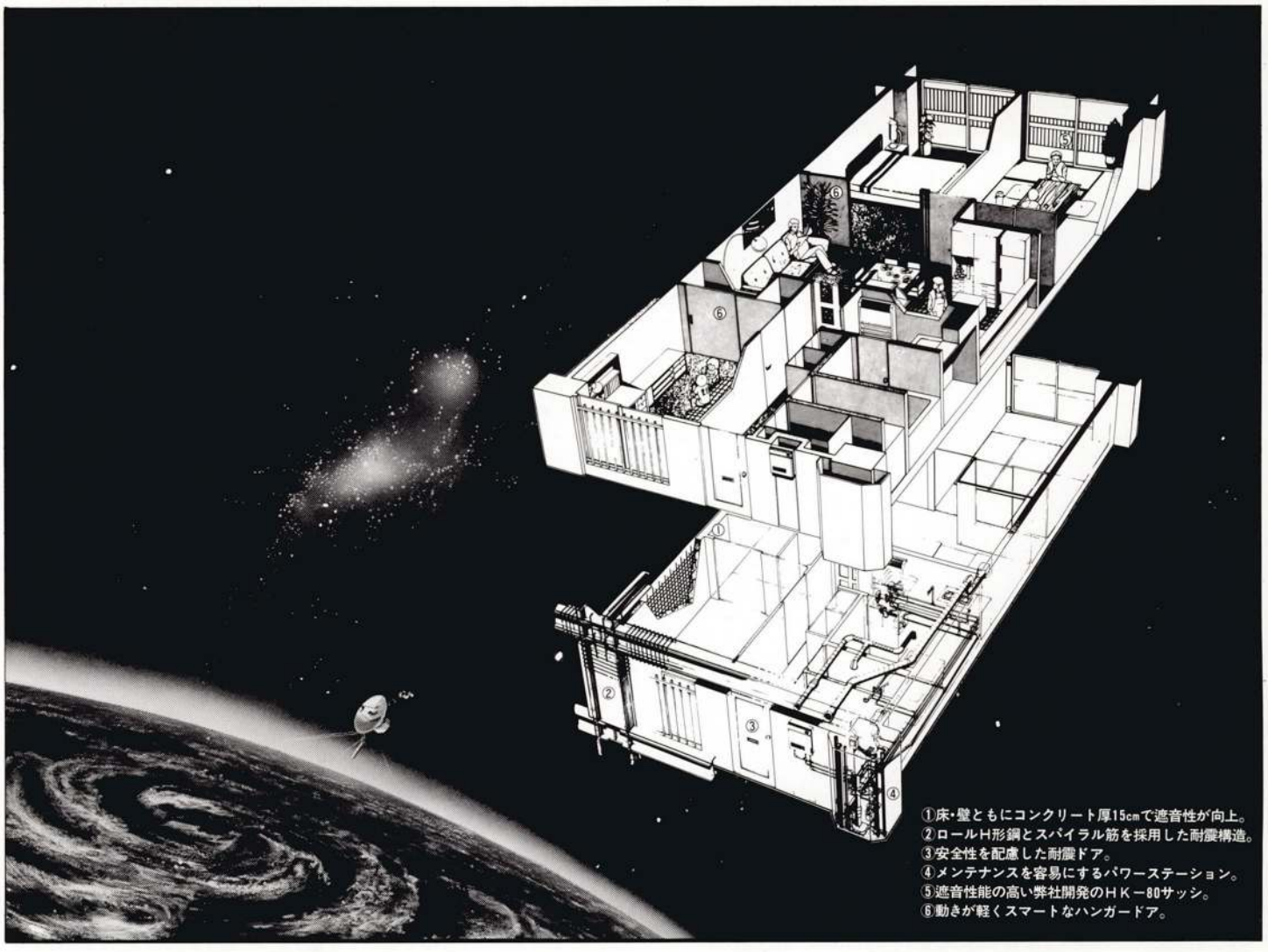
10年後の評価に耐えられるマンションを…

はじめに 弊社は、ご購入者の身になりながら、つねに時代を先取りするアイデアと技術力をもって、わが国の住環境の整備に力を尽くしてまいりました。
お蔭さまでその成果は約11万戸のマンション建設実績となってあらわれており、とくにコンバスシリーズをはじめとする良質なマンションを〝より安く、より早く、より多く〟提供し、多くのユーザーの方々からご好評をいただいております。
このたびは、このような弊社の過去12年余のマンション開発の経験を礎に、新たに「CONBUS NEW LIFE－808」を開発いたしました。この「NEW LIFE－808」はその名が示すように、808のタイプのバリエーションをもつという、これまでの標準化マンションの枠を大きく打ち破った、まったく新しいマンションシリーズといえます。
「NEW LIFE－808」こそは、多様性が求められる現代にあって、ご購入者のニーズに充分応えられるものであるとともに、〝10年後の評価にも耐えられるマンションづくり〟という弊社の経営理念にも合致したマンションシリーズとして、自信をもっておすすめいたします。

コンバス(CONBUS)とは CONBUS(CONdominium BUilding System)とは、弊社のマンションに関わるあらゆるスタッフの経験とその英知を結集した〝技術の結晶〟であり、〝いかにマンションの価値を末長く保ち建築コストを抑えるか〟という課題に対してのひとつの答えでもあります。
その大きな特長は、同一タイプに集約できるマンションプランを標準化し、その標準化されたユニットの組み合わせにより企画、設計、施工を行うことにより、従来にない良質で低廉なマンションを供給するシステムにあります。また、このコンバスの根幹となるユニットプランの設定に際しても、意匠面、構造体の安全性(耐震性)の検討のほか、メンテナンス面、施工精度向上の検討など多方面からの綿密なチェックが行われます。そのほか、定期的に実施している入居者アンケート調査により消費者のニーズをいち早く設計に反映させ、さらに標準化のメリットを生かして建築資材も集中購買を徹底させ、総合的なコストダウンを推進しております。

コンバスシリーズ コンバスシリーズは昭和49年の第1号以来今日まで、時代の変化と技術の進歩を先取りして開発が行われてまいりました。
現在、設計に採用されているコンバスシリーズには、今回紹介するNEW LIFE－808のほか、CONBUS－L(階段室形式・ユニットプラン30タイプ)、MINI－CONBUS(中廊下形式・ユニットプラン72タイプ)、NEW SKIP LIFE(スキップ形式・ユニットプラン38タイプ)、SUN LIFE(南面3室・ユニットプラン24タイプ)、CORE LIFE(エレベーターコア形式・ユニットプラン44タイプ)の各シリーズが揃っており、建設敷地の地域性、形状、用途地区により、それぞれ最適のものが選べるようになっています。

マンションのトータライザー 長谷川工務店
東京本社:〒105 東京都港区芝2-32-1 ☎03(456)5451(大代表)
大阪支社:〒541 大阪市東区平野町5-40 ☎06(203)5661(大代表)



モダンなファッションドア

このドアによってダイニングからの明るさを廊下部分にも取り入れ、明るい印象をつくり出します。



廊下には多目的収納ユニットを

廊下部分には、物入とワードローブ機能を組み合わせた多目的収納ユニットを採用しています。日常の小物類を充分に収納できる棚が付き、下足入れとしても使用できます。



トイレには棚を設置

ロータンクの奥にカウンター式の棚を設けています。小物や花瓶を置く棚として利用でき、また棚板を外せば配管類の点検口となります。



すべてにゆったりした洗面室

洗面室には75cm幅のワイドな洗面化粧台が設置されています。また大型の２槽式洗濯機が設置可能です。そのほか上部にはつくりつけの棚があり、小物類を整理するスペースとなっています。



内蔵型ホームチャンバー

洗濯機の排水をスムーズにする弊社開発のホームチャンバーを改良、洗面化粧台の内部に組み込みました。これで洗面室のスペースが有効に利用できるようになりました。



使いやすさが一段とアップした新型キッチンユニット

キッチンユニットは、使いやすい調味料棚や水切棚もセットされ、排気には、逃げた煙も天井部分で吸い込むダブル排気のブーツ型ファンを採用しています。キッチンユニットの脇にはちょっとしたスペースを利用して、便利なサイドカウンターを設けています。



機能的でスマートなハンガードア

居室のイメージアップのため、下部レールを一本にした三本引ハンガードアを採用しています。ドアの軽量化が図れ、開閉も軽くなりました。また、ドアの上部には明かり採り窓を設けて、より機能的でスマートなドアとなっています。



弊社開発の高性能サッシ（ＨＫ－70、ＨＫ－80）

静かな住まいを保つことができるよう、開放廊下側サッシおよび妻側サッシには防音型（遮音性能は25等級）「ＨＫ－70型サッシ」を採用しています。また、開口幅 2,250mmに広がったバルコニー側サッシには、新たに換気レジスター、設備スリーブをサッシ竪枠に内蔵した防音型サッシ「ＨＫ－80型サッシ」を採用しています。



集合住宅企画・設計・施工の標準化システム「CONBUS」の設計思想

CONBUS(=CONdominium BUilding System)は、一貫して集合住宅の生産に取り組んできた弊社が、その実績と経験を土台として開発した独自の集合住宅標準設計システムであり、従来、物件ごとに設計されてきたプランを分析し、代表的なタイプを集約して、構造面、設備面、施工面にわたって標準化を進めることによって、良質な住宅をより安く、より安定した価格で、より均一な品質を、より早く提供することを目的としたものである。

CONBUSは企画、設計、施工までのシステマチックな運用によって、以下の総合的なメリットを生み出している。

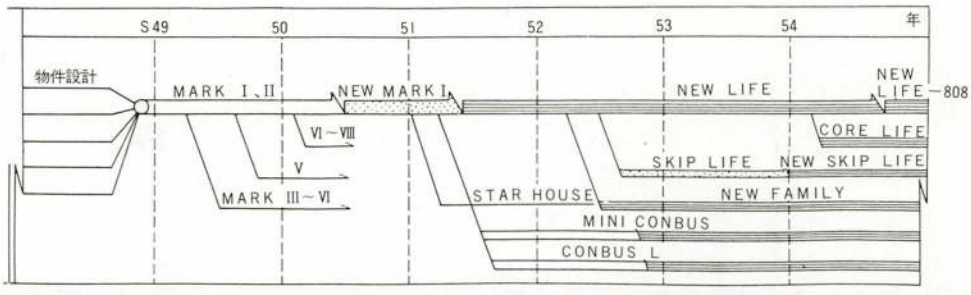
1. **設計作業の迅速化、省力化、正確化**
   〈さらにXEROX－2080、CADシステムの導入により、作図機能の拡大、作図時間の短縮が実現〉
2. **建築資材の合理的な購入**
3. **正確なコストの把握**
4. **施工精度の安定とそれに伴う品質の均一化**
5. **工期の短縮**
6. **総合的なコストの低減と安定の維持**

CONBUSは開発以来、順次その内容の充実拡大を図ってきたが、昭和50年に誕生したNEW MARK Iシリーズによって初めて総合的な体系化が確立されたといえる。NEW MARK Iシリーズは、片廊下タイプのスタンダードとしての弊社の技術力の集大成であり、翌年登場し最近のNEW LIFE 808シリーズに到るまでCONBUSの代表シリーズとなっているNEW LIFEシリーズの、基礎となったものである。片廊下タイプ以外にもSTAR HOUSE(都心型センターコア型式、初の全電化マンション)、MINI CONBUS(都心型中廊下型式)、CONBUS L(都心型階段室型式)、SKIP LIFE、NEW SKIP LIFE(郊外型スキップフロアー型式)、CORE LIFE(郊外型EV3戸1型式)などがシリーズ化され、立地条件に合わせて用いられている。

「良い住宅をより安く」というコンバスの基本思想はシリーズが異なっても一貫して追求されてきたが、その内容は、社会情勢の変化、購入者のニーズ、技術革新に対応して時代とともに変化を続けている。それはまた都市住宅の持つべき基本的条件、すなわち堅固な(不変の)構造体とフレキシブルな(可変の)設備システム、プランの多様性が、都市住宅のライフサイクル、ライフスタイルを決定づける大きな要因となっていることを意味しており、今後も「集合住宅のあるべき姿」、「都市生活の水準向上」を目指して技術開発、時代の要求の先取りを常に考えてゆきたい。

【部位別の変遷】





耐震性

●構造システム

コンバスの構造システムの特色の第一は、すぐれた**耐震性**、地震に強いことがあげられます。コンバス開発当初からこの点には特に力を入れてきました。その一例として、コンバス構造体は本年から施行された新耐震設計法をすでに6年も前に予測し実行してきたことがあげられます。いわば今回の改正でコンバスの構造体の優秀性があらためて実証されたと言うことができます。具体的には、**スパイラル筋の積極的利用**、**ロールH形鋼を主体にした鉄骨鉄筋コンクリート造**、等に代表される粘り強い構造体、そして標準ユニットが整然と組み合わされた単純明解な構造形態がこのことを良く表現しています。

●スパイラル筋の積極的利用



スパイラル筋の効果は、ロスアンゼルス地震で実証され話題になりました。コンバス構造システムでは、鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造を問わず、スパイラル筋を積極的に利用しています。

●ロールH形鋼を主体にした鉄骨鉄筋コンクリート造



鉄骨鉄筋コンクリート造の桁行方向は、原則としてオープンフレームとし、全階にわたって柱・梁とも品質の良いロールH形鋼を使用しています。

居住性・メンテナンス

●外部階段に消音マット



中高層住宅の場合、外部鉄骨階段が使われる頻度が高く、踏板部分に鉄板が使われることから、どうしても足音が響きやすい構造となっています。このため階段付近の住戸では気になる音になります。そこで改善方法として、消音効果の高い特殊ゴムマットを踏板に採用、静かな住環境の保全に努めています。

●ドア枠にはスチール枠を採用



木製ドア枠の欠点である、木材の伸縮に伴う開閉不良をなくすため、耐久性にも優れたスチール枠を採用しています。

●床・壁ともにコンクリート厚15c

コンバス開発以来、一貫して静かな住まいを保つため、床・壁とも厚さ15cmとして遮音性能の向上に努めています。特にスラブ厚15cmの直床工法は採用以来、施工精度の向上、床鳴り防止など、その効果が好評を得ています。

●壁配管の採用

設備配管は、施工精度の向上とともにシンプルな配管を可能にした壁配管方式を採用し、クレームの減少を図っています。

●補修に便利な点検口

各要所に点検口を設けることにより、設備配管のジョイント部分、曲がり部分などが充分点検でき、ある程度の故障の補修は壁等をこわさないでできるようになっています。

地震対策

●オールユニットバスの固定



ユニットバスの足元もコンクリート床に金物で固定し、地震時のすべりを防いでおり、より安全性の向上がなされています。

●電気温水器の固定

電気温水器の足元と頭部を金物で固定し、地震時の揺れで移動したり倒れたりしないように考慮されています。

●耐震ジョイント

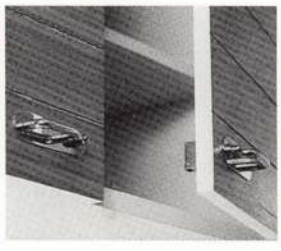
銅排水管の竪管の接続部分は、弊社開発のジョイント方式を採用しています。地震による建物の揺れや、温度変化による伸縮もこのジョイントで吸収し、排水管にゆがみやひびが入らないようになっています。

●耐震ドア

ドアの開閉支障が起きないように、ドア本体と外枠とのクリアランスを拡げ、かつ錠受部分も耐震性の工夫がなされています。

●耐震ラッチ付把手

地震の際吊戸棚の収納物が飛び出さぬよう、扉にラッチ付把手を設け、安全を期しています。



構造の頁

84

マイコン（その1）

脇山　広三



マイコンという言葉が、日常語となって２年ほどにしかなりません。３年ほど前に、大学で、マクロコンピュータの講習会が開かれているのを聞きましたが、その内容は専門用語でうめつくされ、ソフトも機械語レベルの話ばかりで、われわれ建築畑のものにとって、使いこなせそうもないと、絶望的な気持ちになっただけでした。

しかし、そのころわれわれの大学にトロント大学の助教授が来られて、雑談の中で、アメリカでは最近、小型のディスプレー付のゲームを対象とした安価（1000ドル）なコンピュータがあるが、関数の精度をのぞけば、十分実用になるという話をしていましたが、そのときは、あまり気にもとめませんでした。

ところが、それから１年ほどたって、ある設計事務所で外国製のマイコンを実務的に使っているというのを聞き、値段も、輸入品にもかかわらず、20数万円ということで、カタログ、雑誌をしらべ、これなら大学の研究用にも十分実用になるということになりました。

そうこうしているうちに、国産で、10数万円というのが出て参りまして、私は、勉強用・仕事用という大義名分のもとにマイコンを１台購入いたしました。

これで、最初は、ゲームで遊びました。つぎに数学的、統計的なプログラムを、つづいて、たわみ角法によるラーメン解析（14階・13スパン程度まで）、振動解析（15質点まで）、動的応答解析（15質点）、マトリックス法（変位法）によるトラス（70節点）、ラーメン（40節点）、平面ＦＥＭ（60節点）、少し変わったところで、日影図などのプログラムを日夜、つくりました。

ところが、最近になって新しいシステムを入手し、何かと便利になったのですが、前のシステム用ソフトを新しいシステム用ソフトに書き変えるのが気のりせず、遅々として進んでおりません。これは、最初の購入機種、機種変更などは、良く考えて行わなければならないという教訓であると思っております。

マイコンの現状

現在、マイコンには、大きく分けて、つぎの二つのタイプがあります。

A. 8 bitのCPUを持ち、キーボードと基本システムが、一体となったもの。

B. 8 bitまたは16bitのCPUで、アメリカの規格 IEEE S-100BUSのバスラインを有するコンポーネントタイプ、ミニコンのような形式のもの。

日本で製造されている有力メーカー製のマイコンはほとんどAタイプのもので、主要な電子回路を１ボード化することによって、ローコストとし、かつ製品の信頼性を上げています。このタイプのマイコンの価格は７万円～40万円の範囲にありますが、価格を比較するときに気をつけなければいけないのは、プリンターや、外部メモリーを接続するときに要するインタフェースなどのコストも考慮しておく必要があります。

このタイプのコンピューターは、ほとんどの機種にBASIC言語を内蔵しております。

Bタイプは、ハードを趣味とする人には非常に興味深い形式で、機能別にボード化し、共通の回線によって接続し、必要な機能を持ったコンピューターに仕上げるもので、拡張性に富んでいます。しかし、日本では、需要の少ないこともあって、コスト高です。また、この種のものは、言語が、種々えらべるのが普通ですが、システムコントロール用のソフト（３～７万円）と言語用のインタプリータとかコンパイラーというものが、数万円必要で、かなり本格的に投資するつもりでないと、ものにならぬ点が難点です。

マイコン用言語

マイコン用言語の現在の主流は、BASICですが、それの副言語として、機械語が用いられることが多いようです。しかし、最近では、PASCAL、FORTRAN、COBOLが使用可能となりつつあります。

Ⅰ．機械語：CPU(コンピューターの頭脳)特有の言語、通常２ケタの16進数で表現。

Ⅱ．ASSEMBLER：機械語に直接対応する記号化言語。

Ⅲ．BASIC：現在のマイコン言語の主流であり、インタプリータ形の会話形言語で、簡単で覚えやすく、科学技術計算・事務処理にも適している。しかし、機械語にくらべると処理速度は落ちる。

Ⅳ．FORTRAN：科学技術用のコンパイル形言語で、一度コンパイル（機械語レベルに近い言語に変換）した後は、処理速度はかなり速い。

Ⅴ．PASCAL：最近、マイコン用言語として、とり上げられてきたもので、プログラム構造が明解となると言われており、コンパイル形なので、実行速度も速い。

マイコンの周辺機器

マイコンの価値は、もし、ソフトを自分で開発することを前提とするならば、周辺機器によってきまるということができます。現在、市販されているものを上げますと、以下の通りです。

●外部記憶装置

(1) テープレコーダー：（ローコスト：低速）

(2) フロッピーディスク：（容量大きく、便利）

(3) ディジタルテープレコーダー：（容量大きい）

(4) バブルメモリー：（高速）

(5) RAMカセット：（電源内蔵：高速）

●プリンター

(1) 放電プリンター：（高速、ローノイズ、しかし、特殊紙使用）

(2) ユニドットプリンター：（ローコスト、(3)と基本的に変わらない）

(3) ドットマトリックスプリンター：（比較的ローコスト、画像のハードコピーも可能なものがある）

(4) ディジータイプライター：（印字性能は良いが高価）

●プロッター：25万円程度のX-Yプロッターがあり、26×36cmの図面が書けます。建築の設計図にはまだ寸法が不足ですが、実験データーの整理などには十分です。

●ライトペン：表示の読み取り

●グラフィックスタブレット：座標読み取り装置

●マークシートリーダ：マークシートの読み取り装置

●音響カプラー：最近のマイコンには、インタフェースにRS-232Cというのがそなえられており、音響カプラーを併用すれば、電話回線を通じて大型計算機と接続可能で、それ自身も処理能力をそなえた端末機としても機能し得るものがあり、大学では、すでにそのような利用もしています。

●A/D、D/A変換装置：計測機のアナログ信号をディジタル信号にしたり、計算機のディジタル信号をアナログ信号に変換する装置。まだ、マイコンメーカーからは出されていませんが、将来はかなり利用されるのではないかと思われます。

まだ、マイコンが発売されて日が浅いので、ソフト面では、自力開発が必要なようですが、より多くの人が、コンピュータにじかにふれることによって、将来、良いソフトの蓄積が期待されます。しかし、そのためには、ソフトの価値が正当に評価され、適当なレベルで保護される必要が感ぜられます。まだ、われわれは、ハードに対する価値評価はできますが、ソフトに対しては、なかなかできないというのが実情ではないでしょうか。

（わきやま　こうぞう　大阪大学助教授・工学部）

設備の頁

83
衛生設備の凍結防止対策

高津　幸夫

今冬西日本一帯に一番の冷え込みをもたらした猛寒波によって、2月26日夜から27日にかけて大阪市内全域にわたり水道管の凍結や破裂・断水が続出した。

市水道局のまとめによると水道管の凍結が3850件、破裂が5560件であり、冬季における水の凍結防止は寒冷地に限らず、全国的な問題でもある。

以下に衛生設備の凍結防止についてのべることにする。

1．凍結防止の要点

水は0℃になれば、氷となる。一度水が氷結すれば、その容積は約1/11増加し、そのために生ずる膨張力は約90kg／㎠以上となる。たとえば、防寒装置の不完全な水せん柱などは、冬季気温が0℃以下になると、このような膨張力によって、給水管の破裂などの被害が生じる。このような凍結被害を防止するために、つぎのような方法が用いられている。

1) 室内を暖房により常時0℃以上に保つ。
2) 水の温度が0℃以下にならないように保温する。
3) 水の温度を0℃以上に保つように加熱する。
4) 水が停滞しないように流動させる。
5) 使用時以外は水を抜く。
6) 土中埋設管は凍結深度より深くする。

実際には上記の条件を二つ以上満足させていることが多い。また配管などの周囲空気温度が0℃以下にさがらないような方法を組み入れることが望ましい。

2．給水装置の凍結防止

1）給水装置と条例

給水装置を設置する場合は、各市町村の水道事業給水条例、同施行規定、その他規定の細目による。大阪市の場合、給水装置には凍結、破壊、侵食等を防止するため、適当な措置を講じなければならない、と規定してある。

また使用材料も指定されたもので施工し、給水装置の安全を守り確実に給水するため、防寒、防凍装置等の各種の保護工を行う必要がある。

2）給水管の埋設深さ・保護措置

給水管の凍結による被害を防止するため、管の埋設深度は、その地方の凍結深度を考慮して定めなければならない。

埋設する給水管の周囲は、良質の土砂をもって埋め戻し、給水管を保護する。露出する部分の給水管および凍結のおそれのある給水管は保護材および防寒材で保護しなければならない。

3．給水設備

給水管内水の凍結は地下埋設部と地上露出部分とに分けられ、露出部分は通常、屋内配管などであり、埋設部分は屋外などの給水引込管である。また屋上に露出した高置水槽ならびにクーリングタワーまわりの露出の水配管がある。

1）屋外配管

給水装置の配管埋設深さは各市町村の給水条例ならびに指導要綱に従う。指定のない地域では、その地域の凍結深度の約1.5倍の深さに埋設すればよいといわれる。

管内水が一旦凍結しはじめたものをそのまま放置しておくと氷はますます発達して凍結範囲を増大し、さらに結氷の強さを増すことになる。

給水管が鉛管の場合は、復元力がほとんどないので氷の膨張により膨張部分の管の厚さは薄くなり、凍結が繰り返されると遂には破裂することになる。また管の一部に弱い個所があると凍結が繰り返されるまでもなく、一度の寒波襲来によって破裂することもある。

管材質および口径は熱伝導の良い材質で小口径ほど屋外低温の影響を受けやすい。やむなく露出配管をしなければならない部分は、配管を太めにして断熱保温を十分にして、水抜きができるようにしておく。

高置水槽は、凍結防止上露出することを避けて水槽室を設け、屋内設置とすることが望ましい。外気温度がとくに低い地域で水槽室が0℃以下になるようであれば、室内を暖房する必要がある。

2）屋内配管

屋内配管は暖房が完備した建物では特別な対策を考慮しなくてよいが、外壁に埋め込むことは避けて、室内露出配管とする場合はライニングを設けるとともに、管内の水を容易に排水できる適切な個所に、水抜き用の器具を設置する必要がある。

また、横走り管は排水しやすいよう1/100以上の先上り勾配とし、途中にU字形配管ができないようにする。やむをえない場合は、この部分に必ず排水弁を設ける。万一凍結の際に解氷作業の便を図るため、取り外し可能なユニオン、フランジ等を適切な個所に設ける。

給水管の凍結防止装置として、水抜き栓・水抜き弁・凍結防止弁・凍結防止電気ヒータが用いられている。

4．排水設備

1）屋内配管

暖房設備の完備したビル建築などでは、屋内排水管の凍結は少ない。暖房のない建物や、建物の一部しか暖房しない所、あるいは断熱の悪い建物で夜間暖房を停止する所では、給水配管の凍結防止に準じた対策が必要である。

2）屋外配管

屋外露出配管は極力避ける。やむなく露出する場合は保温被覆を十分にし、極寒地では凍結防止ヒータなどで加熱をする必要がある。

屋外埋設管は給水配管の凍結防止に準じるが、公共下水管の深さや距離によっては、地中の不凍結線より上部に設けなければならないこともある。この場合は配管が凍上によって破損しないように、周囲の土を砂利、砂など凍上を起こさないものに置き換える。

5．衛生器具

衛生器具の配置されている室の気温が0℃以下になるところでは、衛生器具トラップの封水が凍結するので、トラップは設置できない。この場合は、一般に衛生器具とトラップを離し、トラップを地中の不凍結線以下に設ける。一般ビル建物やホテルのように、暖房設備が完備しておれば問題はほとんど起こらない。

衛生器具の凍結防止は、器具への給水から排水まで、一連のことを考える必要がある。

寒冷地用の衛生器具や水栓があるので、それぞれの地域に適合したものを選定する。便器単体としてヒータ付き便器があり、水抜き栓および水栓は吊りコマ式・ビス止め式である。

給水装置に使用する場合は、水道事業管理者の規定によらなければならない。

6．消火設備

1）屋内消火配管

屋内消火栓は湿式配管方式であるため、水抜きによる凍結防止はできない。凍結のおそれのある場所では電熱テープヒータを巻いて保温被覆し、消火管の凍結を防止する。屋上に設けるテスト弁は、この部分の凍結を防止するために、水抜きができるようにしておく。

なお、倉庫・工場・学校などの平屋建物にあっては不凍式消火栓を使用することもある。

2）スプリンクラ配管

倉庫・工場等の非暖房建物では、制御弁以降ヘッドまでエアーを充てんし、ヘッドが開放されると圧力スイッチが作動し、電磁弁が開いて、自動弁が開放して放水する方法がある。

いずれにしても、所轄消防署と事前に打ち合わせが必要である。

7．あとがき

寒冷がもたらす水の凍結現象を防止し、凍結事故を回避するには、設備の設置される場所の温度環境などを十分考慮して、環境に適合した防凍対策を講じなければならないが、過剰設備にならぬように配慮すべきである。

さらに、その機能を十分発揮させるには取り扱いのうえで時機を得た水抜きなどの処置を怠ることはできない。

（こうず　ゆきお　大阪電気暖房株式会社大阪支社技術指導部専門部長補佐）

施工材料の頁

82
水性接着剤による防水補修工法

米倉　博

Ⅰ．はじめに

防水分野における水性接着剤の適用は、建築・土木現場の安全管理という面からも、とくに地下鉄、共同溝、ピット等の閉所作業において必要度が高いが、従来水性接着剤は、①耐水性が悪い、②水性であるため、乾燥が遅く作業性が悪い、等の理由からこの分野で使用されることはまれであった。

しかしながら近年、水性接着剤でも耐水性能に優れ、またオープンタイムが短くて接着できる作業性の良いものが開発され、防水分野においても積極的に採用されるようになり、無公害性やその他種々の特長を生かした使われ方がされ、安全管理、作業性の向上に大きく寄与している。

今回ご紹介するのは水性接着剤の種々の特長の中でも、(イ)被着物（既設防水層）を侵さない、(ロ)オレフィン系発泡体に接着性が良い、という特長を生かした工法である。

Ⅱ．工法の特長

建物が建設されてから長期間経過して雨漏りが発生し防水の全面やり替えが必要な場合、既設防水層を撤去した上、モルタルで防水下地をつくり養生した後、新たな防水層を設ける方法は、とくに既設防水層の撤去、防水下地作りに多くコストがかかり、工法的にも養生等工期も長く必要とする。このため既設防水層をできるだけそのままにしてこの上に新たな防水下地をつくり、新規の防水を行うことによって営繕費用の節約が可能である。この工法は下地に発泡ポリエチレン（電子線架橋高発泡ポリエチレン）を用い、その既設防水層への接着に感圧型水性接着剤を使用する。

感圧型水性接着剤は従来の水性接着剤に比べて耐水性も良好であり、また既設防水層のアスファルト、ウレタン塗膜、砂付きルーフィング等を溶解させたり膨潤させたりすることがなく、これらのものに良好な接着性を示す。またオレフィン系発泡体にも良好な接着性を示す（**表1**）。また感圧型であるため多くの場合に片面塗布で接着可能であり、作業的にもコスト的にも有効である。下地材として使用する発泡ポリエチレンは、熱伝導率が小さく、また独立気泡構造であり、吸水、吸湿、透湿性がきわめて小さいため、経時による熱伝導率の変化が少ないプラスチックフォームである。したがって優れた断熱材であり、これを使用することは建物に対し外断熱の効果を得ることができる。また柔軟性があるために下地の不陸へもなじみやすく、またスラブの温度変化による繰り返し伸縮、ゼロスパンテンションを直接防水層に伝えない緩衝効果を発揮する。さらに軽量であるため扱いやすく、作業性も良い。

表1　水性ボンド7による発泡ポリエチレンとモルタルの接着性

試験項目	180°剥離強さ	
常態（25℃×7日）	1.0（kg/2.5cm）	C100
熱老化（70℃×14日）	1.0（〃）	C100
耐水性（25℃×7日）	0.9（〃）	C100
耐湿性（50℃×95%RH×7日）	1.0（〃）	C100

注　(1)表中、C100とは発泡ポリエチレンが100%材破したことを示す。
(2)モルタルに水性ボンド7を150g/㎡（Wℓt）塗布し、ただちに発泡ポリエチレン（30倍発泡）を貼り合わせ2kgローラーで圧着した。
(3)引張スピード　50mm/min

このように感圧型接着剤と発泡ポリエチレンの組み合わせで防水補修の下地をつくることで多くのメリットを得ることができる。

Ⅲ．施工法

(1)　下地処理

既設防水層の浮き上がり、ふくれはその箇所だけ除去する。またはアスファルトで固める。砂付きルーフィングの砂が落ちているものは除去するか、樹脂を流して固める。

(2)　接着剤塗布

ペイントローラー、スプレー等で接着剤を均一に塗布する。

(3)　発泡ポリエチレン貼り合わせ

接着剤が乳白色から透明に変化した時点で貼り合わせを行う。エアーを巻き込まぬように注意しながら順に押さえていき、ローラーにてムラなく展圧を行う。

(4)　ジョイント処理

発泡ポリエチレンはつき付けとなるので、ジョイントは未加硫ゴムテープ等を貼り処理する。

(5)　防水施工

指定の防水施工法に従い、防水施工を行う。なおシート防水を行う場合、発泡ポリエチレンのジョイントとシートのジョイントは重ならないようにする。

Ⅳ．施工例

マンション、公営住宅、工場、病院屋上等施工例は多く、既設防水層も砂付きルーフィング、ウレタン塗膜、シート防水、アスファルト塗膜等多岐にわたっている。

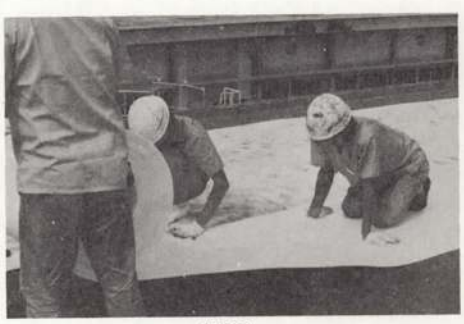


写真1

写真1は某電機メーカー屋上でＡＬＣ版スラブにシート防水が施工されており、長期の間に老化し、漏水が生じていた。部分的な下地処理を行った後、面積が大きかったこともあり（11,000㎡）、エアレススプレーにて接着剤を塗布し、乾燥の後、発泡ポリエチレンを接着、さらに、発泡ポリエチレン上に接着剤を塗布乾燥の後、ゴムアスシートで仕上げた（**図1**）。当現場は接着剤をエアレススプレー塗布したため、作業性も従来工法に比べ大幅にアップし、営繕費用の大幅なコストダウンをすることができた。

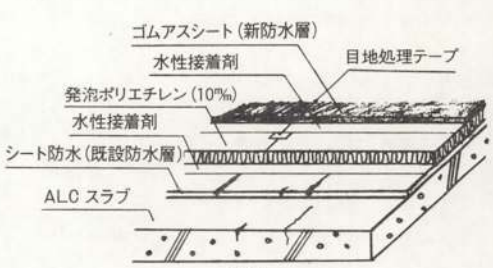


図1

Ⅴ．あとがき

すでに10年以上経過して補修の時期にさしかかる建物が多くなってきているが、同工法を採用することで、営繕費用が節約され、断熱効果で省エネルギー時代にもマッチするなどから、今後急ピッチで普及する工法といえよう。

（よねくら　ひろし　住友スリーエム株式会社接着剤製品営業部）

日本建築協会

月間の動き

昭和56年5月分

理　事　会

27日　4時～5時　於会館集会室
出席者　塚本会長、福田、佐野、松村各副会長ほか13名
議事　(1) 特別委員会委員委嘱の件（総務）（表彰候補者推せん）
(2) 後援及び推せん名儀使用承認の件
(3) 事務局職員上期賞与支給の件
(4) 昭和55年度事業報告並びに決算報告承認の件
(5) 入退会者承認の件
(6) 報告事項

事　業　委　員　会

見学会小委員会
7日　6時～7時半　於会館集会室
出席者　上出・島田両副委員長ほか7名
議事　(1) 前回（第1回）の事業委員会の報告
(2) 4月の見学会の実施報告
(3) 6月～7月の企画について
(4) 8月以降の企画について
(5) そのほか

広報小委員会研修分科会
8日　6時～9時　於会館集会室
出席者　原見副委員長、奥村・北岡両幹事ほか4名
議事　(1) 本年度の研修企画について
(2) そのほか

若い会員の集い小委員会
12日　6時半～9時40分　於会館集会室
出席者　山形副委員長ほか15名
議事　(1) 本年度第1回、第2回の企画について
(2) 第3回以降の企画について
(3) そのほか

広報小委員会
13日　6時～8時半　於会館集会室
出席者　原見、西村両副委員長ほか9名
議事　(1) 前回（第1回）事業委員会の報告
(2) 第50回展示写真について
(3) 第51回以降の展示写真について
(4) 本年度の研修企画について
(5) そのほか

委員会
14日　12時半～14時15分　於会館集会室
出席者　三品委員長、島田・鶴田・西村・原見・山形各副委員長ほか3名
議事　(1) 各小委員会の事業報告及び本年度の事業企画について
(2) そのほか

若い会員の集い小委員会分科会
21日　6時半～9時40分　於会館3階会議室
出席者　樽本主査ほか1名
議事　「伝統工芸を見る」、「学習シリーズ」合同企画について

若い会員の集い小委員会分科会
26日　6時半～9時半　於会館3階会議室
出席者　石古委員ほか5名
議事　「ディスカバー大阪（近畿）」の企画について

若い会員の集い小委員会分科会
27日　6時半～9時半　於会館3階会議室
出席者　太田幹事ほか4名
議事　「建築家以外に聞く」の企画について

教　育　委　員　会

建築工事実務講習会企画打合会
11日　5時半～7時半　於会館集会室
出席者　金田宏氏（大林組）、蜷川道夫氏（大成建設）、綿野文雄氏（竹中工務店）、佐々木・安盛両副委員長
議事　テキストの一部改定、そのほか

工高生教育小委員会
12日　5時～7時　於会館集会室
出席者　崎山副委員長ほか6名
議事　(1) 第27回工高生デザインコンクールの設計課題について
(2) そのほか

編　集　委　員　会

委員会
14日　4時～6時　於会館集会室
出席者　三輪委員長、酒井、小野、小北各副委員長ほか3名
議事　(1) 5月号＝シーリング材の知識特集経過報告
(2) 6月号＝災害と法―安全な環境をめざして―特集経過報告
(3) 7月号＝都市住宅―住まい手からの発想―特集報告
(4) 8月号＝建築物と風―デザイナーのために―特集報告
(5) 9月号＝住宅・都市整備公団―関西における都市整備を中心とした新公団の役割―特集編集幹事会報告
(6) 10月号施工材料特集の企画
(7) 11月号以降の特集について
(8) 収支状況報告
(9) そのほか

広告企画小委員会
18日　4時～5時50分　於会館集会室
出席者　渡辺副委員長ほか5名
議事　(1) 6月号「災害と法―安全な環境をめざして」特集広告途中経過報告
(2) 7月号「都市住宅―住まい手からの発想」特集広告途中経過報告
(3) 8月号「建築物と風―デザイナーのために」特集広告途中経過報告
(4) 9月号「住宅・都市整備公団―関西における都市整備を中心とした新公団の役割」特集広告企画
(5) 56年度特別企画

作品作風小委員会
20日　4時～5時半　於会館集会室
出席者　小野副委員長ほか5名
議事　(1) 新建築調査表の選定
(2) 作品ＰＲ状況
(3) そのほか

建　材　委　員　会

委員会
21日　4時～6時　於会館集会室
出席者　牧田委員長ほか12名
材料説明：成瀬化学㈱ほか2社　計5名
議事　(1) 今後のメインテーマについて
(2) 今後の新建材紹介コーナーについて
(3) そのほか

若　い　会　員　の　集　い

ディスカバー大阪（6）
大阪の新しいまち・南港ポートタウンを見る
…新造船“水都”と新交通“ニュートラム”で南港巡り…
9日　1時10分～5時
講師　安藤茂男氏（大阪市港湾局南港開発部主幹）
参加者　41名

建築家のための“みどり”学習会（第9回）
鶴見緑地の〈世界の森〉を訪ねる
30日　1時40分～5時
講師　宮崎研一氏（大阪市公園局鶴見緑地建設事務所長）
参加者　45名

見　学　会

錠前破壊テスト見学会
19日　1時半～3時半　於吉田金物アトリエ
参加者　14名

建　築　ク　ラ　ブ

朝食会
12日　8時～9時半　於大阪グランドホテル
出席者　61名
当日は、大阪市街地再開発促進協議会事務局長顕谷静夫氏より、都市再開発よもやま話を伺った。

運営委員会
25日　正午～2時　於会館3階会議室
出席者　塚本会長、浜口委員長ほか3名
議事　(1) 7月の朝食会休会の件
(2) 8月以降のスピーカー決定の件
(3) 各月の司会者互選の件
(4) 新入会員勧誘の件
(5) そのほか

建築業務基準委員会

13日　4時～6時　於建築会館（東京）
出席者　建築関係15団体
議事　建築業務基準について

5　月　の　入　会　者（敬称略）

〔個人会員7名〕

大須賀常良	加納　明男	川口　修一
川口　典夫	小路　啓祐	寺田　　均
戸澤　光弘	林　　勇伺	

暑中お見舞申し上げます　昭和56年盛夏

設計事務所有志



株式会社
A.R.I 建築事務所

代表取締役　亀井晃治

本社事務所　大阪市南区谷町7丁目12-1　新谷町第3ビル2F　TEL (06)768-1771(代)
東京事務所　東京都中央区月島4丁目13-3 秀和月島レジデンス108　TEL (03)531-3954
アトリエ　東大阪市上石切町2丁目14−35　TEL (07437)3−6137

株式会社 東建築設計事務所

代表取締役　東　秀保

大阪市北区天神橋3丁目8番3号 マチスビル　電話 06（358）5598・3497

株式会社 井上達明建築事務所

代表取締役　井上達明

〒530　大阪市北区鶴野町1番3号（安田ビル）　電話　06（372）2821(代)

株式会社 伊東建築設計事務所

代表取締役　竹原永一郎

〒556 大阪市浪速区幸町2丁目2番20号(清光ビル) 電話(562)4343〜5

株式会社 伊藤建築設計事務所

取締役会長　伊藤鑛一
代表取締役　島田幸信
代表取締役　鋤納忠治

本　社　名古屋市中区錦3丁目3-6(日経錦別館)　電話〈052〉951-1110(代)
東京事務所　東京都千代田区神田美土代町7(久保ビル)　電話〈03〉294-6061(代)

株式会社 泉沢建築設計事務所

代表取締役　泉　沢　哲　史

〒530 大阪市北区西天満4丁目12番2号(オオシマビル) TEL (06) 364-9071(代)

株式会社 入江三宅設計事務所

代表取締役　三　宅　　晋

東京都港区虎ノ門1丁目18番1号(第10森ビル)　電話 03 (501) 0286(代)
大阪市東区北浜4－48－3　電話 06 (201) 5305

株式会社 浦辺建築事務所

代表取締役所長　浦辺鎮太郎
取締役副所長　松村慶三

大阪市北区梅田1丁目12番39号・新阪急ビル　電話06 (341) 1727
東京事務所　電話 03(263)9758　福岡事務所　電話 092(761)2206

株式会社 久米建築事務所

取締役社長 永井賢城

本　社 東京都港区西麻布1丁目13番11号 電話03 (403)0251大代表
大阪事務所 大阪市北区堂島浜1丁目4番27号 堂島中町ビル 電話06 (344)2096代 表

株式会社 小西設計

取締役社長　小　西　　岬

本　　社　大阪市西区立売堀1丁目12番16号　電話(532)4051代表
大阪事務所　大阪市西区阿波座1丁目15番15号(第一協業ビル)　電話(532)4051代表
東京事務所　東京都千代田区神田鍛冶町3－3(大木ビル内)　電話(256)9301代表
広島事務所　広島市中区大手町2丁目7番1号(三葉ビル)　電話(46) 0144

株式会社 篠田川口建築事務所
株式会社 協同設備事務所

代表取締役社長　川口喜代枝

名古屋市東区泉1丁目21番21号　TEL 962－7581(代)
TEL 971－2255(協同)

株式会社 昭和設計

建築・都市・上下水道
調査計画・設計監理

代表取締役社長　岡本行善
代表取締役副社長　林唯夫

本社事務所　大阪市西区新町1丁目5番7号 四ツ橋ビル　TEL代表 532—3421
神戸事務所　神戸市中央区八幡通4丁目2番17号 郵船航空ビル　TEL078—251—0651
東京事務所　東京都港区赤坂3丁目12番5号 赤坂田町ビル　TEL 03—583—2086

株式会社 創美設計

代表取締役　中原英雄

大阪市北区末広町3番21号 星和地所扇町ビル6階 TEL大阪(06)312—3587代表

株式会社 大建設計

取締役社長　千原大五郎

本社　東京都港区新橋1丁目10番7号(大和銀行新橋ビル)　東京(572)4595(代)
大阪事務所　大阪市西区江戸堀1丁目12番8号　安田生命大阪ビル　大阪(441)9351(代)
名古屋事務所　名古屋市中区栄4丁目6番15号名古屋日産生命館ビル　名古屋(261)8531(代)
九州事務所　北九州市小倉北区紺屋町9番1号　明治生命小倉ビル6階　小倉(521)4285(代)
分室　室蘭

株式会社 竹内建築事務所

代表取締役　内藤一真

大阪市南区長堀橋筋2丁目35の1(日亜ビル)　電話 (211)2706(代)

株式会社 東海設計

代表取締役社長　小坂忠勝

本社　名古屋市中区栄3丁目7番1号 (伊勢町ビル) 〒460 TEL052-261-2651(代表)
東京事務所　東京都中央区京橋1丁目14番4号(東信ビル) 〒104 TEL 03-561-0815(代表)

株式会社 東畑建築事務所

代表取締役社長　東畑謙三

本社・大阪事務所　大阪市東区伏見町5丁目19　電話 大阪(06)202-0391
東京事務所　東京都千代田区永田町2(永田町ビル)　電話 東京(03)581-1251
名古屋事務所　名古屋市中村区名駅3(堀内ビル)　電話名古屋(052)571-8471
九州事務所　北九州市小倉北区魚町1－4－21 (北九州清和ビル)　電話 小倉(093)541-6531

株式会社 内藤建築事務所

代表取締役会長　内藤資忠
代表取締役社長　片山光生

本　社　〒606 京都市左京区田中大堰町189番地　電話075(781)4111代
事務所・出張所　青森・東京・松本・静岡・名古屋・京都・奈良・大阪
高知・福岡

株式会社 長田建築事務所

長田正雄

〒542 大阪市南区上汐町3－59　ケーエスビル　電話 768－6121

株式会社 日建設計

取締役社長　安藝元清
大阪本社代表　小菅滋夫
土木業務所代表　藤谷憲男

〒541　大阪市東区横堀2丁目38
電話 06-203-2361(大代表)

有限会社 村野，森建築事務所

大阪市阿倍野区阿倍野筋2－3－8　電話(624) 0926代表
研究室　大阪市南区心斎橋筋1－43　電話(253) 0875代表
東京事務所　東京都中央区日本橋茅場町2－3　電話(669) 5651代表

株式会社 安井建築設計事務所

代表取締役社長　佐野正一

本　社　大阪市東区島町2丁目7番地　電話 06(943)1371(大代)
支　社　大阪・東京・名古屋・神戸・福岡



暑中お見舞申し上げます　昭和56年盛夏

建設業者有志



株式会社　あめりか屋

取締役社長　前野慶太郎

本　社　〒530 大阪市北区中之島4丁目3番25号　電話　代表 (444) 1501番



株式会社　淺沼組

取締役社長　淺沼茂夫

本　社・大阪市天王寺区東高津町１２番６号　電話 大代表 (768) 5222
東京本社・東京都新宿区荒木町５番地　電話 代表 (357) 0261
支　店・名古屋・札幌・仙台・広島・福岡



株式会社　新工務所（アタラシ）

取締役社長　新昭一

本　店・大阪市北区曽根崎２丁目８番７号　電話 代表 大阪(313) 1331番
支　店・東京都千代田区猿楽町２丁目１番１４号　電話 代表 東京(291) 3741番
支　店・名古屋市中区大須4丁目1番71号(時計ビル)　電話　名古屋 (262) 1725番



安藤建設株式会社大阪支店

常務取締役支店長　岡幸夫

大阪市福島区福島６丁目３番２１号　電話 代表 (453) 2190
本　社・東京都中央区八重洲2丁目2番7号　電話 大代表 (272) 7411
支店・名古屋・仙台・静岡・九州・広島・横浜・札幌
営業所・千葉・横浜・水戸・盛岡・新潟・神戸・京都・沼津・札幌・宇都宮・北九州・熊本



株式会社　今西組

取締役社長　今西壽雄

本　社　大阪市天王寺区上本町６丁目６番23-309号　電話06(779) 3361
支　店　東京都新宿区内藤町１番地　電話03(354) 0581
営業所　京都・神戸・西宮・奈良・埼玉

株式会社 大林組

取締役社長　大林芳郎

東京本社・東京都千代田区神田司町2丁目3番地　電話 大代表 (292) 1111番
本　店・大阪市東区京橋3丁目37番地　電話 大代表 (943) 1131番
支　店・札幌・仙台・横浜・北陸・名古屋・神戸・広島・四国・福岡

株式会社 奥村組

取締役社長　奥村俊夫

本　社　大阪市阿倍野区松崎町2の2の2　電話 大阪(06)621—1101(大代表)
東京本社　東京都港区元赤坂1の3の10　電話 東京(03)404—8111(大代表)
支　店　札幌・仙台・浦和・東京・横浜・千葉・名古屋・大阪・神戸・広島・高松・北九州・福岡

鹿島建設株式会社

取締役社長　石川六郎
取締役支店長　奥村吉朗

本　社　東京都港区元赤坂1－2－7　電話 03 (404)3311(大代)
大阪支店　大阪市南区鰻谷西之町6　電話 06 (245)2311(大代)

株式會社柄谷工務店

取締役社長　柄谷順一郎

本　社　尼崎市玄番南之町4番地　電話大阪 06(411) 1451(代)
営業所　大阪・西宮・神戸・高砂・豊田・三田

株式会社 近畿建設

取締役社長　川崎敬三

本　社　大阪市西区江之子島1丁目2番2号　電話　大阪06 (448)5601代
滋賀支社　滋賀県栗太郡栗東町岡193の1　電話　07755 (2)1361～2

株式会社 熊谷組 大阪支店

取締役会長　牧田甚一
取締役社長　熊谷太一郎
専務取締役大阪支店長　星野晴彦

本　社　東京都新宿区津久戸町17番1　電話 (260) 2111番(大代表)
大阪支店　大阪市都島区片町2丁目10番5号　電話 (352) 1151番(大代表)

甲南建設工業株式会社

代表取締役　原　精一

大阪市淀川区十三本町2丁目4番28号　電話(06)308−1551大代表
尼崎市南武庫荘2丁目7番23号　電話 (06)437−9631代表
東京都千代田区神田須田町1−18(共同ビル)　電話 (03)253−4455代表
神戸市中央区八幡通4丁目2番8号(菊海洋興産ビル)　電話 (078)221−6293代表
堺市宿屋町東3丁1番19号　電話 (0722)29−0088
福岡市博多区博多駅前3丁目2番8号(住友生命ビル)　電話 (092)471−7271
名古屋市熱田区富江町1111　電話 (052)681−6745

株式会社 鴻池組

取締役社長　鴻池藤一

本社
大阪本店　大阪市東区北久宝寺町4−27　電話 大阪(244)3500(ダイヤルイン受付台)
東京本店　東京都千代田区神田駿河台2-3-11　電話 東京(296)7700(ダイヤルイン受付台)
支店　名古屋・広島・福岡・鹿児島・松江・仙台・高松・札幌・横浜・神戸・京都・金沢

佐藤工業株式会社

取締役社長 佐藤欣治・常務取締役大阪支店長 小町谷武司

本社・東京都中央区日本橋本町4−8　電話 東京(661)1231(大代)
大阪支店・大阪市東区北浜1−25　電話 大阪(203)7221(代表)
支店・東京・名古屋・北陸・札幌・福岡・仙台・広島・横浜・四国

清水建設株式会社

社長　吉野照蔵
副社長　木下正利
専務取締役大阪支店長　石動信一

本社　東京都中央区京橋2−16−1　電話03(535)4111
大阪支店　大阪市西区土佐堀1−3−37　電話06(443)5431
支店　名古屋・広島・高松・福岡・金沢・仙台・札幌・横浜

よりよい住環境づくりをめざして

住友建設株式會社

常務取締役大阪支店長　楠本昌造

大阪支店　大阪市東区北浜5丁目22番地(新住友ビル2号館)電話 06(220)8712
本店　東京都新宿区荒木町13番地 電話 03(353)代表5111番

株式会社 錢高組

取締役社長　錢高善雄

本社・大阪支社　大阪市西区西本町2丁目2-11　電話 大阪06(531)6431(大代表)
東京支社　東京都千代田区一番町31番地　電話 東京03(265)4611(大代表)
支店　札幌・仙台・千葉・横浜・北陸・名古屋・広島・四国・福岡
営業所　釧路・帯広・苫小牧・函館・青森・盛岡・秋田・山形・福島・水戸・宇都宮・前橋・浦和・多摩・甲府・富山・金沢・福井・長野・岐阜・静岡・津・大津・京都・神戸・和歌山・徳島・松山・高知・松江・岡山・山口・北九州・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄

大成建設株式会社

取締役社長　佐古　一
専務取締役大阪支店長　原田眞三

本　社　東京都新宿区西新宿1丁目25番1号 新宿センタービル　TEL東京(348)1111大代表
大阪支店　大阪市東区本町4丁目27番地　TEL大阪(262)1131大代表
支　店　東京・名古屋・福岡・札幌・仙台・広島・横浜・新潟・高松

大幸建設株式会社

取締役社長　大澤　博

本　社　大阪市西区新町1丁目4番21号　電話 06(538)0881代
本社分室　大阪市東区今橋5丁目2番地　電話 06(203)0373代
東京支店　東京都渋谷区渋谷2丁目14番15号　電話 03(407)7426代
名古屋支店　名古屋市中村区名駅南3丁目6番7号　電話052(581)7376代
松江営業所　松江市和多見町1758　電話0852(21)3747代
出張所　富山・仙台・滋賀・兵庫・広島・福岡・静岡

株式会社竹中工務店

取締役社長　竹中統一

本店　大阪市東区本町4丁目27　電話 大阪(252)1201番(大代表)
支店　北海道・東北・東京・名古屋・広島・九州
営業所　千葉・横浜・静岡・金沢・京都・神戸・岡山・高松・北九州

鉄建建設株式会社大阪支店

西日本業務担当常務取締役　児島　章

常務取締役支店長　金子越郎

大阪市大淀区天神橋7丁目1－10(天六阪急ビル)　電話(358)0321(代表)
本社・東京都千代田区三崎町二丁目五番三号　電話東京(262)3411(代表)

戸田建設株式会社大阪支店

常務取締役支店長　山口道博

大阪市西区西本町1丁目13番47号(新信濃橋ビル)　電話06－531－6561(大代表)
本社　東京都中央区京橋1丁目7－1
支店　東京・関東・横浜・名古屋・札幌・仙台・広島・四国・九州

東海興業株式會社大阪支店

取締役副社長大阪駐在　小松英二　　常務取締役支店長　田中巖夫

本　社　東京都千代田区大手町1－5－4　電話 東京(212)3261
安田火災大手町ビル
大阪支店　大阪市北区堂島浜2-2-8 東洋紡ビル　電話 大阪(348)5611
支　店　東京・名古屋・仙台・札幌・福岡

飛島建設株式会社 大阪支店

取締役支店長　熊谷良訓

大阪市東区島町２丁目２８番地　電話　大阪（９４２）２４８１(代表)
本　社　東京都千代田区九段南2丁目3番28号　電話 東京（263)3151(大代表)
支　店　札幌・仙台・東京・横浜・名古屋・北陸・四国・広島・福岡
営業所　神戸・和歌山・京都・滋賀・堺・奈良・姫路

日本建設株式会社

取締役会長　生田重政
取締役社長　積山吉興

本　社　大阪市東区安土町４－５　ＴＥＬ（261）７５９１－８ 〒541
支　店　東京・大阪・名古屋・福岡・広島・仙台・札幌・四国・沖縄

明日をささえる 西松建設

本　社　東京都港区虎ノ門１－20－10　電話03(502)0211

野村建設工業株式会社

取締役社長　岩本義心

本　社　大阪市東区高麗橋２丁目９番地　電話(202)４７９１代表
東京支店　東京都千代田区大手町２丁目１番１号　電話(241)４１７１代表

株式会社 間組大阪支店

取締役支店長　森　隆雄

大阪市東区瓦町５丁目20番１号　電話（201)２７５１(大代表)
本　店・東京都港区北青山２丁目５番８号　（405）１１１１番(大代表)
支　店・東京・大阪・名古屋・福岡・仙台・北陸・札幌・広島・高松・海外工事局

株式会社 長谷川工務店

代表取締役会長　長谷川武彦

大阪支社　大阪市東区平野町５－４０　電話06(203)5611
本　社　東京都港区芝２丁目32番１号　電話03(456)5451

未来をひらく　フジタ工業

常務取締役大阪支店長　志賀修一

大阪市北区堂島2丁目1番16号　電話（345）代表7671
本社・東京都渋谷区千駄ケ谷4－6－15
支店・東京・横浜・名古屋・大阪・広島・高松・福岡・札幌・仙台
海外・リマ・カラカス・サンパウロ・キトー・ロサンゼルス・グアム・クウェート

不二建設株式会社

取締役社長　山口慎一郎

大阪本社　大阪市西区西本町3丁目1番9号　〒550 電話 06－541－5534代表
東京本社　東京都新宿区西新宿4丁目5番2号　〒160 電話 03－377－5171代表
支店・出張所　名古屋・福岡・札幌・仙台・静岡・大垣・四日市・京都・広畑・広島・大分

株式会社 藤木工務店

取締役社長　藤木鐵三

本　社・大阪市東区両替町1丁目13　電話 06(944) 1468(代)
大阪本店・大阪市東区両替町1丁目13　電話 06(944) 1461(代)
支　店・東京都新宿区三栄町23の4　電話 03(357) 1611(代)
倉敷市鶴形1丁目10の32　電話 0864(22) 3330(代)
高松市丸ノ内11の13　電話 0878(51) 7272(代)
京都市右京区西院寿町13　電話 075(311) 4131(代)
福岡市博多区博多駅南4丁目18の2　電話 092(441) 6585(代)
営業所・埼玉・多摩・静岡・名古屋・宇治・岡山・徳島・新居浜・熊本

真柄建設株式会社大阪支店

常務取締役支店長　佐々木孝治

大阪支店　大阪市淀川区宮原4丁目4番50号　電話 大阪(06) 393－1171(代表)
東京本社　東京都千代田区麹町5丁目1番地　電話 東京(03) 263－1211(代表)
支店・営業所　東京・名古屋・金沢・富山・福井・京都・大津・神戸・新潟・福岡

株式会社 松村組

取締役社長　松村雄二

本　社・大阪市北区天満2丁目1番33号　電話 大代表 大阪(353)1131
支　店・東京・名古屋・札幌・仙台・広島・福岡

三井建設 株式会社 大阪支店

取締役大阪支店長　森川祐二

大阪支店　大阪市北区中之島3－4－18(三井ビル2号館) TEL 06－443－1321
本　店　東京都千代田区岩本町3－10－1　TEL 03－863－3111

村本建設株式会社

代表取締役　村本豊嗣

本　店　奈良県北葛城郡広陵町安部547　電話　大和高田　(55) 1151(代表)
大阪本社　大阪市天王寺区上本町9丁目6番15号　電話　大　阪 (774) 2111(受付案内台)
東京支店　電話　東京(238)2111(受付案内台)　**名古屋支店**　電話　名古屋(241)1511(代)
福岡支店　電話　福岡 (711)9251　**三重支店**　電話　津 (26) 2949

望月建設株式会社

代表取締役社長　望月小太郎

本　社　大阪市北区曽根崎新地1丁目1番23号　電話 大阪 (344)8651(代表)

株式会社 森組

取締役社長　森　幸彦

本　社　大阪市東区横堀2丁目14番地　電話　201－2761(代)
支　店　東京・名古屋・九州・札幌・奈良
営業所　仙台・新潟・横浜・滋賀・京都・神戸・広島・熊本・高松

綜合建設業・一級建築士事務所・宅地建物取引業

株式会社 薮内工務店

本　社　大阪府貝塚市鳥羽183－1　電話 (0724) 33－2001(代)
営業所　大　阪　・　堺　・　西　宮　・　和　泉
展示場　大阪府貝塚市三ツ松招山1726番地

株式會社 米田工務店

代表取締役　米田良男

本　社　〒543 大阪市天王寺区逢阪1丁目1番7号 TEL 大阪(06)771-7771代表

暑中お見舞申し上げます　昭和56年盛夏

建材・設備工事・報道印刷業者有志

クリーンエアのコンサルタント

アイエム換気工業株式会社

代表取締役　松岡晃一郎

本　　社　大阪市浪速区塩草３丁目９－４　ＴＥＬ (06)561－3901代
東京営業所　東京都荒川区西日暮里6-42-8飯田ビル1階　ＴＥＬ (03)894－8831

青盛建材株式会社

取締役社長　青盛　巖

広島市中区舟入幸町１９番１０号　電話 0822－92－3200
福岡・岡山・松江・下関・徳山・鳥取

株式会社　梅彦

取締役社長　松永嘉一郎

営業所　大阪市北区中崎西２丁目１番３号　電話 06 (312) ６１７１代
茨木工場　茨木市豊川３丁目１番６号　電話0726 (43) ５１８５代

須賀工業株式会社

取締役社長　須賀　新

本　店　大阪市西区土佐堀１丁目２番30号　電話 (06) ４４１－５１７１
本　社　東京都港区新橋６丁目17番19号　電話 (03) ４３４－７１１１
支　社　東京・大阪　　支店　名古屋・京都・神戸・広島・福岡
営業所　札幌・東北・千葉・横浜・静岡・金沢・高松

よりよき環境へ技術で挑む――

株式会社　精研

取締役会長　木内清三
取締役社長　和田正八郎

本　　社　大阪市南区瓦屋町3番丁68番地(オートセンタービル) 電話768-5031代
東京支店　東京都千代田区九段南２丁目２番５号(九段ビル) 電話262-3241代

東西アスファルト事業協同組合
西日本床工事事業協同組合

株式会社 タテバヤシ商店

代表取締役 舘林彦四郎

〒601 京都市南区西九条大国町37 電話（075）681－7221(代)

東亜印ルーフィング

東亜工業株式会社

建設省計振発 第55号認可
東亜アスファルト防水事業協同組合

本社 〒581 大阪府八尾市南太子堂6丁目4番27号 電話0729－94－5682
営業所 東京・名古屋
工場 大阪・東京・和歌山

naigai

コピーの 綜合コンサルタント

株式会社 ナイガイ

代表取締役社長 木下みどり

本社	大阪市北区堂島2丁目1番18号	TEL(06)345-9055
御堂営業所	大阪市東区本町4－27(御堂ビル)	TEL (06)252-3906
横堀営業所	大阪市東区横堀2丁目36－4	TEL (06)202-5260
神戸営業所	神戸市中央区磯辺通4－2－26	TEL (078)251-0595
新大阪営業所	大阪市淀川区西中島5－13－15	TEL (06)308-2668

TOTO特約店 株式会社 ナニワ

代表取締役 吉田廣助

本社 〒543 大阪市天王寺区烏ケ辻1丁目3番6号 電話771－9123(代)
生野営業所 〒544 大阪市生野区巽西2丁目7番24号 電話758－7280(代)
柏原営業所 〒582 柏原市円明町217番66 電話(0729)77-7280(代)

株式会社 西原衛生工業所大阪店

代表取締役社長 伴一郎

大阪市大淀区中津六丁目8番4号 電話 大阪（458）3531番(代)

PRESS

大阪で唯一の
株式会社 日刊建設新聞社

代表取締役 中山豊雄
代表取締役 中山敏夫

大阪本社 大阪市東区高麗橋1丁目3（東洋ビル） 電話 202－6861(代表)
役員室 大阪市東区高麗橋詰町26（ユニ高麗橋） 電話 941－6847(代表)

日刊建設産業新聞・日刊建産速報

株式会社 日刊建設産業新聞社

取締役大阪支社長　中村勝則

大阪支社　〒541 大阪市東区淡路町1丁目14(八千代ビル)　電話06(231)8171(代)
神戸支局　〒651 神戸市中央区八幡通4丁目2－25　電話078(291)0541～2
京都支局　〒602 京都市上京区河原町丸太町東入俵屋町460　電話075(211)1911
本　社　〒173 東京都板橋区板橋1丁目48－8　電話03(961)1691(代)

株式会社 日刊建設通信新社関西支社

取締役関西支社長　山口哲雄

大阪市西区京町堀1－6－23　エハラビル　電話　(444) 4451代表
本　社・東京都港区西新橋2－11－4　電話　(502) 8581代表

活字のない印刷

日本写植印刷株式会社

代表取締役　神田都義

本　社　〒545 大阪市阿倍野区阪南町7－5－30　電話06(606)1111代
広島営業所　〒724 東広島市八本松町米満109－5　電話0824 (28) 6253
日本写植センター　〒892 鹿児島市名山町4－7　三宝ビル　電話0992 (26) 4371
津山写植センター　〒708 津山市福田1372－1　電話08682(8)4377
沖縄写植センター　〒900 南風原村兼城　沖縄印刷工業団地　電話0988 (55) 6100

マルエス印 ▲ルーフィング ▲シングル

日新工業株式会社 大阪支店

大阪支店長　中田勝

本社営業所　東京都足立区千住東2－23－4　☎東京(882) 2424 (代)
大阪支店　大阪市西区新町1丁目12番22号　☎大阪(533)3191大代表
出張所　名古屋・広島・福岡・札幌・山形・工場／東京・埼玉・山形

日本アスファルト防水工業 協同組合 関西支部

大阪市西区新町1丁目12番22号　日新工業株式会社大阪支店内
電話 (533) 3191大代表

阪急電気工事株式会社

取締役社長　宇治正豊

本　社　大阪市淀川区新北野1丁目4番21号　電話　代表 06　(302)0231

ビニロイド　防水　責任施工
アコシート　防水　責任施工
ACフロア35　責任施工
防熱工事設計施工
プラスオール
コーキング　製造販売

三星産業株式会社

〒550 大阪市西区京町堀1－10－17(大栄ビル)　Tel.〈443〉9721(代)
〒101 東京都千代田区神田小川町3-28(三東ビル)　Tel.〈292〉1961(代)
出張所：札幌　〈721〉6031・6307　仙台〈21〉5366(代)
名古屋〈931〉4574・3393　福岡〈78〉3361(代)

三協アルミニウム工業株式会社代理店
日立化成工業株式會社代理店
新明和工業株式會社代理店

ムツミ産業

ムツミ産業株式会社

代表取締役　傳馬正明

〒550 大阪市西区靭本町1丁目17番15号　電話 (06) 大代表 441－0378番
出張所：東京・広島　工場：大津・竹原

M.Y

営業品目　建築金物、装飾金物、金具金物、
其他諸金物別注設計製作、オリジナル金属製家具

株式会社 山本金属製作所

取締役社長　山本正治

〒542 本社・本社工場　大阪市南区西賀町25　TEL(761)0127代
〒570 守口工場　守口市浜町2－1　TEL(993)7192代

デザインされた環境づくり

UNION

株式会社ユニオン

取締役社長　立野一郎

本社　大阪市西区南堀江2-13-22　〒550　電話 06(532)3731(代)
東京営業所　東京都墨田区石原4-3-1　〒130　電話 03(625)8131(代)
名古屋営業所　名古屋市東区車道町3-1　〒461　電話052(935)6021(代)
虎ノ門ショールーム(17森ビル1F)東京都港区虎ノ門1-26-5 〒105　電話 03(508)2558(代)



地震考

総合天井システム 〈Jライン工法〉〈ALTS工法〉

耐震・耐火そして軽量化を誇る総合天井システム〝Jライン工法〟〝ALTS工法〟は当社独自の照明灯ユニットおよびアルミ製Tバーを建物のモジュールに配列し、天井仕上げ材と一体化したシステム天井です。空調、照明、防災機器、スピーカーなどの設備ゾーンとの組み合せ、さらに間仕切、ブラインドBOXなどの取り付けも可能にした多機能を誇っております。(PAT. 6件)

奥村重兵衛株式会社

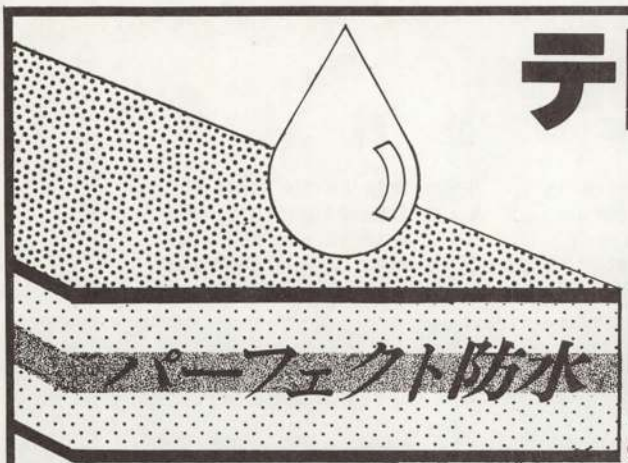
本　社　大阪市北区西天満5丁目3番7号　〒530 電話(06) 312－4131㈹
東　京　東京都港区新橋4丁目2番第29森ビル　〒105 電話(03) 437－3361㈹
福　岡　福岡市博多区住吉2丁目16番27号　〒812 電話(092)291－0459㈹
名古屋　名古屋市西区倹町2丁目1番6号　〒451 電話(052)522－5436㈹
仙　台　仙台市本町2丁目1番8号第1広瀬ビル　〒980 電話(0222)65－6568㈹
沖　縄　沖縄県那覇市壺川119番地　〒900 電話(0988)53－6850㈹

室谷

内装不燃材

室谷商事株式会社

本社　神戸市中央区北長狭通4-2-4　(英和ビル)
電話　神戸(331) 0881～3
支店　大阪市北区西天満2丁目6番8号(堂ビル5階)
電話　大阪(364) 2031～4
倉庫　神戸市中央区八幡通1－16(電話221 2923)



テトカッパー防水層

防水専業の研究・経験から生れたすくない資源のパーフェクトな防水層です。
この防水層は(一層防水)施工するだけで、防水は完璧です。
温度変化に伸びがなく、柔軟性に富み、耐酸、耐薬品性に優れ、腐蝕しません。

カッパー防水帯　コーパータイト　新工法
オクロン防水帯　プレノテクト吹付工法

●お申込次第カタログ進呈

奥山化工業株式會社

本　社　東京都中央区銀座8－4－9　電話 03 (571) 2703
大阪事務所　大阪市淀川区東三国6－1－41　電話 06 (391) 1081－2
埼玉営業所　埼玉県桶川市東1－6－10　電話 0487(74)2845－6
厚木出張所　神奈川県厚木市金田字宮畑259　電話 0462 (21) 6092
名古屋出張所　名古屋市南区若草町33　電話 052 (811) 3660
九州出張所　佐賀県諸富町　電話 0952 (47) 2945

腐らない・燃えない・軽い

ケミカラーオーシマメタル

屋根材・壁　材・谷樋棟包水切りに
スタンダードメタルの　大島応用化学　東大阪市新庄 (745)5121～5

空気調和・給排水・衛生・防災設備　設計・施工

株式会社 朝日工業社

本　社　東京都港区浜松町1-25-7　電話（434）6171（大代）
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話（302）2271（代）
支　店　北海道・東北・名古屋・中国・九州
営業所　釧路・函館・盛岡・横浜・静岡・京都・神戸

空気調和設備 衛生設備 設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町3番5号　電話（352）1131（代）
本　社　東京都中央区日本橋蠣殻町1-35-8　電話（667）3431（大代）
支　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

空調・衛生 設計施工
防災・汚水処理

株式会社 大阪城口研究所

取締役社長　城口庸平

大阪市北区角田町2番15号　電話 大阪372局7151（代）
京都市東山区大和大路正面上ル　電話 京都561局4944（代）
神戸市中央区下山手通6-2-8　電話 神戸341局5892

空気調和・衛生設備 設計施工

株式会社 三晃空調

取締役社長　齋藤博

本　社　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話 06－363－1371
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話 03－344－1911
大阪本店　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話 06－363－1371
支　店　名古屋市中村区名駅南2丁目14番19号　電話052－581－8571
広島市中区紙屋町1丁目2番22号　電話0822－47－4535
福岡市中央区大名2丁目4番22号　電話092－761－3795
出張所　仙台・横浜・福井・京都・神戸・松江・高松・下関・沖縄

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設計施工

大阪電気暖房株式会社

本　店　大阪市西区江戸堀1丁目10番17号　〒550　電話（441）8231
本　社　東京都中央区銀座2丁目2番17号　〒104　電話（535）5251
支　社　大阪・東京・名古屋
支　店　札幌・仙台・金沢・広島・福岡
営業所　新潟・天理・岡山・高松・熊本
出張所　帯広・青森・秋田・盛岡・前橋・千葉・横浜・静岡
富山・福井・豊田・京都・神戸・徳山・鹿児島・那覇
海外支店　シンガポール

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む——

株式会社精研

本　社　大阪市南区瓦屋町3番丁68番地（オートセンタービル2階）
郵便番号542　電話 大阪（06）768－5031番
冷凍空調部　大阪市大淀区豊崎4丁目5番21号
郵便番号531　電話 大阪（06）374－2455番
東京支店　東京都千代田区九段南2丁目2番5号（九段ビル8階）
郵便番号102　電話 東京（03）262－3241～4番

空気調和設備
給排水・衛生水道
電気設備
厨房

環境衛生施設
荷役運搬機械
化学鉱山機械

三機工業 株式会社大阪支店

取締役社長　各務節
理事支店長　杉浦敏郎

大阪市東区北浜2丁目22番地　電話 大阪（202）代表3071
本　店　東京・日比谷・三信ビル
支　店　名古屋、福岡、札幌、広島、仙台、北陸
出張所　横浜、四国、静岡、豊田、岡山、金沢

新日本空調株式会社

大阪支店　大阪市北区堂島浜1丁目2番6号（新大ビル）
電話（06）344－6031（代）
本　社　東京都中央区日本橋本石町4-2（三井第二別館）
電話（03）279－5671（大代）
名古屋・九州・広島・札幌・東海村・北陸・大分

■給排水衛生　■冷暖房
■空気調和設備　■その他管工事一切の設計・施工

斎久工業株式会社

本　社　東京都千代田区大手町2-6-2（日本ビル）
電話 03-(270)-7411(代)
大阪支社　大阪市北区中之島4-2-38　電話 06-(443)5041(代)
支　店　札幌・岡山
営業所　仙台・千葉・名古屋・金沢・高松・広島・福岡
出張所　福井・倉敷・苫小牧

cleanair
一年中 秋のすがすがしさ！

創業1901
須賀工業株式会社
大阪市西区土佐堀1丁目2番30号 TEL.06-441-5171（大代表）〒550





商品は空気です。

熱と空気のエンジニア
株式会社
大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京支店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03－344－1851(大代)　大阪支店☎06－441－5851(代)
名古屋支店☎052－211－1535(代)　九州支店☎092－431－2147　営業所：札幌・仙台・横浜・京都
神戸・広島　出張所：新潟・金沢・大宮・静岡・豊田・岡山・松山・熊本・鹿児島・沖縄・バンコク

給・排水・衛生・消火・暖冷房設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市大淀区中津6丁目8番4号　**電話大阪(458)3531番**
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西

空気調和　搬送機設備
給排水衛生　設計施工

第一工業株式会社
大阪支店

大阪支店　〒530　大阪市北区西天満3丁目6番14号
電話　06－364－6661(代表)
本　社　〒100　東京都千代田区丸の内3丁目3番1号
電話　03－211－8511(代表)

空調・衛生・防災設備　設計並施工

日本管工業株式会社

本社及京都支店　京都市南区西九条豊田町20番地の1
電話(681)5101～5・夜間専用(691)1045
大阪支店　大阪市北区天満1-5-20　電話(06)352－3501(代)
三重支店　津市栄町2－111　電話(0592)26－3610(代)
四日市営業所　四日市市西末広町　電話(0593)53－7431(代)
滋賀営業所　大津市打出浜13－15　電話(0775)22－9738(代)
名古屋営業所　名古屋市中村区則武1-23電話(052)452－3701(代)

暖・冷房・空気温湿度調整装置
設計施工

高砂熱学

大阪支店　大阪市北区芝田1丁目4-8(北阪急ビル9階)
電話　大阪(372)2511　(代表)
本　社　東京都千代田区神田駿河台4丁目2番地

Carrier　**冷暖房はCARRIER キャリア**

東洋キャリア工業(株)デストビューター関西地区
日本冷熱工産株式会社
本社及大阪営業所　吹田市豊津町40番38号
電話大阪(384)1201～7

MODAIR　空気調和設備　設計施工
換気・除塵設備

東洋熱工業株式会社大阪支店

大阪市西区靭本町3－1－27　TEL(443)8071
本　社　東京都中央区京橋2丁目9　TEL(562)1351
支　店　名古屋・福岡

営業種目
空気調和・衛生設備工事・設計・施工

平山工業株式会社

大阪市西区江戸堀1丁目22番7号
☎06－441－1994・443－0331

空気調和・衛生設備　設計・施工　大阪ガス指定工事会社
ガス設備・ガス住宅設備　大阪ガス住設機器特約店

大晃設備株式会社

本　社　大阪市北区西天満5-11-12　電話 06－313－1846
ガス工事部　大阪市北区西天満5-11-12　電話 06－313－1846
大阪ガス工事事業所　枚方市甲斐田東町9番3号　電話0720－49－2128
設備部　大阪市北区西天満5-11-12　電話 06－313－1846

空気調和設備・給排水衛生設備・上下水道施設
環境衛生施設・公害防止施設／設計・施工・監理

山田工業株式会社

本　社　大阪市西区京町堀1－6－8　電話 06(443)8161(大代表)
(環境装置事業部専用)　電話 06(447)0831　(代表)
分析センター　大阪市淀川区三津屋南1-1-35　電話 06(308)1491
支　店　東京・名古屋・福岡
営業所　京都・神戸・姫路・広島・高松・松山

FUTABAYA DECORATORS,LTD



建築物船舶等造作工事、家具建具・室内装備工事
内外装飾織物・窓掛敷物壁紙類一式／**設計施工**

二葉屋装備工業株式会社

(創業大正7年)

取締役会長　若林繁吉
大阪府摂津市東別府3丁目7番8号
電話　大阪(06)349－9193代表
大阪府知事建築業者許可(般－48)第12064号

電気・計装工事 設計施工

栗原工業株式会社

取締役社長 栗 原 信 英

大阪市北区角田町1-1 東阪急ビル TEL06-313-1101
支 店 東 京・名 古 屋・舞 鶴・京 都・天 理
大 阪 南・神 戸・広 島・四 国・九 州

電気設備 ℰ 設計施工

朝陽電気株式会社

代表取締役 山 本 博 三

本 社 大阪市北区中之島3－2－4 朝日ビル
TEL 大阪06（385）1361（代）
本社営業所 吹 田 市 垂 水 町 3 － 34 － 6
TEL 大阪06（385）1361（代）
京都営業所 京 都 市 右 京 区 西 京 極 葛 野 町 21
TEL 京都 075（311）1185（代）
東京営業所 東 京 都 中 央 区 銀 座 6 － 6 － 7 朝日ビル
TEL 東京03（574）0665

電気工事設計施工

株式会社 三 興 社

代表取締役 坪 井 大

本 社 大阪市北区西天満2丁目6－8（堂ビル7階）
電 話（361）3671（代）
支 店 東京都中央区日本橋箱崎町20番5号
電 話（671）1478（代）
出張所 川 崎・相 模 原・堺・福 山

電気設備工事設計施工

東光電気工事株式会社

大 阪 支 社

大阪支社長 横 田 幸 一

大阪市東区高麗橋五丁目二八番地 電話大阪（202）0325～9番
本 社 東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支 社 札幌・仙 台・丸 ノ 内・名 古 屋・福 岡
営業所・出張所 全国主要都市20ヶ所

電気・暖冷房・空調工事設計施工

三宝電機株式会社

取締役社長 嘉 納 伝 三

本 社 大阪市北区西天満2丁目6－8（堂ビル3階）
電 話（364）1471（代）
支 店 東京都港区新橋2－1S（ニュー新橋ビル7階）
電 話（504）0231
支 店 名古屋市北区城見通2丁目20番地
電 話（991）5131（代）
営業所 神 戸・堺・千 葉・宇 都 宮・熊 本

電気工事設計施工

富士電業株式会社

取締役社長 田 中 実

本 社 大阪市西区北堀江1丁目10番2号
電話 大阪（538）1171代表
営業所 東 京・名 古 屋・広 島・福 岡

総合設備工事《設計・施行》
建築・電気・アンテナ・送電線・プラント・計装・空調・土木

太陽工藤工事株式会社

取締役社長 代 谷 正 元

本 社 大阪市福島区福島7－22－8
TEL（06）452－1151（大代）
事業所 東京・名古屋・大阪・広島・福岡

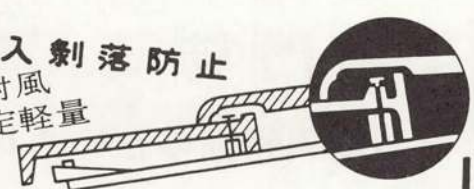
電気・計装・空調工事 設計施工

ヤマト電気エンジニアリング株式会社

取締役社長 山 本 永 造

本 社 大阪市北区西天満5丁目1番3号
TEL 06－364－3056（代）
支 店 東京・神戸・広島・岡山
事業所 名古屋・岡山・札幌・苫小牧・浜松・滋賀
京都・高砂・三原・徳山・松山・新居浜・福岡・沖縄

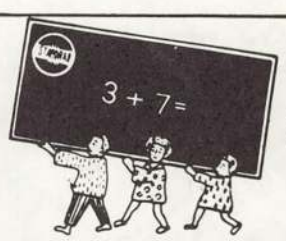
雨水浸入剝落防止
耐震耐風
安定軽量



ナニワ緩勾配瓦

3寸緩勾最適軽量水止付（空葺）瓦

ナニワ瓦株式会社
大阪市浪速区元町一丁目七四 電話641五〇六九



Standard Board&Slate

フタバ黒板

〒547 大阪市平野区加美北3－4－5 TEL 大阪06（792）5858(代)

耐 酸 ツ ボ 各 種
陶器、ガラス製品卸問屋
セトモノのデパート



源八橋セトモノ百貨店をご利用下さい。

株式会社 **吉田芳雄商店**

本 店 大阪市北区南森町2-1-6 電話(361)3450・(364)2345
源八橋店 大阪市北区同心2－1－31 電話(358)1790・1838

仏

社寺数奇屋用瓦……**大 仏 瓦**
床・壁内外装用瓦……**大仏敷・貼瓦**
内外装用窯変美術タイル……**大仏タイル**
新発売…古代土器調高温〆タイル……**大仏古代タイル**

株式会社 **大 体**

本 社 京都市東山区今熊野大仏池田町9の9 075(541)3344(代)
東京営業所 東京都新宿区西早稲田3丁目23番8号 03（202）7801(代)
早稲田セントラルビル1F
工 場 京都清水・山城・瀬戸

奉仕感謝の店
タイル工事施工
株式会社 川岸窯業商店
本　社　大阪市西区西本町1－13－33(靱本町バス停前)
電話　大阪 06(532)代0461　〒550
天理営業所　天理市丹波市町新町50

特殊壁装材製造販売　和室に最適
●聚楽壁紙●ホクシノン(無機質壁紙)
(株)ホクシンクロス
〒583 大阪府羽曳野市島泉8－173－1
TEL(0729)39－3610
工場　〒580　大阪府松原市三宅中8丁目1番9号
第一　〒639-11奈良県大和郡山市小泉町2744
第二　〒597　大阪府貝塚市王子501

営業品目　建設省認定の防火材料
セメント系吹付材　ソリジットスタイン　基材同等　0003号
特殊リシン吹付材　エバウォール　基材同等　0003号
アクリル系吹付材　エバーサンド　基材同等　0004号
ヒル石吹付材　エバテックス　基材同等　0004号
合同特許建材工業株式会社
本　社　大阪市東住吉区駒川2-4-22　電話 (06)702－7814～7
東京事業所・名古屋出張所・高松出張所・福岡出張所

カーテン・壁装材
新たにショールームが完成!
皆さまのお越しを お待ちいたしております。
株式会社フジエテキスタイル 大阪支店
〒541　大阪市東区平野町3－6－1
平野町センチュリービル1F
TEL　06－227－0291

株式会社矢橋大理石商店
大阪支店
大阪市東区高麗橋2丁目9　野村ビル5階　電話 大阪(202)4905

営業品目　プール・水処理用各種フィルター
ボイラー・熱交換器・サウナ設備
株式会社ツルカメ
本社　〒543 大阪市天王寺区寺田町2丁目2番12号　TEL(772)5307
東京　〒162 東京都新宿区市ケ谷台町8番地　TEL(353)9595

電気・空調・衛生など各種設備分野の記事が1冊の雑誌に!
BE 建築設備 月刊
都市＋建築＋設備＋機器＋材料を
総合するユニークな専門誌



～充実した実務家のための内容～
■視点・随筆　業界,学会,社会,文化について,学識経験者の見解を発表
■新建築・新設備　注目すべき建物の建築と設備を紹介
■特　集　業界,社会のニーズにこたえる諸テーマをとらえて,必要知識を紹介
■講　座　建築,建築設備,機器,材料に関連し実務上必要とする基礎知識を連載
■特別講座　業界,社会のニーズにこたえ,時代的テーマに関し実務上必要とする知識を連載
■ニュース　国内・海外ニュース,機器・文献ニュース
■会社だより,研究所だより　その他
雑誌B5判・100頁・定価1000円——申込次第見本送付

社団法人　建築設備綜合協会
協会正会員募集中・年会費12,000円—申込は事務局まで
東京都中央区銀座3-2-19建築会館2階 出版部(03)561-7181 事務局(03)561-1765〈銀行振込先・三菱銀行京橋支店普通預金0055-082〉

RST方式 ロックオーガー

各種障害撤去 ●砂礫層穿孔撤去 ●玉石層穿孔撤去 ●岩盤層穿孔撤去 ●鉄筋、鉄骨コンクリート穿孔撤去 ●杭引抜き及び撤去

株式会社 菱備基礎

本社 豊中市宝山町22番44号 〒560 電話(06)841—7121～3
工場 豊中市利倉東1丁目16番5号 〒561 電話(06)863—0207(代)

膨張材 **小野田エクスパン**
防錆剤 **ラスナイン**

小野田セメント株式会社

本部 東京都江東区豊洲1-1-7 TEL 531-4111
大阪支店 大阪市北区梅田1-8-17 TEL 341-8331
支店 札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・高松・広島・福岡

営業種目

●防水工事 塗布防水・シート防水・モルタル防水
●樹脂注入接着工法 各種樹脂注入接着補修工事
●亀裂補修工事 各種樹脂注入・充填・コーキング
●シーリング工事 シリコン・チオコール・ウレタン・アクリル
●吹付工事 アクリル・リシン・弾性タイル・その他
◇建設業許可 大阪府知事許可（般—53)第51225号
◇日本シーリング工事業協会々員

大阪市北区末広町3—21 星和地所扇町ビル201S TEL 06(315)0701

㈱特殊技研

建設業界をアシストする

ポゾリス

■コンクリート用混和剤 ■無収縮グラウト材
■鉄筋コンクリート用防せい剤 ■工業用特殊床材

製造元 日曹マスターピルダーズ株式会社
販売元 ポゾリス物産株式会社

本社/東京都港区六本木3—16—26 ☎03-582-8811
大阪営業所/大阪市東区北浜3—7 ☎06-202-3294

デンカCSA デンカセメント
セキサンパイル(S M.AC.PC.RC)
カネライトフォーム.ALC.鋼材
建築材料一式

浜宗産業株式会社
代表取締役 濱岡 浩

本社 〒629-31 京都府竹野郡網野町字網野 TEL (07727)2—2220(代)
舞鶴営業所 〒624 舞鶴市福来160-1 TEL (0773) 76—0133(代)

省エネルギー時代の断熱用シート防水材

日立バイナリーシートP

日立バイナリーシートPは，日立防水シートに発泡ポリエチレンを独自の貼り合わせ技術で積層した，二重構造の断熱兼用二重防水シートです。

日立電線株式會社 本社 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号(千代田ビル)

デンカCSAファミリー製品

●**デンカCSA** ……コンクリートのひびわれ防止に
(膨張性混和材)

●**デンカタスコン** ……鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに
(グラウト用無収縮材)

●**デンカキューデックス** ……コンクリート躯体の漏水補修に
(止水・補修用急硬セメント)

●**デンカES** ……地盤補強用薬液注入
(土質安定用急硬材)

●**デンカΣ1000** ……コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に
(製品用超高度混和材)

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

金森藤平商事株式会社
TEL 大阪(06) 332—6861
TEL 東京(03) 272—8501

光洋物産株式会社
TEL 大阪(06) 252—6000

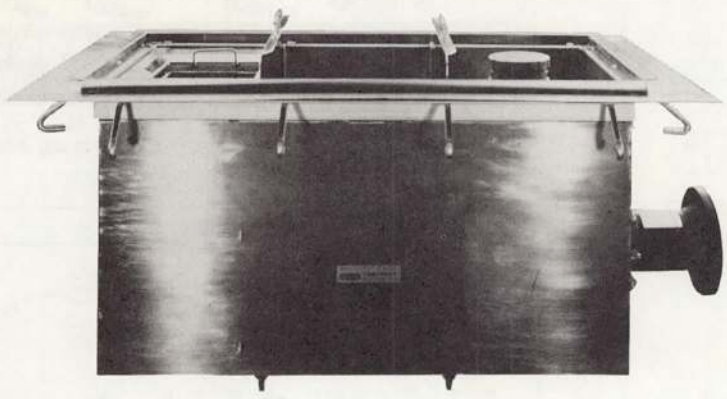
小浦産業株式会社
TEL 大阪(06) 443—6181

株式会社 **トーゴー/本社**
TEL 滋賀・守山(07758)3—2381

設備合理化に貢献する

SK式

グリーストラップ
ガソリントラップ



（ステンレス製）

〈SK型〉

1層式(桝)/3層式/4層式/床置式/土間用

〈特長〉

- コンパクト化により工期短縮
- 軽量で据付費の大幅低減
- 徹底した生産合理化
- 優れた耐震・耐久性
- 取扱いの快適性並び衛生的

●実用新案特許 第1196331号

多数有名な建築物に納入実績有

ステンレス製ヘアーライン仕上

SK式

散水栓ボックス

H型



W型



〈SK型〉

（土間埋設型）

SK-AB-20H ～35H 型1.2.3

SK-BB-20H ～35H 型1.2

（壁面埋設型）

SK-AB-20W～30W型
SK-BB-20W～30W型 ＞タテ・ヨコ

〈特長〉

- 外観が綺麗
- 錆びにくい
- 腐食文字(ペイント焼付)
- 取り扱いの快適性
- 施工が簡単

〈営業品目〉

SK式グリーストラップ／SK式ガソリントラップ／F型グリーストラップ／雨排水トラップ／散水栓ボックス／バルブボックス／他ステンレス製品加工全般

設計・製作・販売

※カタログ・納入実績表御請求ください。

SHIMODA

下田機工株式会社

本　　社／〒130 東京都墨田区東駒形4丁目6番9号 ☎03(625)6025㈹
配送センター／〒130 東京都墨田区東駒形4丁目15番3号 ☎03(626)6025㈹
大阪営業所／〒532 大阪市淀川区西中島4丁目5番9号 ☎06(304)5481㈹
名古屋営業所／〒464 名古屋市千種区内山3丁目10番12号 ☎052(733)2120㈹

資料請求券
建築と社会
81・7

発明賞に輝く各種特許235件所有

特許 鈴木シャッター

65年の歴史最高の技術最大の生産

防煙火・防災・防盗

鈴木式防煙火シャッター・リンググリル®シャッター・
ステンレスシャッター・アルミニュームシャッター・
40・ピーアップ®シャッター・汎用シャッター
その他特殊シャッターの製造
アフターサービスの完璧

鈴木シャッター販売株式会社

大阪市北区茶屋町5番2号 電話大阪(06お外局番)371-4151-6
北陸営業所 金沢市長田町119番地 電話金沢(0762お外局番)65-5135-6
神戸営業所 神戸市長田区大橋8-4-7 電話神戸(078お外局番)611-7971 631-2021

防火・防煙から避難装置まで
建築防災の総合メーカー

豊かな経験
最新の技術

東洋シャッター

東洋シャッター株式会社

本社：大阪市東区両替町1−12 日生ビル ☎(943)6571代表

東京・横浜・盛岡・仙台・水戸・静岡・岡崎・名古屋・富山・大津・京都・神戸・広島・高松・福岡他全国主要都市

出版案内

同編集部 編
建築工事 内外装の損傷と補修
● B5・289頁 定価3,600円 送料300円
建物はできるだけ長く有効に使用することが必要で、そのための診断技術および処置回復技術等の確立が急務とされます。建物の損耗実態の紹介と、その補修方法をいろいろな制約条件の重なる建築現場のナマの体験実例集という形で集録。

亀田 泰弘 監修
新版 建築工事検査の実際
上下揃 都内送料 地方送料500円
現場経験の浅い技術者でも工事検査の責任をはたせるよう、現場に即した試験・検査の技術を懇切ていねいに解説した初の工事検査方法指導書。
● 上巻 B5・453頁 定価6,000円・送料350円
● 下巻 B5・535頁 定価7,000円・送料350円

重版出来！
建築構造問題快答集2
● A5・385頁 定価3,800円 送料300円
第1集に続き今回もできるだけ他の参考書などには掲載されていない実用的な問題を精選し、各種構造まで実務に直結した百余の構造問題を集録した。第1集同様ぜひ座右に備えて御活用下さい。

同編集部 編
建築工事 失敗の実例にまなぶ
● B5・279頁 定価3,600円 送料300円
建築工事で起こりがちな事故や失敗を未然に防ぐための好資料。調査・着工段階から設備工事までの失敗例225例を収録。それぞれの原因と対策を解説した実用書。執筆者55名。

全国書店18日一斉発売！（最寄りの書店にご注文下さい。）

月刊 建築技術

建設省建築研究所 監修

No. 361 9月号の予定目次 定価 ¥850

● 建設省告示とその解説 （建設省住宅局）加藤 晴久
● 横浜市の都市デザイン行政 （横浜市企画調整局）内藤 淳之
● 吹付材によるタイル張建築物の改装 （ヤブ原産業KK技術課長）伊藤 一典
● RC建築物におけるアンボンド工法の利用 （鴻池組設計部）亀高 一徳
● 廃棄物処理法の概要とくい工事から発生する残土・廃棄泥水の適正処理 （基礎工業KK取締役）山本 公夫
● フリースペース住宅のエスキース（3） （九段建築研究所）下田哲雄ほか
● 建築企画シリーズ・病院（3） （建築企画協会）福田禮一郎
● PSコンクリート建築設計ノート（4） （長倉建築設計研究所）長倉 四郎
● 構造物の動的解析（6） （日本大学助教授）石丸 辰治

建築経済統計図表●フォトニュース●トピックス●建築家の良識●読者コーナー●海外の話題●建材の動向 その他

直接購読ご希望の場合年間予約金 ¥10,200（送料共）

出版案内

新刊 好評発売中！ 高橋 昌 著
建築型わく工法マニュアル
● A5・216頁 定価2,600円 送料 300円
型わくの材料および設計、組立から取はずし後の補修にいたるまで、著者が新しく書き下ろした詳細図などを豊富に織りまぜながらQ&A形式で平易に解説した型破りのコンクリート型わく専門書。あくまでも省力化とコストダウンに重点をおき、そのまま日常の実務に役立つように編集されています。

北中 克己 著
改訂 最新場所打ぐい工法
● A5・325頁 定価3,500円 送料300円
工期と工費を狂わせ、くい性能をも大きく左右するトラブルの数々——それらの実例や現実的な対応策、設計および施工管理のポイントを的確に示した異色の書。

井上 博 著
増補 溶接読本
● B5・149頁 定価3,000円 送料300円
建築設計の実務に携わる著者が過去の貴重な体験をもとに、主として親しみやすさと読みやすさに重点をおいて執筆した設計者と現場マンのためのわかる溶接の入門書。

井上 博・北小路 宏 共著
配筋読本
● B5・162頁 定価3,200円 送料300円
納まりやすく施工しやすい配筋を旨として基礎、スラブ、壁と順を追って配筋方法を示すとともに、配筋検査で見られる欠陥について正しい手直し方法を優先順位に解説。

〒160 東京都新宿区北新宿1-8-1 中島ビル8F 建築技術 振替口座 東京0-72417番 ☎東京(363)4211(代)

特許・耐酸被覆鋼板
耐久建築屋根・外壁材料

オリエンタルメタル

錆びない！
われない！
燃えない！

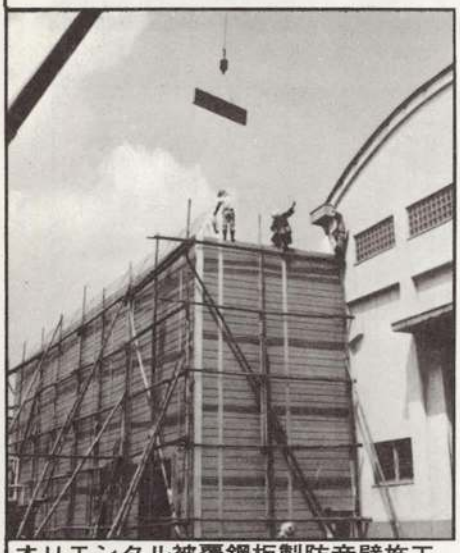
長尺物・色彩豊富・責任施工

品　種
- オリエンタルカラースーパーメタル(CSPM)
- オリエンタルスーパーメタル(SPM)
- オリエンタルメタル(OPM)
- オリエンタルスチールライト(STL)
- オリエンタルサンセラム(SS)

波板規格　S小波・S大波・V波・ボックス波・Wジャンボ波・Vデッキ
SVジャンボ波・其の他

用　途　平板・波板・棟包・雨押類・谷樋・竪樋・軒樋
各種換気装置〔モニター・ベンチレーター・ムーバー・エキゾスター(強制)〕
ホーンタイト(防音壁)・スチールシングル・其の他

※ カタログを御請求下さい


オリエンタル被覆鋼板製防音壁施工

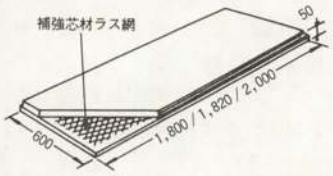
オリエンタルメタル製造株式会社

大阪本社　〒660　尼崎市昭和南通り3－26　松本ビル　電話大阪(06)412－5131(代)
営業本部　〒660　尼崎市長洲稲川新田44　電話大阪(06)488－1081(代)
支店及工場　大阪・九州・名古屋・広島・東条・刈谷
姫路(東洋建材工業．株)
東京本社及工場　〒335　蕨市塚越5丁目6番32号　電話蕨(0484)42－3115(代)
支店及工場　東北

「省エネ効果を高める」外壁

ヘーベルライト®





ヘーベルライトは、パネル全面に補強芯材を内臓しています。木造住宅・鉄骨住宅どちらにもマッチする外カベパネルとして注目を集めています。

- 断熱性が高い
- 火に強い
- ヒビ割れしにくい
- 重厚な外観をつくる
- 工期が短い

ヘーベルライトは、すぐれた特性を複合的に発揮する、軽量気泡コンクリート外壁材です。

今、家づくり街づくりに、
大量に使われているヘーベル。
(軽量気泡コンクリートパネル)

ご存知ですか。これが超高層ビルから店舗・事務所・住宅まで、あらゆる用途の建築にヘーベルが用いられる理由です。

- 冷暖房費を節減する、省エネルギー建築をつくることができる。
- 火災に対して安全な建築をつくることができる。
- 地震に強い建築をつくることができる。
- 短期間で好みに合った、美しい建築をつくることができる。
- 隣接建築物一ぱいに建てられ、敷地の有効利用ができる。
- 建築中、周囲への迷惑が少なくてすむ。
- 乾式工法でかつ断熱性がよいため、結露によるジメジメやカビの発生のない健康的な建築をつくることができる。
- 重量感があり、近代感覚に満ちた建築物をつくることができる。

安全・快適な建築づくりに
貢献する

日本工業規格(JIS)製品
建設大臣認定耐火構造部材・省エネルギー協力製品

ヘーベル

旭化成建材株式会社

(株)新興建材工業所
〒550 大阪市西区南堀江4－32－11　☎(06)538－2951(代)
責任施工　工事部　直通☎(06)541－5755
(建設業　大阪府知事許可〈般－52〉第20210号)

明石支店 〒673 明石市西新町2－12－14 ☎078(922)0007(代)
高槻営業所 〒569 高槻市宮田町2－1－29 ☎0726(96)2889
中国営業所 〒742 柳井市宮本浜(柳井総合卸センター内)
☎08202(2)5211



省エネ冷房!!

●大切なフィルター掃除

エアフィルターにホコリやゴミが
たまっていると、冷房能力は大幅に
ダウン。２週間に１度は
掃除機で吸いとったり、
水洗いをどうぞ。

●タイマー利用のひと工夫

つけっぱなしのムダは避けたいもの。
おやすみ時は寝入る頃をみはからって
タイマーセット。
涼しく眠れて、体のためにも
いいのです。



●コンプレッサーは日かげに

冷房の効果をあげるには、
日かげで風通しのよいところが一番。
直射日光があたるようなら
日よけ屋根を設けるのが
省エネ対策です。

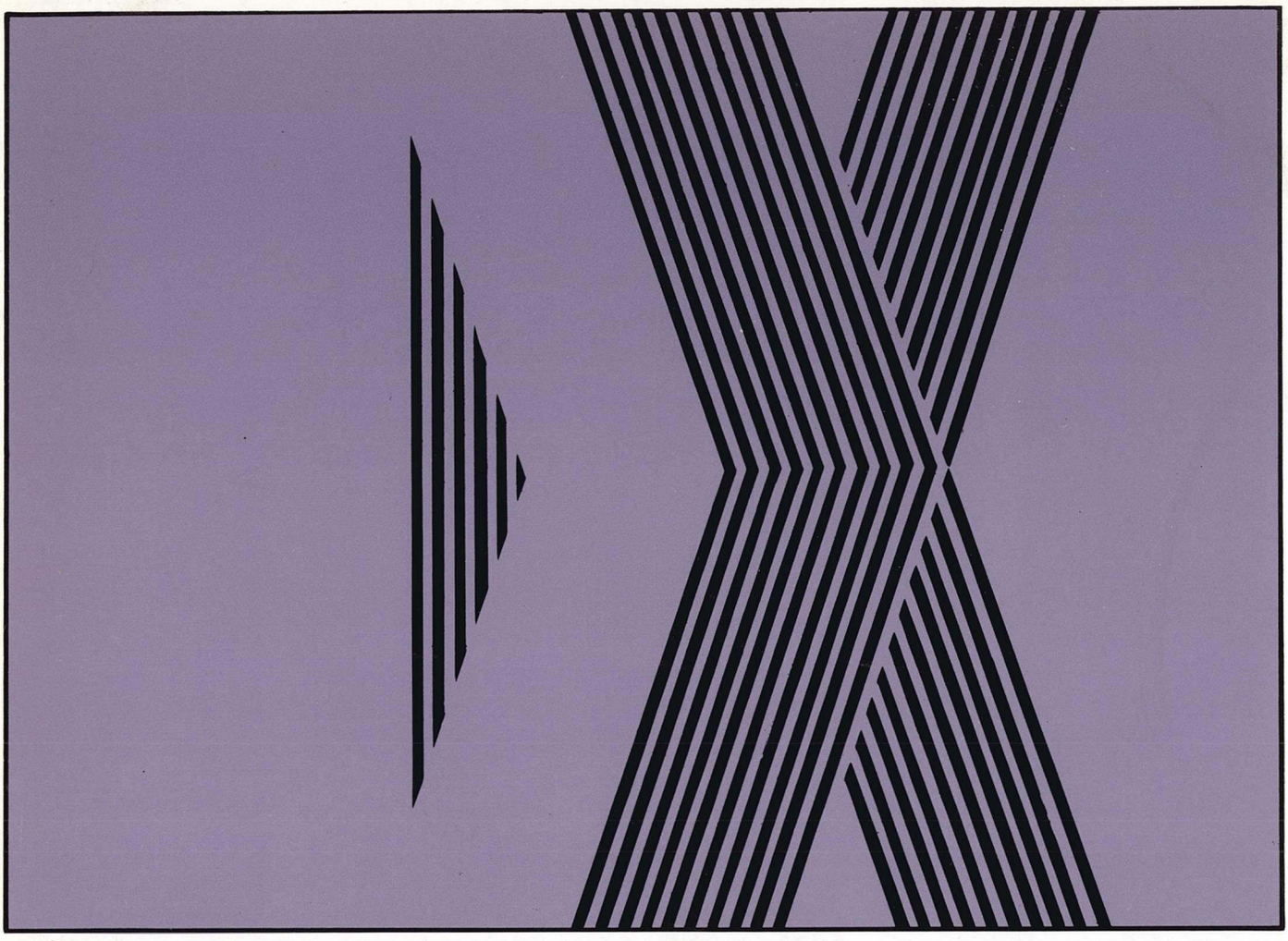
●冷しすぎに注意して

必要以上の冷房は省エネ違反。
１℃冷やすごとに
消費電力は約10%増加します。
健康面からも
28℃以下の適温冷房を。

電気のご相談はお気軽にどうぞ

関西電力

建築と社会　第6種郵便物認可
昭和56年7月25日発行（毎月1回25日発行）
昭和24年3月19日第3種郵便物認可



既設防水層の改修に最適!!

プレノコートDX防水工法

常温ゴムアスファルト塗膜防水

プレノコートDX防水工法とは……

- ●安全・無公害の常温工法です。
- ●合成繊維を基材とした分厚い本格的なゴムアスファルト塗膜防水工法です。
- ●硬化剤の使用により、強制造膜ができます。
- ●既設防水層の補修用に適しています。
- ●通常使用範囲内での低温脆化、高温流動がありません。

マルエス 日新
日新工業
日新工業株式会社
本社・東京営業所 ■ 東京都足立区千住東2-23-4 ☎ (882)2424(代表)
大阪支店 ■ 大阪市西区新町1－12－22 ☎ 06(533)3191(代表)
営業所 ■ 九州 ☎ 092(451)1095 ■ 名古屋 ☎ 052(741)6257
■ 札幌 ☎ 011(281)6328
出張所 ■ 広島 ☎ 0822(21)1019 ■ 仙台 ☎ 0222(63)0315
工場 ■ 埼玉 ■ 山形 ■ 北海道

（表紙デザイン・楠田一夫）
正会員の購読料（会員特価六〇〇円）は会費に含めて徴収
定価七五〇円
雑誌　03379－7